

平成16年度

岩手県農業研究センター 年報

平成17年7月



## 目 次

### I 農業研究センターの概要

1 組織機構・職員数	1
2 会議、委員会、部会等の運営	2
(1) 農業試験研究推進会議等の開催	2
ア 事前評価（内部評価、外部評価）	2
イ 成果評価（内部評価、外部評価）、追跡評価（内部評価）	4
ウ 年度評価（内部評価）、事後評価（内部評価）	6
エ 外部評価	7
(2) 企画運営会議、全体会議の概要	9
(3) 委員会等の運営	12
ア ほ場管理委員会	12
イ 図書管理委員会	12
ウ 研究報告等編集委員会	12
エ 参観デー等企画運営委員会	12
オ 特許審査委員会	13
カ 農作物病害虫・雑草防除基準編成所内検討会議	14
(4) その他会議	15
ア 全国農業関係試験研究場所長会議	15
イ 東北地域農業関係試験研究場所長会議	15
ウ 都道府県農業関係試験研究主務課長・場長会議	15
エ 全国畜産関係試験研究場所長会議	15
オ 岩手県試験研究機関所長等会議	15
カ 東北農業試験研究推進会議	16
キ 県内における開催学会	17

### II 試験研究の推進

1 研究活動の概要	18
2 トピックス	18
(1) りんどうこぶ症研究プロジェクトチームの設置について	18
(2) いわて農林水産知的財産相談センターの設置について	19
(3) 岩手県雑穀遺伝資源センターの設置について	19
3 研究室の動き	20
(1) 企画経営情報部	20

(2) 農産部 .....	20
(3) 園芸畑作部 .....	22
(4) 生産環境部 .....	24
(5) 病害虫部 .....	25
(6) 畜産研究所 .....	26
(7) 県北農業研究所 .....	28
<b>4 平成16年度試験研究課題 .....</b>	<b>30</b>
(1) 細目課題分類 .....	30
(2) 試験研究課題一覧 .....	31
(3) 要望課題の措置 .....	46
<b>5 共同研究等の推進 .....</b>	<b>50</b>
(1) 地域基幹農業技術体系化促進研究 .....	50
(2) 国庫委託研究事業 .....	50
(3) 交付金プロジェクト委託研究 .....	50
(4) 委託プロジェクト研究 .....	50
(5) 先端技術を活用した農林水産研究高度化事業 .....	51
(6) 民間委託研究 .....	52
(7) 夢県土いわて戦略的研究推進事業 .....	52
(8) (財) 岩手生物工学研究センターとの共同研究 .....	53
(9) 大学との共同研究 .....	53
(10) 他の公設試との共同研究 .....	53
(11) AFR (岩手農林研究協議会) 研究会 .....	53
(12) その他共同研究 .....	55
(13) その他産学官連携 .....	55
<b>6 現地試験の実施 .....</b>	<b>56</b>

### III 試験研究の成果

<b>1 試験研究成果 .....</b>	<b>59</b>
(1) 成果区分別一覧 .....	59
【普及 (普及に移しうる成果)】 .....	59
【指導 (技術指導に参考となる成果)】 .....	61
【行政 (行政施策等に反映すべき成果)】 .....	63
【研究 (研究開発に有効な成果)】 .....	64
(2) 外部評価結果一覧 .....	65
【普及 (普及に移しうる成果)】 .....	65
【指導 (技術指導に参考となる成果)】 .....	66

【行政（行政施策等に反映すべき成果）】 .....	67
2 追跡評価 .....	68
3 東北農業試験研究成果 .....	69
(1) 研究成果数 .....	69
(2) 研究成果 .....	69
IV 試験研究成果の発表	
1 試験成績書等刊行物 .....	71
2 岩手県農業研究センター研究報告 .....	72
3 学会等研究報告 .....	74
4 雑誌等掲載 .....	79
5 新聞等掲載 .....	83
6 テレビ・ラジオ放送 .....	89
7 指導資料等掲載 .....	91
8 トライアングル .....	94
9 図書資料収集・提供 .....	94
10 ホームページ .....	94
V 指導・啓発活動	
1 技術伝達研修等の実施 .....	95
2 現地指導・研究会等への講師派遣 .....	96
3 視察者、見学者の受け入れ状況 .....	105
4 春季一般公開及び参観デー .....	105
5 現地ふれあい農業研究センター .....	105
6 一日子供農業研究員 .....	105
7 加工体験 .....	105
8 研修生の受け入れ .....	106
(1) 海外研修員 .....	106
(2) 短期研修生 .....	106
(3) 改良普及員 .....	106
(4) 体験学習の受け入れ .....	110
9 協議会、委員会等委員 .....	112
VI 職員研修	
1 大学院派遣 .....	118
2 海外派遣・研修 .....	118

3 国内研修への派遣	118
4 所内セミナー等	121

## VII 試験研究以外の業務概要

1 作物の原々種の採種	123
(1) 主要農作物種子法に基づく原々種種子の生産	123
(2) その他原々種種子の生産	123
2 作物の原種の採種	123
(1) 主要農作物種子法に基づく原種種子の生産	123
(2) その他原種種子の生産	124
3 種苗等の配布	124
(1) 主要農作物種子法に基づく種苗の配布	124
(2) その他種苗の配布	125
4 具有種雄牛の精液の供給	126
(1) 黒毛和種	126
(2) 日本短角種	126
5 種豚、種鶏等の配布	127
(1) 銘柄鶏の配布	127
6 寄託放牧	127
(1) 牛	127
(2) 馬	127

## VIII 人事、予算、財産

1 岩手県農業研究センター予算	128
2 建物、用地の面積及び飼養家畜数	129
(1) 建物・用地の面積	129
(2) 飼育家畜頭数	130
3 種苗登録、特許等	131
(1) 種苗登録	131
(2) 特許、実用新案	132
4 表彰	133
5 職員名簿	134

沿革	137
----	-----

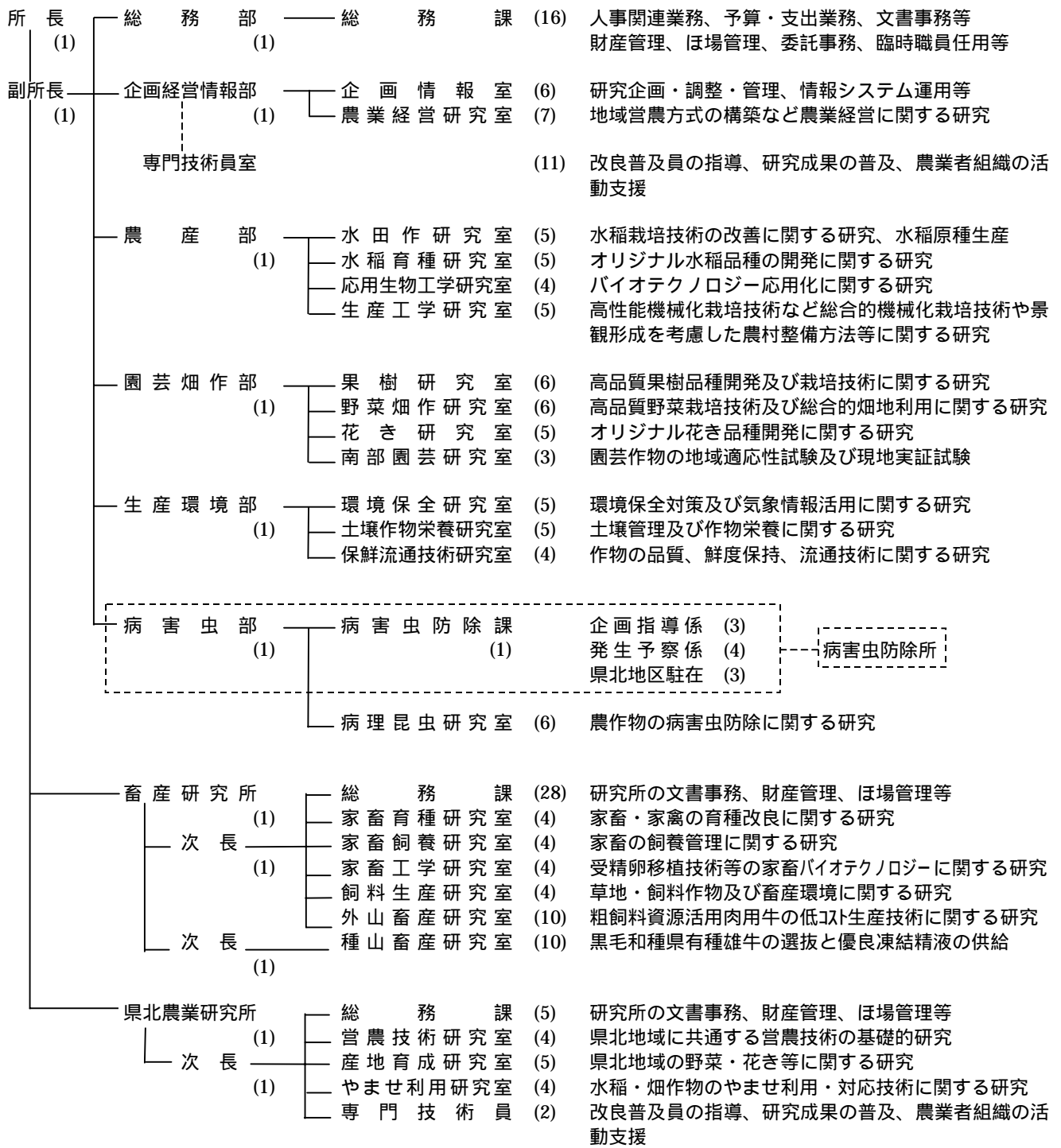
# I 農業研究センターの概要





# 1 組織機構・職員数

(平成16年4月1日現在の実配置数、兼務職員を含む)



	本部		畜産研究所			県北農業研究所 (軽米町)	合計
	(北上市)	南部園芸研究室 (陸前高田市)	(滝沢村)	外山畜産研究室 (玉山村)	種山畜産研究室 (住田町)		
行政	3	3	4		1	4	4
研究	7	3	1	5	6	1	2
技能	9		2	5	4	3	4
合計	1	1	5	1	1	2	2

行政職(42): 事務(17: 非常勤の所長を含む)、専門技術員(13)、病害虫部長(1)、病害虫防除課(11)

## 2 会議、委員会、部会等の運営

### (1) 農業試験研究推進会議等の開催

#### ア 事前評価（内部評価、外部評価）

##### (ア) 研究会議

各部会の会議日程、参集範囲、協議事項の概要は下表のとおり。

【 : 出席要請、 : 構成員】

		農産 部会	園芸部会		畜産 部会	総合 部会
			果樹花き	野菜		
会議日程		6/14	6/15	6/16	6/17	6/18
外部	(財)岩手生物工学研究センター					
県 の 機 関	1 農林水産企画室					
	2 団体指導課					
	3 流通課					
	4 農業振興課					
	5 農業普及技術課					
	6 農村計画課					
	7 農村建設課					
	8 農産園芸課					
	9 畜産課					
現 地	10 盛岡地方振興局農政部					
	11 岩手県中央家畜保健衛生所					
	12 農業大学校					
	13 盛岡農業改良普及センター					
	農業研究センター					
協議事項		(1)平成17年に実施を希望する要望課題の取り扱いについて (2)平成17年度新規試験研究課題案について				

##### (イ) 内部調整会議

開催日時 平成16年6月29日(火)13時~

参集範囲 所長、副所長、各部長・研究所長、首席専門技術員

協議事項 ・平成17年度試験研究要望課題の措置案について  
・平成17年度新規試験研究課題案の調整について(事前評価、内部評価結果)

##### (ウ) 専門部会

各部会の会議日程、参集範囲、協議事項の概要は下表のとおり。

【 : 出席要請、 : 構成員】

		農産 部会	園芸部会		畜産 部会	総合 部会
			果樹花き	野菜		
会議日程		7/16	7/12	7/13	7/14	7/15
外 部	1 岩手大学農学部					
	2 東北農業研究センター					
	3 東北農政局盛岡統計情報センター					
	4 東北農政局岩手農政事務所					
	5 果樹研究所リンゴ研究部					
	6 家畜改良センター岩手牧場					
	7 岩手県農業会議					
	8 全農岩手県本部					
	9 岩手県農業共済組合連合会					
	10 岩手県農産物改良種苗センター					
	11 岩手県植物防疫協会					
	12 岩手県農薬卸商業協同組合					

		農産 部会	園芸部会		畜産 部会	総合 部会
			果樹花き	野菜		
会議日程		7/16	7/12	7/13	7/14	7/15
県 の 機 関	13	岩手県農業公社				
	14	岩手県農業機械協会				
	15	岩手県農業機械商業協同組合				
	16	岩手県果樹協会				
	17	岩手県食品産業協議会				
	18	岩手県肉牛生産公社				
	19	家畜改良事業団盛岡種雄牛センター				
	20	岩手県畜産協会				
	21	(財)岩手生物工学研究センター				
	1	工業技術センター				
	2	病害虫防除所				
	3	農林水産企画室				
	4	団体指導課				
	5	流通課				
	6	農業振興課				
	7	農業普及技術課				
	8	農村計画課				
	9	農村建設課				
	10	農産園芸課				
	11	畜産課				
	12	盛岡地方振興局農政部				
13	岩手県中央家畜保健衛生所					
14	農業大学校					
15	盛岡農業改良普及センター					
農業研究センター						
協議事項		・平成17年度新規試験研究課題案について				

**(工) 総合調整会議**

開催日時 平成 16 年 8 月 23 日 (月) 13 時 30 分～  
 参集範囲 農業普及技術課、所長、副所長、各部長・研究所長、首席専門技術員  
 協議事項 ・平成 17 年度新規試験研究課題案について (事前評価、外部評価結果)

**(才) 推進会議**

開催日時 平成 16 年 9 月 13 日 (月) 13 時～  
 参集範囲 農林水産部長、農政担当技監、農林水産企画室企画担当課長、団体指導課総括課長、流通課総括課長、農業振興課総括課長、農業普及技術課総括課長、農村計画課総括課長、農村建設課総括課長、農産園芸課総括課長、畜産課総括課長、生物工学研究センター所長、農業大学校校長、盛岡農業改良普及センター所長、農業研究センター  
 協議事項 ・平成 17 年度実施予定新規課題案について  
 ・平成 16 年度試験研究成果案について

イ 成果評価（内部評価、外部評価）、追跡評価（内部評価）

(ア) 研究会議

各部会の会議日程、参集範囲、協議事項の概要は下表のとおり。

【 : 出席要請、 : 構成員】

		農産 部会	園芸部会		畜産 部会	総合 部会
			果樹花き	野菜		
会議日程		12/6	12/7	12/8	12/9	12/10
外部	(財)岩手生物工学研究センター					
県 の 機 関	1	農林水産企画室				
	2	団体指導課				
	3	流通課				
	4	農業振興課				
	5	農業普及技術課				
	6	農村計画課				
	7	農村建設課				
	8	農産園芸課				
	9	畜産課				
現 地	10	盛岡地方振興局農政部				
	11	岩手県中央家畜保健衛生所				
	12	農業大学校				
	13	盛岡農業改良普及センター				
	農業研究センター					
協議事項		・平成16年度試験研究成果案について				

(イ) 内部調整会議

開催日時 平成16年12月20日(月)13時~

参集範囲 所長、副所長、各部長・研究所長、首席専門技術員

協議事項 平成16年度試験研究成果案の内部評価結果について(成果評価、内部評価結果)

(ウ) 専門部会

各部会の会議日程、参集範囲、協議事項の概要は下表のとおり。

【 : 出席要請、 : 構成員】

		農産 部会	園芸部会		畜産 部会	総合 部会
			果樹花き	野菜		
会議日程		1/5	1/11	1/12	1/7	1/6
外 部	1	東北農業研究センター				
	2	東北農政局盛岡統計情報センター				
	3	東北農政局岩手農政事務所				
	4	果樹研究所リンゴ研究部				
	5	家畜改良センター岩手牧場				
	6	岩手県農業会議				
	7	全農岩手県本部				
	8	岩手県農業共済組合連合会				
	9	岩手県農産物改良種苗センター				
	10	岩手県植物防疫協会				
	11	岩手県農薬卸商業協同組合				
	12	岩手県農業公社				
	13	岩手県農業機械協会				
	14	岩手県農業機械商業協同組合				
	15	岩手県果樹協会				

		農産 部会	園芸部会		畜産 部会	総合 部会
			果樹花き	野菜		
会議日程		1/5	1/11	1/12	1/7	1/6
	16	岩手県食品産業協議会				
	17	岩手県肉牛生産公社				
	18	家畜改良事業団盛岡種雄牛センター				
	19	岩手県畜産協会				
	20	(財)岩手生物工学研究センター				
県 の 機 関	1	工業技術センター				
	2	病害虫防除所				
	3	農林水産企画室				
	4	団体指導課				
	5	流通課				
	6	農業振興課				
	7	農業普及技術課				
	8	農村計画課				
	9	農村建設課				
	10	農産園芸課				
	11	畜産課				
	12	盛岡地方振興局農政部				
	13	岩手県中央家畜保健衛生所				
	14	農業大学校				
	15	盛岡農業改良普及センター				
		農業研究センター				
協議事項		・平成16年度試験研究成果案について				

**(工) 総合調整会議**

- 開催日時 平成17年1月25日(火)13時30分～  
 参集範囲 農業普及技術課、所長、副所長、各部長・研究所長、首席専門技術員  
 協議事項  
 ・平成16年度試験研究成果案について  
 ・外部評価の結果について(成果評価、外部評価結果)  
 ・推進会議の運営について

**(オ) 推進会議**

- 開催日時 平成17年2月10日(木)13時30分～  
 参集範囲 農林水産部長、農政担当技監、農林水産企画室企画担当課長、団体指導課総括課長、流通課総括課長、農業振興課総括課長、農業普及技術課総括課長、農村計画課総括課長、農村建設課総括課長、農産園芸課総括課長、畜産課総括課長、生物工学研究所長、農業大学校校長、盛岡農業改良普及センター所長、農業研究センター  
 協議事項 平成16年度試験研究成果案について

ウ 年度評価（内部評価） 事後評価（内部評価）

(ア) 研究会議（試験設計）

各部所の会議日程、参集範囲、協議事項の概要は下表のとおり。

【 : 出席要請、 : 構成員】

		企画 経営 情報部	農産部	園芸 畑作 部	生産 環境 部	病害虫 部	畜産 研究 所	東北 農業 研究所
会議日程		3/1	2/28	3/4	3/3	3/9	3/7	3/8
外部	(財)岩手生物工学研究センター							
県 の 機 関  本 庁	1 農林水産企画室							
	2 団体指導課							
	3 流通課							
	4 農業振興課							
	5 農業普及技術課							
	6 農村計画課							
	7 農村建設課							
	8 農産園芸課							
	9 畜産課							
出 先	10 盛岡地方振興局農政部							
	11 岩手県中央家畜保健衛生所							
	12 農業大学校							
	13 盛岡農業改良普及センター							
	14 久慈 "							
15 二戸 "								
	農業研究センター							
協議事項		・平成17年度試験研究課題の試験設計について						

(イ) 内部調整会議

開催日時 平成17年3月18日(金)13時~

参集範囲 所長、副所長、各部長・研究所長、首席専門技術員

協議事項 ・平成16年度試験研究課題の内部評価結果について(年度評価、事後評価)

## エ 外部評価

### (ア) 外部評価委員

- a 委員は「学識経験者」、「農業者」、「農業関係団体職員」、「専門部会長が特に必要と認めるもの」の4分類。
- b 試験研究推進会議専門部会長の推薦で研究センター所長が委嘱。
- c 評価委員の委嘱期間は2年間。
- d 平成16年度は29名の外部評価委員を委嘱。
- e 委員構成は以下のとおり。

内訳別	人数	部会別	人数	主な分野
(1) 岩手県農業農村指導士	5名	(1) 農産部会	5名	水稲、畑作、生産工学等
(2) 民間・団体(JA他)	12名	(2) 園芸部会	12名	果樹、花き、野菜
(3) 独立行政法人	10名	(3) 畜産部会	7名	畜産全般
(4) 大学教授(岩手大学、県立大学)	2名	(4) 総合部会	5名	経営、生産環境等共通
合計	29名	合計	29名	

### 外部評価委員名簿

(敬称略、五十音順)

部	No	氏名	区分	所属等	役職	委嘱
農産部会	1	熊谷 太一	B	水沢市	岩手県農業農村指導士	H16
	2	黒田 栄喜	A	岩手大学農学部	教授	H16
	3	高橋 久祥	D	(株)純情米いわて	取締役営業部長	H16
	4	盛川 周祐	B	いわて直播栽培研究会	事務局長	H16
	5	吉永 悟志	A	(独)東北農業研究センター	栽培生理研究室長	H16
園芸部会	1	伊藤 伝	A果樹・花き	(独)果樹研究所	栽培生理研究室長	H16
	2	近藤 哲治	B果樹	二戸市	岩手県農業農村指導士	H16
	3	別所 英男	A果樹	(独)果樹研究所	病害研究室長	H16
	4	山口 久昭	B果樹	岩手県果樹協会	会長	H16
	5	高橋 明	B花き	湯田町	岩手県農業農村指導士	H16
	6	日影 孝志	A花き	安代町花き開発センター	所長	H16
	7	山崎 篤	A花き	(独)東北農業研究センター	野菜花き栽培研究室長	H16
	8	井上 儀徳	C野菜	全農岩手県本部	園芸部長	H16
	9	今田 成雄	A野菜	(独)東北農業研究センター	総合研究第3チーム長	H16
	10	門田 育生	A野菜	(独)東北農業研究センター	畑病虫害研究室長	H16
	11	高橋 新一	B野菜	北上市	岩手県農業農村指導士	H16
	12	三浦 憲蔵	A野菜	(独)東北農業研究センター	土壌環境制御研究室長	H16
畜産部会	1	小原 正彦	C	全農岩手県本部	畜産酪農部次長	H16
	2	鎌田 大吉	B	(有)鎌田畜産	代表取締役社長	H16
	3	萱野 裕是	D	小岩井農牧(株)	技術担当取締役	H16
	4	佐藤 彰	C	(社)岩手県畜産協会	経営支援部長	H16
	5	武政 正明	A	(独)東北農業研究センター	畜産草地部長	H16
	6	西塚 修悟	A	(独)家畜改良センター岩手牧場	次長	H16
	7	村澤 欣一	B	葛巻町	岩手県農業農村指導士	H16
総合部会	1	伊藤 萬	C	新しいわて農業協同組合	常務理事	H16
	2	重石 桂司	D	(株)メルク	代表取締役社長	H16
	3	〔中島 寛爾〕 〔小池 俊吉〕	A	(独)東北農業研究センター	総合研究部長	H16
	4	後藤 俊夫	B	(有)ライフクリエートK	代表取締役	H16
	5	豊島 正幸	A	岩手県立大学総合政策学部	教授	H16

【区分:A学識経験者、B農業者、C農業関係団体職員、D専門部会長が特に必要と認める者】

## (イ) 平成 17 年度新規試験研究課題の外部評価結果

[ No は要望由来 (4) ]

[ A : 適切、B : 一部見直し、C : 大幅見直し、D : 不適切 ]

部 所 名	提案 部会	No	課題名	総合評価 [ 委員数(%) ]					推進 会議 上程
				A [適切]	B [一部見直し]	C [大幅見直し]	D [不適切]	計	
			評価を受けた22課題の合計	62(78%)	17(21%)	1(1%)	0(0%)	80(100%)	22
企 情 部	総合	1	和牛繁殖を基幹とする経営体の成立条件の解明	2(100%)				2(100%)	
農 産 部	農産	2	新規のいもち病抵抗性遺伝子の探索	2(67%)	1(33%)			3(100%)	
	園芸	3	DNAマーカーを利用したりんご黒星病抵抗性検定	2(67%)	1(33%)			3(100%)	
	園芸	4	りんご根頭がんしゅ病菌の簡易検出技術の実用化	2(67%)	1(33%)			3(100%)	
	総合	5	革新技術による病原検出診断手法の開発と実用化	2(100%)				4(100%)	
	農産	6	畑作物における効果的機械的株間除草方式の開発改良	1(33%)	2(67%)			3(100%)	
	総合	7	農業農村整備事業における水路に生息する生物の保全手法と評価	2(67%)	1(33%)			3(100%)	
	総合	8	土壌硬化剤「マグホホワイト」の寒冷地における利用技術の開発	2(67%)	1(33%)			3(100%)	
園 芸 畑 作 部	園芸	9	りんごの樹形改善に薬剤散布低減技術の開発	2(67%)	1(33%)			2(100%)	
	農産	10	水田における小麦・大豆の湿害回避技術	2(67%)	1(33%)			2(100%)	
	園芸	11	ポリ乳酸系生分解性プラスチックを利用した野菜生産資材の開発と利用技術	3(100%)				3(100%)	
	園芸	12	イチゴ促成栽培における省力的短日処理技術の開発、実証	3(100%)				3(100%)	
	園芸	13	スターチス・シヌアータの直まき等による品質向上技術の確立・実証	4(100%)				4(100%)	
生 環 部	総合	14	マイクロ波処理による土壌可給態窒素の簡易分析法の確立	2(100%)				2(100%)	
		15	消費地における県産野菜の内部品質評価	1(50%)	1(50%)			2(100%)	
	園芸	16	りんどうの鮮度保持技術の開発	4(100%)				4(100%)	
畜 産 研 究 所		17	栄養管理による泌乳牛の尿中窒素及び加里排泄量低減技術の確立	4(80%)	1(20%)			5(100%)	
	畜産	18	発酵TMR飼料の調製並びに乳牛への給与技術の確立	3(60%)	2(40%)			5(100%)	
		19	ストレス軽減による過排卵処理成績の改善	5(83%)	1(17%)			6(100%)	
		20	OPSを用いた牛胚の超急速ガラス化保存技術の確立	7(100%)				7(100%)	
		21	バイオガスプラント由来消化液の飼料作物における利用効果	4(57%)	2(29%)	1(14%)		7(100%)	
県 北	園芸	22	県北地域におけるりんどうの安定生産技術の確立	3(75%)	1(33%)			4(100%)	



## (2) 企画運営会議、全体会議の概要

開催月日	場 所	内 容（協議事項等）
16. 4. 9（金）	特別会議室	(第1回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 外部評価委員候補者の選定について (2) 新規課題設定と推進構想見直し委員会（仮称）の設立について 2 連絡事項 (1) 欠員等による課題調整後の平成16年度試験研究課題について (2) 試験研究推進会議関連スケジュール（案）について (3) 4月、5月の行事予定について
16. 4.14（水）	大会議室	(全体会議) (1) 平成16年度農業研究センター運営方針について (2) 平成16年度研究推進方針等について
16. 4.26（月）	特別会議室	(第2回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 平成16年度試験研究推進会議（H17新規課題）関連について (2) 平成17年度に試験研究の実施を要望する課題について (3) 外部評価委員との懇談会開催について 2 連絡事項 (1) 「試験研究推進構想」課題見直し委員会の活動状況について (2) 平成16年度岩手県農業研究センター参観デーの開催について (3) 平成16年度農業研究センター広報誌「トライアングル」の年間発行計画について (4) 各種委員会について (5) 試験研究等に関する情報提供について (6) 岩手県農業研究センター災害対策実施マニュアルの改訂について (7) 5月、6月の行事予定について
16. 5.31（月）	特別会議室	(第3回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 平成17年度新規課題の取りまとめ概要及び専門部会調整について (2) 外部からの原稿執筆・講演会講師依頼に係る取り扱いについて 2 連絡事項 (1) 農林水産業研究成果発表会での出展について (2) 外部評価委員との懇談会の開催について (3) 全国場・所長会議について (4) 東北農業試験研究推進会議「評価企画会議幹事会」について (5) 第2回課題見直し委員会の協議結果について (6) 6月、7月の行事予定について
16. 6.29（火）	特別会議室	(第4回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 平成17年度政策形成プロジェクト対応について (2) 評価シートの一部修正について（試験研究課題評価実施細則一部修正） (3) 外部から原稿執筆・講演会講師の依頼があった場合の対応について（前回の修正） 2 連絡事項 (1) 平成16年度本部参観デーの開催内容について (2) 月刊「農業普及」特集記事について (3) AFR 幹事会の復命について (4) 7月、8月の行事予定について

開催月日	場 所	内 容（協議事項等）
16. 7.26（月）	特別会議室	(第 5 回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 試験研究推進会議の運営について (2) 平成 17 年度政策形成プロジェクト（案）について 2 連絡事項 (1) 平成 16 年度岩手県農業研究センター参観デーの開催について (2) 研究予算の規模確定について (3) 東北地域農業関係試験研究場所長会現地視察について (4) 第 3 回課題見直し委員会の協議経過について (5) 8 月、9 月の行事予定について
16 8.23（月）	特別会議室	(第 6 回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 平成 17 年度政策形成プロジェクト提案について 2 連絡事項 (1) 第 4 回課題見直し委員会の協議経過について (2) 9 月、10 月の行事予定について
16. 9.27（月）	特別会議室	(第 7 回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 課題見直し委員会の報告及び推進構想見直し作業について 2 連絡事項 (1) 研究開発推進連絡会議（本会議）復命について (2) 平成 16 年度追跡評価の実施計画について (3) 10 月、11 月の行事予定について
16.11. 1（月）	特別会議室	(第 8 回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 次期「岩手県農業試験研究推進構想」（H18～22）見直し作業について (2) 平成 16 年度東北農業試験研究推進会議「本会議」提案事項について 2 連絡事項 (1) 平成 16 年度試験研究推進会議（研究成果）に係る主な日程について (2) 11 月、12 月の行事予定について
16.11.29（月）	特別会議室	(第 9 回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 平成 13 年度成果（普及）の「追跡評価」について (2) 岩手県総括課長等職員表彰実施に係るセンター内運用について 2 連絡事項 (1) 平成 16 年度予定成果の一覧提出について (2) 平成 17 年度当初予算要求の状況について (3) 12 月、1 月の行事予定について
16.12.20（月）	特別会議室	(第 10 回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 専門部会及び試験研究推進会議（本会議）の進め方について 2 連絡事項 (1) 高度化事業応募課題について (2) 「岩手県農業研究センター所長表彰」の実施について (3) 1 月、2 月の行事予定について

開催月日	場 所	内 容（協議事項等）
17. 1.25（火）	特別会議室	(第 11 回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 岩手県農業研究センター所長表彰の審査について 2 連絡事項 (1) 試験研究会議（試験設計、年度(中間)評価、事後評価）の開催について (2) 平成 16 年度研修報告会の開催について (3) 平成 17 年度依頼研究員派遣候補者の推薦について (4) 2 月、3 月の行事予定について
17. 2.21（月）	特別会議室	(第 12 回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 試験研究成果「区分」の再確認について (2) 平成 17 年度春季一般公開開催案について 2 連絡事項 (1) 試験研究会議（試験設計）の事前承認案件等の確認について (2) 研究報告（第 6 号）の投稿募集について (3) 平成 16 年度岩手県農業研究センター年報の原稿作成について (4) 「研究成果等に関する情報提供の取り扱い」の改正について (5) 3 月、4 月の行事予定について
17. 3.18（金）	特別会議室	(第 13 回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 「研究成果等に関する情報提供の取り扱い」の改正について 2 連絡事項 (1) 欠員等に係る試験研究課題の最終調整について (2) 4 月、5 月の行事予定について (3) 平成 17 年度業務推進方針の作成について

### (3) 委員会等の運営

#### ア ほ場管理委員会

開催月日	内 容	内 容
16. 8. 3	水田ほ場巡回説明会	試験研究圃場の内容を説明し、場内の用水利用状況についても相互の理解を深めた。(外部から JA いわて花巻、岩手中部農業共済組合、豊沢川土地改良区職員の出席)
16. 4.12	畑作物専門部会	圃場利用計画の確認調整、日々雇用職員の勤務、圃場作業、作業機の留意点を点検
16. 4.23		作業計画と圃場利用の調整
16. 5.18		"
16. 6.16		"
16. 7. 7		"
16. 7.27		"
16. 8.24		"
16. 9.29		"
16.10.28		"
16.11.26		"

#### イ 図書管理委員会

H16 開催なし

#### ウ 研究報告等編集委員会

(ア) 委員会

開催月日	場 所	内 容
16. 11. 1	特別会議室	(1) 査読審査員の承認について (2) その他

(イ) 幹事会 H16 開催なし

#### エ 参観デー等企画運営委員会

(ア) 委員会

開催月日	場 所	内 容
16. 4.26	特別会議室	平成 16 年度岩手県農業研究センター参観デーの開催について
16. 6.29	特別会議室	平成 16 年度本部参観デーの開催内容について
16. 7.26	特別会議室	平成 16 年度岩手県農業研究センター参観デーの開催について
17. 2.21	特別会議室	平成 17 年度春季一般公開開催案について

(イ) 幹事会等

(本部関係)

開催月日	場 所	内 容
16. 5.18	特別会議室	【幹事会】 (1) 岩手県農業研究センター本部参観デー開催行事計画について (2) その他
16. 6. 9	特別会議室	【幹事会】 (1) 岩手県農業研究センター本部参観デー開催行事計画の確認事項について (2) その他
16. 6.21	特別会議室	【幹事会】 (1) 岩手県農業研究センター本部参観デー開催行事实施項目の最終確認について (2) その他
16. 7.26	特別会議室	【幹事会】 (1) 岩手県農業研究センター本部参観デーマニュアル原稿の作成依頼について (2) その他

開催月日	場 所	内 容
16.10.21	特別会議室	【幹事会】 (1) 岩手県農業研究センター本部参観デーの反省事項について (2) 平成 17 年度春季一般公開の開催予定について (3) 平成 17 年度参観デーの開催予定について (4) その他
16.12.27	特別会議室	【平成 17 年度岩手県農業研究センター本部参観デーの開催イベント検討会】 (1) 平成 17 年度本部参観デーの開催イベント案について (2) その他
17. 1.13	特別会議室	【平成 17 年度岩手県農業研究センター本部参観デーの開催イベント検討会】 (1) 平成 17 年度本部参観デーの開催イベント案について (2) その他
17. 1.24	1 階小会議室	【平成 17 年度岩手県農業研究センター本部参観デーの開催イベント検討会】 (1) 平成 17 年度本部参観デーの開催イベント案について (2) その他
17. 2.14	特別会議室	【平成 17 年度岩手県農業研究センター本部参観デーの開催イベント検討会】 (1) 平成 17 年度本部参観デーの開催イベント案について (2) その他
17. 3.24	特別会議室	【幹事会】 (1) 平成 17 年度参観デーの開催イベントについて (2) その他

( 畜産研究所関係 )

開催月日	場 所	内 容
16. 4. 6	畜研会議室	(1) 平成 16 年度春季一般公開の開催について (2) 平成 16 年度参観デーの開催予定について
16. 8. 2	畜研会議室	(1) 畜産研究所参観デー開催行事計画について (2) その他
16. 8. 6	畜研会議室	(1) 畜産研究所参観デー開催内容について (2) その他
16. 8.30	畜研会議室	(1) 畜産研究所参観デーの総括について (2) その他

( 県北農業研究所関係 )

開催月日	場 所	内 容
16. 6.10	所長室	(1) 平成 16 年度軽米地区公所合同参観デー開催計画について (2) その他
16. 7. 7.	所長室	(1) 平成 16 年度軽米地区公所合同参観デー開催内容について (2) その他
16. 8. 6	所長室	(1) 平成 16 年度軽米地区公所合同参観デー準備状況について (2) その他
16.12.13	所長室	(1) 平成 17 年度軽米地区公所合同参観デー開催計画について (2) その他

オ 特許審査委員会

開催月日	場 所	内 容
16. 11. 2	2F 特別会議室	(1)「有機物の好氣的処理過程において窒素含有率の低下を防止する方法並びにその処理物」 (2)「子宮頸管拡張機能を付与した胚移植器」についての勤務発明審査
16.11.29	2F 特別会議室	「降霜予測装置」についての勤務発明審査

カ 農作物病害虫・雑草防除基準編成所内検討会議

開催月日	場 所	内 容
16.10.26	2F 中会議室	雑草・成長調整剤部会 (1) 要望事項に対する検討結果について (2) 「農薬の安全使用指針」の改訂について (3) 採用・変更・削除に関する検討について ア 水稲 イ 飼料作物・牧草 ウ 畑作物 エ 野菜 オ 果樹 カ 花き
16.10.27 ~ 10.28	2F 中会議室	病害虫部会 (1) 要望事項に対する検討結果について (2) 「農薬の安全使用指針」の改訂について (3) 平成 17 年度防除基準の主な採用農薬、削除農薬について ア 水稲 イ 飼料作物・牧草、畑作物、鳥獣害 ウ 果樹 エ 野菜 オ 土壌病害虫 カ 花き
16.11. 1	2F 特別会議室	農作物病害虫・雑草防除基準編成所内検討会議 (1) 平成 17 年度農作物病害虫・雑草防除基準に対する要望事項について (2) 平成 17 年度岩手県農作物病害虫・雑草防除基準の主な変更点について (3) 設置要綱の一部改正について
16.11.10 ~ 11.11	中会議室 2F 小会議室 研修室	農作物病害虫・雑草防除基準編成会議 ・農薬安全使用分科会 (1) 農薬の安全使用指針原案について ・病害虫分科会 (1) 病害虫・鳥獣害防除基準原案について ・雑草分科会 (1) 雑草防除基準原案及び成長調整剤の使用基準原案について

#### (4) その他会議

##### ア 全国農業関係試験研究場所長会議

開催月日	場 所	内 容
16. 5.20 ～ 5.21	長崎県	通常総会 (1) 平成 15 年度事業及び決算報告(監査報告) (2) 新規加入会員 (3) 平成 16 年度事業計画及び予算案 (4) 役員を選出・紹介 研究功労者表彰 現地検討会 (1) 情勢報告「産学官連携による地域の研究開発の推進」 (2) 講演 ・草木バイオマスのエネルギー利用と産業 ・家畜排せつ物等廃棄物系バイオマスのエネルギー利用 (3) 現地視察 ハウステンボスにおける資源循環システム

##### イ 東北地域農業関係試験研究場所長会議

開催月日	場 所	内 容
16. 7.27 ～ 7.28	岩手県  農業研究センター、 生物工学研究 所、金ヶ崎町、 胆沢町、江刺市	(1) 試験研究推進構想・方向について - 組織のあり方を含め - (2) 平成 16 年度主要研究課題・成果について 現地検討会 (1) 金ヶ崎町 岩手県立花きセンター (2) 胆沢町 水稻ロングマット水耕苗移植圃場 (3) 江刺市 江刺ふるさと市場

##### ウ 都道府県農業関係試験研究主務課長・場長会議

開催月日	場 所	内 容
16.10.12	東京都	(1) 農林水産技術会議事務局主要情勢報告 (2) 意見交換会 ア 地域における研究開発の活性化推進方策について イ 担い手の支援のための研究の推進方策について ウ 遺伝子組換え作物の試験研究について

##### エ 全国畜産関係試験研究場所長会議

開催月日	場 所	内 容
16. 7.27 ～ 7.28	東京都	1 通常総会 (1) 平成 15 年度事業報告及び収支決算に関する件 (2) 平成 16 年度事業計画及び収支予算に関する件 (3) 平成 16 年度会費の額及び徴収方法に関する件 2 畜産研究功労者表彰 3 環境庁東海林室長講演(動物の愛護管理と畜産動物)

##### オ 岩手県試験研究機関所長等会議

開催月日	場 所	内 容
開催無し		

カ 東北農業試験研究推進会議

開催月日	場 所	内 容
16. 5.14	東北農研センター	<p>「評価企画会議幹事会」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成 16 年度東北地域農業関係試験研究機関及び研究調整・行政普及体制について</li> <li>2 平成 15 年度試験研究推進会議報告（専門区分及び共通基盤区分について）</li> <li>3 平成 16 年度東北農業試験研究推進会議開催計画について</li> <li>4 平成 16 年度東北地域農林水産業研究成果発表会の開催について</li> <li>5 東北地域における地域研究開発システム改革の推進方策について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各種競争的資金制度の概要</li> <li>(2) 農林水産研究高度化事業の実績</li> <li>(3) 地域における重要問題の課題化、高度化事業等の競争的資金への応募、産学官連携研究推進システムなど</li> </ol> </li> <li>6 東北地域研究成果フォローアップレビューについて</li> <li>7 その他</li> </ol>
16.9.15 ～9.16	横手市	<p>「果樹推進部会（平成 16 年度寒冷地果樹現地研究会）」</p> <p>寒冷地における樹種複合の現状と今後の方向</p>
16.11.17	東北農研センター	<p>「本会議」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成 16 年度東北農業試験研究推進会議の運営について</li> <li>2 平成 16 年度「行政施策上で対応が必要な試験研究問題」について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 東北 6 県からの提案</li> <li>(2) 東北農政局からの提案</li> <li>(3) 東北研究センターからの提案</li> <li>(4) 果樹研究所リンゴ研究部からの提案</li> </ol> </li> <li>3 重要検討事項 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「農畜産物の機能性研究を巡る最近の動向と課題」</li> </ol> <p>話題提供</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 「健康増進法に基づく虚偽誇大広告等の規制について」</li> <li>イ 「食品機能性研究の推進方針 - 食生活による健康の維持・増進をめざして - 」</li> <li>ウ 「機能性食品開発に伴う問題について」</li> </ol> </li> <li>4 その他</li> </ol>
17. 2.10	東北農研センター	<p>「評価企画会議」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 推進部会報告及び研究会・検討会報告</li> <li>(2) 重点検討事項と課題の取りまとめ</li> <li>(3) 行政施策上で対応が必要な試験研究問題への取り組み方針の検討</li> <li>(4) 主要研究成果の評価及び講評について</li> <li>(5) 研究成果のフォローアップについて</li> <li>(6) 意見交換 <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 研究成果の普及活用の促進について</li> <li>イ 競争的資金獲得に向けての取り組みについて</li> <li>ウ 「食糧・農業・農村基本計画」について</li> <li>エ その他</li> </ol> </li> <li>(7) 評価委員の講評</li> <li>(8) その他</li> </ol>
17. 3. 4	大曲市	<p>「水稻推進部会」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 主要研究成果の検討</li> <li>(2) 東北地方における「売れる米」作りに向けた取り組みの現状と研究方向</li> <li>(3) その他</li> </ol>
17. 1.25 ～ 1.26	福島市	<p>「畑作物推進部会」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 試験研究の検討・評価</li> <li>(2) 特色ある大豆の栽培技術 - 機能性大豆の栽培、環境保全型生産技術等 -</li> <li>(3) その他</li> </ol>



開催月日	場 所	内 容
17. 2. 1 ～ 2. 2	盛岡市	「生産環境推進部会」 (1) 試験研究の検討・評価 (2) 安全・安心な農産物の生産と試験研究の役割 - 特別栽培農産物の技術開発方向 (3) その他
17. 2. 1	盛岡市	「作業技術推進部会」 (1) 試験研究の検討・評価 (2) 水田農業ビジョンに対応した作業技術・農業土木研究の方向 (3) その他
17. 2. 3	盛岡市	「経営推進部会」 (1) 試験研究の検討・評価 (2) 「米政策改革を受けた地域水田農業の構築と推進方策」 (3) その他
17. 2. 3 ～ 2. 4	盛岡市	「畜産推進部会」 (1) 試験研究の検討・評価 (2) 「東北地域における家畜排泄物処理利用研究の現状と課題」 (3) その他
17. 1.27 ～ 1.28	盛岡市	「果樹推進部会」 (1) 試験研究の検討・評価 (2) 東北地域における平成 16 年度台風等気象災害の現状と技術対応 (3) 東北地域における均質なリンゴ果実生産のための試験研究推進方向 (4) その他
17. 1.25 ～ 1.26	盛岡市	「野菜・花き推進部会（野菜・花き分科会）」 (1) 試験研究の検討・評価 (2) 野菜：水田を利用した野菜の振興 (3) 花き：低コスト・省力化を目指した水田における花き生産 (4) その他
17. 1.27 ～ 1.28	盛岡市	「流通・加工推進部会」 (1) 試験研究の検討・評価 (2) 青果物の生産現場への GAP の導入について (3) その他
17. 1.31 ～ 2. 1	盛岡市	「生物工学推進部会」 (1) 試験研究の検討・評価 (2) 食の安心安全：品種識別技術、産地判別技術、遺伝子組換え体検知技術 (3) その他

#### キ 県内における開催学会

開催月日	場 所	学 会 名 ・ 内 容
16.4.17～18	盛岡市 岩手大学	日本雑草学会第 43 回講演会
16.7.29～30	北上市 県農業研究センター	2004 年日本農業気象学会東北支部大会
16. 9. 2～3	盛岡市 岩手大学	日本食品科学工学会第 51 回大会
16.9.10	盛岡市 東北農業研究センター	第 32 回東北農村生活研究大会
16.9.30～10.1	県農業研究センター 衣川村ほか	平成 16 年度東北地域花き研究会 「東北地域における花きオリジナル品種育成の現状と今後の課題」
16. 11. 11	盛岡市 県工業技術センター	第 3 回フードフォーラム北東北
17.3.28～29	盛岡市 岩手大学	平成 17 年度日本農作業学会春季大会



## II 試験研究の推進



## 1 研究活動の概要

県では、「岩手県農業・農村基本計画」を踏まえ、地域の立地特性を生かしながら、持続的な展開が可能となる農業を構築するための試験研究の指針として「岩手県農業試験研究推進構想」(平成12年3月策定。以下「推進構想」という。)を策定している。

本センターでは、この構想に基づき、

- バイオテクノロジー等を利用した商品性の高い独自品種の開発や胚移植技術等を利用した家畜改良
- 国際化に対応できる超省力、低コスト生産技術の開発
- 自動化、システム化等先端技術を利用した革新的生産技術の開発
- 環境保全に配慮し、生態系を活用した持続型生産管理技術体系の確立
- 地域特性を生かしたオリジナルな農畜産物の加工・流通技術の開発と販売手法の確立
- 中山間地域の資源を生かした地域活性化手法の開発
- 農村地域の多面的機能に配慮した農業農村基盤の整備、管理技術の開発
- 栽培・飼養、経営、販売等各種管理システムを取り入れた新しい「総合農業情報システム」の確立

という8つの基本方向に即して、時代を先取りした試験研究を着実に進めてきている。

平成16年度においても、現場ニーズに基づく課題等を選定し、内部・外部の評価を加えて、新規117課題、継続267課題、合計384課題に取り組み、144の成果をとりまとめた。

これらの試験研究の推進にあたっては、「試験研究評価制度」の円滑な運用や産学官との連携に取り組むとともに、研究成果については、迅速な普及・定着化に務めた。

また、試験研究の方向や体制、試験研究課題の重点化等については、平成15年10月に策定された岩手県行財政構造改革プログラムを踏まえて、引き続き検討して、主幹課等と協議している。

なお、政策課題を推進する機能として、農林水産部の政策形成プロジェクトの取組みにより、企画経営情報部に「いわて農林水産知的財産相談センター」(11月)、県北農業研究所内に「いわて雑穀遺伝資源センター」(10月)がそれぞれ設置され、当センターが業務を担っている。

## 2 トピックス

### (1) りんどうこぶ症研究プロジェクトチームの設置について

りんどうこぶ症に係る研究課題の円滑な実施による早期解決を図るため、関係研究室の共同研究がより効率的に進められるよう、平成16年度にセンター内にプロジェクトチーム等を設置し、研究推進体制の強化を図った。

#### ア 主な編成

【推進プロジェクトチーム】 園芸畑作部長、花き専技及び関係研究室長並びに試験実施グループ員により構成し、園芸畑作部長がチーム長となる。プロジェクトチーム会議は、チーム長が随時招集し、成績・設計の検討、現地検討、対外調整、研究の工程管理等を行う。各年度の重点課題の試験については、原則としてグループ員共同で実施する。

【検討委員会】 センター所長、副所長、首席専技及び関係部長並びにプロジェクトチーム員で構成し、センター所長が委員長となる。検討委員会では、推進プロジェクトチームの取り組み全般について推進状況を検討し、指導、助言を行う。

【試験実施グループ】 花き研究室、応用生物工学研究室、土壌作物栄養研究室、病理昆虫研究室の担当で構成し、花き研究室長がグループ長となる。会議、調査等は、グループ長が招集し、定例的に開催する。

#### イ プロジェクトチームの主な活動内容

- (ア) 第1回プロジェクトチーム会議(4月19日、農研)
- (イ) りんどうこぶ症試験研究に係る中間検討会及び第2回プロジェクトチーム会議(6月17日、東北農研。東北農研と合同)
- (ウ) りんどうこぶ症対策実験圃現地検討会(8月23~24日、安代町、松尾村ほか。参加 - 各普及センター、全農、農大等)

- (工) 第3回プロジェクトチーム会議(9月7日、農研)
- (オ) りんどうこぶ症現地試験圃合同調査(10月22日、松尾村・石鳥谷町。参加 - 東北農研、生工研、盛岡・花巻普及センター、農産園芸課)
- (カ) 「りんどうこぶ症」高度化事業応募に係るプロジェクトチーム打合せ(11月29日、農研)
- (キ) 「りんどうこぶ症の原因究明と発生防止技術の確立」ミニテーブルリサーチ(12月3日、東北農研。参加 - 東北農研、福島農試、岩手生工研、安代リンドウ開発)
- (ク) 第4回プロジェクトチーム会議(17年1月7日、農研)
- (ケ) 平成16年度「りんどうこぶ症」に関する試験研究に係る検討委員会(3月14日、農研)

## (2) いわて農林水産知的財産相談センターの設置について

いわて農林水産知的財産相談センターは、農林水産業者等に対し、知的財産(特許、実用新案、意匠、商標、品種登録)の権利の取得や活用の普及啓発・相談活動を行うことによって、農林水産業者等の創造的な生産・加工活動や農林水産物のブランド化などを促進し、本県の農林水産業の体質強化を図ることを目的として、平成16年11月に設置された。

相談センターの活動内容は次の通り。

- ア 農林水産分野での知的財産の権利取得や保護、活用等についての普及啓発に関すること。(県内各地で研修会・相談会の開催)
- イ 特許権、実用新案権、商標権、及び意匠権に係る農林水産業者等からの相談に関すること。(特許権、実用新案権、商標権及び意匠権の取得・活用などに係る相談)
- ウ 品種登録に係る農林水産業者等からの相談に関すること。(品種登録に係る相談)

本年度は、農林水産分野の知的財産とは何かについて、権利取得や保護、活用についての普及啓発に力を入れ、各地で研修会を開催した。

## (3) 岩手県雑穀遺伝資源センターの設置について

ア 雑穀遺伝資源センターは、本県においては食物繊維やミネラルが豊富で、新たな食材として脚光を浴びている雑穀の栽培が古くから盛んであるが、優良種子の選抜・供給による雑穀の一層の生産振興を図るため、平成16年9月に設置された。

イ 同センターは、県北農業研究所内の旧養蚕飼育棟を利用し、雑穀資源活用体制整備事業により必要な備品が整備され、運営は県北農業研究所が行なうこととされた。

ウ 雑穀遺伝資源センターの業務は大きく次の3つとなっている。

- (ア) 雑穀原種の生産・供給に関すること
  - (イ) 雑穀遺伝資源の生産・供給に関すること
    - i 遺伝資源(種子)の収集
    - ii 遺伝資源の長期保存
    - iii 遺伝資源の特性把握
  - (ウ) 雑穀オリジナル品種の育成に関すること
    - i もち性ひえの育成
    - ii 短稈あわ・きびの育成

雑穀遺伝資源センターの整備により、岩手が「雑穀の宝庫」であることがアピールできること、オリジナル品種育成や優良種子の供給により生産体制の整備や他産地との差別化が図れること、県内や全国的な需要拡大による岩手ブランド製品の育成等の効果が考えられ、雑穀のオンリーワン産地の強化につながるものと期待されている。

### 3 研究室の動き

#### (1) 企画経営情報部

##### 企画情報室

農業研究センターにおける試験研究の円滑な推進と成果の普及・定着化のための企画調整及び情報の受発信に係る事務を所掌している。

岩手県試験研究推進会議要綱は、農林水産部の組織見直しと職名の変更、さらに分野の一部再編（畑作分野を農産部に編入）とこれに伴う専門部会の名称変更（園芸畑作部会を園芸部会と呼称変更）のため、一部改正された。

岩手県農業試験研究推進構想は平成 17 年に中間年を迎えることから、室長等で構成する「課題見直し委員会」を設置し、同構想に掲げる研究目標の到達状況の把握や成果等の中間評価をするとともに、今後に予定する試験研究課題について協議し、センターとしてとりまとめを行なった。

今年度の試験研究の業務については、要望課題の把握と課題の評価・選定、成果の評価・とりまとめ、成果の公表などを円滑に推進するとともに、成果等情報の積極的な広報や情報システムの効果的な運営に努めた。

また、外部評価委員の委嘱替えの年度にあたり、評価の充実を図るため、各専門部会の委員をこれまでより増やすこととし、29 名の委員を委嘱した。

広報関係については、広報誌「トライアングル」の発刊（4 回）、「研究レポート」（227 号～278 号）の発行、参観デー（本部・畜産・県北）や現地ふれあい農業研究センター（盛岡、水沢、一関、宮古地方振興局管内）、一日子供研究員の開催（8 月、1 月）及び科学技術週間行事としての春季一般公開、ラジオでの放送（毎週金曜日、年間 53 回）を行い、積極的に情報を提供した。

企画調整については、センター内諸会議（企画運営会議、全体会議等）や委員会（研究報告等企画編集委員会等）等の運営、関係機関（国、県及び関係団体）との連絡調整（推進会議等）を行った。

研究員の研修派遣については、（独）農業・生物系特定産業技術研究機構等の依頼研究員（6 名）や、農林水産省が主催する中核農業研究員（2 名）大学院（1 名）などに派遣し、研究員の資質向上に取り組んだ。また、海外技術研修員については、タイ・ハンガリー（JICA 草の根技術協力事業）、中国（岩手県海外技術研修員事業）からそれぞれ 1 名（計 3 名）を受け入れし、農業技術の習得を支援した。

##### 農業経営研究室

生産性の高い経営管理方式の確立、担い手の育成支援方策、地域活性化方策、県産農畜産物の販売戦略及び開発技術の経営評価等に関する研究を実施している。

生産性の高い経営管理方式の確立では、水田作を中心とした集落型法人が経営体として自立し発展していくための条件として、経営内に水稲や畑作物以外の高収益作物を導入・定着させ、法人専従者の周年就労・所得確保を図ることが必要であること、及び必要な経営規模を確保するには集落の枠を超えた経営展開を考慮することが必要であることを提示した。また、酪農法人の経営管理の実態分析から、経営体としては企業的経営形態をとりつつあるが、法人化そのものを目的とせず経営管理の高度化に配慮した展開に努めることが課題となること、及び雇用依存や施設の高度化が進み、労務管理が一層重要となることを提示した。

さらに、イチゴの超促成作型においては、夏秋期収量の向上が課題であり、1,000kg/10a 程度まで向上させることで、収穫労働を分散させ、県内先進的イチゴ作経営体と同程度の所得確保が期待できることを提示した。

担い手の育成支援方策では、経営環境に応じた想定規模及び栽培様式等を考慮して、新たな生産技術体系を策定するとともに、体系データの作成・修正を容易にするための様式や作成方法を明確化した。

県産農産物の販売戦略では、葉とらずふじの効果的な販売方法として、試食や自家消費に対応した小売販売で消費者の認知度向上を図ること、販売チャネルとしては、他産地の葉とらずふじやブランドリンゴの販売実績のない販売店を対象とした「すき間の販路開拓」を行うことを提案した。また、県内産ねぎにおける通いコンテナ出荷では、計画生産や価格安定が期待できる契約的取引の推進につながることを、さらに、出荷容器代の低減が可能であり、生産者の収益向上が期待できることを明らかにした。

## (2) 農産部

### 水田作研究室

水稲の奨励品種決定調査、直播栽培・ロングマット水耕育苗技術を中心とした省力・低コスト栽培技術確立、水田機能を活かした飼料生産（ホールクロップサイレージ用稲の栽培技術）、作況調査・作柄解析、高品質・良食味米の安定生産技術確立及び水稲原種・原々種の生産業務に取り組んでいる。

奨励品種決定本調査では、中生の「岩手 68 号」（良食味、耐冷性極強、穂いもち耐病性強）を有望と認め奨励品種候補として提案した。平成 17 年度は品種特性を活かし減農薬栽培も含め栽培法の検討を行う。また、予備調査では有色素米の「岩手紫 76 号」など粳 5 系統を有望と認め新たに本調査・現地調査に供することとした。

平成 16 年は、活着期の低温により穂数・籾数はやや少なかったものの夏季の高温の影響により登熟歩合は高く、作況指数 102（10a 当たり収量 543kg）と平年並みの作柄となった。しかし、刈り取り時期の長雨による収穫の遅れや、復元田での倒伏等が多く 1 等米比率は 88.6%（H17.2 末現在）と例年より若干低く、一部地域では白未熟粒の発生が多く今後の課題として残った。

雑草防除関係では、移植栽培における効果の高い水稲除草剤 4 剤（初期一発剤 1 剤、初・中期一発剤 1 剤、中期剤 1 剤及び直播栽培用一発処理剤 1 剤）を県防除基準に採用した。また、新除草剤の効果試験（適 2 試験）では 17 剤を供試し 9 剤について実用性が高いと判断した（一部実用性あり、県北研も含む）。SU 系除草剤抵抗性雑草の防除対策に本年から取り組み、県内の発生実態について調査するとともに、ALS 検定のオモダカ・コナギの安定した検定部位と採取時期を明らかにした。

直播栽培では、出芽苗立ちの安定化とコーティング～播種作業時の作業性向上をねらいに、コーティング種子の加温処理と貯蔵期間・貯蔵条件を成果として取りまとめた。ロングマット水耕育苗技術に関しては、播種後直後の育苗ベッドの被覆保温効果と巻き取り前の追肥時期の効果を明らかにした。ホールクロップサイレージ用イネの栽培では、収穫・調整体系別の特徴と機械収穫に対応した地耐力確保のための水管理について成果として取りまとめた。

水稲原々種は 5 品種（59 系統）316kg、原種はうち 5 品種 23,440kg、もち 2 品種 2,160kg、及び新品種「岩手 68 号」を特別増殖し 860kg の種子を生産した。

### 水稲育種研究室

生産力検定試験において、62 組合せ 90 系統を供試し、24 組合せ 31 系統を選抜した。また、生産力検定と各種特性検定試験の結果から、岩手 77 号（早生の晩、良食味で特に粘る）、岩手 78 号（晩生の早、多収、葉・穂いもち強、耐冷極強、良食味）、岩手酒 79 号（中生の晩、低グルテリン酒米）、岩手 80 号（晩生の中、低アミロース米、品質良）、岩手糯 81 号（早生の中、良質、葉・穂いもち強）、以上主食用 3 系統、糯 1 系統、新規需要 1 系統、計 5 系統を有望と認め、地方番号を付し、平成 17 年度奨励品種決定調査のための新配布系統とした。

直播生産力検定試験等では 2 系統が有望と認められた。また、新規需要及び新形質米の育成試験では、低アミロース 2 系統、酒米 2 系統、糯 3 系統が有望と認められたことから、以上を次年度の生産力検定試験で継続検討する。

育種技術の効率化に資する目的で取り組んだ課題「分子マーカーを用いた選抜技術の検討」では、「岩南 23 号」が穂いもち圃場抵抗性遺伝子 *Pb1* を確実に持つことをほ場における対立性検定により明らかにし、また DNA マーカーにより *Pb1* を優性ホモで持つ個体を選抜した。さらに、生物工学研究所との共同研究により、水稲重要形質と連鎖したマーカー探索のための RILs（雑種後代自殖系統群）の育成と連鎖解析に関する水稲の形質調査を実施した。

「高度耐冷性水稲品種・系統の育成」の課題では、耐冷性極強を超える品種・系統の耐冷性ランクの判定精度を高める手法と簡易選抜法を示し、研究成果としてとりまとめた。

もち米種子の優良種子生産のための課題「双胚米発生機構の解明」では、双胚米の発生頻度、品種間差等の発生実態を示し、低温処理や自殖による双胚米の再現を試みた結果、明確な要因がないことを明らかにし、研究成果としてとりまとめた。

東北農業研究センター等の独立行政法人及び国の指定試験地、また、それ以外の東北地域の育成地で育成された系統についてのの本県への適応性について系統適応性検定試験を行った。

耐冷性極強を超える品種育成のため、耐冷性に関して東北各育成地間共同で東北地域特性比較連絡試験を実施した。

### 応用生物工学研究室

オリジナル品目・品種の開発に関連する組織培養法を利用した増殖技術開発や、育種を加速・支援する技術開発などの手法開発を中心に研究している。



リンドウ F<sub>1</sub> 品種の採種用親株の増殖に関しては、主要な採種親である 13 系統のエゾリンドウにおいて、葉片培養法などを利用して既に技術開発した 4 系統に加え、新たに 7 系統の増殖技術に目処を付け、「りんどう生産拡大緊急対策事業」において順次実用化を図っている。なお残る 2 系統については、越冬芽を利用した増殖方法を検討中である。

スターチスの本県オリジナル栄養繁殖系品種であるアイスターシリーズについては、H13 年度にその増殖技術を開発して(社)岩手県農産物改良種苗センターに技術移転したが、コストの低減が課題として残されていた。そこで、高い増殖率が得られる培地を新たに考案し、生産費を従来法の約 67% に低減する技術を成果として取りまとめた。

H15 年から着手した県産米の品種識別技術開発では、混米を想定した定性・定量分析手法を開発し、実用的場面を想定してこの手法を CD-ROM にまとめた。また、いもち病真性抵抗性遺伝子 *Pia* に連鎖するマーカーの検出に成功し、成果として取りまとめた。さらに、品種識別や真性抵抗性遺伝子に関する研究の過程で得られた各種のマーカー情報を、データベース化した。

りんどう「こぶ症」については、本年度からプロジェクトチームに参加して研究を開始し、診断基準となる組織学的特徴とこぶ組織内成分がオーキシン様物質である可能性が高いことを基礎的な成果として取りまとめた。また、組織培養法を利用して「こぶ症」が栄養繁殖により伝達することを明らかにして成果に取りまとめ、現地における「こぶ症」株を利用した挿し木繁殖による発症圃場の拡大に注意を促した。

## 生産工学研究室

水稲育苗・移植作業の軽労化を目的として「ロングマット水耕苗移植栽培技術」の実用化研究を進めており、前年度に引き続き農家 2 戸による現地導入実証を行った。本年は農家自ら実施した水耕育苗に対して技術支援を行うとともに、田植機についてもメーカー等の協力を得て農家が所有する田植機を改良して移植した。

麦・大豆立毛間播種栽培については、寒冷地の当県にとって厳しい条件ではあるが、2 年 3 作技術体系及び導入モデルでの試算など、研究最終年度における成果について主査研究室として取りまとめた。

また、「岩手県高性能農業機械導入計画」の改訂作業を農業経営研究室及び農産園芸課とともに前年度から取り組み当研究室としてもその作成に力を注いで進め、基礎資料の作成、協議を重ねて本年度完成に至った。

グラウンドカバープランツ(GCP)の動力吹付緑化工法については、平成 14 年度に施工した農業研究センターほ場法面の GCP の被覆状況をもとに、施工管理経費と施工 3 年目における生育評価を行い、寒冷地における景観形成・法面緑化の一工法として成果に取りまとめた。

水田ほ場の暗渠配水管を有効利用した地下かんがい排水技術については平成 14 年度から取り組んできたが、これらの調査結果により、暗渠に明渠を組み合わせることによって簡易な水田ほ場地下水制御方法が可能であることを取りまとめた。

環境に配慮した農村整備手法研究については県内 2 カ所で調査をおこなった。ホタル水路の復元については、石灰石・堰堤の設置、カワニナの放流を平成 15 年度に実施したが、放流 1 年後もカワニナの生息を確認した。また、18 年度以降に工事実施が予定される川崎村 K 地区については、岩手大学と連携しながら環境配慮に関する体制づくりを支援するとともに水源・水質・水路環境などの調査を行った。

## (3) 園芸畑作部

### 果樹研究室

果樹研究室では、リンゴの栽培試験および品種開発を主体に、ブドウ、西洋ナシ、オウトウ、ブルーベリーなどの樹種に係る試験を実施している。

リンゴでは、地域基幹農業技術体系実用化研究「新素材新省力技術を基幹とした高品質・値頃感リンゴの生産技術」により、これまでの外観本位から、消費者が求める食味本位の果実生産に重点を置いた省力栽培技術の開発を目指した研究に取り組んだ。この課題は、着色管理を限りなく省略した食味本位のリンゴ(葉取らずリンゴ、糖度保証リンゴ、蜜入りリンゴ、丸かじりリンゴ等)を安定的に生産し、栽培コストの低減を図るとともに、非破壊選果機を高度に利用した品質評価技術により、手頃な価格で消費者が満足する果実を提供する技術を確立し、需要の拡大を図ろうとするものである。本年度は最終年にあたり、葉とらずりんごの樹体構成法、同じく非破壊選果機利用技術、着色管理における玉回し作業の省力化、新規摘花剤及び新規摘葉剤利用法を明らかにした。

16 年度新規課題としては、農薬のドリフト防止や省力化を目指して「クラブアップル等リンゴ受粉専用品種の選抜と利用法の確立」に関する研究を開始し、受粉専用品種の選抜や花芽着生大苗育成技術の開発、既存樹への高接ぎ法の検討などに取り組んだ。

リンゴの品種開発では、「きおう」に続く岩手の地域特性を生かせる、早・中生種を主体とした交雑育種に取り組んでおり、本年度は「黄香」の栽培特性解明の一環として S 遺伝子の解析をもとに主要品種との受粉親和性を明らかにした。また、「王林」に代わりうる有望品種として「シナノゴールド」の果実品質や日持ち性などに関する特性解明を進め、県の奨励品種とした。

ブドウでは、短梢棚を活用した大粒種の栽培技術開発及びヤマブドウの結実促進技術の開発を進めている。また、品種開発では 5 系統を二次選抜に編入し調査を継続するとともに、導入系統の中から食味良好な紫赤系品種「サニールージュ」の特性を明らかにし、県の奨励品種とした。

西洋ナシ、オウトウ、ブルーベリーについては、国内外の有望品種の本県への適応性と特性検定を主体に試験を実施している。

## 野菜畑作研究室

畑作物では、生産、実需、流通の各側面から、実需者ニーズに対応した安定品質・安定生産技術の確立が強く求められており、緊急に解決をはかるため、品種選定と栽培法の確立に取り組んだ。

大豆は、優良品種選定・栽培法試験において、有望系統の現地での実証ほを 3 カ所設置し、県内の豆腐、納豆、味噌業界や工業技術センターと連携して実規模での加工検討を行った。この中で、極早生大豆「ユキホマレ」を奨励品種に編入するとともに、同品種を麦後に輪作する際の栽培法を検討したほか、中生大豆「リュウホウ」、納豆用有能系統「東北 146 号」の品種特性を取りまとめた。また、地力や窒素施肥と大豆タンパク含量の関係を解析し、地力向上が高品質かつ多収につながることを実証した。

小麦は、東北農研、工業技術センター、県内パン、めん業界と共同で高製パン性小麦品種「ゆきちから」の実規模での試作評価を実施した。また、高タンパク含量で安定多収をはかるための栽培法を取りまとめた。

「冬期播種栽培による小麦の高品質・持続的安定生産技術の確立」は重点的に研究を推進し、学会報に成果を掲載するとともに、新聞報道での発信や普及センターを通じた技術の普及につとめた結果、2 地域で現地推進プロジェクトができ、播種面積も 115ha まで拡大した。

さらに、大豆、小麦等は水田転作などで栽培が増加しているが、不順天候や排水不備などにより収量、品質が不安定であることから、専門技術員が中心となって作成した「岩手県畑作物指導指針」において、麦類、豆類に関してこれまで提供してきた技術をわかりやすくまとめて掲載した。

原種生産では、需要が増加している小麦、大豆原種の増産と品位の向上につとめた。

野菜では、労働力の脆弱化が進行する中で、消費地や地場のニーズに合った生産や、輸入の増加や量販の拡大に対応する低コスト化、高品質化が緊急の課題となっており、ねぎ、きゅうり、トマト、ピーマン、イチゴの品種選定と栽培技術の確立に取り組んだ。

輸入急増対策として 4 研究室でプロジェクト的に取り組んだ「ねぎの産地力強化のための低コスト、長期安定供給技術の確立」については、各研究室の研究目標をほぼ予定どおり達成し完了した。研究結果は「岩手県産ねぎの経営改善マニュアル」として一般向けに取りまとめを行い、関係機関・団体等に配布した。

きゅうりハウス作型での適品種選定については、有望な品種の特性を明らかにするとともに、露地用台木かぼちゃ品種の特性を明らかにした。ピーマンは、PMMoV 抵抗性 ( $L^3$ ) 有望品種の特性を取りまとめた。

また、点滴灌水設備のないきゅうり栽培において、秋期収量の安定化のため、液肥のかん注追肥技術を確立した。

独法委託研究として取り組んでいる「東北北部内陸地域におけるイチゴ夏秋どり新作型の開発」については、現地実証の推進により夏秋期と春期の二期どり作型における技術目標が明らかになり、個々の技術もほぼ出揃い、まだ課題はあるものの現地実証組み立ての段階に達した。

## 花き研究室

花き研究室では、国際化や消費動向の変化に対応できる寒冷地型花きの生産技術を確立するため、重点品目を中心としたオリジナル品種の開発を行うとともに、気象条件を活用した新商材の開発や長期継続出荷できる生産技術の確立に取り組んでいる。

品種開発では、1 りんどうの極々早生品種や新しい花色・花姿の品種を育成すること、2 スプレータイプの小ぎく「アイマム」シリーズの花色・開花期の幅を広げること、を主眼に選抜を行った。本年度は、りんどうの早生品種の「極々早生 1」及び「早生 3 S」、小ぎくの 9 月中旬咲き品種「アイマム ピュアホワイト」、更にはスターチス・シヌアータの栄養系品種「アイスター ソフトピンク」の 4 品種を育成し、県の奨励品種とした。

なお、りんどう種子の安定供給による生産振興を図るため、引き続き政策形成プロジェクトで「りんどう生産拡大緊急対策事業」により、原々種の安定採種、親株の大量増殖、新規親系統の育成等に取り組んだ。

新商材開発では、枝物花木について国庫事業を引き継ぎ、県単新規課題として 1 早期成圃化技術の確立、2 整枝・

仕立て法の確立、等を進めるとともに、「いわて乙女」やスターチスの安定生産技術の確立等に取り組んだ。

長期継続出荷技術については、小ぎくの作期拡大やりんどうのコンテナ促成栽培等に取り組み、本年度は、小ぎくアイマムシリーズへのエテホン処理による開花調節効果や定植前摘心栽培技術について成果を取りまとめた。

また、りんどうこぶ症に係る研究課題の円滑な実施による早期解決を図るため、所内に設置したプロジェクトチームの主査となり、応用生物工学研究室、土壌作物栄養研究室及び病理昆虫研究室と共同で、現地試験圃の設置や発生実態調査等に取り組んだほか、東北農研センター等の関係機関・団体と緊密な連携のもとに研究を行った。

## 南部園芸研究室

南部園芸研究室では、県南部や南部沿岸地域の気象条件を活かした野菜花き園芸技術の開発と、特色ある園芸産地形成のための地域実証試験を行なっている。

野菜に関する試験では、イチゴの短日処理による秋出し超促成作型の確立のための適品種の検索、イチゴの低コスト化や環境保全を目指した高設栽培技術の確立試験を行なった。また、高規格ガラス温室(以下、ガラス温室という)における養液トマトの周年栽培の本県における導入の可能性についての知見を得るための実証試験を行なった。本年度は、ガラス温室における温度推移の特性評価や暖房デグリアワーの試算結果による気象的観点でのガラス温室導入の地域適応性を明らかにした。また、隣接県におけるガラス温室によるトマト養液栽培導入事例の特徴や問題点をデータとしてまとめた。(研究成果「指導」区分2題)

花きに関する試験では、アレンジメントアスターの隔離床栽培法の確立、アネモネの年内穫り作型における高品質栽培やアネモネのコンテナ栽培技術の確立についての試験を行なった。また、太陽光発電を利用してヒートポンプによるトルコギキョウの冷房育苗を行い、発電効率や対象品目の品質向上を図るための試験を行なった。本年度は「アレンジメントアスター隔離床栽培の可能性」として、培地量や開花期の前進化を明らかにした。(研究成果「研究」区分)

## (4) 生産環境部

### 環境保全研究室

かけはし人事交流により沖縄農試の研究員1名が1年間配属されるとともに、JICA研修員1名(ハンガリー国)を2か月間受け入れた。試験研究は、重点目標の持続的生産管理技術体系の確立に向け以下の課題に取り組んだ。

農業農村が持つ環境保全機能維持に関して、水田環境の評価法を検討するために県内の水田や用・排水路でのトンボ幼虫等水生昆虫の生息実態を明らかにした(研究成果・研究)。また、肥料・農薬等に起因する負荷軽減に関して、化学肥料削減等による硝酸性窒素負荷軽減効果を評価するための現地試験、水稲防除体系の変化に伴う農薬の水系への負荷軽減効果を評価するための現地調査を行った。

持続的生産管理技術の総合組立に関して、露地きゅうりのうどんこ病の防除において酸性電解水を利用する場合の防除体系への組み入れ方を示した(研究成果・研究)。また、産地PRの一方策の基礎として里地・里山の生き物データベースを作成した(研究成果・研究)。さらに、水稲の減農薬・減化学肥料栽培技術体系の管理システム化に向け実証試験を現地3か所で行うとともに、温度勾配チャンバー中でイネを栽培し、堆肥の化学肥料代替施用時におけるいもち病感受性の変動を検討した。

食の安全・安心支援に関して、カドミウム吸収抑制試験を実施し、水稲では生育期の茎葉カドミウム吸収量が玄米濃度と相関の高いことを明らかにするとともに(研究成果・研究)ホウレンソウの品種および栽培法の違いによる吸収量の差異を明らかにした。また、イムノアッセイによる簡易農薬残留分析の米、果菜類への適用に関して環境保健研究センターと共同研究を行い、その活用法を提示した(研究成果・指導)。

### 土壌作物栄養研究室

持続的生産管理技術体系の確立を目指し、食の安全・安心対策、土壌・施肥管理技術を中心に取り組んだ。

食の安全・安心対策では、独立行政法人野菜茶業研究所が主査となっている硝酸プロジェクトに参加して、ほうれんそう、キャベツ、レタスの体内硝酸イオン濃度低減化に取り組み、土壌中窒素肥沃度に基づく施肥、有機物利用等によって低減できることを明らかにした。(研究成果・指導、研究)

土壌・施肥管理技術では、高窒素濃度の堆肥を使った減化学肥料栽培の確立に取り組み、水稲及びスイートコーン・キャベツで栽培法を明らかにした。(研究成果・指導)

また、土壌中・作物体中養分含量推定法の高度化、簡略化に取り組み、雨よけホウレンソウ土壌の可給態窒素の推定法、フラットベッドスキャナーを利用した土壌中全炭素・全窒素の簡易推定法、デジタルカメラを利用したりんご

の生育診断法について明らかにした。(以上研究成果・指導)

その他、消費者に栽培土壌の情報を発信する目的で、健康な土の簡易評価法の課題を開始した。

## 保鮮流通技術研究室

保鮮流通技術研究室では、県産農産物の多面的品質評価技術の開発、青果物の高鮮度貯蔵・輸送技術の確立、地域特産品の加工技術の開発に取り組んでいる。

県産農産物の多面的品質評価については、キャベツや寒締めホウレンソウに含まれる糖度やビタミンCなどの評価を行い、産地や年次における変動の実態を検討するとともに、示差屈折計や簡易型反射式分光光度計を利用したこれら成分の簡易分析技術の検討を行った。また、雑穀については、ひえやあわ、きび等に含まれる機能性成分の評価を行うとともに、白米に混合する場合のひえの食味評価法の検討を行い、小麦については、タンパク質含有量に影響する土壌要因や栽培法について検討を行った。

青果物の高鮮度貯蔵・輸送技術については、「通いコンテナ利用による青果物輸送の特徴」(指導)「冷温高湿貯蔵により蜜入りりんごは2カ月間の貯蔵が可能となる」(指導)「西洋ナシ「ラ・フランス」の追熟法(追補)」(指導)の3課題を研究成果とした。通いコンテナについては、首都圏への長距離輸送の場合、段ボール箱に比較して箱内温度が上昇するが、農産物の品質(外観・内部)には大差ないことを明らかにした。また、通常の冷蔵庫では困難であった蜜入りりんごの長期貯蔵を可能とする技術を開発した。西洋ナシについては、追熟期間を短縮する技術を開発した。

地域特産品の加工技術については、「セルラーゼを利用し搾汁率を高めたりんごジュースの製造法」(普及)「小枝柿」の炭酸ガス脱渋技術及び渋戻り抑制技術」(指導)「はとむぎ新品種「はとゆたか」を原料としたペースト食品の特性」(指導)の3課題を研究成果とした。りんごジュースについては、従来法(36.7%)より廃棄率が20%以上少ない13.9%となる製造法を開発した。小枝柿については、「ころ柿」以外の脱渋法を開発し、二次加工への汎用性を広げた。はとむぎについては、栽培される品種が変わってもペーストとしての成分や食味には変化がないことを明らかにした。また、「農業ふれあい公園加工工房」における40件(人数344人)の研修に対応し、地域特産加工品の開発を支援した。

## (5) 病害虫部

### 病理昆虫研究室

1名欠員、1名長期病休に伴い5名体制で、持続性が高く安定性のある農業生産の展開を目指した病害虫制御技術の確立を進めるため、効率的病害虫防除技術の開発、環境にやさしい病害虫防除技術の開発、農業使用量を削減した病害虫総合管理技術(IPM)の開発に取り組んだ。

水稲分野では、ばか苗病、苗立枯細菌病及びもみ枯細菌病に効果のある生物農薬トリコデルマ・アトロピリテ水和剤(粉状タイプ)の特性と使用法を示した(研究成果・指導)。

また、ウイン等MBI-D剤耐性イネいもち病菌を北日本で初めて確認し、防除対策を示す(研究成果・指導)とともに、水稲採種圃で実施してきた平成13年発生のスターナ耐性イネもみ枯細菌病対策が成功したことをとりまとめた(研究成果・指導)。さらに、割れ粃、水田雑草など発生環境に応じた斑点米防止対策技術を取りまとめた(研究成果・指導)。

果樹分野では、リンゴ炭疽病の発生生態について、病原菌が着果痕で越冬し5~6月に幼果に感染すること(研究成果・指導)。さらに、本病の例年発生園では落花10~30日後にアントラコール顆粒水和剤を散布することにより秋期の果実発病を抑制できることを明らかにした(研究成果・普及)。また、果実害虫のモモシクイガの防除対策として、生物農薬スタイナーネマ・カーボカブサエ剤を10a当たり2億5千万頭処理すると、羽化成虫数を低減して被害果の発生を抑制できることを明らかにした(研究成果・普及)。

野菜分野では、平成14年に発生が確認された難防除病害キュウリホモブシス根腐病に対し、耐病性がある黒種カボチャ台木と土壌消毒を組み合わせた総合的防除効果は高いことを明らかにした(研究成果・指導)。また、親水性のあるクロルピクリンくん蒸剤の新剤型フロー剤はマルチ被覆後にチューブかん水と同様に処理できるため簡便で、防除効果も従来の点注と同等であることを明らかにした(研究成果・指導)。

花き分野では、リンドウ新病害としてインパチエンスネクロティックスポットウイルス(INSV)によるえそ斑紋病の発生を確認した(研究成果・指導)。また、りんどうこぶ症について、節間及び節部こぶの症状進展を明らかにした。また、クロピク等土壌消毒を実施し、継続検討中である。

各作物の病害虫防除試験の結果に基づき、より効果的な防除が行えるよう平成17年度病害虫防除基準を改訂した

(研究成果・普及)。また、病害虫防除基準の農薬使用基準および効果適用一覧表の記載について、国が定めた農薬使用基準に適合しているかどうかパソコン上で確認できるシステムを開発した(研究成果・行政)。さらに、登録農薬が極めて少ない地域特産農作物のブルーベリー、なばな等について、登録取得に向けて薬効、薬害等試験を実施した。

## (6) 畜産研究所

### 家畜育種研究室

本県の気候・風土に適し、高品質・低コスト生産が可能となる優良種畜の作出(造成)や飼養管理向上のための技術確立に取り組んでいる。

日本短角種の優良種雄牛の作出について、直接検定 20 頭を実施し、1 日当たり平均増体量(DG)は 1.42kg であり、平成 17 年度現場後代検定開始予定牛 6 頭(選抜率 30%、平均 DG1.46kg)を選抜した。間接検定は「琴川」「辰松」「川風」「角久」「高山」の 5 種雄牛について終了した。県有優良短角種雄牛「高福」「良川」の人工授精用凍結精液を生産した。

また、日本短角種全個体認証システムを確立するため、子牛全個体を主体に約 1526 頭の血液採取を実施するとともに、飼養農家の同意を得ながら血統、枝肉、DNA 情報の短角牛データベース構築に取り組み、血統、育種価等の情報を地域に提供した。

日本短角種の全期粗飼料多給型肥育技術の確立試験に取り組み、デントコーンサイレージ多給肥育により良質短角牛肉生産ができることを明らかにするとともに、独自の流通評価基準設定のための消費者アンケートを実施した。

養豚では、県内養豚農家を対象としたリサイクル飼料に対する需要等調査や排出業者の現地調査を実施し問題点を明らかにするとともに、未利用資源であるどんぐり給与と放牧により特徴ある特産豚肉としての可能性を見出した。また、環境に優しい飼養技術の確立を図るため酵素添加した低 N、低 P 給与試験を実施した。

養鶏では、「南部かしわ」や岩手県在来の天然記念物「岩手地鶏」を活用した新特産肉用鶏の雛供給を開始し、その普及推進を図るとともに、リサイクル飼料(せんべい屑)の給与試験を実施し、生産コストの低減を明らかにした。また、初めて岩手地鶏由来の生殖系キメラ 1 羽の作出を確認した。

### 家畜飼養研究室

地域資源の高度活用による自給飼料を基本とした生産性の高いゆとりある酪農経営を構築するため、高位乳生産の飼養管理及び省力管理技術の確立に取り組んだ。

乳用新生子牛の飼養管理に自動哺乳装置を用いた試験では、代用乳の少量多回給与により 1 日当たり給与量を慣行の 4 L から 8 L まで増やしても摂取可能であり、併せて人工乳の摂取量も消化障害を起こすことなく摂取目標と離乳週齢を達成するなど、4 L 区及び標準発育値を上回る技術であることを実証した。

離乳直後の乳用雌育成前期牛(2~4ヶ月齢)をペレニアルライグラス草地への集約放牧と併給飼料とを組み合わせた飼養管理では、放牧期間の通算 DG は 0.68kg であり、体高の成績と併せ標準発育値と同等の成績を確保できた。また、放牧開始までに放牧草採食の馴致をすることにより、放牧期の乾物摂取量に占める放牧草からの割合を 50% 以上充足できたことで、離乳期以降における若齢牛の集約放牧は良好な発育を確保できる技術であることを明らかにした。

周産期疾病予察では、乾乳移行時の血中アポリポ蛋白質の数値が一定基準以下の場合に発症率との関連が高いことを明らかにし、周産期疾病の前駆状態である脂肪肝のスクリーニングに応用可能な技術であることを確認した。

高位乳生産(高泌乳・高蛋白)をねらいとする栄養管理技術では、泌乳牛飼料の主要アミノ酸(リジン、メチオニン)供給量を調整することで、産乳成績や血清成分値に影響なく飼料中の CP 含量を低減させることができた。更に、コスト面の検討を加えての研究を継続する。

### 家畜工学研究室

牛の改良と増殖を促進するために胚移植技術、核移植技術および遺伝子解析技術等のバイオテクノロジーに関する課題について基礎研究と応用化研究に取り組み、成果の普及、啓発に努めている。

胚移植技術では、凍結胚の庭先融解、移植を行う直接移植法の受胎率向上が最重要課題となっている。改善のためエチレングリコールとシュークロースを組み合わせた胚の処理方法を大規模移植試験から実証をはかりマニュアルを作成した。さらに、この技術を活用し推進構想目標の受胎率 60%を達成するため簡易胚移植器を考案し、従来の移植器との比較で大幅な改善効果を得た。移植器は操作性、反復利用にすぐれ経験の浅い技術者にとって特に有効と

考えている。本器は特許出願をはかると共に普及に向けた製品化を検討している。

胚移植技術を活用した双子生産では、両側子宮角移植及び追い移植法で血液キメラの発生を著しく軽減することを明らかにした。

短期種雄牛造成技術の確立を目的とした体細胞クローン技術は、胚の栄養膜細胞と生体由来線維芽細胞をドナー細胞とする基礎及び応用化研究に着手した。

胚の発育ステージ別栄養膜細胞の効率的採取のためヘルニア法の検討及びクローン牛の産肉比較試験を2頭実施した。

遺伝子解析では、黒毛和種の産子に発生する半致死性遺伝病の内水頭症と遺伝性疾患が疑われる乳頭異状について、原因遺伝子特定のため解析を実施している。内水頭症は、常染色体劣性遺伝病であり、原因領域は3番染色体のセントロメア近くに存在することを世界で初めて明らかにすると共にマーカー診断法を確立し、現在、原因遺伝子特定に向けて研究を継続している。

また岩手県では黒毛和種産子に乳頭の数、形状等の異状を示す事例が散発し、原因の究明が求められているため家系調査と半きょうだい家系を用いたDNA解析を行い、牛17番染色体と25番染色体に強く連鎖する領域を見いだした。

## 飼料生産研究室

本県の畜産を安定的に推進するため、良質粗飼料の効率的な生産と圃場還元を目的とした家畜ふん尿処理技術の開発のために試験に取り組んでいる。

優良草種・品種の選定課題のうち、飼料作物では、国・公立機関で育成された系統のうち北海道農業研究センター育成系統2系統、畜産草地研究所育成系統1系統、長野県中信農業試験場育成系統1系統、計4系統について検討した結果、乾物収量では標準品種と同程度か少なく、当試験圃で発生が多い黒穂病に対して比較品種と同程度か強い傾向にあった。また、市販とうもろこし品種についても同様な調査を行い、極早生種2種、中生種6種が、耐病性、乾物収量、TDN収量とも標準品種に比較し有望であり、そのうち「LG3457(ニューデント100日)」を県推奨品種候補として成果提案した。H17年も引き続き調査を行い推奨品種候補を選抜していく予定である。

H16年開始した高消化性ソルガム品種特性比較試験ではBMR遺伝子を有する8品種を対象に生育特性の把握を行った。今後18年まで継続調査し本県の地域特性に適合する高消化性ソルガム品種を明らかにしていくこととしている。

牧草部門では、中標高地の採草用牧草の草種組み合わせを検討し、基幹草種(OG、TY)に組み合わせる草種としてイネ科牧草ではペレニアルライグラスが優れていること、マメ科牧草ではシロクローバーの永続性が優れていたことから、基幹草種3草種の組み合わせについて成果としたほか、イネホルクroppサイレージの品質保持技術として乳酸菌と尿素の効果をもたらす同様に成果提案とした。

また、細断型ロールベアラによる収穫作業については、H15年まで実施した基本性能調査結果をもとに、H16年に更に効率的なハンドリング手法について検討し、自作可能な改良ハンドラ(アタッチ)を開発したうえ、その作業能率改善効果を明らかにした。結果は試験研究会議に成果として提案した。

家畜ふん尿処理関係では、シートを用い繰り返しなしでたい肥化を行う場合での良好な初期温度を確保する技術として、原料たい肥水分を70%以下にするだけでなく仮比重を0.43以下にすることが必要があること、また原料たい肥の仮比重調整には廃サーレージ及び乾草の利用も有効であることを明らかにし簡易なたい肥化技術として成果提案した。

## 外山畜産研究室

中山間地域の草地資源を最大限に活用した肉用牛生産基盤の拡大を推進するため、黒毛和種集団繁殖・育成管理技術の開発に取り組んでいる。

定時人工授精技術及び簡易胚移植技術では、放牧牛の繁殖管理を効率的に行うためOvsynch法へのhCGの応用は有効な排卵同期化技術であることを明らかにした。人工哺育子牛の損耗防止技術では、寒冷環境下は保温環境下に比べ、1~2週齢時に好中球数、WC1+細胞数及びConAに対するリンパ球幼若化反応が低い傾向を示し、少なくとも生後2週間は保温が必要と示唆された。肥育素牛に6~10ヶ月齢の間、グラスサイレージと濃厚飼料のTMRを給与した結果、粗濃比(乾物中)を2:8から4:6に高めてもDG0.9kg以上の発育が得られた。

カキ殻の有効活用策として、草地の土壌改良資材及び汚水の浄化処理効果について検討した結果、粗砕カキ殻散布作業には堆肥散布機が適当で、散布幅は回り散布、往復散布ともに270cmが最適であった。カキ殻充填水路と人工湿地を1つのシステムとしたパドック排水の浄化処理施設において、汚濁物質の除去効果が認められた。

減化学肥料化を目指した牧草地における発酵鶏糞ペレットの施肥基準策定に取り組んだ結果、標準量ペレット

(12kgN/10a)の春施用は、化成肥料と同等の収量が確保できた。

日本短角種 DM 牛の生殖・発育特性について検討した結果、DM ヘテロどうしの交配により、11 頭の繁殖雌牛から 9 頭の DM 牛が生産された。また、放牧育成した DM 牛 5 頭の発育は通常牛と同等かやや劣る傾向があった。DM 種雄牛の精液性状は通常牛と比べ大きな変化がないことを明らかにした。

耕作放棄地の有効利用を図るために、狭小草地に適した放牧手法を検討した結果、定置放牧条件下で年間乾物収量が 500kg/10a の放牧地での適正放牧頭数は約 2 頭(500kg 体重換算)/ha と推定された。

## 種山畜産研究室

黒毛和種改良事業「いわて和牛改良増殖対策事業」の一環として、県内産黒毛和種種雄牛候補 15 頭を選抜するとともに畜産研究所生産の受精卵雄産子 3 頭計 18 頭の直接検定を実施し年度内に 11 頭終了、残り 7 頭については平成 17 年 6 月までに終了する。全頭終了後検定成績、血統、体型、母牛の育種価等総合的に検討し後代検定用種雄牛として 6 頭を選抜する。また、平成 12 年度の直接検定により選抜された「第 3 八雲」「磐安則」「信平茂」「寿照安」「房平茂」「安輝偉」の 6 種雄牛について間接検定を実施し下記の成績が得られた。

ア 1 日当たり増体量 (kg)

磐安則 (1.06) > 第 3 八雲 (0.97) = 房平茂 (0.97) = 安輝偉 (0.97) > 信平茂 (0.96) > 寿照安 (0.92)

イ 口 - ス芯面積 (cm<sup>2</sup>)

安輝偉 (55) > 磐安則 (50) > 第 3 八雲 (48) = 房平茂 (48) > 信平茂 (46) = 寿照安 (46)

ウ 脂肪交雑 (BMS)

房平茂 (3.5) > 第 3 八雲 (3.4) > 磐安則 (3.3) = 安輝偉 (3.3) > 信平茂 (2.6) > 寿照安 (2.5)

平成 16 年度間接検定が終了した種雄牛のうち、「房平茂」は脂肪交雑、バラの厚さ及び枝肉重量の成績が全国平均を上回ったことから、県有種雄牛に選抜され凍結精液の供給を開始した。

平成 15 年度に現場後代検定を開始した「山重鶴」「城乃神」「菊福秀」の 3 種雄牛については、平成 17 年 2 月までに調査がほぼ終了し、その枝肉格付成績から肉質等級 4・5 率が 92.8% (14 頭中 13 頭、のこり 1 頭) と優秀な成績であった「菊福秀」が県有種雄牛に選抜され凍結精液の供給を開始した

## (7) 県北農業研究所

### 営農技術研究室

県北地域の特色を生かした環境保全型農業技術の開発、野菜等の省力機械化技術の確立及び地域資源高付加価値化のための生産技術の開発に関する試験研究に取り組んだ。

環境保全型農業技術に関しては、化学合成農薬低減技術の分野では、「レタスにおけるナモグリバエの加害生態と防除法」(試験研究成果普及)を取りまとめ、重点防除時期と防除方法を明らかにした。畜産由来有機物活用の分野では、奥中山地域における液状コンポスト調製利用システム確立試験を実施し、「液状コンポストの利用法(1 成分特性、2 成分含有率の簡易推定法、3 牧草及び飼料用トウモロコシに対する利用)」(試験研究成果指導)を明らかにした。

省力機械化技術に関しては、大豆・小麦の 2 年 3 作等を可能とする立毛間播種栽培技術の開発に取り組み、「県北地域における大豆・小麦立毛間播種 2 年 3 作栽培技術」(試験研究成果指導)として体系化した。また、ほうれんそうの機械収穫に適する形態や移植栽培の機械収穫不適応性を明らかにした。

地域資源高付加価値化のための生産技術に関しては、高冷地レタスの高位安定生産の阻害要因である腐敗性病害の防除法確立の基礎的知見となる「レタス腐敗性病害の発生実態と気象要因」を明らかにした。また、雑穀の省力・安定栽培技術や高付加価値栽培技術の開発に着手し、平成 21 年度までには除草・収穫技術や無農薬・無化学肥料栽培技術を確立する予定である。

### 産地育成研究室

県北地域における野菜、花きの地域適応性技術の確立及び開発技術の現地実証に関する研究を実施している。

野菜では、優良品種選定試験としてキャベツ・だいこんの有望視される品種の特性調査を実施した。また、県北地域の主要品目であるほうれんそうについては、薬剤によらない土壌消毒法としてカラシナによる萎凋病軽減技術の開発や、近年消費者から高い評価を受けている寒締め栽培の技術確立に取り組んだ。後者は(独)東北農研等との共同研究である。なお、施肥合試験で実施した硫酸カルシウムの肥効試験については、キャベツの心腐れ症状が顕著に軽減されたことから、「硫酸カルシウム施用によるキャベツ心腐れ症状(カルシウム欠乏)の軽減効果」として研究成果

(研究区分)にまとめた。さらに、所重点課題である「高冷地レタスの高位安定生産技術の確立」については、優良品種の選定や腐敗性病害軽減のための耕種的防除対策について場内及び現地試験(一戸町奥中山)において重点的に取り組んだほか、地元レタス腐敗防止対策委員会と連携し、レタスセミナーや腐敗防止技術対策検討会を開催し、試験結果や技術情報の早期伝達を図った。

花きでは、中山間地域に適した宿根草・花木の栽培技術の確立のため、新たに2つの新規課題を起こし、アルケミラやエキノプス等の有望宿根草の夏期株落ち対策や鮮度保持技術、サンゴミズキやニシキギ等の自生枝物花木類の増殖法や着色促進技術の確立に取り組んだ。また、花壇苗は地域資源を活用した鉢上げ用土の開発や間伐材チップによる鉢上げポットの実用性を検討し、後者について「間伐材利用園芸用ポット(試作品)の特徴と鉢花及び花壇苗生産における利用特性」として研究成果(研究区分)にまとめた。

## やませ利用研究室

県北地域を対象とした水稻、普通畑作物(小麦、大豆)雑穀の品種選定や栽培法及び葉たばこの環境保全型栽培技術に関する研究を実施している。

水稻では、早生地帯の作柄安定化、産米評価の向上をはかるため、耐冷性が強く、良質・良食味な品種の選定に引き続き取り組んでいる。また、品質・食味の高位安定化を図るため、米のタンパク含有率と生育・栄養条件との関係を検討し、品質・食味向上にむけた栄養診断技術確立試験に着手した。

畑作物では、製パン特性に優れた小麦品種「ゆきちから」の目標生育量と栽培法を明らかにし、普及に移した。また、味噌、納豆、煮豆向け極早生大豆品種「ユキホマレ」を優良品種として選定し、普及に移した。

雑穀では、新規課題「いわてオリジナル雑穀品種の開発と生産技術の確立」により、岩手由来系統の特性評価と品質優良系統の選定、オリジナル雑穀品種の開発、雑穀の省力・安定多収栽培技術確立試験に着手した。在来ひえ系統の中から、アミロース含量が低く、冷めても硬くなりやすく、食味評価の高い「もじゃっぺ」を優良品種として選定し、普及に移した。

葉たばこでは、環境にやさしい資材として注目されている生分解マルチの実用性を検討するとともに、分解を促進するための後処理技術についても試験を実施し、試験データをもとにJT盛岡葉たばこ技術センターが中心となり、栽培技術マニュアルを作成中である。



#### 4 平成16年度試験研究課題

##### (1) 細目課題分類

推進構想分野 担当部署	総課題数	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	S	U	V	W	X	Y	
		水稲	畑作物	果樹	野菜	花き	酪農	肉畜	草地飼料	作物バイオテック	家畜バイオテック	環境保全	土壌作物	病害虫	農業農村	生産システム	農村整備	水田農業	やませ利用	有機農業	保鮮流通	農産物加工	情報利用	食の安全安心	
企画経営情報部	19	2		1	3		1	2								4	1		1					3	1
農業経営研究室	19	2		1	3		1	2								4	1		1					3	1
農産部	88	59	2			2				13			3			2	5							2	
水田作研究室	21	18											2											1	
水稲育種研究室	38	37	1																						
応用生物学研究室	16	1				2				13															
生産工学研究室	13	3	1										1			2	5							1	
園芸畑作物部	110		16	38	16	23							11	2										4	
果樹研究室	42			38									2	1										1	
野菜畑作研究室	35		16		12								5	1										1	
花き研究室	20					19																		1	
南部園芸研究室	13				4	4							4											1	
生産環境部	60	4		1	5	3						5	17	1		1				3	4	7	3	6	
環境保全研究室	16											5	2	1						3			2	3	
土壌作物栄養研究室	29	4		1	2	3							14			1							1	3	
保鮮流通技術研究室	15				3								1								4	7			
病害虫部	24		1			1								20										1	1
病理昆虫研究室	24		1			1								20										1	1
畜産研究所	56	1					13	17	12		5	3												4	
家畜育種研究室	10							8			1													1	
家畜飼養研究室	10						9																	1	
家畜工学研究室	6							1			4														
飼料生産研究室	17	1					4		9			2												1	
外山畜産研究室	9							4	3			1												1	
種山畜産研究室	4							4																	
県北農業研究所	62	8	11		10	6						3	12	3		4			1					4	
営農技術研究室	21		2		2							2	8	3		2								2	
産地育成研究室	21				8	6							4			1			1					1	
やませ利用研究室	20	8	9									1				1								1	
総計	418	74	30	40	34	35	14	19	12	13	5	11	43	26	4	8	5	1	1	3	4	7	21	8	

(2) 試験研究課題一覧

凡例

- 主査研究室 : 小課題の主査研究室
- 実施区分 : 継; 継続課題、終; 終了課題、新; 新規課題、繰上; 繰上終了、過; 過年度終了、未; 未着手
- 推進構想 : 推進構想分野の中課題コード(小課題分のみ記載)
- 連番 : 小課題の連番、課題毎の固有番号はそれぞれの課題名の先頭に( )表記
- 課題名 : 小課題は太字表示、細目課題は1000番代表記、細目1~4まで各桁毎の表記
- 開始・終了年 : 課題の開始年度、終了年度。(平成 H表記)
- 担当研究室 : 小課題は主査研究室名、細目課題はそれぞれの担当研究室名  
(同一課題を複数研究室で実施している場合には、複数行による表記)
- 予 算 : 国庫研究; 国庫補助研究、国庫委託: 国庫(独法)委託事業、民間委託; 民間委託事業、  
令達; 令達予算研究、県単研究; 県単研究予算、県単採種; 主要農作物採種管理費
- 実施No : 予算配分されている実施課題の連番。(細目課題をもつ上位課題は実施課題にはならない)

(主査研究室>実施区分>主となる推進構想 順)

主査研究室 (小課題)	実施区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名 [実施年度]	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実施 No	
農業経営	新	N-1-2-3	1	(H16-03)大規模酪農経営体(メガファーム)の成立条件の解明[H16~H18]	1/3	農業経営	新			
				(1000) (1)大規模酪農経営体(メガファーム)における経営管理方策の解明[H16~H18]	1/3	農業経営	新	県単研究	1	
				(2000) (2)大規模酪農経営体における高位乳生産に向けた飼養管理技術要因の解明[H16~H18]	1/3	家畜飼養	新	県単研究	2	
			Q-3-2-2	2	(H16-01)水田農業改革における集約的営農システムの実践条件の解明[H16~H17]	1/2	農業経営	新	県単研究	3
			X-3-1-2	3	(H16-02)経営環境の変化に対応したネットワーク利用型農業経営設計システムの開発[H16~H18]	1/3	農業経営	新		
		(1000) (1)生産技術体系データベースの構築[H16~H17]			1/2	農業経営	新	県単研究	4	
		"			1/2	水田作	新	県単研究	5	
		"			1/2	生産工学	新	県単研究	6	
		"			1/2	果樹	新	県単研究	7	
		"			1/2	野菜畑作	新	県単研究	8	
		"			1/2	花き	新	県単研究	9	
		"			1/2	南部園芸	新	県単研究	10	
		"			1/2	環境保全	新	県単研究	11	
		"			1/2	土壌作物栄養	新	県単研究	12	
		"			1/2	病理昆虫	新	県単研究	13	
		"			1/2	家畜育種	新	県単研究	14	
		"			1/2	家畜飼養	新	県単研究	15	
		"			1/2	飼料生産	新	県単研究	16	
		"			1/2	外山畜産	新	県単研究	17	
		"			1/2	営農技術	新	県単研究	18	
		"			1/2	産地育成	新	県単研究	19	
		"			1/2	やませ利用	新	県単研究	20	
		(2000) (2)ネットワーク利用型農業経営設計システムの開発[H16~H18]			1/3	農業経営	新	県単研究	21	
		"	1/3	農業経営	新	国庫委託	22			
	継	D-1-1-2	4	(H15-01)果菜作専作経営育成のための省力技術の経営実証[H15~H17]	2/3	農業経営	継			
(1000)果菜作経営における専作化のための課題整理[H15~H15]				-	農業経営	過				
(2000)果菜類栽培における省力技術の体系化[H15~H17 H15]				-	野菜畑作	過				
(3000)果菜作専作経営に向けた規模拡大・農業労働力の確保利用調整方策[H16~H17]				-	農業経営	-				
				(4000)果菜類省力技術の体系化総合実証[H16~H17]	1/2	農業経営	新	県単研究	23	
				"	1/2	野菜畑作	新	県単研究	24	
		D-1-1-4	5	(H15-37) (夏秋期生産を目指したイチゴの)超促成・越年株型経営モデル作成[H15~H19]	2/5	農業経営	継	国庫委託	25	
		N-5-1-0	6	(428)農産物の市場動向分析[H13~H17]	4/5	農業経営	継	県単研究	26	
終	N-5-5-3	7		(H15-03)食品産業との連携による農産物加工品の商品化条件の解明[H15~H18 H16]	-	農業経営	終(繰上)			
				"	-	保鮮流通技術	終(繰上)			

主査研究室 (小課題)	実施区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名 [ 実施年度 ]	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実施 No			
水田作	新	A-3-2-0	8	(H16-59) 直播栽培による収量・品質の安定化と冷害危険期分散の有効性[H16~H18]	1/3	水田作	新	国庫委託	27			
			A-3-2-1	9	(H16-06)SU系除草剤抵抗性雑草の発生生態と防除技術[H16~H18]	1/3	水田作	新	県単研究	28		
			A-4-1-2	10	(H16-08) 優良種子生産のための双胚米の発生要因の解明[H16~H18 H16]	1/1	水田作	新・終(線上)	県単研究	29		
					(1000) 双胚米発生機構の解明(遺伝様式の解明)[H16~H18 H16]	1/1	水稲育種	新・終(線上)				
					(2000) 双胚米発生機構の解明(環境要因の影響)[H16~H18 H16]	1/1	水田作	新・終(線上)				
					(3000) 双胚米除去技術の確立[H16~H18]	-	水田作	-				
			A-4-2-2	11	(H16-07) いわて純精米品質・食味向上栄養診断技術の確立[H16~H18]	1/3	水田作	新	県単研究	31		
					(1000) (1)米のタンパク含有率予測技術の確立[H16~H18]	1/3	水田作	新				
					(2000) (2)米の品質向上に向けた栄養診断技術の確立[H16~H18]	1/3	土壌作物栄養	新				
					(3000) 【タイトJ】変更予定(2)米の品質向上に向けた栄養診断技術の確立[H16~H18]	1/3	やませ利用	新				
(4000) (3)米タンパク含有率をベースとした品質・食味改善手法の確立[H18~H18]	-/1	水田作	未									
継	A-2-6-1	12	(803) 水稲奨励品種決定調査[H14~H22]	3/9	水田作	継	県単採種	34				
			(1000) 予備調査[H14~H22]	3/9	水田作	継						
			(1100) 中晩生系統[H14~H22]	3/9	水田作	継						
			(1200) 早生系統[H14~H22]	3/9	やませ利用	継						
			(2000) 本調査[H14~H22]	3/9	水田作	継						
			(2100) 中晩生系統[H14~H22]	3/9	水田作	継						
			(2200) 早生系統[H14~H22]	3/9	やませ利用	継						
			(3000) 現地調査[H14~H22]	3/9	水田作	継						
			A-3-1-4	13	(H15-04) 水稲湛水直播の安定栽培技術の確立と実証[H15~H17]	2/3			水田作	継	県単研究	39
					(1000) 直播水稲の生育安定化及び収量向上技術[H15~H17]	2/3			水田作	継		
"	2/3	土壌作物栄養			継							
(2000) 直播栽培の作業性向上技術[H15~H17]	2/3	生産工学			継							
(3000) 麦豆等復元田における直播栽培技術[H15~H15]	-	水田作			過							
"	-	生産工学			過							
"	-	土壌作物栄養			過							
(4000) 直播導入農家の経営評価と経営発展モデルの策定[H15~H17]	2/3	農業経営	継									
A-3-2-1	14	(807) 水田雑草の効果的防除技術の開発[H14~H22]	3/9	水田作	継	民間委託	43					
		(1000) 水稲作用除草剤第2次適用性試験[H14~H22]	3/9	水田作	継							
		(1100) 県央・県南地域[H14~H22]	3/9	水田作	継							
		(1200) 県北地域[H14~H22]	3/9	やませ利用	継							
		(2000) RCヘリを利用した除草剤の散布技術[H14~H14]	-	水田作	過							
(2100) KUH-003K-0.25kg 粒剤[H14~H14]	-	水田作	過									
A-4-1-2	15	(58) 有望新系統の栽培特性と産米の高品質安定栽培技術の確立[H14~H18]	3/5	水田作	継	県単研究	45					
		(1000) 水稲粳有望新系統「岩南25号」の栽培特性[H14~H14]	-	水田作	過							
		(2000) 水稲粳有望新系統「岩手60号」の栽培特性[H14~H15]	-	水田作	過							
		(3000) 水稲糯新品種「もち美人」(岩南糯19号)の栽培法[H14~H15]	-	水田作	過							
		(4000) 水稲粳有望新系統「岩手68号」の栽培特性[H14~H18 H16]	3/3	水田作	終(線上)							
(5000) 水稲糯新品種「岩手68号」の栽培法[H17~H18]	-/2	水田作	未									
A-4-2-1	16	(805) 水稲作況調査と作柄成立要因の解析[H14~H22]	3/9	水田作	継	県単研究	46					
		(1000) 水稲作況調査[H14~H22]	3/9	水田作	継							
		(1100) 県央・県南地域[H14~H22]	3/9	水田作	継							
		(1200) 県北地域[H14~H22]	3/9	やませ利用	継							
		(2000) 水稲優良品種の気象反応試験[H14~H22]	3/9	水田作	継							
		(2100) 県央・県南地域[H14~H22]	3/9	水田作	継							
		(2200) 県北地域[H14~H22]	3/9	やませ利用	継							
(3000) 水稲作柄成立要因の解析[H14~H22]	3/9	水田作	継									
A-5-3-2	17	(740) 寒冷地北部における飼料イネ生産給与体系の確立[H13~H17]	4/5	水田作	継	国庫委託	51					
		(1000) 省力・低コスト生産技術体系の実証[H13~H17]	4/5	水田作	継							
		(2000) ミニマム防除体系の確立[H13~H14]		水田作	過							
(3000) 良質イネホールクローブサイレーン調整技術の確立[H13~H17]	4/5	飼料生産	継									
A-6-0-0	18	(61) 水稲原々種生産[S29~H22]	51/57	水田作	継	県単採種	53					
		(62) 水稲原々種生産[S29~H22]	51/57	水田作	継							
終	A-4-1-3	20	(806) 県産米の品質・食味トップブランド現地栽培実証[H14~H22 H16]	3/3	水田作	終(線上)	民間委託	55				

主査研究室 (小課題)	実施区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名 [ 実施年度 ]	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実施 No		
水稲育種	継	A-1-1-2	21	(737)分子マーカーを用いた選抜技術の検討[H13~H17/令達]	4/5	水稲育種	継				
				(1000)分子マーカーを用いた選抜技術の検討[H13~H17]	4/5	水稲育種	継	令達	56		
				(2000)水稲重要形質と連鎖したDNAマーカーの探索[H16~H17]	1/2	水稲育種	新	令達	57		
				〃	1/2	応用生物学	新	令達	58		
	A-1-2-1	22	(5)水稲新規需要等対応品種の育成[H1~H22]	(1000)水稲新規需要等対応品種組み合わせ親の特性調査[H1~H22]	16/22	水稲育種	継	令達	59		
				(18)水稲品種特性調査[H7~H22]	(1000)東北地域の水稲奨励品種比較試験[H7~H22]	10/16	水稲育種	継	令達	60	
					(2000)水稲品種保存用品種・系統の展示及び交配母本の養成[S59~H22]	21/27	水稲育種	継	令達	61	
				(3000)イネ・ゲノムシミュレータの開発[H13~H15]	-	水稲育種	過				
	A-1-2-2	24	(6)水稲高度耐冷性集積系統の育成[H2~H22]		15/21	水稲育種	継	令達	62		
				25	(7)水稲高度耐病性集積系統の育成[H2~H22]	15/21	水稲育種	継	令達	63	
	A-2-1-0	26	(19)水稲品種育成交配試験[S59~H22]	(1000)水稲交配試験[S59~H22]	21/27	水稲育種	継	令達	64		
				(2000)水稲初期世代養成試験[S59~H22]	21/27	水稲育種	継	令達	65		
				(3000)水稲世代促進試験[S59~H22]	21/27	水稲育種	継	令達	66		
				(4000)水稲個体選抜試験[S62~H22]	18/24	水稲育種	継	令達	67		
				(5000)水稲単独系統選抜試験[S58~H22]	22/28	水稲育種	継	令達	68		
	A-2-1-1	27	(20)稲いもち病抵抗性極強品種・系統の育成[H1~H22]	(1000)いもち病真性抵抗性遺伝子型の推定[H1~H22]	16/22	水稲育種	継	令達	69		
				(2000)葉いもち圃場抵抗性検定調査[S48~H22]	32/38	水稲育種	継	令達	70		
				(3000)穂いもち圃場抵抗性検定調査[S62~H22]	18/24	水稲育種	継	令達	71		
	A-2-1-5	28	(15)水稲生産力検定試験[S58~H22]	(1000)生産力検定予備調査[S58~H22]	22/28	水稲育種	継	令達	72		
				(2000)生産力検定予備試験系統群[S58~H22]	22/28	水稲育種	継	令達	73		
				(3000)生産力検定本試験[S58~H22]	22/28	水稲育種	継	令達	74		
				(3100)早生品種[H9~H22]	8/14	やませ利用	継	令達	75		
				(4000)生産力検定本試験系統群[S58~H22]	22/28	水稲育種	継	令達	76		
				29	(16)水稲系統適応性検定試験[S39~H22]	(1000)水稲系統適応性検定試験(国公立育成成分)[S39~H22]	41/47	水稲育種	継	国庫委託	77
						(2000)稲民間育成品種評価試験[H13~H22]	-	水稲育種			
	30	(21)極良食味水稲品種・系統の育成[S60~H22]	(1000)食味官能調査[S60~H22]	20/26	水稲育種	継	令達	78			
			(2000)食味成分調査[H2~H22]	15/21	水稲育種	継	令達	79			
			(3000)炊飯米外部構造調査[H13~H22]	4/10	水稲育種	継	令達	80			
	A-2-2-1	31	(22)高度耐冷性水稲品種・系統の育成[H2~H22]	(1000)高度耐冷性を有する系統の探索[H2~H22]	15/21	水稲育種	継	令達	81		
				(2000)障害型耐冷性検定調査[S59~H22]	21/27	水稲育種	継	令達	82		
				32	(23)不良環境地帯向け水稲品種の育成(現地試験)[S59~H22]	21/27	水稲育種	継	令達	83	
	33	(24)育成地間相互交換水稲系統適応性検定試験[S52~H22]	(1000)中・晩生水稲系統[S52~H22]	28/34	水稲育種	継	令達	84			
			(2000)早生水稲系統[H9~H22]	8/14	やませ利用	継	令達	85			
	A-2-2-2	34	(25)低温登熟性に優れる水稲品種・系統の育成[H2~H22]	15/21	水稲育種	継	令達	86			
	A-2-2-3	35	(26)難穂芽性水稲品種・系統の育成[S62~H22]	18/24	水稲育種	継	令達	87			
	A-2-3-0	36	(27)直播適応性水稲品種・系統の育成[H3~H22]	(1000)直播関連適性検定法の検討[H13~H15]	-	水稲育種	過				
				(2000)直播生産力検定試験[H3~H22]	14/20	水稲育種	継	令達	88		
				(3000)新技術による直播関連形質の選抜技術の検討[H18~H22]	-/5	水稲育種	未				
	A-2-4-1	37	(28)超多収水稲品種・系統の育成[H2~H22]	15/21	水稲育種	継	令達	89			
	A-2-4-2	38	(29)醸造用水稲品種・系統の育成[S63~H22]		17/23	水稲育種	継	令達	90		
				39	(30)醸造用水稲品種・系統の加工適性試験[H8~H22]	9/15	水稲育種	継	令達	91	
A-2-4-3	40	(31)水稲糯品種・系統の育成[H2~H22]	15/21	水稲育種	継	令達	92				
A-2-4-4	41	(32)低アミロース水稲品種・系統の育成[H2~H22]	15/21	水稲育種	継	令達	93				
	42	(860)採種[S58~H22]	22/28	水稲育種	継	令達	94				

主査研究室 (小課題)	実施区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名 [実施年度]	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実施 No
応用生物 工学	新	I-3-1-1	43	(H16-04)いもち病真性抵抗性遺伝子に関連したDNAマーカーの探索とその 実用化[H16~H18]	1/3	応用生物学	新	県単研究	95
			44	(H16-05)「二子いも」高付加価値生産に向けた培養苗生産技術開発[H16~H18]	1/3	応用生物学	新	県単研究	96
	継	I-2-1-1	45	(812)りんどうの組織培養による種間雑種等の作出法[H14~H18]	3/5	応用生物学	継	県単研究	97
			46	(810)りんどうF1優良個体の大量増殖技術開発 [H14~H18]	3/5	応用生物学	継	県単研究	98
				(814)えぞりんどうの組織培養における維持、増殖システムの確立[H14~H18]	3/5	応用生物学	継	県単研究	99
			48	(811)りんどうの突然変異体の作出法[H14~H18]	3/5	応用生物学	継	県単研究	100
	終	I-2-1-1	49	(H15-06)玄米、白米などを材料としたDNAマーカー利用による水稲品種識別 [H15~H16]	2/2	応用生物学	終	県単研究	101
			50	(813)スターチスの低コスト培養システムの確立[H14~H16]	3/3	応用生物学	終	県単研究	102
		I-3-1-1	51	(H15-08)りんご有望台木の再分化技術[H15~H17 H16]	2/2	応用生物学	終(繰上)	県単研究	103
		I-3-2-3	52	(818)各種病原の検出・診断技術[H14~H16]	3/3	応用生物学	終	県単研究	104
			53	(293)小ぎくのウィルスフリー化技術の確立[H12~H16]	5/5	応用生物学	終	県単研究	105
		54		(808)りんごのウィルスフリー樹の作出及び検定法の確立[H14~H16]	3/3	応用生物学	終	県単研究	106
		55		(815)りんごのウィルスフリー化技術の確立[H14~H16]	3/3	応用生物学	終	県単研究	107
	生産工学	新	P-2-1-2	56	(H16-58)ほ場整備直後の明きょ掘削効果[H16~H18]	1/3	生産工学	新	令達
A-3-1-1				57	(H15-05)ロングマット水耕苗移植栽培技術の確立と実証[H15~H17]	2/3	生産工学	継	
			(1000)ロングマット水耕苗の低コスト効率的育苗・移植技術の開発[H15~ H17]	2/3	水田作	継	県単研究	109	
			〃	2/3	生産工学	継	県単研究	110	
			〃	2/3	土壌作物栄養	継	県単研究	111	
			(2000)ロングマット水耕苗移植栽培技術の導入実証[H15~H17]	2/3	農業経営	継	県単研究	112	
			〃	-	水田作	-	-	-	
			〃	2/3	生産工学	継	県単研究	113	
			〃	-	土壌作物栄養	-	-	-	
終		B-4-2-1	58	(739)寒冷地における立毛間播種機利用による麦・大豆輪作栽培技術の開発 [H13~H16]	4/4	生産工学	終		
				(1000)麦・大豆立毛間播種体系の導入条件と展開方策[H13~H15]	3/3	農業経営	過		
				(1100)麦・大豆立毛間播種栽培の定着条件の解明[H13~H15]	3/3	農業経営	過		
				(2000)麦・大豆立毛間播種栽培技術の開発[H13~H17 H16]	4/4	生産工学	終(繰上)		
				(2100)立毛間播種に適応した麦・大豆栽培技術の確立[H13~H17 H16]	4/4	生産工学	終(繰上)		
				(2110)県央・県南地域[H13~H17 H16]	4/4	生産工学	終(繰上)	国庫助成	114
				(2120)県北地域[H13~H17 H16]	4/4	やませ利用	終(繰上)	国庫助成	115
				(2200)麦・大豆立毛間播種に対応した効率的雑草防除技術の確立[H13~ H17 H16]	4/4	野菜畑作	終(繰上)		
				(2210)県央・県南地域[H13~H17 H16]	4/4	野菜畑作	終(繰上)	国庫助成	116
				(2220)県北地域[H13~H17 H16]	4/4	営農技術	終(繰上)	国庫助成	117
				(3000)麦・大豆立毛間播種栽培の現地実証[H13~H17 H16]	4/4	生産工学	終(繰上)	国庫助成	118
				(3100)麦・大豆立毛間播種に対応した肥培管理技術の確立[H13~H17 H16]	4/4	土壌作物栄養	終(繰上)	国庫助成	119
			(3200)組み立て技術の経営・経済的評価[H16~H16]	1/1	農業経営	終	国庫助成	120	
	(3300)麦・大豆立毛間播種栽培マニュアルの作成[H16~H16]	1/1	生産工学	終	国庫助成	121			
P-1-1-1	59	(H15-07)農作業事故防止のための基盤整備手法[H15~H16]	2/3	生産工学	終	県単研究	122		
P-2-2-1	60	(895)輪換畑ほ場における暗渠排水管を利用した地下かんがい及び排水技術の 確立[H14~H16]	3/3	生産工学	終	令達	123		
P-3-1-1	61	(800)環境に配慮した農村整備手法の確立[H14~H16]	3/3	生産工学	終	県単研究	124		
	62	(852)寒冷地におけるグラウンドカバープランツの動力吹付緑化工法の実証 [H14~H16]	3/4	生産工学	終	令達	125		

主査 研究室 (小課題)	実施 区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名 [実施年度]	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実 施 No
果樹	新	C-1-1-3	63	(H16-09)クラブアップル等リンゴ受粉専用品種の選抜と利用法の確立[H16~H22]	1/7	果樹	新		
				(1000) (1)受粉専用品種の選抜[H16~H22]	1/7	果樹	新	県単研究	126
				(2000) (2)受粉専用品種利用法の確立[H16~H22]	1/7	果樹	新	県単研究	127
		C-2-1-2	64	(H16-10)果樹園におけるリンゴ剪定枝等利用技術の確立[H16~H22]	1/7	果樹	新		
				(1000) (1)果樹園における剪定枝等チップのマルチ利用技術の確立[H16~H22]	1/7	果樹	新	県単研究	128
				(2000) (2)ブルーベリー植栽における剪定枝チップ利用土壌改良技術の確立[H16~H22]	1/7	果樹	新	県単研究	129
	継	C-1-1-1	65	(839)りんご新わい性台木「青台3」の特性解明[H14~H22]	3/9	果樹	継	県単研究	131
				(708)山ぶどう結実安定技術の確立[H13~H22]	4/10	果樹	継	県単研究	132
		C-1-1-3	67	(709)ぶどう短梢栽培用平棚を利用した大粒種の栽培法の検討[H13~H22]	4/10	果樹	継	県単研究	133
				C-1-2-1	68	(829)キャンベル・紅伊豆にかわる耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜[H14~H22]	3/9	果樹	継
		(1000)寒冷地向きぶどうの系統適応性試験[H14~H22]	3/9			果樹	継		
		(1100)第9回系統適応性検定試験[H14~H15]	-			果樹	過		
		(1200)第10回系統適応性検定試験[H14~H22]	3/9			果樹	継	国庫委託	134
		(1300)第11回系統適応性検定試験[H16~H22]	1/7			果樹	新	国庫委託	135
(2000)国内外育成の寒冷地向き品種の選抜(生食用、醸造、兼用種等品種の選抜)[H14~H22]	3/9	果樹	継			令達	136		
C-2-1-1	69	(850)畑作物に対する植調剤等の利用法[H14~H22]	3/9	果樹	継				
		(1000)果樹園用除草剤の効果的使用法[H14~H22]	3/9	果樹	継	民間委託	138		
		(2000)果樹の植調剤及び資材の効果的使用法[H14~H22]	3/9	果樹	継	民間委託	139		
		(3000)野菜の除草剤実用化試験[H15~H22]	2/8	野菜畑作	終	民間委託	140		
		(4000)花きの除草剤実用化試験[H16~H22]	1/7	花き	新				
		(4100)りんどう除草剤実用化試験[H16~H22]	1/7	花き	新	県単研究	141		
		(4200)小ぎく除草剤実用化試験[H16~H22]	1/7	花き	新	民間委託	142		
		(5000)【畜産研究所担当分】[H16~H22]	1/7	飼料生産	新				
		(5100)【飼料生産研究室担当分】[H16~H22]	1/7	飼料生産	新				
		(5110)除草剤試験[H16~H22]	1/7	飼料生産	新	民間委託	143		
C-2-1-1	70	(894)良品質・高品質生産を目的としたウイルスフリー樹の作出[H14~H22]	3/9	果樹	継	令達	145		
		71	(851)果樹の生育と果実品質変動要因の解明[H14~H22]	3/9	果樹	継			
			(1000)りんごの生育・生態の把握[H14~H22]	3/9	果樹	継	県単研究	146	
			(2000)ぶどうの生育・生態の把握[H14~H22]	3/9	果樹	継	県単研究	147	
(3000)西洋なし、その他の果樹の生育・生態の把握[H14~H22]	3/9	果樹	継	県単研究	148				
C-4-1-1	72	(H15-38)新品種などの安定生産技術の確立[H15~H22]	2/8	果樹	継				
		(1000)「岩手6号」の安定生産技術の確立[H15~H22]	2/8	果樹	継	県単研究	149		
		(2000)「シナノゴールド」の安定生産技術の確立[H17~H22]	-/6	果樹	未				
C-4-3-1	73	(830)ジョナゴールド、ふじ等に優るりんご中・晩生種の開発[H14~H22]	3/9	果樹	継				
		(1000)国育成系統適応性(盛岡58~65号)[H14~H22]	3/9	果樹	継	国庫委託	150		
		(2000)国内外導入品種の選抜[H14~H22]	3/9	果樹	継	令達	151		
C-4-4-1	74	(837)ラ・フランスに優る西洋なし品種の開発[H14~H22]	3/9	果樹	継				
		(1000)国内外導入品種の選抜[H14~H22]	3/9	果樹	継	令達	153		
C-4-4-1	75	(826)おうとう、もも等の優良品種の選抜[H14~H22]	3/9	果樹	継				
		(1000)おうとう、もも等の優良品種の選抜[H14~H22]	3/9	果樹	継	令達	154		
		(2000)ブルーベリーの優良品種の選抜[H14~H22]	3/9	果樹	継	県単研究	155		
終	C-2-1-1	76	(128)需要拡大のための省力的食味本位リンゴの生産・流通技術の確立[H12~H16]	5/5	果樹	終			
			(1000)食味本位リンゴの均質化栽培技術の確立[H12~H16]	5/5	果樹	終			
			(1100)食味本位リンゴの樹体構成法及び光センサー等を利用した均質化栽培法の確立[H12~H16]	5/5	果樹	終			
				(1110)食味本位リンゴの樹相診断技術の確立[H12~H16]	5/5	果樹	終		

主査 研究室 (小課題)	実施 区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名 [実施年度]	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実施 No		
果樹				(1111) 樹勢要因と果実品質の関係解明[H12~H13]	-	果樹	過				
				(1112) 食味本位リンゴの適正着果量の解明[H12~H13]	-	果樹	過				
				(1113) 食味本位リンゴの樹相診断技術の確立[H13~H16]	4/4	果樹	終	国庫助成	157		
				(1120) 良食味・均質化のための樹体構成法[H12~H13]	-	果樹	過				
				(1121) 樹体内果実品質の分布把握[H12~H13]	-	果樹	過				
				(1122) 受光条件と果実品質の関係解明[H12~H14]	-	果樹	過				
				(1123) 葉面積指数と果実品質の関係解明[H12~H14]	-	果樹	過				
				(1124) 適正な側枝配置法の解明[H14~H16]	3/3	果樹	終	国庫助成	158		
				(1130) 各種資材利用による内部品質向上・均質化技術の確立[H12~H16]	5/5	果樹	終				
				(1131) 光センサーによる内部品質評価法の検討[H12~H16]	5/5	果樹	終	国庫助成	159		
				(1132) 各種資材を利用した内部品質向上・均質化技術の検討[H12~H16]	5/5	果樹	終	国庫助成	160		
				(2000) 食味本位リンゴの省力・低コスト・平易化栽培技術の確立[H12~H14]	-	果樹	過				
				(2100) 新植調剤の実用化による摘果作業の削減技術の確立[H12~H14]	-	果樹	過				
				(2110) 「ふじ」「さんざ」「ジョナゴールド」などへの新摘花・摘果剤 利用技術の確立[H12~H14]	-	果樹	過				
				(2111) 新規摘花剤の効果確認[H12~H14]	-	果樹	過				
				(2112) さんざ ふじ などへの品種適応性の検討[H12~H14]	-	果樹	過				
				(2113) 摘果剤の効果安定法[H12~H14]	-	果樹	過				
				(2114) 体系処理法の開発と省力効果の確認[H13~H14]	-	果樹	過				
				(2200) 新摘葉剤の実用化及び着色系統の利用等による着色管理の大幅削 減技術の開発[H12~H16]	5/5	果樹	終				
				(2210) 「ふじ」「さんざ」「ジョナゴールド」など新摘葉剤利用技術の 確立[H12~H16]	5/5	果樹	終				
				(2211) 摘葉剤の実用性及び効果安定法の検討[H12~H16]	5/5	果樹	終	国庫助成	161		
				(2212) 摘葉剤処理が樹体生理に及ぼす影響[H12~H16]	5/5	果樹	終	国庫助成	162		
				(2213) 着色評価のための非破壊センシング利用技術の開発[H12~ H16]	5/5	果樹	終	国庫助成	163		
				(2220) 着色系統利用及び着色管理の省力化技術の確立[H12~H16]	5/5	果樹	終	国庫助成	164		
				(3000) 食味本位リンゴの鮮度保持・流通技術の確立[H12~H16]	5/5	保鮮流通技術	終				
				(3100) 食味本位リンゴの冷温高湿貯蔵技術の確立[H12~H16]	5/5	保鮮流通技術	終	国庫助成	165		
				(4000) 食味本位のリンゴ新素材の省力的生産体系の実証と消費流通評価 [H14~H16]	3/3	果樹	終				
				(4100) 省力・均質化生産体系の実証[H14~H16]	3/3	果樹	終				
				(4110) 高品質均質化技術の実証[H14~H16]	3/3	果樹	終	国庫助成	166		
				(4200) 食味本位リンゴの消費流通調査[H14~H16]	3/3	農業経営	終	国庫助成	167		
				(5000) 食味本位リンゴの省力的生産技術導入による経営基盤強化方策の解 明[H12~H14]	-	農業経営	過				
				(5100) 食味本位りんごの省力的生産技術導入による経営基盤強化方策 [H12~H14]	-	農業経営	過				
				(5110) 現行光センサー選果機の活用上の問題点の把握と改善方策[H12 ~H14]	-	農業経営	過				
				(5120) 食味本位リンゴの生産体制及び流通機構の実態解析と改善方策 [H12~H14]	-	農業経営	過				
				C-3-2-1	77	(131) 果樹類の低樹高品種の育成等による省力・軽作業栽培技術の開発[H9~ H16]	8/8	果樹	終		
						(1000) りんごのカラムナータイプ等に適合する新栽培方式・防除法の開発 [H9~H16]	8/8	果樹	終		
						(1100) 摘花・摘果の省力技術の開発[H9~H16]	8/8	果樹	終	国庫委託	168
						(1200) 摘葉管理の省力技術の開発[H9~H16]	8/8	果樹	終	国庫委託	169
						(1300) 密植立木仕立てでの省力的剪定技術の開発[H9~H16]	8/8	果樹	終	国庫委託	170
						(2000) りんごスパタイプ等特殊形質樹利用による低コスト・超省力・高品 質生産技術の解明[H9~H13]	-	果樹	過		
		(2100) スパタイプ等特殊形質を有する品種の栽培特性の把握[H9~H13]	-	果樹	過						

主査研究室 (小課題)	実施区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名 [ 実施年度 ]	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実施 No				
野菜畑作	新	B-2-1-3	78	(H16-11)冬期播種による小麦の高品質・持続的安定生産技術の確立[H16～H18]	1/3	野菜畑作	新						
				(1000) (1)子実蛋白質含量制御技術の確立[H16～H18]	1/3	野菜畑作	新	県単研究	171				
				(2000) (2)農薬使用量大幅削減技術の確立[H16～H18]	1/3	野菜畑作	新	県単研究	172				
				(3000) (3)土壌伝染性ウイルス病害の発生軽減効果[H16～H18]	1/3	野菜畑作	新	県単研究	173				
					〃	[H16～H18 H16]	1/1	病理昆虫	新・終(繰上)	県単研究	174		
	継	B-1-1-1	79	(875)大豆の奨励品種決定調査[H14～H18]	(1000)基本調査[H14～H18]	3/5	野菜畑作	継	県単採種	175			
					(2000)現地調査[H14～H18]	3/5	野菜畑作	継	県単採種	176			
					(3000)県北地域[H14～H18]	3/5	やませ利用	継	県単採種	177			
					(888)麦類の奨励品種決定調査[H14～H18]	3/5	野菜畑作	継	県単採種	178			
						(1000)県南・県東地域[H14～H18]	3/5	野菜畑作	継	県単採種	178		
						(2000)県北地域[H14～H18]	3/5	やませ利用	継	県単採種	179		
		B-1-1-2	81	(858)高製パン適性小麦品種「ゆきちから」(東北214号)の高品質・安定多収栽培技術[H14～H16 H17]	(1000)県央・県南地域[H14～H17]	3/4	野菜畑作	継	国庫委託	180			
					(2000)研北地域[H14～H17]	3/4	やませ利用	継	国庫委託	181			
					(819)あずき系統適応性検定試験[H14～H22]	3/9	野菜畑作	継	国庫委託	182			
		B-1-2-1	83	(835)ばれいしょ系統適応性検定試験[H14～H22]		3/9	野菜畑作	継	国庫委託	183			
	84				(877)大豆立枯性病害抵抗性検定試験[H14～H22]		3/9	野菜畑作	継	国庫委託	184		
						85	(889)麦類耐寒性特性検定試験[H14～H22]		3/9	野菜畑作	継	国庫委託	185
	B-3-2-1	86	(890)畑作物の生育相及び気象反応の解明[H14～H22]	(1000)麦類の生育相と気象反応の解明[H14～H22]	3/9	野菜畑作	継						
				(1100)県央・県南地域[H14～H22]	3/9	野菜畑作	継	県単研究	186				
(1200)県北地域[H14～H22]				3/9	やませ利用	継	県単研究	187					
(2000)大豆の生育相と気象反応の解明[H14～H22]				3/9	野菜畑作	継							
(2100)県央・県南地域[H14～H22]				3/9	野菜畑作	継	県単研究	188					
(2200)県北地域[H14～H22]				3/9	やませ利用	継	県単研究	189					
B-4-2-1	87	(H15-39)麦後大豆の高品質栽培技術の確立[H15～H17]	2/3	野菜畑作	継	国庫委託	190						
B-5-0-0	88	(891)畑作物原々種・原種生産[S29/H14～H22]	51/57	野菜畑作	継	県単採種	191						
D-1-1-2	89	(H15-10)果菜類の低コスト灌水施肥栽培技術の確立[H15～H17]	(1000)トマトの低コスト灌水施肥栽培技術の確立[H15～H15]	-	野菜畑作	過							
			(1100)栽培法の確立[H15～H15]	-	野菜畑作	過							
			(1200)栄養診断による施肥指標の策定[H15～H15]	-	土壌作物栄養	過							
			(2000)キュウリの点滴灌水施肥栽培技術の確立[H15～H17]	2/3	野菜畑作	継	県単研究	192					
			(2100)栽培法の確立[H15～H17]	2/3	野菜畑作	継	県単研究	193					
				(2200)栄養診断による施肥指標の策定[H15～H17]	2/3	土壌作物栄養	継	県単研究	193				
				(3000)パッシブ水耕栽培の雨よけトマトへの適応性[H16～H17 H16]	1/1	野菜畑作	終(繰上)	県単研究	194				
D-2-1-1	90	(H15-40)東北北部内陸地域におけるイチゴ夏秋どり新作型の開発[H15～H19]	(1000)短日処理による10～11月どり超促成栽培技術の開発[H15～H19]	2/5	野菜畑作	継	国庫委託	195					
			(2000)越年株利用による7～8月どり技術の開発[H15～H19]	2/5	野菜畑作	継	国庫委託	196					
			(3000)夏秋どり技術の体系化現地実証[H15～H19]	2/5	野菜畑作	継	国庫委託	197					
			91	(848)果菜類における新形質品種の特性評価と利用技術の確立[H14～H17]	(1000)キュウリ優良品種の選定と栽培法[H14～H16]	3/4	野菜畑作	継	県単研究	198			
(2000)トマト優良品種の選定と栽培法[H14～H15]	3/3	野菜畑作			終	県単研究	198						
(3000)ピーマン優良品種の選定と栽培法[H14～H17]	-	野菜畑作			過								
				(3000)ピーマン優良品種の選定と栽培法[H14～H17]	3/4	野菜畑作	継	県単研究	199				
D-4-0-0	92	(174)えだまめ等オリジナル品種優良種苗の維持・増殖[H8～H22]	9/15	野菜畑作	継	令達	200						
終	D-1-1-2	93	(849)果菜類における低コスト・安定生産のための新露地栽培体系の確立[H14～H16]	(1000)夏秋キュウリの長期安定生産技術の確立[H14～H16]	3/3	野菜畑作	終	県単研究	201				
				(2000)トマト簡易雨よけ栽培の安定化技術の確立[H14～H16]	3/3	野菜畑作	終	県単研究	202				
D-1-1-3	94	(816)ネギの産地力強化のための低コスト・長期安定供給技術の確立[H14～H16]	(1000)ネギの7月種り作型開発と作型別適品種選定[H14～H15]	-	野菜畑作	過							
			(2000)ネギの省力機械化体系確立実証[H14～H15]	-	生産工学	過							
			(3000)ネギの高鮮度流通技術の確立[H14～H16]	3/3	保鮮流通技術	終	令達	203					
			(4000)県中南部におけるねぎ主要害虫の防除体系[H14～H14]	-	病理昆虫	過							
			(5000)ネギ産地における流通改善方策の解明[H14～H16]	3/3	農業経営	終							
			(5100)流通コストの改善可能性と条件解明[H14～H16]	3/3	農業経営	終	令達	204					
				(6000)ネギの低コスト・安定供給技術の実証[H15～H16]	2/2	野菜畑作	終	令達	205				



主査研究室 (小課題)	実施区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名 [ 実施年度 ]	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実施 No		
花き	新	E-2-1-3	95	(H16-12)寒冷地に適した土地利用型花木類の生産技術の確立[H16~H22]	1/7	花き	新				
				(1000) (1)寒冷地向け花木類の早期成圃化技術の確立[H16~H20]	1/5	花き	新	県単研究	206		
				(2000) (2)高品質切り枝生産のための整枝・仕立て法の確立[H16~H22]	1/7	花き	新	県単研究	207		
				(3000) (3)寒冷地気象を生かした開花調節技術の確立[H16~H22]	1/7	花き	新	県単研究	208		
					(4000) (4)中山間地域における自生花木類の生産技術の確立[H16~H20]	1/5	産地育成	新	県単研究	209	
	継	E-1-1-2	96	(884)突然変異等を利用した新形質りんどうの特性評価[H14~H21]	3/8	花き	継				
					(1000)わい性「ポラーノホワイト」の生育特性の解明[H14~H17]	3/9	花き	継	県単研究	210	
					(2000)A4菌を利用したわい化りんどうの生育特性の解明及び栽培方法の確立[H17~H21]	-/5	花き	未			
		E-1-2-1	97	(840)りんどうF1品種の親株維持・増殖技術の確立[H14~H22]	3/9	花き	継				
					(1000)種子による親株維持技術の確立[H14~H22]	3/9	花き	継	県単研究	211	
					(2000)培養系親系統の特性検定及びF1品種の組合せ検定[H14~H22]	3/9	花き	継	県単研究	212	
		E-1-2-2	98	(191)りんどうの品種育成[S49~H22]	31/37	花き	継	令達	213		
		E-1-3-1	99	(831)スターチス有望育成系統の栽培管理技術の確立[H14~H18]	3/5	花き	継	県単研究	214		
		E-1-4-1	100	(832)ニュータイプ小ぎくの品種育成[H14~H22]	3/9	花き	継	令達	215		
		E-2-1-4	101	(H15-12)寒冷地型鉢花・花壇苗物生産技術の確立[H15~H19]	2/5	花き	継				
					(1000)鉢物りんどう「いわて乙女」の高品質安定生産技術の確立[H15~H17]	2/3	花き	継	県単研究	216	
					(2000)りんどう栄養系鉢物品種新規系統の高品質安定生産技術の確立[H17~H19]	-/3	花き	未			
					(3000)寒冷地向け鉢物有望品種の安定生産技術の確立[H18~H22]	-	花き	-			
		E-3-1-4	102	(841)りんどうこぶ症の発生実態と原因の解明[H14~H18]	3/5	花き	継				
	(1000)こぶ症発生実態と栽培条件による原因解明[H14~H18]				3/5	花き	継	県単研究	217		
(2000)こぶ症発生圃場の土壌及びりんどう養分吸収特性の解明[H14~H16]	3/3				土壌作物栄養	継	県単研究	218			
(3000)こぶ症発現に関連する微生物・線虫及び土壌昆虫の検索[H14~H16]	3/3				病理昆虫	終	県単研究	219			
			(4000)生物工手法によるりんどうこぶ症の原因解明[H16~H17]	1/2	応用生物学	新	県単研究	220			
E-3-2-1	103	(843)りんどうの生育・生態調査[H14~H22]	3/9	花き	継	県単研究	221				
E-3-2-3	104	(865)小ぎくの作期拡大技術の確立[H14~H22]	3/9	花き	継	県単研究	222				
			(H15-11)りんどうの高品質促成栽培技術の確立 りんどうコンテナ栽培技術の確立[H15~H19]	2/5	花き	継					
				(1000)コンテナ栽培における管理技術の確立[H15~H19]	2/5	花き	継	県単研究	223		
(2000)コンテナ栽培の培地組成の解明[H15~H19]	2/5	土壌作物栄養		継	県単研究	224					
			(3000)コンテナ栽培の培地組成の解明[H18~H22]	-	土壌作物栄養	-					
E-6-0-0	106	(214)りんどう優良系統の維持増殖[S49~H17]	31/32	花き	継	令達	225				
			(H15-49)りんどう生産拡大緊急対策事業[H15~H19]	2/5	花き	継					
				(1000) (1)親株の安定生産技術[H15~H19]	2/5	花き	継	令達	226		
			(2000) (2)組織培養による親株の安定生産技術[H15~H19]	2/5	応用生物学	継	令達	227			
終	E-3-1-1	108	(844)りんどう栄養系品種の栽培技術の確立[H14~H16]	3/3	花き	終	県単研究	228			
南部園芸	新	D-1-1-2	109	(H16-14)イチゴの低コスト・環境保全型高設栽培技術の確立[H16~H18]	1/3	南部園芸	新				
				(1000) (1)肥効調節型肥料を利用した低コスト技術の確立[H16~H18]	1/3	南部園芸	新	県単研究	229		
				(2000) (2)毛管給液方式を用いた閉鎖型給液管理技術の確立[H16~H18]	1/3	南部園芸	新	県単研究	230		
	D-1-1-3	110	(H16-13)高規格施設におけるトマト養液周年栽培技術の確立・実証[H16~H18]	1/3	南部園芸	新	県単研究	231			
	E-2-2-1	111	(H16-15)アネモネのコンテナ栽培技術の確立[H16~H18]	1/3	南部園芸	新	県単研究	232			
	継	E-2-2-1	112	(710)太陽光発電を利用した栽培技術の確立[H13~H17]	4/5	南部園芸	継				
					(1000)温度管理等による花きの周年栽培体系の確立[H13~H17]	4/5	南部園芸	継	県単研究	233	
	終	D-1-1-1	113	(878)短日処理によるいちご促成栽培適応品種の選抜[H14~H16]	3/3	南部園芸	終	県単研究	234		
E-2-2-1					114	(820)アネモネの年内種り作型における高品質栽培法の確立[H14~H16]	3/3	南部園芸	終	県単研究	235
							E-3-1-3	115	(822)アレンジメントアスターの高品質安定生産の確立[H14~H16]	3/3	南部園芸

主査研究室 (小課題)	実施区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名 [実施年度]	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実施 No
環境保全	新	Y-1-0-0	116	(H16-16) 1. 産地評価向上手法の開発[H16~H20]	1/5	環境保全	新		
				(1000) (1)産地PRのための里地里山の生き物活用手法の開発[H16~H18]	1/3	環境保全	新	県単研究	237
				(2000) (2)環境保全活動の評価手法の開発[H16~H18]	1/3	農業経営	新	県単研究	238
				(3000) (3)健康な土の簡易評価法の開発[H16~H18]	1/3	土壌作物栄養	新	県単研究	239
				(4000) (4)安心イメージを高める産地評価手順の解明[H18~H20]	-/3	農業経営	未		
				"	-/3	環境保全	未		
				"	-/3	保鮮流通技術	未		
			117	(H16-18) 3. 安全安心な水稲栽培技術の総合実証[H16~H20]	1/5	環境保全	新		
				(1000) (1)たし肥による減化学肥料栽培技術の実証[H16~H18]	1/3	土壌作物栄養	新	令達	240
				(2000) (2)減農薬栽培地域における合理的いもち病防除体系の選択支援技術の開発[H16~H18]	1/3	環境保全	新	県単研究	241
				(3000) (3)発生子察に基づく水稲害虫の効率的防除体系の広域実証[H16~H18]	1/3	病理昆虫	新	県単研究	242
				(4000) (4)水稲減農薬・減化学肥料栽培地域における栽培技術体系の管理システム[H17~H20]	-/4	環境保全	未		
				"	-/4	土壌作物栄養	未		
				"	-/4	病理昆虫	未		
				(5000) (5)堆肥の化学肥料代替施用時におけるいもち病感受性の変動[H16~H18]	1/3	環境保全	新	国庫委託	243
継	K-1-1-1	118	(H15-19)畑作地帯における硝酸性窒素等の環境動態解明と負荷軽減技術の評価[H15~H19]	2/5	環境保全	継			
			(1000)硝酸性窒素等の動態解明手法の確立[H15~H18]	2/4	環境保全	終	令達	244	
			(2000)硝酸性窒素等の負荷軽減技術の評価[H15~H19]	2/5	環境保全	継	令達	245	
	119	(H15-22)水稲減農薬栽培地域の水系における農薬動態の解明[H15~H17]	2/3	環境保全	継	国庫委託	246		
	K-1-2-1	120	(H15-20)減農薬栽培農産物における農薬残留評価手法の開発[H15~H17]	2/3	環境保全	継	県単研究	247	
			"	2/3	環境保全	継	令達	248	
	K-3-1-2	122	(522)家畜排泄物等の有機物資源を活用した特別栽培農産物生産技術体系の確立[H14~H18]	3/5	環境保全	継			
			(1000)農業分野における窒素収支の推定と解析[H14~H14]	-	環境保全	過			
			(2000)特別栽培農産物栽培管理方式の策定[H14~H16]	3/3	環境保全	終	県単研究	249	
			(3000)有機農産物の生産条件の解明[H14~H15]	-	環境保全	過			
			(4000)岩手県内生産主要堆肥の成分特性にもとづく化学肥料代替技術の確立[H14~H16]	3/3	土壌作物栄養	終	令達	250	
			(5000)マニユアスプレッター利用による地域内有機物の急速堆肥化技術[H14~H15]	-	土壌作物栄養	過			
L-2-1-3	123	(H15-21)県産農産物のカドミウム濃度の実態解明と吸収抑制対策[H15~H17]	2/3	環境保全	継				
		(1000)水稲におけるカドミウム吸収抑制栽培管理技術の確立[H15~H17]	2/3	環境保全	継	国庫助成	252		
		(2000)野菜類のカドミウム吸収特性の解明[H15~H17]	2/3	環境保全	継	国庫委託	253		
		(3000)カドミウム対策要否判断支援技術の開発[H18~H19]	-	環境保全	-				
		(6000)県北地域の水稲栽培における有機質資材の化学肥料代替利用法の確立[H14~H18]	3/5	営農技術	継	国庫助成	251		
終	K-3-2-3	124	(872)水田の機能を活用した生物多様性保全技術の確立[H14~H16]	3/3	環境保全	終			
			(1000)水生生物を指標とした水田環境モニタリング[H14~H16]	3/3	環境保全	終	県単研究	254	
	U-1-2-3	125	(H15-48)酸性電解水による野菜の病害に対する抑制効果の実証(post521)(国庫課題名:電解水によるキュウリ等の病害に対する抑制効果の実証)[H15~H16]	2/2	環境保全	終	国庫委託	255	
X-1-1-1	126	(885)農業気象情報の管理と活用技術の開発[H14~H16]	3/3	環境保全	終				
		(1000)農業気象観測及び微気象の降霜、地温等の推測手法の開発[H14~H16]	3/3	環境保全	終	県単研究	256		
未	Y-1-0-0	127	(H16-19) 4. 安全安心な野菜の栽培技術の実証[H17~H20]	-/4	環境保全	未			
(1000) (1)健康な土の維持管理技術の開発[H18~H19]	-/2	土壌作物栄養	未						
(2000) (2)有機物利用による減化学肥料栽培技術の実証[H17~H19]	-	土壌作物栄養	-						
(3000) (3)栄養価、鮮度の評価手法の開発[H17~H20]	-/4	保鮮流通技術	未						
(4000) (4)おいしさアップ生産技術の体系化実証[H17~H19]	-	保鮮流通技術	-						
"	-	産地育成	-						
"	-	環境保全	-						
(5000) (5)特別栽培農産物生産支援技術の実証[H17~H20]	-/4	環境保全	未						

主査研究室 (小課題)	実施区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名 [ 実施年度 ]	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実施 No	
土壌作物 栄養	新	Y-1-0-0	128	(H16-17) 2 . 産地の安全安心を支える基盤技術の開発[H16～H19]	1/4	土壌作物栄養	新			
				(1000) (1) 畜種別混合たい肥の製造と有効法の開発[H16～H18]	1/3	土壌作物栄養	新	県単研究	257	
				(2000) (2) 未利用資源を活用したたい肥作り[H17～H19]	-/3	飼料生産	未			
	L-1-2			129	(H16-22)新肥料の実用化[H16～H22]	1/7	土壌作物栄養	新		
					(1000)【農産部担当分】[H16～H22]	1/7	水田作	新		
					(1100)【水田作研究室担当分】[H16～H22]	1/7	水田作	新		
					(1110)有機質100%肥料を使用した水稻育苗培土実用性確認[H16～H17]	1/2	水田作	新	民間委託	258
					(1120)県産米の品質・食味トップブランド現地栽培実証(展示圃収量調査)[H16～H22]	1/7	水田作	新	民間委託	259
					(1200)【生産工学研究室担当分】[H16～H22]	1/7	生産工学	新		
					(1210)側条施肥による全量基肥施肥の肥効確認[H16～H18 H16]	1/1	生産工学	新・終(繰上)	民間委託	260
					(2000)【園芸畑作部担当分】[H16～H22]	1/7	果樹	新		
					(2100)【果樹研究室担当分】[H16～H22]	1/7	果樹	新		
					(2110)磷酸石膏入り肥料が樹体生育・果樹品質に及ぼす効果確認[H16～H16]	1/1	果樹	終・新	民間委託	261
					(2120)カルシウム資材の施用によるりんごに対する効果の確認[H16～H16]	1/1	果樹	新	民間委託	262
					(2200)【野菜畑作研究室担当分】[H16～H22]	1/7	野菜畑作	新		
					(2210)大豆に対する新肥料の効率的施肥技術確立試験[H16～H16]	1/1	野菜畑作	終・新	民間委託	263
					(2220)根酸溶出タイプの緩行性肥料を使用した培土適用性確認[H16～H17]	1/2	野菜畑作	新	民間委託	264
					(2230)トマトの育苗用培養土としての適用性確認[H16～H17]	1/2	野菜畑作	新	民間委託	265
					(2240)きゅうりの育苗用土としての適用性確認[H16～H17]	1/2	野菜畑作	新	民間委託	266
					(2250)育苗ポット全量施肥法の確立[H16～H16]	1/1	野菜畑作	終・新	民間委託	267
					(2300)【花き研究室担当分】[H17～H22]	-/6	花き	未		
					(2310)【花き研仮置き(H16課題なし)】[H17～H18]	-/2	花き	未		
					(2400)【南部園芸研究室担当分】[H16～H22]	1/7	南部園芸	新		
					(2410)いちごの育苗培養土としての適応性確認[H16～H17]	1/2	南部園芸	新		
					(2411)チッソ成分の異なる培土1[H16～H17]	1/2	南部園芸	新	民間委託	268
					(2412)チッソ成分の異なる培土2[H16～H17]	1/2	南部園芸	新	民間委託	269
					(2420)育苗ポット内全量施肥法の確立[H16～H17]	1/2	南部園芸	新	民間委託	270
					(2430)有機態窒素50%、ロング態窒素30%を配合した肥料の効果確認[H16～H18]	1/3	南部園芸	新	民間委託	271
					(3000)【生産環境部担当分】[H16～H22]	1/7	環境保全	新		
					(3100)【環境保全研究室担当分】[H17～H22]	-/7	環境保全	未		
					(3110)【環境保全研仮置き(H16課題なし)】[H17～H22]	-/2	環境保全	未		
					(3200)【土壌作物栄養研究室担当分】[H16～H22]	1/7	土壌作物栄養	新		
					(3210)集排水処理施設で発生する汚泥の適用性確認[H16～H16]	1/1	土壌作物栄養	終・新	民間委託	272
					(3220)県内産有機原料を配合した減化学対応肥料の効果確認[H16～H17]	1/2	土壌作物栄養	新	民間委託	273
					(3230)石灰窒素の小麦に対する1回追肥による肥効と省力を検討[H16～H18]	1/3	土壌作物栄養	新	民間委託	274
					(3240)産業廃棄物(石膏)からのカルシウム・イオウの効果と酸性矯正確認[H16～H18]	1/3	土壌作物栄養	新	民間委託	275
					(3250)側条施肥による全量基肥施肥の肥効確認[H16～H17]	1/2	土壌作物栄養	新	民間委託	276
					(3300)【保鮮流通技術研究室担当分】[H16～H22]	1/7	保鮮流通技術	新		
					(3310)非硝酸系被覆肥料を配合した基肥一発肥料の硝酸濃度の抑制効果[H16～H16]	1/1	保鮮流通技術	終・新	民間委託	277
					(4000)【県北農業研究所担当分】[H16～H22]	1/7	営農技術	新		
					(4100)【営農技術研究室担当分】[H16～H22]	1/7	営農技術	新		
					(4110)非硝酸系被覆肥料を配合した基肥一発肥料の硝酸濃度の抑制効果[H16～H16]	1/1	営農技術	新	民間委託	278
					(4120)水田土壌における可給態珪酸評価技術確立試験[H16～H16]	1/1	営農技術	終・新	民間委託	279
					(4130)展示圃収量調査[H16～H19]	1/4	営農技術	新	民間委託	280
					(4140)露地野菜に対する施肥効率向上技術[H16～H17]	1/2	営農技術	新	民間委託	281
					(4150)珪酸肥料の効果確認[H16～H17]	1/2	営農技術	新	民間委託	282
					(4151)熔融ナリ酸燐肥1号(とれ太郎)[H16～H16]	1/1	営農技術	終・新	民間委託	283
					(4152)珪酸入水稻追肥肥料(BB製)[H16～H17]	1/2	営農技術	新	民間委託	284

主査研究室 (小課題)	実施区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名 [実施年度]	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実施 No
土壌作物 栄養				(4153)シリカル4 0 [H16~H17]	1/2	営農技術	新	民間委託	285
				(4200)【産地育成研究室担当分】[H16~H22]	1/7	産地育成	新		
				(4210)県内産産鮮鶏糞を配合した有機肥料の効果確認 [H16~H16]	1/1	産地育成	終・新		
				(4211)キャベツ[H16~H16]	1/1	産地育成	終・新	民間委託	286
				(4212)レタス[H16~H16]	1/1	産地育成	終・新	民間委託	287
				(4220)根酸溶出タイプの緩行性肥料を使用した培土の適用性確認[H16~H17]	1/2	産地育成	新	民間委託	288
				(4230)カルシウム資材の施用によるりんごに対する効果の確認[H16~H17]	1/2	産地育成	新	民間委託	289
				(4300)【やませ利用研究室担当分】[H17~H22]	-/6	やませ利用	未		
	(4310)【やませ利用研仮置き(H16課題なし)】[H17~H22]	-/6	やませ利用	未					
	L-2-1	130	(H16-23)県内水田の養分供給特性評価法の開発[H16~H18]	1/3	土壌作物栄養	新			
			(1000) (1) 県内水田土壌のチッソ発現予測法の開発[H16~H18]	1/3	土壌作物栄養	新	国庫助成	290	
			(2000) (2) 土壌と灌漑水ケイ酸含量によるケイ酸施用基準の策定[H16~H17]	1/2	土壌作物栄養	新	国庫助成	291	
	継	A-3-3-2	131	(H15-24)環境保全型有機質資源連用効果調査[H15~H22]	2/8	土壌作物栄養	継		
			(1000)水田における有機質資源連用効果[H15~H22]	2/8	土壌作物栄養	継	国庫助成	292	
			(2000)畑地における有機質資源連用効果[H15~H22]	2/8	土壌作物栄養	継	国庫助成	293	
			(3000)県北地域における畜産由来有機質資源連用効果[H15~H19]	2/5	営農技術	継	国庫助成	294	
		E-3-1-1	132	(H15-15)りんごの養分吸収特性の解明[H15~H17]	2/3	土壌作物栄養	継	国庫助成	295
		L-1-1-3	133	(856)県内主要葉菜類の内部品質向上栽培技術の確立[H14~H17]	3/4	土壌作物栄養	継		
			(1000)葉菜類の内部品質実態調査[H14~H15]	-	土壌作物栄養	過			
			(2000)キャベツの栄養成分の簡易品質評価法の開発[H15~H16]	2/2	保鮮流通技術	終	国庫助成	296	
		(3000)キャベツの栄養成分変動要因の解明[H15~H17]	2/3	保鮮流通技術	継	県単研究	297		
		(4000)土壌管理(有機物・塩基バランス制御)によるハウレンソウ、キャベツの硝酸濃度低減化[H15~H16]	2/2	土壌作物栄養	終	国庫委託	298		
		(5000)施設栽培における有機物施用基準の策定[H15~H16]	2/2	土壌作物栄養	終	国庫助成	299		
	L-3-2-2	134	(H15-23)土壌機能実態モニタリング調査[H15~H22]	2/8	土壌作物栄養	継	国庫助成	300	
終	C-2-1-2	135	(H15-14)画像解析によるりんごの生育栄養診断基準の策定[H15~H16]	2/2	土壌作物栄養	終	国庫助成	301	
	L-1-1-1	136	(H15-13)水田における要素反応試験[H15~H19 H16]	2/2	土壌作物栄養	終(繰上)	県単研究	302	
	L-2-1-0	137	(H15-47)スキャナー利用による土壌全炭素・全窒素の簡易推定法の確立[H15~H16]	2/2	土壌作物栄養	終	令達	303	
保鮮流通 技術	新	W-1-1-0	138	(H16-21)水田作物の地産地消型加工技術の開発[H16~H18]	1/3	保鮮流通技術	新		
				(1000) (1)嗜好性と機能性を併せ持つ新たな大豆加工応用化技術の開発[H16~H18]	1/3	保鮮流通技術	新	令達	304
				(2000) (2)ハトムギの一次加工品の応用化技術開発[H16~H17]	1/2	保鮮流通技術	新	令達	305
		W-1-1-1	139	(H16-57)冷害被害米の新用途開発[H16~H18]	1/3	保鮮流通技術	新	国庫委託	306
	継	W-3-0-0	140	(548)加工工房指導業務[H9~H22]	8/14	保鮮流通技術	継	県単公園	307
	終	V-1-2-3	141	(H15-17)雑穀系統の機能性・食味関連形質の評価[H15~H16]	2/2	保鮮流通技術	終	県単研究	308
		V-2-1-2	142	(874)西洋なし早期出荷のための予冷・追熟技術の開発[H14~H16]	3/3	保鮮流通技術	終	県単研究	309
		V-2-3-1	143	(883)通いコンテナ利用における高鮮度保持技術の確立[H14~H16]	3/3	保鮮流通技術	終	県単研究	310
		W-1-1-1	144	(H15-16)県産小麦の地域別製パン適性の評価手法確立[H15~H16]	2/2	保鮮流通技術	終	令達	311
		W-1-2-1	145	(H15-43)果実を丸ごと使った健康志向食品の開発[H15~H16]	2/2	保鮮流通技術	終	県単研究	312
		W-1-2-2	146	(881)地域特産物加工品による沢ごとオリジナル商品の開発[H14~H16]	3/3	保鮮流通技術	終		
				(1000)「小枝柿」の脱渋技術の確立[H14~H16]	3/3	保鮮流通技術	終	県単研究	313
			(2000)特産作物ハトムギを利用した新規加工品の開発[H14~H15]	-	保鮮流通技術	過			
未	Y-1-0-0	147	(H16-20)5. 野菜の品質自主管理技術の開発[H17~H20]	-/4	保鮮流通技術	未			
			(1000) (1)生産工程における自主管理手順の開発[H17~H20]	-/4	保鮮流通技術	未			
			〃	-/4	環境保全	未			
			〃	-	産地育成	-			
			(2000) (2)収穫・出荷工程における自主管理手順の開発[H17~H20]	-/4	保鮮流通技術	未			
		(3000) (3)流通段階における品質保持技術の開発[H17~H20]	-/4	保鮮流通技術	未				

主査研究室 (小課題)	実施区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名 [実施年度]	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実施 No	
病理昆虫	新	M-2-1-1	148	(H16-24)岩手オリジナル品種のいもち病圃場抵抗性を利用した防除体系の確立[H16~H18]	1/3	病理昆虫	新	国庫助成	314	
			M-3-2-1	149	(H16-25)りんごにおける病害虫総合防除技術の開発[H16~H18]	1/3	病理昆虫	新		
					(1000) (1)殺菌剤散布回数削減技術の確立[H16~H18]	1/3	病理昆虫	新	国庫助成	315
					(2000) (2)カミキリムシ類の発生生態の解明と防除対策[H16~H18]	1/3	病理昆虫	新	国庫助成	316
			150	(H16-26)施設ピーマンにおける病害虫総合防除技術の実証[H16~H18]	1/3	病理昆虫	新	国庫助成	317	
	151	(H16-27)露地きゅうりにおける病害虫総合防除技術の現地実証[H16~H18]	1/3	病理昆虫	新	国庫助成	318			
	継	M-1-1-1	152	(H15-27)りんどう葉枯れ症状の原因解明と防除法[H15~H17]	2/3	病理昆虫	継			
				(1000)りんどう葉枯れ症状の原因解明と防除法[H15~H17]	2/3	病理昆虫	継	県単研究	319	
		M-1-1-1	153	(372)新奇侵入病害虫の診断法と発生生態の解明[H9~H17]	1/3	病理昆虫	継	国庫委託	320	
		M-1-1-2	154	(H15-26)りんごカメムシ類の発生生態と効率的防除法の確立[H15~H17]	2/3	病理昆虫	継			
				(1000)指標植物による被害発生予測法[H15~H17]	2/3	病理昆虫	継	国庫助成	321	
		M-1-2-1	155	(3)【植物防疫事業研究】[H9~H22]	8/14	病理昆虫	継	国庫助成	322	
		M-3-1-1	156	(H15-29)内分泌攪乱作用が懸念される農薬を使用しない病害虫防除技術の確立[H15~H17]	2/3	病理昆虫	継			
				(1000)水稲における代替技術[H15~H15]	-	病理昆虫	過			
				(2000)りんごにおける代替技術[H16~H17]	1/2	病理昆虫	新	令達	323	
				(3000)きゅうりにおける代替技術[H15~H16]	2/2	病理昆虫	終	令達	324	
				(4000)りんごにおける代替技術[H17~H18]	-/2	病理昆虫	未			
				(5000)内分泌攪乱作用のある農薬を使用しない病害虫防除体系の実証[H16~17]	1/2	病理昆虫	新	令達	325	
				(6000)ねぎにおける代替技術[H16~H17]	1/2	病理昆虫	新	令達	326	
		M-3-1-2	157	(402)新農薬の効果検定と防除基準作成[H9~H22]	8/14	病理昆虫	継			
				(1000)水稲種子消毒剤の大量種子消毒適用性試験[H13~H14]	-	病理昆虫	過			
				(1100)テクリード水和剤[H13~H14]	-	病理昆虫	過			
				(2000)東北地域[H9~H17]	8/9	営農技術	継	民間委託	327	
				(3000)葉いもち防除に必要な箱施用剤の根圏成分量[H15~H15]	1/1	病理昆虫	過			
	(4000)本部[H9~H17]			8/9	病理昆虫	継	民間委託	328		
	(5000)果樹[H16~H17]	1/2	果樹	新	民間委託	329				
	M-3-2-1	158	(H15-28)地域特産物における新防除資材の実用化[H15~H19]	2/5	病理昆虫	継				
			(1000)ホップ灰色かび病新規防除薬剤の実用化試験[H15~H15]	-	病理昆虫	過				
			(2000)根みつばの菌核病[H15~H15]	-	病理昆虫	過				
			(3000)アワのアワノメイガ[H15~H15]	-	営農技術	過				
			(4000)ブルーベリーのショウジョウバエ類[H15~H16]	2/2	病理昆虫	終	国庫助成	330		
			(5000)ヒエのアワノメイガ[H15~H15]	-	やませ利用	過				
			"	1/1	営農技術	終・新	国庫助成	331		
(6000)農薬残留分析(ホップ、ブルーベリー)[H15~H18]			2/4	環境保全	継	国庫助成	332			
(7000)モミジガサの菌核病[H16~H18 H16]			1/1	病理昆虫	新・終(繰上)	国庫助成	333			
(8000)水わさびのアブラムシ類[H16~H18]			1/3	病理昆虫	新	国庫助成	334			
(9000)アワの畑地広葉雑草[H16~H16]			1/1	病理昆虫	新	国庫助成	335			
(A000)なばなのネキリムシ類[H16~H17]			1/2	病理昆虫	新	国庫助成	336			
(B000)畑ワサビのミドリサルゾウムシ[H16~H17]	1/2	病理昆虫	新	国庫助成	337					
(C000)ブルーベリーの斑点病[H17~H19]	-/2	病理昆虫	未							
(D000)しそのネキリムシ類[H17~H18]	-/2	病理昆虫	未							
終	M-2-1-2	159	(H15-25)斑点米カメムシ類の総合的防除技術の組み立て[H15~H17 H16]	2/2	病理昆虫	終(繰上)	県単研究	338		

主査研究室 (小課題)	実施区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名 [実施年度]	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実施 No	
家畜育種	新	G-4-2-2	160	(H16-29)地域資源を活用した特産豚及び特産鶏の飼養技術の確立[H16～H19]	1/4	家畜育種	新	県単研究	339	
			161	(H16-30)ニフトリ始原生殖細胞の凍結保存に関する研究[H16～H17]	1/2	家畜育種	新	県単研究	340	
	継	G-1-1-2	162	(236)日本短角種産肉能力検定(直接法)[S45～H22]	35/41	家畜育種	継	令達	341	
			163	(237)日本短角種産肉能力検定(現場検定法)[S48～H22]	32/38	家畜育種	継	令達	342	
			164	(854)環境・安全に配慮した岩手型豚肉生産技術の確立[H14～H17]	3/4	家畜育種	継	県単研究	343	
			165	(H15-44)日本短角種をモデルとした全個体認証システムの構築と利用技術の開発[H15～H19]	2/5	家畜育種	継	国庫委託	344	
家畜飼養	新	F-3-2-1	166	(H16-31)乳牛の泌乳効率を向上させるためのストレス緩和と管理技術の確立[H16～H18]	1/3	家畜飼養	新	県単研究	345	
			167	(721)発育効果及び生涯生産性を高める乳用雌育成牛の飼養管理技術の確立(旧題:集約放牧を組み入れた高能力牛の育成期飼養管理技術の確立)[H13～H17]	4/5	家畜飼養	継	県単研究	346	
	継	F-2-2-2	168	(H15-30)哺乳ロボットを応用した省力管理技術の確立[H15～H17]	2/3	家畜飼養	継	県単研究	347	
			169	(230)高泌乳・高蛋白牛群に適応した飼養管理技術の確立[H10～H16]	7/7	家畜飼養	終	県単研究	348	
家畜工学	新	J-2-1-0	170	(H16-32)核移植技術を応用した種雄牛短期造成技術の確立 [H16～H22] (1000) (1)再構築胚の安定生産技術の確立[H16～H22] (2000) (2)種雄牛短期造成法の確立[H17～H22]	1/7 1/7 -/6	家畜工学 家畜工学 家畜工学	新 新 未	県単研究	349	
			171	(304)肉用牛における経済形質とDNAマーカーとの連鎖解析[H7～H22]	10/16	家畜工学	継	令達	350	
	終	J-1-1-2	172	(864)受胎率向上のための受精卵の凍結・融解方法の比較検討[H14～H16]	3/3	家畜工学	終	令達	351	
			173	(824)ウシ胚移植を活用した効率的な双子生産技術の確立[H14～H16]	3/3	家畜工学	終	県単研究	352	
	飼料生産	新	H-1-1-2	174	(H16-33)高消化性ソルガム品種特性比較試験[H16～H18]	1/3	飼料生産	新	令達	353
				175	(H16-34)転作田における牧草導入時期の検討[H16～H18]	1/3	飼料生産	新	令達	354
176					(H16-35)トウモロコシの不耕起・簡易耕起栽培の確立[H16～H18]	1/3	飼料生産	新	県単研究	355
継		H-1-1-1	177	(253)とうもろこし市販品種の特性比較[S54～H22]	26/32	飼料生産	継	令達	356	
			178	(254)とうもろこし系統適応性検定試験[S55～H22]	25/31	飼料生産	継	国庫委託	357	
H-1-2-1		179	(726)採草用牧草の播種基準の策定[H13～H17]	4/5	飼料生産	継	県単研究	358		
		180	(892)牧草の気象感応試験[H14～H22]	3/9	飼料生産	継	県単研究	359		
終		K-2-1-4	181	(H15-31)自給飼料をベースとした安全安心畜産物生産システムの確立[H15～H17] (1000)有機飼料作物生産をめざした地力評価に基づく施肥法の確立[H15～H17] (2000)長大型飼料作物ラップサイレージの調製・品質保持技術の確立[H15～H17] (3000)長大型飼料作物ラップサイレージの生産・供給システムの構築[H15～H17] (4000)日本短角種の全期粗飼料多給型肥育技術の確立[H15～H17] (5000)消費者に向けた安心安全な牛肉生産・流通評価基準の確立[H15～H17]	2/3 2/3 2/3 2/3 2/3	飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産	継 継 継 継 継	県単研究 県単研究 県単研究 県単研究 県単研究	360 361 362 363 364	
			182	(H15-32)通気性被覆シートによる堆肥化技術の確立[H15～H16]	2/2	飼料生産	終	県単研究	365	
			183	(879)地域資源活用による乳牛の生涯生産性向上に向けた飼養技術の確立[H14～H16] (1000)県内酪農地帯における地域資源を活用した資源循環型酪農経営の定着方策[H14～H16] (1100)主要酪農地帯における粗飼料生産給与と家畜飼養管理技術の実態把握[H14～H15] (1200)開発技術導入による資源循環型酪農の定着要件の解明[H16～H16] (2000)畑地における堆肥を高度に利用した一年生飼料作物の資源循環型粗飼料生産技術の開発[H14～H16] (2100)一年生飼料作物の生育特性と生産性の解明[H14～H16] (2200)一年生飼料作物の資源循環型栽培技術の確立[H15～H16] (2300)一年生飼料作物と冬作物との組み合わせによる周年作付け体系技術の確立[H15～H16] (3000)一年生飼料作物の給与と効率的な放牧を組み入れた高能力牛群飼養管理技術の確立[H14～H16] (3100)泌乳期に対応した一年生飼料作物の給与技術[H15～H16] (3200)脂質代謝関連物質を指標とする産産期病予察技術の開発[H15～H16] (3300)生涯生産性を高める育成期集約放牧飼養管理技術の確立(旧題:集約放牧を取り入れた高能力牛の育成期飼養管理技術の確立)[H14～H16] (3400)時間制限放牧を組み入れた高能力牛群飼養管理技術の確立[H16] (4000)地域飼料資源の給与と運動の組み合わせによる高能力牛群飼養管理技術の現地実証[H16～H18] (4100)開発技術導入による高能力牛群飼養管理システムの現地実証[H16～H18] (4200)導入される高能力牛群飼養管理システムの経営経済評価[H16～H18]	3/3 3/3 1/1 3/3 2/2 2/2 3/3 2/2 2/2 1/1 - - -	飼料生産 農業経営 農業経営 飼料生産 飼料生産 飼料生産 飼料生産 家畜飼養 家畜飼養 家畜飼養 家畜飼養 家畜飼養 家畜飼養 農業経営	終 終 終 終 終 終 終 終 終 終 終 終 終	県単研究 終 過 終 終 終 終 終 終 終 終 終 終	366 367 368 369 370 371 372 373	

主査研究室 (小課題)	実施区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名 [実施年度]	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実施 No		
外山畜産	新	G-2-1-8	184	(H16-36) 中山間地域の草地資源の高度利用による黒毛和種集団繁殖・育成管理技術の確立[H16~H18]	1/3	外山畜産	新				
				(1000) (1) 公共牧野における簡易胚移植技術の確立[H16~H18]	1/3	外山畜産	新	県単研究	374		
				"	1/3	家畜工学	新	県単研究	375		
				(2000) (2) 寒冷地における黒毛和種人工哺育子牛の損耗防止技術の確立[H16~H18]	1/3	外山畜産	新	県単研究	376		
				"	1/3	農業経営	新	県単研究	377		
				(3000) (3) 黒毛和種肥育素牛の集団飼養におけるTMRを活用した自給飼料多給型育成技術の確立[H16~H18]	1/3	外山畜産	新	県単研究	378		
				"	1/3	家畜育種	新	県単研究	379		
				"	1/3	農業経営	新	県単研究	380		
				H-3-1-1	185	(H16-37) 牧草地における粗砕力キ殻の土壌改良資材としての利用技術の確立[H16~H18]	1/3	外山畜産	新	県単研究	381
					186	(H16-38) 減化学肥料化を目指した牧草地における発酵鶏糞ペレットの施肥基準の策定[H16~H18]	1/3	外山畜産	新	県単研究	382
				H-4-1-3	187	(H16-55) 狭小草地における子牛の放牧育成技術の開発[H16~H18]	1/3	外山畜産	新	国庫委託	383
				K-2-1-1	188	(H16-39) カキ殻充填水路と人工湿地を併用したパドック排水の簡易浄化処理技術の開発[H16~H18]	1/3	外山畜産	新	県単研究	384
継	G-2-1-3	189	(H15-45) 日本短角種DM牛の特性解明と系統造成[H15~H19]	2/5	外山畜産	継	国庫委託	385			
種山畜産	継	G-1-1-1	190	(234) 黒毛和種産肉能力検定(直接法)[S62~H22]	18/24	種山畜産	継	令達	386		
				(235) 黒毛和種産肉能力検定(間接法・現場後代検定)[H1~H22]	16/22	種山畜産	継	令達	387		
			192	(857) 県有種雄牛の利用及び能力調査[H14~H22]	3/9	種山畜産	継	県単研究	388		
			193	(859) 黒毛和種における分割胚移植技術を活用した高能力種雄牛の作出[H14~H22]	3/9	種山畜産	継	県単研究	389		

主査研究室 (小課題)	実施区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名 [実施年度]	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実施 No
営農技術	新	D-2-1-3	194	(H16-41)地域ブランド化のためのナガイモ栽培技術の確立[H16～H18]	1/3	営農技術	新	県単研究	390
		X-1-2-2	195	(H16-42)フィールドサーバーの実用化技術の開発[H16～H18]	1/3	営農技術	新	県単研究	391
	継	0-2-1-2	196	(836)ホウレンソウの機械収穫に適した品種の選定[H14～H17]	3/4	営農技術	継		
				(1000)機械収穫に適したほうれんそうの形態・形質の解明[H14～H17]	3/4	営農技術	継	国庫委託	392
				(2000)機械収穫適性の高い品種の選定[H14～H17 H16]	3/3	産地育成	終(繰上)	国庫委託	393
	終	K-2-2-1	197	(847)奥中山地域における液状コンポスト調整利用システムの確立[H14～H16]	3/3	営農技術	終		
(1000)乳牛ふん尿の液状コンポスト好氣的調整システムの確立[H14～H15] (2000)草地や飼料作物を対象とした液状コンポスト利用技術の確立[H14～H16]				- 3/3	飼料生産 営農技術	過 終	県単研究	394	
産地育成	新	D-2-1-3	198	(H16-43)寒締めホウレンソウの高品質安定生産技術の確立[H16～H18 H16]	1/1	産地育成	新・終(繰上)		
				(1000) (1)寒締めホウレンソウ栄養価指標「岩手スタンダード」の策定[H16～H18 H16]	1/1	産地育成	新・終(繰上)	令達	395
				(2000) (2)寒締めホウレンソウの夏作への影響の解明と対策[H16～H18 H16]	1/1	産地育成	新・終(繰上)	県単研究	396
				(3000) (3)寒締め栽培を取り入れたホウレンソウ周年栽培経営成立条件の解明[H16～H18 H16]	1/1	農業経営	新・終(繰上)	県単研究	397
	E-2-1-1	199	(H16-44)東北地域における小ぎく「アイマムシリーズ」の安定生産技術の確立[H16～H18]	1/3	産地育成	新	県単研究	398	
	E-2-2-1	200	(H16-45)中山間地域における有望宿根草の高品質安定栽培法の確立[H16～H18 H16]	1/1	産地育成	新・終(繰上)			
				(1000) (1)有望宿根草の安定生産技術の確立[H16～H18 H16]	1/1	産地育成	新・終(繰上)	県単研究	399
			(2000) (2)有望宿根草の高品質商品化技術の開発[H16～H18 H16]	1/1	産地育成	新・終(繰上)	県単研究	400	
	継	D-2-1-3	201	(H15-46)寒締め野菜の高品質化シナリオの策定と生産支援システムの開発[H15～H17]	2/3	産地育成	継		
				(1000)生長調節シナリオの策定[H15～H17]	2/3	産地育成	継	国庫委託	401
				(2000)寒締めデグレリアーアワーの策定[H15～H17]	2/3	産地育成	継	国庫委託	402
		D-2-2-1	202	(828)カラシナによるほうれんそう萎凋病軽減技術の開発[H14～H17]	3/4	産地育成	継	県単研究	403
		D-3-2-2	203	(H15-33)高冷地レタスの高位安定生産技術の確立[H15～H19]	(1000)腐敗性病害の発生実態の解析[H15～H17]	2/3	営農技術	継	県単研究
(2000)優良品種の選定[H15～H17]					2/3	産地育成	継	県単研究	405
(3000)総合防除技術の確立[H15～H19]					2/5	産地育成	継	県単研究	406
E-2-1-4		204	(H15-34)花壇苗及び鉢花の高収益栽培技術の確立[H15～H17]	(1000)秋出しパンジーの商品化率向上技術の確立[H15～H17]	2/3	産地育成	継	県単研究	407
	(2000)東北地域に適する花壇苗・鉢花品目の選定と商品化技術の確立[H15～H17 H16]			2/2	産地育成	終(繰上)	県単研究	408	
終	D-2-1-1	205	(880)地域適応性に優れた品種の選定[H14～H16]	3/3	産地育成	終			
		(1000)ホウレンソウの品種選定[H14～H15]	-	産地育成	過				
		(2000)キャベツの品種選定[H14～H16]	3/3	産地育成	終	県単研究	409		
		(3000)ダイコン優良品種の選定[H14～H16]	3/3	産地育成	終	県単研究	410		
やませ利用	新	B-1-1-2	206	(H16-40)いわてオリジナル雑穀品種の開発と生産・加工技術の確立[H16～H21]	1/6	やませ利用	新		
				(1000) (1)岩手由来系統の特性評価と品質優良系統の選定[H16～H21]	1/6	やませ利用	新	令達	411
				(2000) (2)オリジナル雑穀品種の開発[H16～H21]	1/6	やませ利用	新	令達	412
				"	1/6	水稲育種	新	令達	413
				(3000) (3)雑穀の省力・安定栽培技術確立[H16～H21]	1/6	やませ利用	新	県単研究	414
				"	1/6	営農技術	新	県単研究	415
				(4000) (4)雑穀の高付加価値栽培技術確立[H16～H21]	1/6	営農技術	新	県単研究	416
	(5000) (5)系統判別技術の確立[H19～H21]	-/3	応用生物学	未					
	終	B-2-2-3	207	(H15-36)葉たばこ用新資材の実用化[H15～H17 16]	2/2	やませ利用	終(繰上)	民間委託	417
	K-1-3-1	208	(H14-05)葉たばこ栽培における還元型マルチ資材処理システムの検証[H14～H16]	3/3	やませ利用	終			
(1000)生分解性マルチ資材の実用性と後処理技術の確立[H14～H16]				3/3	やませ利用	終	令達	418	



### (3) 要望課題の措置

平成17年度に実施を要望する試験研究課題の検討結果

}	措置区分	A=平成17年度実施
		B=現在実施中
		C=既知見あり
		D=次年度実施できない

No	要望機関名	要望課題名	要望課題の内容	措置区分	担当研究室(主査)	検討部会
1	盛岡市認定農業者協議会	水稻の独自品種の早期開発	岩手県の現在の主力品種は、ひとめぼれやあきたこまちで他県で育成された品種となっており、岩手の独自性が感じられないと言われている。このことから岩手県の農産物全体のイメージが曖昧となり、岩手の農業の評価向上を妨げている。また、昨年の異常低温に際し、強耐冷性品種とされたかけはしの被害が大きかったことから、盛岡周辺の気象条件に適合し、低温に強く、優れた食味の品種の開発が強く望まれる。	B	水稻育種研究室	農産部会
2	全農いわて営農対策室	特別栽培農産物に係る主要野菜の栽培技術体系の確立	特別栽培農産物の要件である、化学合成農薬と化学肥料を慣行の50%以上減して栽培する場合の、主要野菜のモデル的栽培体系の確立	B A	環境保全研究室 病理昆虫研究室 土壌作物栄養研究室	園芸部会(野菜)
3	岩手県農業共済組合連合会	「大豆の播種前種子浸漬」方法の確立	播種時の大豆の種子水分が15%(通常は12%)であると出芽が良好かつ初期生育が良好で、播種直後の降雨にあっても発芽率の低下が少ない。この種子水分を15%にするために種子の「播種前浸漬」により水分を調整する技術の実証と具体的方法の確立。 (解決を要する事項) 別紙の全国豆類経営改善共助会で農林水産大臣賞受賞の兵庫県の農家は、播種1~2週間前に種子を10分間水に浸漬。その後、乾燥、播種しているが、具体的に何度の水がよいのか、その後の乾燥方法はどうかについて、生産者が実行できる技術を確立する。	C	専門技術員室	農産部会
4	衣川村	リンドウ栽培圃場を継続利用できる技術の確立	・リンドウの栽培の継続、拡大の障害は圃場の継続利用ができないことである。 ・採花終年(5年間)をむかえた圃場は3年以上水稻に転換しなければならないため、中山間地域の平均耕作面積1.1haの農家においては、規模の拡大はもとより現状採花面積の確保もできない状況。 ・対策として、ハウスについてはコンテナ栽培、又は、移動式ハウスにより実証試験をしているが、どちらの取組も重労働であり、土壌の改善についての根本的な対策とはなっていない。 ・いわてのリンドウの産地強化対策として緊急に取り組んでいただきたい	D	花き研究室 土壌作物栄養研究室 病理昆虫研究室	園芸部会(花き)
5	農業普及技術課	斑点米カメムシ類の効率的な防除方法の開発	(1) 耕種的対策の防除効果の評価 ・水稻の出穂10~15日前における転作牧草等の刈り取りの効果について評価。(アカスジに対し、この時期までの草刈りが有効なのか。より近い出穂期の草刈りは効果があるのか。) (2) 水稻出穂期以降の草刈りと薬剤防除を組み合わせた防除方法の検討 ・水稻出穂期以降に本田周辺の発生源の刈り取りを行った直後に薬剤防除を実施することで斑点米の発生を防げるかどうか検討する	B	病理昆虫研究室	農産部会

No	要望機関名	要望課題名	要望課題の内容	措置区分	担当研究室 (主査)	検討部会
6	農業普及技術課	出穂前後の低温遭遇によるいもち病多発機構の解明と防除要否判定技術の開発	(1) 幼穂形成期～出穂期の低温遭遇時期・程度の違いによるいもち病多発機構の数的解明 ・出穂期葉いもち微 登熟期穂いもち多となるメカニズムをひとめぼれにおいて解明 ・「出穂期の上位葉1病斑（出穂後の葉いもちの増加・粗いもち）穂いもち発生量（首・枝梗への感染量）」の過程における環境要因（前歴低温、出穂後低温、日照時間、飛散胞子の感染率）の影響の定量化。（直接的・間接的影響） (2) 多発機構の解明に基づく防除要否判定技術の確立 ・出穂前後の葉いもち発生量に基づく、防除要否判定技術を開発	B	病理昆虫研究室 環境保全研究室	農産部会
7	農村計画課	農業農村整備事業におけるコスト低減等の効果	農業農村整備事業（圃場整備事業）実施前の生産性及び生産費の把握	D B	農業経営研究室 生産工学研究室	総合部会
8	農村計画課	農業農村整備事業における環境配慮工法の環境保全効果	ほ場整備事業「門崎地区」についての調査・試験の実施を」要望する ・農業農村整備事業実施地区の生物（メダカ等の現状把握） ・事業実施による生物への影響把握 ・生物への影響の少ない工法の提案	A	生産工学研究室 環境保全研究室	総合部会
9	畜産課	家畜排せつ物等を利用したバイオガスプラントから発生する消化液の液肥利用体系の確立	(1) 原料割合別消化液成分把握と効果の検討（H17～18） (2) 作物別の消化液利用効果の検討（H17～19） (3) 地域での消化液の効率利用体系の確立（H18～19）	D A C	飼料生産研究室	畜産部会
10	花巻地方振興局農林部	集落営農の核となる法人の姿の提案	法人化を目指した集落型経営体の確立方策の提示	B	農業経営研究室	総合部会
11	花巻地方振興局農林部	水田における「あわ・いなきび」の大規模技術体系の確立	これまで推進してきた「ひえ」に加えて、「あわ・いなきび」に大規模に取り組もうとする集落が出てきたが、「あわ・いなきび」は水田における大規模技術体系が確立されていない	B A	やませ利用研究室 営農技術研究室 野菜畑作研究室 生産工学技術研究室	農産部会
12	一関地方振興局農林部	小規模放牧の推進について（耕作放棄地並びに転作田の活用）	(1) 県内における小規模放牧実施状況調査 (2) 小規模放牧利用推進マニュアル作成（岩手県版）	A B	外山畜産研究室 専門技術員室	畜産部会
13	遠野地方振興局農政部	暮坪かぶの栽培土壌と内部品質の関係	遠野市の特産物である暮坪かぶは、低農薬栽培のため栽培が難しいことや高齢化により、年々、栽培者や面積が減少し、平成15年度には栽培者が1人、面積が1haとなり、産地消滅の危機となっている。また、暮坪集落以外で栽培された生産物は、従来の暮坪かぶと比べて味や苦み等の内部品質が違うと言われている。そこで、暮坪かぶの内部品質が、栽培土壌が変わっても変化が無ければ、特定地域でない場所での栽培も可能となり、栽培者や栽培面積が増加していくことが期待される 1.栽培土壌の適応性 2.栽培土壌と内部品質の関係	D	保鮮流通技術研究室 専門技術員室 野菜畑作研究室 土壌作物栄養研究室	園芸部会 (野菜)
14	宮古地方振興局農政部	カキ殻の農業向け利用拡大	(1)カキ殻の特性（既存データの整理） (2)土壌及び作物に対する施用効果の確認 ・実証品目：ほうれんそう、ピーマン、りんご、飼料作物など ・土壌改良効果（ミネラル類の変化、効果の持続性など） ・作物に対する効果（生育、収量、内部品質など） (3)土壌施用のための低コスト粉砕方法の開発（直径1～3cmの範囲でできるだけ小さいこと） (4)効果を引き出すための施用方法	C B D B	土壌作物栄養研究室 外山畜産研究室	総合部会

No	要望機関名	要望課題名	要望課題の内容	措置区分	担当研究室 (主査)	検討部会
15	二戸地方振興局農政部	雑穀の無化学肥料栽培の開発と商品化技術	・ 雑穀の無化学肥料栽培 ・ 無農薬無化学肥料栽培に対する消費者評価などマーケティング手法の検討	B C	営農技術研究室 農業経営研究室	農産部会
16	二戸地方振興局農政部	産直において品揃えを良くするを目的とした園芸品目の作期拡大技術	二戸管内の産直施設において、周年にわたる品揃え(特に野菜)を良くするためのノウハウが不足しているため、事例なども併せて作期拡大技術を検討して欲しい	C	専門技術員室	総合部会
17	岩手県病害虫防除所	斑点米発生量低減のための割れ初の発生条件および発生予測について	・ 割れ初の発生する条件について、それぞれの要因ごとに整理する。(気象、品種、施肥等) ・ 作況の中で割れ初の発生等も観察し、データを蓄積する。 ・ カメムシの個体群の動態	B	水田作研究室 やませ利用研究室 病理昆虫研究室	農産部会
18	岩手県病害虫防除所	オウトウの枝枯れ及び枯死症状発生の原因解明	オウトウの枝枯れ症状の発生原因の解明	B	病理昆虫研究室 果樹研究室	園芸部会 (果樹)
19	岩手県病害虫防除所	複合交信攪乱剤を利用したキャベツ害虫防除体系の確立	・ コンフューザーV(今年度春登録見込み:コナガ、ヨウトウガ、ウワバを対象とした交信攪乱剤)を利用した防除効果。 ・ 供試薬剤の周辺環境及び他生物への影響(モンシロチョウにおけるサムライコマユバチやコナガにおける寄生蜂の寄生率等の推移)	B	病理昆虫研究室 営農技術研究室	園芸部会 (野菜)
20	盛岡農業改良普及センター	経年草地の雑草(クサヨシ)の防除方法	経年草地ではこの雑草を選択的に除草する薬剤はなく、被害が大きくなった草地は草地更新をせざるを得ない。更新しても残ることが多く防除方法の確立が必要	C	専門技術員室	畜産部会
21	盛岡農業改良普及センター	冷害年や青刈りの稲ワラに含まれるカロチン含量と保存期間中の減少量について	稲の収穫時期別によるカロチン含量及び調整時期や給与するまでの保管期間中の減少量の関係を明らかにする。要望課題名に冷害イネ、青刈りイネとあり、特定のイネについての要望であるかどうか確認した。対象イネを特定したものでなく稲ワラであるとのこと	C	飼料生産研究室 家畜育種研究室	畜産部会
22	盛岡農業改良普及センター	放牧地に適する日陰林と保護方法について	放牧地に適した日陰林とその保護方法	C	専門技術員室	畜産部会
23	花巻農業改良普及センター	熱水土壤消毒機器の導入条件の解明	熱水土壤消毒器を導入するに当たり、導入主体の特定及び、主体もしくは生産者団体の作目構成と生産規模、機器の利用条件を明確にして、本県で本機器の活用を図るべきか明確にする。現在、その有効性が最も検討されているのは、きゅうりのホモブシス病である。本病は土壤病害であり、発症により急速にきゅうりを枯死にいたらしめ、翌年も同じ圃場にて発症するといった特徴を持つ。産地を脅かす病害であることから、平成16年次の成果が求められる 1. 導入作目に要求される土地生産性と、稼働率を高めるための作目構成・処理エリア 2. 処理コストの評価、特に機器の償却費、ランニングコスト、処理に掛かる人件費、移動経費	B C	病理昆虫研究室 農業経営研究室	園芸部会 (野菜)
24	花巻農業改良普及センター	集落型経営体によるえだまめ機械化一貫体系の確立	当地では平成16年度にえだまめの組織化を重点的に進める方針である。については下記の課題について解決を図りたい ・ 組織創設の手順 ・ 組織運営のあり方 ・ 集落型経営体を前提とした機械化一貫体系の確立	B	生産工学研究室 野菜畑作研究室 農業経営研究室	園芸部会 (野菜)
25	水沢農業改良普及センター	「トマト軟果玉の発生原因の解明」	・ 軟化玉の発生に係る生理機作の解明 ・ 施肥量・灌水量・温度管理が果実肥大及び品質(硬度)に及ぼす影響の解明 ・ 収穫後の保存環境と果実品質の関係解明	D	野菜畑作研究室 保鮮流通技術研究室	園芸部会 (野菜)

No	要望機関名	要望課題名	要望課題の内容	措置区分	担当研究室 (主査)	検討部会
26	水沢農業改良普及センター	「発酵 TMR 飼料の特性と乳用牛に及ぼす影響の解明」	1. 発酵 TMR 飼料（乳酸発酵・アルコール発酵等）の流通状況把握（H17） 2. 各種 TMR 飼料の飼料特性解明（H17） ・有機酸組成・品質評価・保存特性等 3. 発酵 TMR 飼料給与が乳牛に及ぼす影響の解明（H18） ・一般的な TMR 飼料との比較（嗜好性、栄養価、安全性、生産性への影響等） 4. 地域副産物等を活用した発酵 TMR 飼料の経済効果（H18）	A	農業経営研究室 家畜飼養研究室 飼料生産研究室	畜産部会
27	水沢農業改良普及センター	本県果樹重点品目「りんご」、「ぶどう」、「西洋なし」、「おうとう」の有望品種の検討	県内果樹の重点 4 品目である、「りんご」、「ぶどう」、「西洋なし」、「おうとう」の推進品種見直しに向けた新品種の栽培試験	B	果樹研究室	園芸部会 (果樹)
28	水沢農業改良普及センター	おうとう垣根仕立の経済性検討及び簡易な栽培技術の実証	おうとう垣根仕立における生産量、品質、労働力、経済性等を立木仕立と比較、検討し、その有利性を実証し、栽培技術をマニュアル化する	D	果樹研究室	園芸部会 (果樹)
29	一関農業改良普及センター	稲発酵粗飼料(WCS)の安定給与	1. 初の消化性改善のための検討 (1) 物理的改善方法の提示（必要な機械装備、作業手順など）	C	専門技術員室	畜産部会
30	一関農業改良普及センター	エアージェクションシステムの効果と経済性	埋設された点滴チューブを通して灌水とともに空気を根部に送るエアージェクションシステムの現地導入が進んでいる。本システムの生育促進効果を中心とした導入効果および関連した注意事項を明らかにする	D	野菜畑作研究室	園芸部会 (野菜)
31	一関農業改良普及センター	オゾン水の土壌消毒効果	オゾン水の消毒効果を用い、これを土壌消毒に用いることで臭化メチルの代替技術や一般に行われている連作障害の対策として有効であるか検証する	B	環境保全研究室 病理昆虫研究室	総合部会
32	千厩農業改良普及センター	小ぎくの開花期前進技術の確立	露地の 7 月出荷作型として、収穫後株分けをせず、そのまま株を越冬させることにより開花を前進させる技術の確立はできないか。 また、8 月中下旬咲き品種の小ぎくも同様に行うことにより、開花期を 10～20 日前進させる技術の確立はできないか	D B	花き研究室	園芸部会 (花き)
33	久慈農業改良普及センター	ほうれんそうのケナガコナダニ発生要因の解明と被害軽減対策及び防除法の確立	1. ケナガコナダニの発生要因の解明 2. 発生回避のための堆肥の質的簡易評価法と施用基準の策定 3. ケナガコナダニの防除法の確立 4. ケナガコナダニの簡易同定法、カウント手法の開発	A C	病理昆虫研究室 環境保全研究室 産地育成研究室 営農技術研究室 土壌作物栄養研究室	園芸部会 (野菜)
34	二戸農業改良普及センター	雑穀の移植栽培技術の開発	1. 雑穀栽培を前提とした育苗技術の開発（H17～18） 2. 移植栽培法の開発（H17～18） 3. 雑穀の種類と移植適正（H17～18）	C	やませ利用研究室	農産部会
35	二戸農業改良普及センター	雑穀を取り入れた効率的輪作体系技術の開発	・雑穀間の輪作体系導入により発生密度を低減できるか検証して欲しい。 ・葉たばこや露地野菜の連作障害対策に雑穀を組み入れた輪作体系の導入が効果的か検討して欲しい	D	営農技術研究室	農産部会

## 5 共同研究等の推進

### (1) 地域基幹農業技術体系化促進研究（国庫 1 / 2 補助）

課題名	相手方	研究期間	研究の内容	主査研究室
新素材新省力技術を基幹とした高品質・値頃感リンゴの生産技術	青森りんご試 山形園試 長野果樹試	12～16	食味本位の果実を安定して省力的に生産・供給する技術の確立	果樹
寒冷地における立毛間播種機利用による麦・大豆輪作栽培技術	宮城古川農試 山形農試	13～16	東北部地域での立毛間播種機利用による小麦・大豆輪作技術の確立	生産工学
地域資源活用による乳牛の生涯生産性向上に向けた飼養技術の確立	北海道畜試 青森畜試 秋田畜試 宮城畜試 福島畜試	14～16	資源循環型の高品質な自給粗飼料生産技術、高能力牛の飼養管理技術の確立	飼料生産

### (2) 国庫委託研究事業（国庫 10 / 10 委託）

事業名・課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
特性検定試験事業 ・ 麦類（耐寒雪性） ・ 大豆（立枯性病害抵抗性）	国	継続	国及び育種指定試験地で育成中の系統について、育成地では実施しがたい特性の検定を行い、選抜効率の向上のための資料を得る	野菜畑作 野菜畑作
系統適応性検定試験事業 ・ 水陸稲 ・ 馬鈴薯 ・ 小豆 ・ とうもろこし ・ 果樹	国	継続	国及び育種指定試験地で育成中の系統について、育成地と異なった風土での確認を行い、新品種決定のための資料を提供する。	水稲育種 野菜畑作 野菜畑作 飼料生産 果樹

### (3) 交付金プロジェクト委託研究（10 / 10 委託）

事業名・課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
画期的園芸作物新品種創出による超省力栽培技術の確立	(独)果樹研究所	13～16	リンゴのカラムナータイプに適合した省力技術体系の開発	果樹
電解水によるキュウリ等の病害に対する抑制効果の実証	(独)東北農業研究センター	15～16	電解水によるキュウリ等の病害に対する抑制効果の実証	環境保全
寒冷地におけるイチゴの周年供給システムの確立	(独)東北農業研究センター	15～19	東北部内陸地域における夏秋どり新作型の開発	野菜畑作
			超促成・越年（株）型経営モデル作成	農業経営

### (4) 委託プロジェクト研究（10 / 10 委託）

事業名・課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
新鮮でおいしい「ブランドニッポン」農産物提供のための総合研究	(独)野菜茶業研究所	14～17	ハウレンソウの機械収穫に適した品種の選定	営農技術 産地育成
	(独)東北農業研究センター	15～17	有望小麦系統の高品質・安定多収栽培技術の開発	野菜畑作 やませ利用
			麦後大豆の高品質栽培技術の確立	野菜畑作
			寒冷地北部における飼料イネ生産給与体系化技術の確立	水田作 飼料生産

事業名・課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
農林水産生態系における有害化学物質の総合管理技術の開発	(独)農業環境技術研究所	15～17	東北地域における野菜の低吸収・低蓄積機構の解明	環境保全
			動態モデル開発のための水田用農薬の動態解明	環境保全
食品の安全性及び機能性に関する総合研究	(独)農業生物資源研究所	15～19	日本短角種の全個体認証システムの構築	家畜育種
せん定枝粉碎搬出機の開発・利用に関する調査	(独)生物系特定産業技術研究支援センター	16～19	りんごせん定枝の粉碎搬出機の開発・利用に関する調査の実施	果樹
データベース・モデル協調システムの開発	(独)中央農業総合研究センター	13～17	分散協調型農業技術体系データベースを用いた生産計画支援システムの開発	農業経営

(5) 先端技術を活用した農林水産研究高度化事業 (10/10 委託)

課題名	共同研究機関 (は中核機関)	研究期間	研究の内容	担当研究室
野菜における硝酸塩蓄積機構の解明と低減化技術の開発	(独)野菜茶業研究所 北海道立花・野菜技術センター 秋田県総合食品研究所 栃木県農業試験場 埼玉県農林総合研究センター 千葉県農業総合研究センター 神奈川県農業総合研究所 長野県野菜花き試験場 静岡県農業試験場 岐阜県中山間農業技術研究所 愛知県農業総合試験場 兵庫県立農林水産技術総合センター 福岡県農業総合試験場 千葉大学 神戸大学 千葉県立衛生短期大学 (独)農林水産消費技術センター	14～16	塩基バランス制御によるホウレンソウ、キャベツの硝酸塩濃度低減化	土壌作物栄養
日本短角種 DM 牛の特性解明と系統造成	東北大学大学院農学研究科 (独)農業技術研究機構	15～19	DMヘテロ繁殖雌牛にDMヘテロ凍結精液を人工授精して DM ホモ牛群の造成を行うとともに、DM 牛の生殖特性と発育特性の解析を行う	外山畜産 家畜工学
寒締め野菜の高品質化シナリオの策定と生産支援システムの開発	(独)東北農業研究センター 福島県農業試験場 秋田県立大学 農業情報コンサルティング(株) JA 十和田市	15～17	寒締め野菜の環境調節シナリオの策定	産地育成
やませ気象下の水稻生育・被害予測モデルと冷害回避技術の開発	(独)東北農業研究センター 青森県農林総合研究センター 岩手県工業技術センター 宮城県古川農業試験場 福島県農業試験場 (財)日本気象協会 JA 新いわて	16～18	減化学肥料栽培条件下におけるいもち病発病変動予測	環境保全
			直播水稻の収量、品質安定化のための作期設定	水田作
			冷害被害米の品質特性を活かした加工技術の開発	保鮮流通技術

課題名	共同研究機関 (は中核機関)	研究期間	研究の内容	担当研究室
リンゴ品種の単植化に向けた新しい結実安定技術の開発	(独)果樹研究所 長野県果樹試験場 宮城県農業園芸総合研究所 岐阜大学 岩手大学 JAいわて中央	16～20	経済効果の高いリンゴ品種の単植化に向けた新しい結実安定技術の開発	果樹
多機能性新規ベリーの産地化技術の確立と新加工品の開発	東北大学 岩手県工業技術センター 陸前高田市総合営農指導センター (有)神田葡萄園	16～18	多機能性新規ベリーの生産安定化技術の確立	果樹
寒冷地における耕作放棄地の草地化とミニ放牧技術の開発	(独)東北農業研究センター 福島県畜産試験場 岩手大学農学部	16～18	狭小草地における子牛の放牧育成技術の開発	外山畜産

#### (6) 民間委託研究 (10/10 委託)

事業名・課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
たばこ耕作資材試験	(財)日本葉たばこ技術開発協会	継続	資材 3件	やませ利用
農薬及び植物調節剤等の効果検 定試験	(社)日本植物防疫協会	継続	新農薬効果試験 63件	病理昆虫 果樹 営農技術
	(財)日本植物調節剤研究協会	継続	除草剤実用化試験 39件	水田作 果樹 野菜畑作 花き 飼料生産 産地育成 やませ利用
	(株)丸尾カルシウム	16	新資材実用化試験 1件	果樹
肥料の効果等に関する試験	岩手県施肥合理化協議会	継続	水田作 2件 生産工学 1件 果樹 2件 野菜畑作 5件 南部園芸 4件 土壌作物栄養 5件 保鮮流通技術 1件 営農技術 7件 産地育成 4件	主査： 土壌作物栄養

#### (7) 夢県土いわて戦略的研究推進事業 (科学技術課所管 公募競争型 県単)

課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
フラットベッドスキャナを用いた土壌全炭素簡易推定キット開発	工業技術センター	15～16	土壌全炭素含量の簡易推定用キット試作品開発	土壌作物栄養
野菜類の残留農薬分析における簡易分析法の開発	環境保健研究センター	15～17	イムノアッセイ法による野菜類の残留農薬の簡易・迅速な分析手法の開発	環境保全
農作物病害虫及び生理障害の画像診断システム開発のための基礎調査 (試験研究機関機能強化推進事業可能性調査研究)	東海大学開発工学部	16	病害虫・生理障害の誤診を防ぐため、診断のノウハウをデータベース化し、生産者自らが診断できるシステムを開発するための先進研究調査。	病理昆虫

### (8) (財)岩手生物工学研究センターとの共同研究

農業研究センター課題名	生物工学研究センター課題名	研究の内容	担当研究室
りんどうのウイルスフリー化技術の確立	りんどう病原ウイルスの検出・診断技術の利用	生工研が開発した技術を活用した実用化技術を開発し、りんどうの優良種苗供給に利用する。	応用生物工学
小ぎくのウイルスフリー化技術の確立	トマト黄化えそウイルス(TSWV)の検出・診断技術の確立及び利用	生工研が開発した技術を活用した実用化技術を開発し、小ぎくの優良種苗供給に利用する。	応用生物工学
各種病原の検出・診断技術	ピーマン病原ウイルス(PMMoV)の検出・診断技術及び系統解析技術の利用	生工研が開発した病原の検出手法を実用化技術に仕上げると共に、現地において簡易に高感度で迅速な診断法を開発する。	応用生物工学
水稲重要形質と連鎖した DNA マーカーの探索 いもち病真性抵抗性遺伝子に関連した DNA マーカーの探索とその実用化	DNA マーカーを用いた水稲特性検定法の確立	生工研と共同で遺伝子解析に基づく DNA マーカーを開発し、岩手オリジナル品種の育成を加速化する。	水稲育種 応用生物工学
りんどうの F1 優良個体の大量増殖 突然変異等を利用した新形質りんどうの特性評価	アグロバクテリウム・リゾジェネシス A4 菌を用いた矮化りんどうの特性評価	生工研が開発した A4 菌感染矮性りんどうの増殖手法検討と特性調査を行い、新品種を早期に育成する。	応用生物工学 花き

### (9) 大学との共同研究

課題名等	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
カイコ及び野蚕からの新規機能性物質の利用開発	岩手大学	12～	カイコの抗カビ性物質や天蚕の休眠制御物質、天蚕フィブロインからの化粧水等の新規機能性物質と関連化合物を農業生産場面で効率的に利用する方法と医療場面で有効に活用する方法を開発する。	病理昆虫

### (10) 他の公設試との共同研究

課題名等	相手方	研究期間	担当研究室
ワイン専用ぶどう新系統の醸造特性評価	工業技術センター	6～	果樹
新規育成小麦品種の加工特性評価	工業技術センター	7～	野菜畑作
大豆有望系統の加工適性・用途開発	工業技術センター	7～	野菜畑作
醸造用水稲品種の開発	工業技術センター	8～	水稲育種

### (11) AFR (岩手農林研究協議会) 研究会

#### ア 研究会

名称	構成	研究期間	共同研究者
花卉育種研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	児玉 勝雄、阿部 潤、 茂市 修平、川村 浩美、 千葉 賢一、藤井 伸行、 高橋 聡子、葛巻美知子、 小田島 雅
昆虫機能利用研究会	岩手大学農学部・教育学部、岩手医大、農業研究センター、岩手県立農業大学校	10～	鈴木 敏男、大友 令史、 桐山 直盛
植物育種研究会	岩手大学農学部・教育学部、生物工学研究所、東北農業研究センター、農業研究センター	10～	木内 豊、中野 央子、 仲条 眞介、田村 和彦、 阿部 陽



名 称	構 成	研究期間	共同研究者
農作物ウイルス病診断防除研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	鈴木 敏男、勝部 和則、 猫塚 修一、阿部 弘
機能性食品研究会 A (雑穀)	岩手大学農学部、岩手大学大学院連合農学研究科、工業技術センター、東北農業研究センター、農業研究センター、二戸農業、浄法寺農業、カナン牧場	10～	大清水保見、長谷川 聡
機能性食品研究会 B (豆腐)	岩手大学農学部、工業技術センター、農業研究センター、黒川食品(株)、花巻起業化支援センター	10～	門間 剛
農作業システム自動化研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	高橋 修、大里 達朗、 藤井 智克、高橋 昭喜
乳牛の周産期疾患研究会	岩手大学農学部、農業研究センター畜産研究所、小岩井農牧、日本金葉工業	10～	阿閉 博明、菊地 正人、 山口 直己、茂呂 勇悦
水稻栽培研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	11～	高橋 政夫、大清水保見、 小田中温美、尾形 茂、 白井 智彦、漆原 昌二、 藤田 智美、及川 あや
果樹栽培研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	11～	佐々木 仁、小野 浩司、 大野 浩、河田 道子、 奥平麻里子、浅川 知則
リンドウ研究会	岩手大学農学部、東北農業研究センター、農業研究センター、安代町花き開発センター	11～	阿部 潤、児玉 勝雄、 竹澤 利和、阿部 弘、 白井 紀子
植物耐冷性研究会	岩手大学農学部、農業研究センター、生物工学研究所	12～	木内 豊、竹澤 利和、 中野 央子、仲条 眞介、 田村 和彦、阿部 陽
雑穀の病害虫に関する研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	12～	飯村 茂之、鈴木 敏男、 折坂 光臣、勝部 和則、 大友 令史、桐山 直盛、 長谷川 聡
ホップの機能性研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	11～	高橋 壯
有機質資源循環利用研究会	岩手大学農学部、工業技術センター、農業研究センター	12～	小野 剛志、高橋 修、 多田 勝郎、川畑 茂樹、 折坂 光臣、佐藤 千秋、 高橋 良学、佐藤ルミ子、 松浦 拓也
始原生殖細胞(PGCs)利用研究会	岩手大学農学部、農業研究センター、小岩井農牧	13～	小松 繁樹、吉田 登
里地・里山生物多様性研究会	岩手大学人文社会科学部、県立博物館、(社)岩手県植物防疫協会、環境保健研究センター、農業研究センター	14～	武田 眞一、築地 邦晃、 鈴木 敏男、阿部 節男、 佐藤千穂子、大友 令史
硝酸性窒素動態研究会	岩手大学農学部、岩手県立大学総合政策学部、環境保健研究センター、農業普及技術課、農業研究センター	14～	築地 邦晃、小野 剛志、 多田 勝郎、中野 亜弓、 平賀 昌晃、佐藤ルミ子、 高橋 好範
食品廃棄物の飼料化研究会	岩手大学農学部、東北農業研究センター、工業技術センター、農業研究センター	14～	小松 繁樹、川畑 茂樹、 阿閉 博明、吉田 登、 安田 潤平
農業IT活用研究会	岩手県立大学、八戸工業高等専門学校、農業普及技術課、農業研究センター	15～	武田 眞一、鈴木 敏男、 折坂 光臣、前山 薫、 勝部 和則、大友 令史、 猫塚 修一、高橋 良学、 沼田 芳宏、佐藤千穂子、 桐山 直盛、松浦 拓也

イ AFR 協議会等の開催

開催月日	場 所	内 容
16. 7.30	岩手労働福祉会館	(1) AFR 協議会 現状評価、今後の活動予定、報告事項 (2) 成果報告会 84 名出席 5 成果を報告 農業研究センターからは 2 成果 ● 「農業使用基準チェックシステムの開発～正しい農薬情報の提供を目指して～」 病理昆虫研究室 専門研究員 猫塚修一 ● 「マニュアルスプレッダー利用による地域内有機物の急速堆肥化技術」 県北農業研究所 次長 小野剛志
16.12.10	岩手大学	シンポジウム 「農林畜水産業と水の関わり～水の機能化の本質」 岩手大学農学部助教授 三浦 靖 「外食産業から見た岩手の食材～地産地消の価値」 (株)メルク代表取締役 重石 桂司

(12) その他共同研究

課 題 名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
黒毛和種及び日本短角種における経済形質に関わるゲノム解析研究	(社)畜産技術協会	13～	岩手県種雄牛の半兄弟家系を作成し、DNA マーカーによる連鎖解析を行い、経済形質遺伝子座を明らかにする。また、劣性遺伝病について、発病牛家系の DNA マーカーによる連鎖解析を行い、原因となる遺伝子座を明らかにする。	家畜工学
降霜予測手法の開発	横河電子機器(株)	14～16	(1) 降霜現象を気象因子から解析し、降霜推定式を開発する。 (2) 降霜現象を客観的に自動でモニタリングする手法を開発する。	環境保全
生物遺伝資源交換に関する研究協定	(独)農業生物資源研究所	14～24	(1) 植物、動物、微生物の生物遺伝資源及び DNA の相互交換	-

(13) その他産学官連携

名称	開催月日	場 所	内 容
岩手県産官学連携会議	年 2 回	盛岡市ほか	事務局：岩手大学地域共同研究センター
作物ゲノム育種ネットワークグループ	-	-	事務局：(独)作物ゲノム育種センター 参加職員：田村和彦、竹澤利和、安ヶ平紀子
寒冷圏未利用資源研究ネットワーク	-	-	事務局：岩手大学大学院連合農学研究科



内 容 ( 試験研究課題名 )	市町村名	地 区 名	担 当
麦・大豆立毛間播種栽培の現地実証	北上市	藤根	生産工学 野菜畑作 土壌作物栄養 農業経営
リンゴ育種系統の現地適応性試験	二戸市 宮古市 矢巾町 江刺市 花泉町	金田一 内の沢 煙山 小倉沢 金沢	園芸畑作部 果樹
食味本位リンゴ栽培体系化実証試験	紫波町	長岡	果樹
麦類奨励品種決定現地調査	紫波町 東山町	水分 長坂	野菜畑作
大豆奨励品種決定現地調査	前沢町 藤沢町	古城 要害	野菜畑作
麦類耐雪性特性検定試験	一戸町	奥中山	野菜畑作
豆腐有望品種現地導入試験	江刺市 二戸市	田原 金田一	野菜畑作
納豆用有望品種現地試験	滝沢村	篠木	野菜畑作
地域確立「寒冷地イチゴ」現地実証	盛岡市	飯岡	野菜畑作
ネギの低コスト・安定供給技術の実証	花巻市	太田	野菜畑作
ピーマン PMMoV 抵抗性品種の現地実証	石鳥谷町	黒沼	野菜畑作
りんどう品種育成に係る現地調査	石鳥谷町 沢内村 衣川村	北寺林 川舟 楢原	花き
小ぎく品種育成に係る現地調査	北上市	江釣子	花き
りんどうこぶ症の発生要因の解明現地試験	石鳥谷町 松尾村	戸塚 野駄	花き
りんどう除草剤試験	花巻市	湯口	花き
水田地帯における園芸生産の高度安定化 「イチゴ栽培における省力技術導入による高度生産化」	花泉町	永井	南部園芸
東磐井地方における園芸省力安定生産モデル経営の実証 「トマト点滴かん水施肥栽培技術の実証」	大東町	大原	南部園芸
水稲減農薬栽培地域の水系における農薬動態の解明	雫石町	西山	生産環境部 環境保全
水稲におけるカドミウム吸収抑制栽培管理技術の確立	花巻市		環境保全
野菜類のカドミウム吸収特性の解明	花巻市		環境保全
畑作地帯における硝酸性窒素等の動態解明と負荷軽減技術の評価	県内2カ所		環境保全
りんどうの養分吸収特性の解明	沢内村 安代町	猿橋 松木田	土壌作物栄養

内 容 ( 試験研究課題名 )	市町村名	地 区 名	担 当
土壌管理 ( 有機物・塩基バランス制御 ) によるハウレンソウ、キャベツの硝酸濃度低減化 県内産有機原料を配合した減化学対応肥料の効果確認 産業廃棄物 ( 石膏 ) からのカルシウム・イオウの効果と酸性矯正確認 安全安心な水稲栽培技術の総合実証	西根町 遠野市 北上市 西根町 玉山村 雫石町 江刺市	平笠、帷子 小友町 飯豊 平館 巻堀 御明神 稲瀬	土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養 環境保全 土壌作物栄養
りんどう葉枯れ症状の原因解明と防除法 地域特産物における新防除資材の実用化 りんごにおける病害虫総合防除技術の開発 施設ピーマンの病害虫総合防除の実証	衣川村 一関市 石鳥谷町 一関市 紫波町 胆沢町	檜原 本寺 新堀 巖美 東長岡 舟久保 小山	病害虫部 病理昆虫 病理昆虫 病理昆虫 病理昆虫
転作田における牧草導入時期の検討 長大型飼料作物ラップサイレージの調整・品質技術の確立 良質イネホールクroppサイレージ調製技術の確立	紫波町 岩泉町 紫波町	南伝法寺 釜津田 -	畜産研究所 飼料生産 飼料生産 飼料生産
奥中山地域における液状コンポストの調製利用システムの確立 県北地域の水稲栽培における有機質資材の化学肥料代替利用法の確立 新肥料の実用化 高冷地レタスの高位安定生産技術の確立 (1)腐敗性病害の発生実態解析 地域ブランド化のためのナガイモ栽培技術の確立 雑穀の省力・安定栽培技術確立 雑穀の高付加価値栽培技術確立 高冷地レタスの高位安定生産技術の確立 (2)優良品種の選定 (3)総合防除技術の確立 カラシナによるハウレンソウ萎凋病軽減技術の開発 奨励品種決定現地調査 ( 小麦・大豆 ) アワの生分解性マルチ移植栽培技術実証	一戸町 軽米町 九戸村 軽米町 西根町 一戸町 岩手町 軽米町 軽米町 花巻市 一戸町 軽米町 玉山村 山形村	奥中山 山内 長興寺 板橋 上坊 奥中山 一方井 野場 岩崎 円万寺 奥中山 " " 軽米 下田 霜畑	県北農業研究所 営農技術 営農技術 営農技術 営農技術 営農技術 営農技術 産地育成 " " 産地育成 やませ利用 やませ利用



### III 試験研究の成果





## 1 試験研究成果

成果区分	水稲	畑作物	果樹	野菜	花き	畜産	総合	総計
普及	5	4	10	1	5	3	1	29
指導	12	4	6	15	4	14	5	60
行政	6				1	8	1	16
研究	5	2	4	7	7	11	3	39
計	28	10	20	23	17	36	10	144

### 試験研究成果の区分

- 1 普及（普及に移しうる成果）  
農家等へ普及することによって、経済効果や経営改善等が見込まれる成果。
- 2 指導（技術指導に参考となる成果）  
普及員等指導者の技術指導上の参考として適当と認められる成果。
- 3 行政（行政施策等に反映すべき成果）  
行政からのニーズに対応した研究成果等で、行政施策の企画等に参考になると認められるもの。
- 4 研究（技術開発に有効な成果）  
新しい技術の試みで、今後の試験研究により技術に仕上げられる可能性のあるもの及び技術の基礎的知見、研究手法等に関するもの。

### (1) 成果区分別一覧

【普及（普及に移しうる成果）】

成果区分	作目分野	成果番号	成果名	担当研究室（主査）	外部評価
普及	水稲	H16-普-01	品種 耐冷性・耐病性に優れる良質・良食味 中生粳水稲「岩手68号」	水田作 水稲育種	
		H16-普-02	平成17年度雑草防除基準に採用した水稲除草剤	水田作 やませ利用	-
		H16-普-03	生物農薬「シュードモナス CAB-02 水和剤」の特性と使用上の留意点（追補）	病理昆虫	
		H16-普-04	生物農薬「トリコデルマ・アトロピリデ水和剤」の特性と使用上の留意点（追補）	病理昆虫	
		H16-普-05	箱施用剤の新剤型「顆粒水和剤」の葉いもち防除効果と使用上の留意点	病理昆虫	
	畑作物	H16-普-06	小麦品種「ゆきちから」の目標生育量と栽培法	野菜畑作 やませ利用	
		H16-普-07	冬期播種栽培によりコムギ縮萎病の発生を抑制できる	野菜畑作 病理昆虫	
		H16-普-08	品種 味噌、納豆、煮豆向けの極早生大豆「ユキホマレ」	野菜畑作 やませ利用	
		H16-普-09	冷めてもおいしい在来ひえ系統「もじゃっぺ」	やませ利用	

成果区分	作目分野	成果番号	成果名	担当研究室 (主査)	外部評価
普及	果樹	H16-普-10	「葉とらずりんご」の樹体構成法	果樹	
		H16-普-11	「葉とらずりんご」の着色管理における玉回し作業の省力効果	果樹	
		H16-普-12	品種 りんご 食味濃厚な黄色品種「シナノゴールド」	果樹	
		H16-普-13	りんご「黄香」の交雑和合性	果樹 応用生物学	
		H16-普-14	りんごの新規摘花剤「ギ酸カルシウム水溶剤」	果樹	
		H16-普-15	りんご「ふじ」に対する新規摘葉剤(キノキサリン系・MEP水和剤)	果樹	
		H16-普-16	セルラーゼを利用し搾汁率を高めたりんごジュースの製造法	保鮮流通技術	
		H16-普-17	リンゴ炭疽病に対する幼果期防除の有効性	病理昆虫	
		H16-普-18	スタイマーネマ・カーボカプサイエ剤を利用したモモシクイガ防除方法と使用上の留意点	病理昆虫	
	H16-普-19	品種 ぶどう 食味良好な紫赤系品種「サニールージュ」	果樹		
	野菜	H16-普-20	レタスにおけるナモグリバエの加害生態と防除方法	営農技術	
		H16-普-21	品種 7月中旬に開花するりんどう「極々早生1」	花き	
		H16-普-22	品種 盆需要を補完する早生りんどう「早生3S」	花き	
		H16-普-23	品種 夏秋ぎく系小ぎく「CM18」(白色 スプレータイプ)	花き 産地育成	
		H16-普-24	小ぎく「アイマム」シリーズに対するエテホン処理による開花調節効果	花き	
		H16-普-25	品種 淡紫ピンクのスターチス・シヌアータ「KS50」	花き 応用生物学	
	畜産	H16-普-26	黒毛和種具産種雄牛「菊茂勝」の作出(現場後代検定法)	種山畜産	-
		H16-普-27	ホールクロップサイレージ用イネ栽培における地耐力確保法と収穫体別の特徴	水田作 生産工学 飼料生産	
		H16-普-28	品種 乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ早生品種「LG3457(ニューデント100日)」	飼料生産	
総合	H16-普-29	平成17年度病害虫防除基準に採用した主な殺虫剤、殺菌剤	病理昆虫 営農技術	-	

【指導(技術指導に参考となる成果)】

成果区分	作目分野	成果番号	成果名	担当研究室(主査)	外部評価
指導	水稲	H16-指-01	水田作を中心とした集落型法人の課題と展開方向	農業経営	
		H16-指-02	平成16年における水稲生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析	水田作 やませ利用 土壌作物栄養 病理昆虫	-
		H16-指-03	水稲湛水直播栽培における過酸化石灰被覆種子の貯蔵性と加温処理の効果	水田作	
		H16-指-04	水稲ロングマット水耕苗における巻き取り前追肥の効果	水田作 生産工学	
		H16-指-05	水稲ロングマット水耕苗の育苗初期保温効果	水田作 生産工学	
		H16-指-06	「ウキヤガラ」水田への侵入と雑草化の確認	水田作	
		H16-指-07	窒素濃度の高い堆肥を用いた水稲50%減化学肥料栽培技術	土壌作物栄養	
		H16-指-08	生物農薬「トリコデルマ・アトロビリデ水和剤」(粉状タイプ)の特性と使用上の留意点	病理昆虫	
		H16-指-09	MBI-D剤耐性イネいもち病菌の発生とその対策	病理昆虫	
		H16-指-10	水稲種子生産で実施したオキシロニック酸耐性もみ枯細菌病対策とその効果	病理昆虫 水田作	
		H16-指-11	比重選別機による水稲種子の精選精度向上技術(追補:塩水選の省略)	病理昆虫 水田作	
		H16-指-12	発生環境(水田雑草、割れ籾の多少)に応じた斑点米防止対策	病理昆虫	
	畑作物	H16-指-13	県中南部水田地帯における大豆・小麦立毛間播種栽培2年3作の技術体系	生産工学 野菜畑作 土壌作物栄養 農業経営	
		H16-指-14	県北地域における大豆・小麦立毛間播種2年3作栽培技術	営農技術 やませ利用	
		H16-指-15	大豆品種「スズカリ」の子実タンパク含量向上要因	野菜畑作	
		H16-指-16	はとむぎ新品種「はとゆたか」を原料としたペースト状食品の特性	保鮮流通技術	
	果樹	H16-指-17	「葉取らずふじ」の販売方策	農業経営	
		H16-指-18	繁茂指数によってわい性台りんご樹の栄養状態が推定できる	土壌作物栄養	
		H16-指-19	冷温高湿貯蔵により蜜入りりんごは2ヶ月間の貯蔵が可能となる	保鮮流通技術	
		H16-指-20	りんご着果痕を伝染源とする炭疽病の発生生態	病理昆虫	
		H16-指-21	西洋ナシ「ラ・フランス」の追熟法(追補)	保鮮流通技術	
		H16-指-22	「小枝柿」の炭酸ガス脱渋技術及び渋戻り抑制技術	保鮮流通技術	
	野菜	H16-指-23	きゅうり露地普通栽培におけるかん注追肥による草勢維持効果	野菜畑作 土壌作物栄養	
		H16-指-24	きゅうり露地普通栽培用ブルームレス台木の特性	野菜畑作	
		H16-指-25	きゅうり無加温ハウス栽培における果色と光沢の優れる品種の特性	野菜畑作	
		H16-指-26	キュウリホモプシス根腐病に対する耐病性台木と薬剤による総合防除効果	病理昆虫	
		H16-指-27	ダッチライト型ガラス温室導入事例の特徴と問題点	南部園芸	
		H16-指-28	ダッチライト型ガラス温室におけるトマト養液栽培の地域適応性	南部園芸	
		H16-指-29	露地栽培に適するピーマンPMMoV抵抗性(L <sup>3</sup> )品種「みおぎ」の特性	野菜畑作	
		H16-指-30	通いコンテナの活用によるねぎの流通改善方策と効果	農業経営	

成果区分	作目分野	成果番号	成果名	担当研究室 (主査)	外部評価
指導	野菜	H16-指-31	0.4M 硫酸抽出による雨よけほうれんそう土壌の窒素肥沃度簡易推定法	土壌作物栄養	
		H16-指-32	窒素肥沃度に応じた適正施肥で雨よけほうれんそうの体内硝酸イオン濃度が低減できる	土壌作物栄養	
		H16-指-33	品種の選定と適正施肥によってキャベツの体内硝酸イオン濃度が低減できる	土壌作物栄養 保鮮流通技術	
		H16-指-34	レタス腐敗性病害の発生実態と気象要因	営農技術	
		H16-指-35	窒素濃度の高い堆肥を用いたキャベツ、スイートコーン 50%減化学肥料栽培技術	土壌作物栄養	
		H16-指-36	通いコンテナ利用による青果物輸送の特徴	保鮮流通技術	
		H16-指-37	クロロピクリンくん蒸剤の新剤型「フロア剤」のかん水チューブを用いた簡便な処理方法	病理昆虫	
	花き	H16-指-38	りんどうこぶ症は栄養繁殖により伝達する	応用生物工学 花き	
		H16-指-39	小ぎく「アイمامアーリーイエロー」及び「アイمامレモンイエロー」の定植前摘心栽培技術	花き	
		H16-指-40	スターチスの高増殖培養法	応用生物工学	
		H16-指-41	インパチエンスネクロティックスポットウイルス (INSV) による鉢物リンドウの新ウイルス病「えそ斑紋病」の発生	病理昆虫	
	畜産	H16-指-42	直接移植のためのウシ胚の凍結・融解方法	家畜工学	
		H16-指-43	子宮頸管拡張機能を付与した胚移植器の開発	家畜工学 外山畜産	
		H16-指-44	黒毛和種種雄牛別枝肉成績	種山畜産	
		H16-指-45	肉用牛肥育における戻し堆肥の敷料利用性と堆肥化特性	家畜育種 飼料生産	
		H16-指-46	トウモロコシサイレージ多給肥育による良質短角牛肉の生産	家畜育種	
		H16-指-47	酪農における農業生産法人の経営管理の実態と課題	農業経営	
		H16-指-48	自動哺乳装置を用いた乳用新生雌子牛の発育効果	家畜飼養	
		H16-指-49	乳用雌育成前期牛の集約放牧による発育効果	家畜飼養	
		H16-指-50	血中アポリポたん白質による乳牛周産期疾病予察	家畜飼養	
		H16-指-51	イネホールクロップサイレージ調製における添加剤の利用技術	飼料生産	
		H16-指-52	改良ハンドラを取り入れた細断型ロールベアラ体系の作業能率の向上	飼料生産	
		H16-指-53	採草用牧草の草種の混播適性 (中標高地)	飼料生産	
		H16-指-54	シートを利用したたい肥化技術	飼料生産	
	H16-指-55	液状コンポストの利用法 (3) 牧草及び飼料用トウモロコシに対する利用	営農技術 飼料生産		
	総合	H16-指-56	主要作物の生産技術体系及び収支データ	農業経営 関係研究室	
		H16-指-57	イムノアッセイによる簡易農薬残留分析の活用法	環境保全	
		H16-指-58	フラットベッドスキャナを用いた土壌中全炭素・全窒素含量推定キットの開発	土壌作物栄養	
		H16-指-59	液状コンポストの利用法 (1) 成分特性	営農技術 飼料生産	
		H16-指-60	液状コンポストの利用法 (2) 成分含有率の簡易推定法	営農技術	

【行政(行政施策等に反映すべき成果)】

成果区分	作目分野	成果番号	成果名	担当研究室 (主査)	外部評価
行政	水稲	H16-行-01	平成 16 年度水稲奨励品種決定本調査・現地調査結果	水田作 やませ利用	-
		H16-行-02	平成 17 年度水稲奨励品種決定本調査・現地調査新規供試系統	水田作 やませ利用	-
		H16-行-03	平成 17 年度水稲新配布系統(候補系統)	水稲育種 やませ利用	-
		H16-行-04	低グルテリン酒造好適米「岩手酒 79 号」の育成	水稲育種 工業技術セ	
		H16-行-05	双胚米の発生実態と発生要因	水稲育種 水田作	
		H16-行-06	岩手県水稲品種における混入米の DNA 鑑定技術	応用生物学	
	花き	H16-行-07	グランドカバープランツの動力吹付緑化工法の評価	生産工学	
	畜産	H16-行-08	黒毛和種産肉能力検定(直接法)成績	種山畜産	-
		H16-行-09	黒毛和種産肉能力検定(間接法)成績	種山畜産	-
		H16-行-10	黒毛和種産肉能力検定(現場後代検定法)成績	種山畜産	-
		H16-行-11	黒毛和種の県有種雄牛における子牛市場成績	種山畜産	
		H16-行-12	黒毛和種育種改良に係る選抜指数式の改正	種山畜産	-
		H16-行-13	日本短角種産肉能力検定(直接法)成績	家畜育種	-
		H16-行-14	日本短角種産肉能力検定(間接法)成績	家畜育種	-
		H16-行-15	岩手県におけるリサイクル飼料に対する養豚農家等の意向	家畜育種	
		総合	H16-行-16	農薬使用基準チェックシステム(Ai.Noh)の開発	病理昆虫

【研究(研究開発に有効な成果)】

成果区分	作目分野	成果番号	成果名	担当研究室(主査)	外部評価
研究	水稲	H16-研-01	オモダカ・コナギのSU系除草剤抵抗性雑草迅速検定法(ALS活性)における安定した検定部位と時期	水田作	-
		H16-研-02	耐冷性「極強」を超える水稲品種選抜の可能性とその簡易選抜法	水稲育種	-
		H16-研-03	いもち病真性抵抗性遺伝子Piaに連鎖したDNAマーカーの検出	応用生物学	-
		H16-研-04	イネマイクロサテライトマーカーによる品種間多型のデータベース化	応用生物学	-
		H16-研-05	生育期の茎葉カドミウム吸収量は玄米濃度と相関が高い	環境保全	-
	畑作物	H16-研-06	立毛間播種により大豆・小麦3年5作栽培をする際の雑草管理の要点	野菜畑作 生産工学 土壌作物栄養	-
		H16-研-07	ヒエの冬期世代促進法	水稲育種 やませ利用	-
	果樹	H16-研-08	JM台木の葉片培養による再分化効率の向上	応用生物学	-
		H16-研-09	「葉とらずりんご」における非破壊選果機利用技術	果樹	-
		H16-研-10	りんご育成系統のS遺伝子型の同定	果樹 応用生物学	-
		H16-研-11	りんごのカラムナータイプにおける成長調整剤及び簡易的せん定手法を用いた栽培管理の省力効果	果樹	-
	野菜	H16-研-12	酸性電解水の露地きゅうりのうどんこ病を対象とした使用法	環境保全	-
		H16-研-13	夏秋トマトにおけるパッシブ水耕栽培の適応性	野菜畑作	-
		H16-研-14	トマト簡易雨よけ栽培における局所施肥栽培の特徴	野菜畑作	-
		H16-研-15	いちごの超促成作型における課題と目標収量	農業経営	-
		H16-研-16	いちごの一季成り性品種を用いた夏どり栽培における苗養成技術	野菜畑作	-
		H16-研-17	レタスの体内硝酸イオン濃度の実態	土壌作物栄養	-
		H16-研-18	硫酸カルシウム施用によるキャベツ心腐れ症状(カルシウム欠乏)の軽減効果	産地育成	-
		花き	H16-研-19	りんどうの胚の発達過程	応用生物学 花き
	H16-研-20		りんどうこぶ症株茎部の組織学的特徴	応用生物学 花き	-
	H16-研-21		りんどうこぶ症のこぶ組織内成分の解析	応用生物学 花き	-
	H16-研-22		栄養系切り花りんどうの鉢物化技術	花き	-
	H16-研-23		鉢物りんどう「あおこりん」「ももこりん」の1年苗栽培技術	花き	-
	H16-研-24		アレンジメントアスターの隔離床栽培の可能性	南部園芸	-
	H16-研-25		間伐材利用園芸用ポット(試作品)の特徴と鉢花及び花壇苗生産における利用特性	産地育成	-
	畜産		H16-研-26	ヘルニア法により採取した牛胚由来栄養膜細胞の生存性	家畜工学
		H16-研-27	黒毛和種の乳頭異常原因染色体の解明	家畜工学 種山畜産	-
		H16-研-28	寒冷寒作は黒毛和種子牛の生後2週間の免疫機能を低下させる	外山畜産	-
		H16-研-29	黒毛和種の分割胚由来による双子の初期発育	種山畜産	-
		H16-研-30	カキ殻充填水路と人工湿地利用によるパドック排水の汚濁物質除去効果	外山畜産	-
		H16-研-31	放牧牛におけるOvsynch法へのhCGの応用効果	外山畜産	-
		H16-研-32	泌乳牛におけるリジン・メチオニン給与量の調整による飼料中CP含量の低減効果	家畜飼養	-
		H16-研-33	搾乳前刺激の増幅による搾乳時間の短縮化	家畜飼養	-
		H16-研-34	スーダン・ライ麦二毛作体系の経営評価	農業経営	-
		H16-研-35	どんぐり給与と放牧が豚の肉質に及ぼす影響	家畜育種	-
		H16-研-36	リサイクル飼料及びせんべいくずを利用した特産鶏肉生産のコスト低減	家畜育種	-
	総合	H16-研-37	暗渠と明渠を組み合わせた簡易な水田ほ場地下水水位制御方法	生産工学	-
		H16-研-38	里地・里山の生き物データベースの作成	環境保全	-
		H16-研-39	県内水田・水路における水生生物相の特徴	環境保全	-

(2) 外部評価結果一覧

【普及（普及に移しうる成果）】

（A:提出可、B:一部修正、C:大幅修正、D:提出不可）

[ 委員数（%）]

成果区分	作物	成果番号	成果名	総合評価		
				A	B	C
普及	水稲	H16-普-01	品種 耐冷性・耐病性に優れる良質・良食味 中生粳水稲「岩手68号」	4(80%)	1(20%)	
		H16-普-03	生物農薬「シュードモナス CAB-02 水和剤」の特性と使用上の留意点(追補)	5(100%)		
		H16-普-04	生物農薬「トリコデルマ・アトロピリデ水和剤」の特性と使用上の留意点(追補)	4(80%)	1(20%)	
		H16-普-05	箱施用剤の新剤型「顆粒水和剤」の葉いもち防除効果と使用上の留意点	4(80%)	1(20%)	
		畑作物	H16-普-06	小麦品種「ゆきちから」の目標生育量と栽培法	3(60%)	2(40%)
	H16-普-07		冬期播種栽培によりコムギ縮萎病の発生を抑制できる	3(60%)	2(40%)	
	H16-普-08		品種 味噌、納豆、煮豆向けの極早生大豆「ユキホマレ」	5(100%)		
	H16-普-09		冷めてもおいしい在来ひえ系統「もじゃっぺ」	4(80%)	1(20%)	
	果樹	H16-普-10	「葉とらずりんご」の樹体構成法	1(33%)	2(67%)	
		H16-普-11	「葉とらずりんご」の着色管理における玉回し作業の省力効果	2(67%)	1(33%)	
		H16-普-12	品種 りんご 食味濃厚な黄色品種「シナノゴールド」	1(33%)	2(67%)	
		H16-普-13	りんご「黄香」の交雑和合性	1(33%)	2(67%)	
		H16-普-14	りんごの新規摘花剤「ギ酸カルシウム水溶剤」	2(67%)	1(33%)	
		H16-普-15	りんご「ふじ」に対する新規摘葉剤(キノキサリン系・MEP水和剤)	1(33%)	2(67%)	
		H16-普-16	セルラーゼを利用し搾汁率を高めたりんごジュースの製造法	2(67%)	1(33%)	
		H16-普-17	リンゴ炭疽病に対する幼果期防除の有効性	3(100%)		
		H16-普-18	スタイマーネマ・カーボカブサイエ剤を利用したモモシンクイガ防除方法と使用上の留意点		3(100%)	
		H16-普-19	品種 ぶどう 食味良好な紫赤系品種「サニールージュ」	2(67%)	1(33%)	
	野菜	H16-普-20	レタスにおけるナモグリバエの加害生態と防除方法	3(100%)		
花き	H16-普-21	品種 7月中旬に開花するりんどう「極々早生1」	3(100%)			
	H16-普-22	品種 盆需要を補完する早生りんどう「早生3S」	3(100%)			
	H16-普-23	品種 夏秋ぎく系小ぎく「CM18」(白色 スプレータイプ)	3(100%)			
	H16-普-24	小ぎく「アイマム」シリーズに対するエテホン処理による開花調節効果	3(100%)			
	H16-普-25	品種 淡紫ピンクのスターチス・シヌアータ「KS50」	3(100%)			
畜産	H16-普-27	ホールクロップサイレージ用イネ栽培における地耐力確保法と収穫体系別の特徴	2(50%)	2(50%)		
	H16-普-28	品種 乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ早生品種「LG3457(ニューデント100日)」	5(100%)			

【指導（技術指導に参考となる成果）】

(A:提出可、B:一部修正、C:大幅修正、D:提出不可)

[ 委員数(%) ]

成果区分	作物	成果番号	成果名	総合評価		
				A	B	C
指導	水稲	H16-指-01	水田作を中心とした集落型法人の課題と展開方向	2(50%)	2(50%)	
		H16-指-03	水稲湛水直播栽培における過酸化石灰被覆種子の貯蔵性と加温処理の効果	1(20%)	4(80%)	
		H16-指-04	水稲ロングマット水耕苗における巻き取り前追肥の効果	5(100%)		
		H16-指-05	水稲ロングマット水耕苗の育苗初期保温効果	5(100%)		
		H16-指-06	「ウキヤガラ」水田への侵入と雑草化の確認	3(60%)	2(40%)	
		H16-指-07	窒素濃度の高い堆肥を用いた水稲50%減化学肥料栽培技術	3(60%)	2(40%)	
		H16-指-08	生物農薬「トリコデルマ・アトロピリデ水和剤」(粉状タイプ)の特性と使用上の留意点	5(100%)		
		H16-指-09	MBI-D剤耐性イネいもち病菌の発生とその対策	4(80%)	1(20%)	
		H16-指-10	水稲種子生産で実施したオキサリニック酸耐性もみ枯細菌病対策とその効果	5(100%)		
		H16-指-11	比重選別機による水稲種子の精選精度向上技術(追補:塩水選の省略)	5(100%)		
		H16-指-12	発生環境(水田雑草、割れ物の多少)に応じた斑点米防止対策	4(80%)	1(20%)	
		畑作物		H16-指-13	県中南部水田地帯における大豆・小麦立毛間播種栽培2年3作の技術体系	3(60%)
H16-指-14	県北地域における大豆・小麦立毛間播種2年3作栽培技術			3(60%)	2(40%)	
H16-指-15	大豆品種「スズカリ」の子実タンパク含量向上要因			4(80%)	1(20%)	
H16-指-16	はとむぎ新品種「はとゆたか」を原料としたペースト状食品の特性			2(67%)	1(33%)	
果樹		H16-指-17	「葉取らずふじ」の販売方策	2(50%)	2(50%)	
		H16-指-18	繁茂指数によってわい性台りんご樹の栄養状態が推定できる	2(67%)	1(33%)	
		H16-指-19	冷温高湿貯蔵により蜜入りりんごは2ヶ月間の貯蔵が可能となる	2(67%)	1(33%)	
		H16-指-20	りんご着果痕を伝染源とする炭疽病の発生生態	2(67%)	1(33%)	
		H16-指-21	西洋ナシ「ラ・フランス」の追熟法(追補)	2(67%)		1(33%)
		H16-指-22	「小枝柿」の炭酸ガス脱渋技術及び渋戻り抑制技術	3(100%)		
野菜		H16-指-23	きゅうり露地普通栽培におけるかん注追肥による草勢維持効果	2(50%)	2(50%)	
		H16-指-24	きゅうり露地普通栽培用ブルームレス台木の特性	1(25%)	3(75%)	
		H16-指-25	きゅうり無加温ハウス栽培における果色と光沢の優れる品種の特性	2(50%)	2(50%)	
		H16-指-26	キュウリホモプシス根腐病に対する耐病性台木と薬剤による総合防除効果	2(50%)	2(50%)	
		H16-指-27	ダッチライト型ガラス温室導入事例の特徴と問題点	3(75%)	1(25%)	
		H16-指-28	ダッチライト型ガラス温室におけるトマト養液栽培の地域適応性	2(50%)	2(50%)	
		H16-指-29	露地栽培に適するピーマンPMMoV抵抗性(L <sup>3</sup> )品種「みおぎ」の特性	2(50%)	2(50%)	
		H16-指-30	通いコンテナの活用によるねぎの流通改善方策と効果	3(75%)	1(25%)	
		H16-指-31	0.4M硫酸抽出による雨よけほうれんそう土壌の窒素肥沃度簡易推定法	3(100%)		
		H16-指-32	窒素肥沃度に応じた適正施肥で雨よけほうれんそうの体内硝酸イオン濃度が低減できる	2(67%)	1(33%)	
		H16-指-33	品種の選定と適正施肥によってキャベツの体内硝酸イオン濃度が低減できる	2(67%)	1(33%)	
		H16-指-34	レタス腐敗性病害の発生実態と気象要因	3(100%)		
		H16-指-35	窒素濃度の高い堆肥を用いたキャベツ、スイートコーン50%減化学肥料栽培技術	2(67%)	1(33%)	
		H16-指-36	通いコンテナ利用による青果物輸送の特徴	3(100%)		
		H16-指-37	クロルピクリンくん蒸剤の新剤型「フロー剤」のかん水チューブを用いた簡便な処理方法	2(50%)	2(50%)	



[ 委員数 (%) ]

成果区分	作物	成果番号	成果名	総合評価		
				A	B	C
指導	花き	H16-指-38	りんどうこぶ症は栄養繁殖により伝達する	2(67%)	1(33%)	
		H16-指-39	小ぎく「アイマムアーリーイエロー」及び「アイマムレモンイエロー」の定植前摘心栽培技術	2(67%)	1(33%)	
		H16-指-40	スターチスの高増殖培養法	3(100%)		
		H16-指-41	インパチエンスネクロティックスポットウイルス (INSV) による鉢物リンドウの新ウイルス病「えそ斑紋病」の発生	1(33%)	2(67%)	
	畜産	H16-指-42	直接移植のためのウシ胚の凍結・融解方法	5(100%)		
		H16-指-43	子宮頸管拡張機能を付与した胚移植器の開発	4(80%)	1(20%)	
		H16-指-44	黒毛和種種雄牛別枝肉成績	4(80%)	1(20%)	
		H16-指-45	肉用牛肥育における戻し堆肥の敷料利用性と堆肥化特性	3(75%)	1(25%)	
		H16-指-46	トウモロコシサイレージ多給肥育による良質短角牛肉の生産	3(60%)	2(40%)	
		H16-指-47	酪農における農業生産法人の経営管理の実態と課題	2(67%)	1(33%)	
		H16-指-48	自動哺乳装置を用いた乳用新生雌子牛の発育効果	3(60%)	2(40%)	
		H16-指-49	乳用雌育成前期牛の集約放牧による発育効果	4(80%)	1(20%)	
		H16-指-50	血中アポリポたん白質による乳牛周産期疾病予察	3(60%)	2(40%)	
		H16-指-51	イネホールクroppサイレージ調製における添加剤の利用技術	3(75%)	1(25%)	
		H16-指-52	改良ハンドラを取り入れた細断型ロールベアラ体系の作業能率の向上	3(75%)	1(25%)	
		H16-指-53	採草用牧草の草種の混播適性(中標高地)	4(80%)	1(20%)	
		H16-指-54	シートを利用したたい肥化技術	2(50%)	2(50%)	
	H16-指-55	液状コンポストの利用法 (3) 牧草及び飼料用トウモロコシに対する利用	3(75%)	1(25%)		
	総合	H16-指-56	主要作物の生産技術体系及び収支データ	2(50%)	1(25%)	1(25%)
		H16-指-57	イムノアッセイによる簡易農薬残留分析の活用法	1(33%)	2(67%)	
H16-指-58		フラットヘッドスキャナを用いた土壤中全炭素・全窒素含量推定キットの開発	2(67%)	1(33%)		
H16-指-59		液状コンポストの利用法 (1) 成分特性	3(75%)	1(25%)		
H16-指-60		液状コンポストの利用法 (2) 成分含有率の簡易推定法	3(75%)	1(25%)		

【行政(行政施策等に反映すべき成果)】 (A:提出可、B:一部修正、C:大幅修正、D:提出不可)

[ 委員数 (%) ]

成果区分	作物	成果番号	成果名	総合評価		
				A	B	C
行政	水稻	H16-行-04	低グルテリン酒造好適米「岩手酒79号」の育成	3(60%)	2(40%)	
		H16-行-05	双胚米の発生実態と発生要因	2(40%)	3(60%)	
		H16-行-06	岩手県水稻混種における混入米のDNA鑑定技術	4(80%)	1(20%)	
	花き	H16-行-07	グランドカバープランツの動力吹付緑化工法の評価	5(100%)		
	畜産	H16-行-15	岩手県におけるリサイクル飼料に対する養豚農家等の意向	2(40%)	3(60%)	
		H16-行-11	黒毛和種の県有種雄牛における子牛市場成績	4(80%)	1(20%)	
	総合	H16-行-16	農薬使用基準チェックシステム(Ai.Noh)の開発	2(67%)	1(33%)	

## 2 追跡評価

### <平成13年度研究成果>

#### 普及区分の追跡評価結果

普及状況	効果				総計
	A	B	C	D	
A	13				13
B	3	6			9
C	1	2			3
D		3		2	5
総計	17	11		2	30 (1成果については評価外)

#### 追跡評価に係る主となる評価項目と目標値(平成13年度成果)(H16調査、専技室)

No.	「普及」成果名	評価項目	目標値	現在値
1	品種 オリジナル中生もち水稲 餅加工適性に優れた「岩南糯19号」	栽培面積	1,000ha	442ha
2	水稲オリジナル品種「いわてっこ」の栽培法	一等米比率	95%	85.5%
3	「ひとめぼれ」における自然乾燥と機械乾燥の刈り取り適期の違い	一等米比率	95%	94.8%
4	湛水直播におけるノビエの発消長と雑草防除	直播栽培面積	100ha	140ha
5	平成14年度雑草防除基準に採用した水稲除草剤	流通量		10,000ha超(剤)
6	生物農薬「シュドモナス CAB-02 水和剤」の特性と使用上の留意点	流通量		1,361kg
7	品種 大豆 緑色の濃い豆腐向け特産大豆「東北141号」	栽培面積	50ha	52ha
8	小麦新品種「ネバリゴシ」の期待生育量と栽培法	上位規格率	(65.4%)	62.2%
9	ひえの無農薬水田移植栽培技術	栽培面積	-	144ha
10	平成14年度雑草防除基準に採用した果樹除草剤	流通量	-	0
11	品種 りんごわい性台木「JM1」	苗木の供給量	3,374本超(前年比)	2,874本
12	りんご新しい性台木「JM1」「JM7」の利用法	苗木の供給量	17,940本超(前年比)	29,326本
13	基肥一回無追肥によるピーマンの減肥栽培	技術採用面積	-	20~30ha
14	ヒドロキシイソキサノール粉剤の土壌混和によるハウレンソウ立枯病の防除法	技術の採用状況	-	主要産地2か所で導入
15	品種 ほうれんそう 春播き・秋播きに適する「イーハトープ」	普及見込み面積	200ha	217ha
16	キャベツ収穫運搬車の作業特性と導入基準	導入台数	設定なし	0台
17	キャベツの子葉奇形苗の選別除去と差し替えの効果	大型育苗施設での活用状況	設定なし	調査対象育苗施設で活用(2/2)
18	キャベツ・レタスにおける夏季高温期の真空予冷庫設定条件	技術の利用状況	-	参考にされている
19	生分解性プラスチックマルチの特性と選択の目安	マルチの導入面積	-	33ha
20	品種 夏秋ぎく系小ぎく「CM6」(白桃色スプレ-咲き)	作付面積	300a	19a
21	黒毛和種優良種雄牛「糸晴清」「信菊徳」の作出	精液ストローの販売状況	-	580本 330本
22	自動搾乳システムによる省力管理技術と生産性	-	-	-
23	県有優良雄牛「北孝福」の作出	精液ストローの販売状況	-	811本
24	品種 飼料用とうもろこし早生品種「KD520」	普及面積	102ha	43ha
25	品種 飼料用とうもろこし晩生品種「パイオニア118日(33G26)」	普及面積	171ha	33ha
26	品種 オーチャードグラス極早生品種「アキミドリII」	普及面積	40ha	0.05ha
27	品種 チモシー中生品種「ホクセイ」	普及面積	60ha	51ha
28	品種 チモシー晩生品種「ホクシュウ」	普及面積	30ha	23.5ha
29	品種 ペレニアルライグラス極早生品種「クサボウシ」	普及面積	30ha	0
30	農業機械・作業技術関連成果・文献検索システム	-	-	-
31	平成14年度病害虫防除基準に採用した主な殺虫剤、殺菌剤	流通量	-	シートの通り

### 3 東北農業試験研究成果

< 研究成果情報 >

#### (1) 研究成果数

部会区分	東北農業研究成果情報	研究成果選シリーズ候補
水稲	4	1
畑作物	6	2
果樹	2	1
野菜花き	5	-
畜産	3	-
生産環境	4	-
作業技術	3	-
生物学	1	-
流通・加工	2	-
経営	3	-
計	33	4

#### (2) 研究成果

( : 研究成果選シリーズ候補 )

部会名	部会 No	成 果 名	分 類	主査研究室
水稲	2	耐冷性・耐病性に優れる良質良食味水稲新品種「岩手 68 号」の育成	技術・普及	水稲育種
	3	耐冷性・耐病性に優れる良質良食味水稲新品種「岩手 68 号」の採用	技術・普及	水田作
	4	基準品種の不稔歩合平均値を用いた水稲耐冷性「極強」以上の判定手法	科学・参考	水稲育種
	5	糯における双胚米発生実態と双胚米種子自殖による双胚米発生の再現性	科学・参考	水稲育種 水田作
畑作物	2	冬期播種栽培によりコムギ縞萎縮病の発生を抑制できる	技術・普及	野菜畑作
	3	小麦品種「ゆきちから」の岩手県における目標生育量と栽培法	技術・普及	野菜畑作 やませ利用
	4	岩手県における極早生大豆「ユキホマレ」の採用	技術・普及	野菜畑作
	5	立毛間播種により大豆・小麦 3 年 5 作栽培をする際の雑草管理の要点	技術・参考	野菜畑作
	6	北部限界地域における大豆・小麦立毛間 2 年 3 作栽培技術	技術・参考	営農技術 やませ利用
	7	大豆・小麦立毛間播種芝居 2 年 3 作の生産技術体系および導入モデル	技術・参考	生産工学

部会名	部会 No	成 果 名	分 類	主査研究室
果樹	5	リンゴの「葉とらず栽培」における樹体構成法	技術・普及	果樹
	6	リンゴのカラムナータイプ「タスカン」に適した省力的せん定手法	技術・参考	果樹
野菜 花き	1	ピーマン PMMoV 抵抗性 ( $L^3$ ) 品種の適応性	技術・普及	病理昆虫
	2	イチゴ品種「北の輝」の越年苗を用いた夏どり栽培における苗養成法	技術・参考	野菜畑作
	3	キュウリ露地栽培におけるかん注追肥による草勢維持効果	技術・普及	野菜畑作
	21	7月中旬に開花するりんどう品種候補「極々早生1」の育成とその特性	技術・普及	花き
	22	小ぎく「アイマム」シリーズのエテホン処理による開花調節	技術・普及	花き
畜産	5	子宮頸管通過が容易なステンレス製胚移植器の開発	技術・参考	家畜工学
	6	改良ハンドラを取り入れた細断型ロールベアラ体系の作業能率の向上	技術・普及	飼料生産
	7	ホールクロップサイレージ用イネ栽培における地耐力確保法と収穫・調製技術の特徴	技術・普及	飼料生産 水田作 生産工学
生産 環境	土2	繁茂指数によってわい性台りんご樹の窒素栄養状態が推定できる	技術・普及	土壌作物栄養
	土3	高窒素濃度堆肥を用いたキャベツ、スイートコーン 50%減化学肥料栽培技術	技術・参考	土壌作物栄養
	病2	INSV によるリンドウえそ斑紋病(新病害)の発生	科学・参考	病理昆虫
	病3	イムノアッセイによる簡易農薬残留分析	技術・参考	環境保全
作業 技術	2	ホールクロップサイレージ用イネ栽培における地耐力確保法と収穫技術	技術・参考	水田作 生産工学 飼料生産
	6	大豆・小麦立毛間播種栽培2年3作の生産技術体系および導入モデル	技術・参考	生産工学
	11	寒冷地におけるグランドカバープランツ苗の動力吹付工法の適応性	行政・参考	生産工学
生物学	1	岩手県水稲品種における混入米のDNA鑑定技術	科学・普及	応用生物学
流通・ 加工	1	冷温高湿貯蔵により蜜入りりんご(ふじ)は2ヶ月間の貯蔵が可能となる	技術・普及	保鮮流通技術
	2	機能成分を多く含み搾汁率を高めたりんごジュースの製造法	技術・普及	保鮮流通技術
経営	1	水田作を中心とした集落型農業法人の経営展開上の課題と対応策	技術・参考	農業経営
	2	岩手県における「わい化葉取らずふじ」の販売方策	技術・参考	農業経営
	3	酪農における農業生産法人の経営管理実態と課題	技術・参考	農業経営

## IV 試験研究成果の発表



# 1 試験成績書等刊行物

資料番号	表題名	発行年月	ページ数
<b>【企画経営情報部】</b>			
ISSN 1346 - 4035	岩手県農業研究センター研究報告 第5号	17.3	99
企画経営 16 - No.1	21世紀型農業経営モデル実証試験地事業 現地支援実証試験成績 (平成15年度試験成績及び後期試験成績)	17.2	163
企画経営 16 - No.2	平成16年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書	17.2	288
経営 16 - No.1	特定研究開発促進事業地域基幹農業技術体系化促進研究 中山間地域における産地マーケティングに基づく特産的高付加価値農産物の生産技術 平成15年度試験研究成果書	16.9	151
<b>【農産部】</b>			
農産 16 - No.1	平成15(2003)年度 水稻新品種育成試験成績書(水稻育種研究室)	16.9	173
農産 16 - No.2	平成16年度 水稻除草剤試験成績書(適2試験)(水田作研究室)	16.10	200
農産 16 - No.3	平成17年度 水稻新配布系統成績書(水稻育種研究室)	17.3	22
<b>【園芸畑作部】</b>			
園芸 15 - No.1	平成15年度 果樹試験成績書(果樹研究室)	17.3	200
園芸 15 - No.2	平成15年度 野菜試験成績書(野菜畑作研究室)	17.3	100
園芸 15 - No.3	平成15年度 畑作試験成績書(野菜畑作研究室)	17.3	100
園芸 15 - No.4	平成15年度 花き試験成績書(花き研究室)	17.3	46
園芸 16 - No.5	岩手県ねぎの経営改善マニュアル	17.3	100
東北新技術地域実用化促進事業研究成果 No.32	寒冷地における枝物花木類の栽培技術体系の確立(花き研究室)	16.9	145
<b>【生産環境部】</b>			
	なし		
<b>【病害虫部】</b>			
	なし		
<b>【畜産研究所】</b>			
畜産 16 - No.1	平成16年度 試験成績書(畜産研究所)	17.3	143
<b>【県北農業研究所】</b>			
	平成16年度 営農技術研究室試験研究成果書	17.3	140
	平成16年度 産地育成研究室試験研究成果書	17.3	150
	平成16年度 やませ利用研究室試験研究成果書	17.3	120

## 2 岩手県農業研究センター研究報告

第5号 (平成17年3月発行)

表 題 名	著者氏名	現 所 属
<b>【報文】</b>		
水稲糯新品種「もち美人」の育成	仲條 眞介 木内 豊 中野 央子 田村 和彦 尾形 茂 高橋 正樹 荻内 謙吾 佐々木 力 小田中 浩哉 扇 良明 佐藤 喬 菅原 浩視 中村 英明 中西 商量 高橋 真博 照井 儀明 神山 芳典	岩手県農業研究センター " " " " 現盛岡農業改良普及センター 岩手県農業研究センター " 現盛岡地方振興局 現岩手県農林水産部 現久慈農業改良普及センター 現盛岡農業改良普及センター 現岩手県農林水産部 現宮古農業改良普及センター 現岩手県商工労働観光部 現岩手県農林水産部 元岩手県農業研究センター
水稲新品種「いわてっこ」の育成	中野 央子 木内 豊 尾形 茂 高橋 正樹 荻内 謙吾 小田中 浩哉 扇 良明 佐藤 喬 照井 儀明 菅原 浩視 中村 英明 中西 商量 神山 芳典	岩手県農業研究センター " " 現盛岡農業改良普及センター 岩手県農業研究センター 現盛岡地方振興局 現岩手県農林水産部 現久慈農業改良普及センター 現岩手県農林水産部 現盛岡農業改良普及センター 現岩手県農林水産部 現宮古農業改良普及センター 元岩手県農業研究センター
岩手県における酪農経営体の展開過程と支援方向	加藤 満康	岩手県農業研究センター
岩手県北部における葉たばこ経営体の展開過程及び課題	井村 裕一	岩手県農業研究センター
岩手県におけるアミロース含量が低い在来ヒエ系統の特性	長谷川 聡 勝田 真澄	岩手県農業研究センター (独)農業・生物系特定産業技術 研究機構 作物研究所
細断型ロールペーラを使用した飼料用トウモロコシの省力的収穫調製技術	増田 隆晴 平久保 友美 川畑 茂樹	岩手県農業研究センター " "



表 題 名	著者氏名	現 所 属
<b>【要報】</b> 液状コンポスト調整システムにおいて曝気が臭気成分に及ぼす効果	濱戸 もえぎ 川畑 茂樹 佐藤 直人	岩手県農業研究センター "
優良種雄牛造成に向けた体細胞クローン牛生産技術の検討	児玉 英樹 野口 龍生 鈴木 暁之 福成 和博 吉川 恵郷	岩手県農業研究センター 現岩手県北家畜保健衛生所 現岩手県農林水産部畜産課 岩手県農業研究センター "
集約放牧体系で親子放牧した黒毛和種子牛の発育と市場評価	小梨 茂 千葉 恒樹 伊藤 孝弘 加藤 満康 大池 裕治 佐藤 隆 谷藤 隆志	岩手県農業研究センター "
集約放牧体系で親子放牧した黒毛和種子牛の発育と市場評価	伊藤 孝弘 加藤 満康 大池 裕治 佐藤 隆 谷藤 隆志	現遠野農業改良普及センター 岩手県農業研究センター "
乳用雌育成牛の集約放牧による発育効果	山口 直己 松木田 裕子 茂呂 勇悦 大和 貢 菊地 正人 菊池 文也	岩手県農業研究センター "
乳用雌育成牛の集約放牧による発育効果	茂呂 勇悦 大和 貢 菊地 正人 菊池 文也	"
乳用雌育成牛の集約放牧による発育効果	大和 貢 菊地 正人 菊池 文也	現岩手県南家畜保健衛生所 岩手県農業研究センター 現岩手県北家畜保健衛生所

### 3 学会等研究報告

部 所 研究室名	発表者 氏 名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	発表誌, 巻(号) 掲載ページ, 発行年月
企画経営情報部 農業経営	加藤 満康	第47回東北農業試験研究発表会	16. 7. 9	酪農経営実態からの接近による技術開発に関する一考察	東北農業県及第57号 281-282, 16.12
	阿部 哲哉	第47回東北農業試験研究発表会	16. 7. 9	野菜作経営における雇用労力活用のポイントと効果	東北農業県及第57号 295-296, 16.12
	加藤 満康	第40回東北農業経済学会	16. 9. 2 ~ 3	岩手県における酪農経営体の発展過程と支援方向	第40回東北農業経済学会報告要旨, 78, 16.9
	前山 薫	第40回東北農業経済学会	16. 9. 2 ~ 3	農産物直売所における情報共有システムの導入効果と今後の利用方向 岩手県江刺市の大規模直売所を事例に	第40回東北農業経済学会報告要旨, 83, 16.9
	田代 勇樹 他1名	第40回東北農業経済学会	16. 9. 2 ~ 3	東北寒冷地における冷害への経営対応と実態 岩手県における2003年冷害経営対応調査票	第40回東北農業経済学会報告要旨, 71, 16.9
	前山 薫 他1名	農業環境工学関連4学会合同大会	16. 9. 6 ~ 8	農業技術体系データベースを利用した経営シミュレーションシステムの概念設計	農業環境工学関連4学会2004年合同大会講演要旨, 130, 16.9
農産部 農産部長	仲谷 房治	第58回北日本病害虫研究発表会	17. 2. 18	リンドウ及びヌマガヤさび病の発生推移	
水田作	高橋 政夫 他1名	日本雑草学会第43回講演会	16. 4. 17	水田畦畔管理技術に関する農業者の意向	日本雑草学会誌, 第49巻別号, 84-85, 16.4.16
	尾形 茂 他2名	日本雑草学会第43回講演会	16. 4. 17	数種の耕種管理、除草剤による防除体系の除草効果	日本雑草学会誌, 第49巻別号, 86-87, 16.4.16
	高橋 政夫	平成16年度東北地域農林水産業研究成果発表会	16. 7. 8	寒冷地における安定した直播栽培技術の開発 - 代掻き同時打ち込み式土中点播直播技術を中心として -	講演要旨集 23-30, 16.7.8
	臼井 智彦 他3名	第47回東北農業研究発表会	16. 7. 9	2003年岩手県における水稲障害不稔発生の特徴	講演要旨集 43-44, 16.12
	及川 あや 他3名	第47回東北農業研究発表会	16. 7. 9	2003年異常気象下における不稔発程度と玄米品質	講演要旨集 45-46, 16.12
	小田中 温美 他2名	第47回東北農業研究発表会	16. 7. 9	2003年産米の食味関連成分の特徴	講演要旨集 13-14, 16.12
	高橋 政夫	第47回日本作物学会東北支部講演会(シンポジウム)	16. 8. 19	2003年岩手県における水稲冷害の解析と課題	日本作物学会東北支部会報第47号, 105-108, 16.12

部 所 研究室名	発表者 氏 名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	発表誌, 巻(号) 掲載ページ, 発行年月
水稲育種	吉田 宏 他 2 名	第 47 回日本作物学会東北支部講演会	16. 8.19	色彩色差計の利用による水稲初黄化程度の評価法	日本作物学会東北支部会報第 47 号, 11-12, 16.12
	高橋 政夫	平成 16 年度日本農業気象学会東北支部大会	16. 7.30	異なる基準によるやませ吹走判定の差異	
	仲條 真介 他 3 名	第 47 回日本作物学会東北支部講演会	16. 8.19 ~ 20	アミロース含有率がうるち米よりやや低い水稲「岩南 28 号」の特性	日本作物学会東北支部会報 第 47 号, 63 - 64, 16.12
応用生物工学	田村 和彦 他 1 名	第 47 回日本作物学会東北支部講演会	16. 8.19 ~ 20	DNA マーカーを用いた水稲「岩南 23 号」の穂いもち圃場抵抗性に関する解析	日本作物学会東北支部会報 第 47 号, 43 - 44, 16.12
	安ヶ平 紀子 他 2 名	日本育種学会第 106 回講演会	16. 9.21	イネいもち病真性抵抗性遺伝子 <i>Pik</i> に連鎖した DNA マーカーの検出	
	阿部 弘 他 1 名	第 47 回東北農業試験研究発表会	16. 7. 9	サトイモ培養苗の生育特性と経年変化	
生産工学	竹澤 利和 他 1 名	第 58 回北日本病害虫研究発表会	17. 2.18	組織培養手法によるリンドウこぶ症の解析	
	阿部 潤 他 1 名	第 58 回北日本病害虫研究発表会	17. 2.18	リンドウこぶ症の組織学的特徴	
	藤井 智克 他 4 名	農業機械学会東北支部		岩手県南部水田地帯における立毛間播種機利用によるダイズ・コムギ栽培の播種及び雑草管理技術	農業機械学会東北支部報 第 51 号, 19~ 22, 16.12
	阿部 節男 他 1 名	農業土木学会東北支部	16.11. 4	ホタルが棲める水路環境への改良のための試み(第 2 報) - カワナが生息できる環境改良としての石灰石施設効果 -	
	須藤 勇人 他 2 名	農業土木学会東北支部	16.11. 4	寒冷地におけるグラウンドカバープランツの動力吹付け緑化工法の実証	
	藤井 智克 他 5 名	日本農作業学会春季大会	17. 3.28 ~ 29	岩手県中南部水田地帯におけるダイズ・コムギ立毛間播種栽培の作業体系	
	藤井 智克 他 4 名	農業機械学会東北支部		岩手県南部水田地帯における立毛間播種機利用によるダイズ・コムギ栽培の播種及び雑草管理技術	農業機械学会東北支部報 第 51 号, 19~ 22, 16.12

部 所 研究室名	発表者 氏 名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	発表誌, 巻(号) 掲載ページ, 発行年月	
園芸畑作部	果樹	小野 浩司 他 2 名	第 47 回東北農 業試験研究発 表会	16. 7. 9	りんごにおける携帯型品質評価 装置の利用法	東北農業研究第 57 号
		奥平 麻里子 他 1 名	第 47 回東北農 業試験研究発 表会	16. 7. 9	1-MCP 処理によるリンゴ中生種 及び晩生種の品質保持効果	東北農業研究第 57 号
	野菜畑作	山田 修 他 2 名	第 47 回東北農 業試験研究発 表会	16. 7. 9	岩手県におけるイチゴの種子系 品種を用いた夏秋どり栽培技術	東北農業研究第 57 号
		門間 剛 2 名	第 47 回東北農 業試験研究発 表会	16. 7. 9	大豆不耕起栽培における茎疫病 発生と被害軽減対策	東北農業研究第 57 号
		荻内 謙吾 他 2 名	第 218 回日本 作物学会講演 会	16.10.21	秋播性コムギの冬期播種栽培に よるコムギ縮萎病発生抑止効 果	日本作物学会紀事 第 73 巻講演要旨集 (別号 2)
	花き	荻内 謙吾 他 2 名	日本作物学会	16.12	岩手県地方における秋播性コム ギ冬期播種栽培の播種適期と最 適播種量	日本作物学会紀事 第 73 巻第 4 号
		荻内 謙吾 他 1 名	日本作物学会	17. 3	秋播性コムギの冬期播種栽培に おける好適窒素施肥法	日本作物学会紀事 第 74 巻第 1 号
		小田島 雅	第 47 回東北農 業試験研究発 表会	16. 7. 9	岩手オリジナル小ぎく「アイマ ム」シリーズの育成と品種特性	東北農業研究第 57 号
		児玉 勝雄 千葉 賢一 他 4 名	園芸学会東北 支部平成 16 年 度大会	16. 8.20	岩手県におけるリンドウこぶ症 の発生状況について	園芸学会東北支部 平成 16 年度大会研究発 表要旨、P51-52
		生産環境部	環境保全	中野 亜弓 築地 邦晃	日本農業学会	17. 3.18 ~ 20
保鮮流通技術	関村 照吉	食品関係技術 研究会(公設 試験研究機 関)	16. 9. 8	特産作物ハトムギを利用した新 規加工品の開発 「小枝柿」の脱渋技術の確立	食品試験研究、13、 2004.9 食品試験研究、247、 2004.9	
	平淵 英利	第 47 回東北農 業研究発表会	16. 7. 8	白干しヒエの粒形を残したレト ルト粥の製造技術	東北農業研究第 57 号、 259-260(2004)、 2004.12	

部 所 研究室名	発表者 氏 名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	発表誌, 巻(号) 掲載ページ, 発行年月	
病害虫部 病理昆虫	猫塚 修一 他 2 名	日本植物病理 学会大会	16.3.28 ~ 30 (会報掲載16年度)	着果痕を伝染源とするリンゴ炭 疽病の果実感染に対する薬剤の 防除効果	日植病報 70(3), 255, 2004.8	
	猫塚 修一 他 2 名	日本植物病理 学会東北部会	16.10. 5 ~ 6	インパチエンスネクロティック スポットウイルス (INSV) によ るリンドウエそ斑紋病 (新称)	日植病報 71 (1), 48, 2005.2	
	猫塚 修一 他	北日本病害虫 研究発表会	17. 2.17 ~ 18	岩手県におけるリンゴ褐斑病の 一次感染期を主体とした防除法	投稿中	
	猫塚 修一 他 1 名	北日本病害虫 研究発表会	16. 2.18 ~ 19 (会報掲載16年度)	シプロジニル・ジラム水和剤を 用いたリンゴ斑点落葉病の防除	北日本病虫研報 55, 274,2004.12	
	勝部 和則 他 4 名	北日本病害虫 研究発表会	16. 2.18 ~ 19 (会報掲載16年度)	青森県におけるチオファネート メチル耐性コムギ赤かび病菌 <i>Fusarium culmorum</i> の発生	北日本病虫研報 55, 269,2004.12	
	勝部 和則 他 5 名	北日本病害虫 研究発表会	16. 2.18 ~ 19 (会報掲載16年度)	プロベナゾール粒剤のセルトレ イ処理と茎葉散布の体系による レタス腐敗病の防除効果	北日本病虫研報 55, 270,2004.12	
	勝部 和則 猫塚 修一	日本植物病理 学会大会	16. 3.28 ~ 30 (会報掲載16年度)	キュウリ炭そ病の病勢進展期に おける総合防除効果	日植病報 70(3), 255 ~ 256, 2004.8	
	勝部 和則 猫塚 修一	日本植物病理 学会東北部会	16.10. 5 ~ 6	ストロビルリン系殺菌剤耐性キ ュウリべと病発生圃場における 薬剤輪番散布による防除効果	日植病報 71 (1), 51, 2005.2	
	勝部 和則 他 4 名	日本植物病理 学会関東部会	16. 9.16 ~ 17	日本産ハウレンソウ萎凋病菌の 系統解析	日植病報 71 (1), 35, 2005.2	
	佐々木 直子 他 4 名	北日本病害虫 研究発表会	16. 2.18 ~ 19 (会報掲載16年度)	カルプロバミド水和剤の成型ポ ットにおける処理量と葉いもち防 除効果およびイネ体残留量の関 係	北日本病虫研報 55, 267,2004.12	
畜産研究所 家畜育種	吉田 登	第 47 回東北農 業研究会	16. 7. 9	岩手地鶏を活用した特産肉用鶏 の開発	東北農業研究第 57 号	
	阿閉 博明	第 82 回日本養 豚学会	16.10.21 ~ 22	どنگり給与と放牧が豚の肉質 に及ぼす影響		
	安田 潤平	第 104 回日本 畜産学会	17. 3.27 ~ 29	日本短角種の全期間粗飼料多給 肥育が産肉性に及ぼす影響		
	家畜飼養	山口 直己	第 54 回東北畜 産学会	16. 8.26	乳用雌育成牛の集約放牧による 発育効果	口頭発表
		児玉 英樹	第 54 回東北畜 産学会	16. 8.27	牛バイオブシー胚におけるガラ ス化保存法の比較検討	東北畜産学会報(54) 37 ページ 16.8
	家畜工学	福成 和博	東日本家畜受 精卵移植研究 会	17. 1.28	エチレングリコールとシューク ロースを用いて凍結した牛胚の 受胎率に影響する要因	東日本受精卵移植研究 会報 2036-37 17.1
		福成 和博	平成 16 年度獣 医畜産業績発 表会	17. 3.10	直接移植に適した牛胚の凍結保 存技術実証と簡易移植器の開発	発表会抄録 6 17.3

部 所 研究室名	発表者 氏 名	学 会 研究会名	開 催 年月日	発 表 課 題 名	発表誌, 巻(号) 掲載ページ, 発行年月
飼料生産	増田 隆晴	第47回東北農業試験研究発表会	16. 7. 9	細断型ロールペーラーを用いた飼料用トウモロコシの省力的収穫調製技術	東北農業研究第57号 145-146
	増田 隆晴	平成16年度岩手県獣医畜産業績発表会	17. 3.10	細断型ロールペーラー体系の作業能率向上に向けた改良ハンドラの開発	-
	増田 隆晴	日本草地学会 2005年度大会	17. 3.30	改良ハンドラを取り入れた細断型ロールペーラー体系の作業能率の向上	2005年大会要旨
	平久保 友美	平成16年度「ブランドニッポン」総合研究現地検討会	16. 8.30 ~ 31	紫波町における飼料イネの栽培と利用に関する研究	-
	平久保 友美	第43回日本雑草学会	16. 4.17 ~ 18	農耕地ワルナスビ集団の拡散実態	雑草研究第49巻別号 112-113
	平久保 友美	平成16年度飼料イネの研究と普及に関する情報交換	17. 3.10 ~ 11	飼料イネ生産と畜産物の特産化 - 紫波町しわ牛研究会の取り組み支援 -	-
外山畜産	小梨 茂	東北畜産学会 第54回大会	16. 8.26	集約放牧条件下で親子放牧した黒毛和種子牛の発育と市場評価	口頭発表
	小梨 茂	日本畜産学会 第104大会	17. 3.27	寒冷環境が黒毛和種新生子牛の免疫系に及ぼす影響	口頭発表
種山畜産	高畑 博志	東北畜産学会 第54回大会	16. 8.26 ~ 27	岩手県における黒毛和種間接検定の遺伝的趨勢について	東北畜産学会報 Vol.54 No.2 August 2004 33-34
	西田 清	東北畜産学会 第54回大会	16. 8.26 ~ 27	岩手県産黒毛和種種雄牛の凍結精液生産記録にみられる特徴	
県北農業研究所					
営農技術	高橋 昭喜 他1名	第47回東北農業研究発表会	16. 7. 9	畑地帯における大豆・小麦立毛間播種栽培の雑草管理技術	東北農業研究,57, 91-92
	高橋 昭喜 他1名	第47回東北農業研究発表会	16. 7. 9	ほうれんそう調製機に適應するほうれんそうの形質	東北農業研究,57, 215-216
	高橋 昭喜 他2名	第47回東北農業研究発表会	16. 7. 9	ながいも栽培における発酵豚ふんの利用法	東北農業研究,57, 217-218
産地育成	桐山 直盛 他1名	第58回北日本病害虫研究発表会	16. 2.17	岩手県の高冷地レタスにおける腐敗性病害の発生実態と気象要因	北日本病害虫研究会報 第56号(印刷中)
	藤井 伸行 他5名	第47回東北農業研究発表会	16. 7. 9	岩手県県北地域における宿根草・枝物の品目別収益性	東北農業研究,57, 253-254
やませ利用	長谷川 聡 他1名	第47回東北農業研究発表会	16. 7. 9	子実用ヒエの栽培条件による食味関連形質の変動	東北農業研究,57, 105-106
	藤田 智美 他2名	第47回東北農業研究発表会	16. 7. 9	岩手県北地域におけるダットンソバの栽培法	東北農業研究,57, 107-108

#### 4 雑誌等掲載

部 所 名	執筆者氏名	タ イ ト ル	掲 載 誌 名	掲載年月
企画経営情報部	前山 薫	特集 あなたのムラの直売所 産地直売で“農作業”から“農業”へ - 愛知「はなまる市」から学ぶもの	農業普及	16. 6
	佐藤 隆 前山 薫	特集 農研センター最前線!! 農業経営の確立や改善に役立つ成果を目指して	農業普及	16. 8
	井村 裕一	岩手・沖縄かけはし人事交流 来た！見た！食べた！ 沖縄のぬちぐすい	農業普及	16. 9- ~ 17. 3
	加藤 満康	生産者意識を主とした黒毛和種放牧子牛の評価	農業経営通信	16. 9
	加藤 満康	岩手県における和牛繁殖経営の展開方向と課題	農業経営通信	17. 3
	加藤 満康	酪農における農業生産法人の経営管理の実態と課題	岩手の畜産	17. 3
専門技術員室	担当専技	特集 岩手県農業研究センターで開発された主な新技術 ( 水稲・畑作物・野菜・花き・果樹・土壌肥料・ 畜産・農産加工 )	農業普及	16. 5
	田村 博明	果樹安定生産対策	J A 果樹だより	16. 4
	田村 博明	りんご薬剤摘花・果のポイント	J A 果樹だより	16. 5
	田村 博明	カルシウム剤の使用法	J A 果樹だより	16. 6
	田村 博明	りんごの夏期管理について	J A 果樹だより	16. 7
	田村 博明	果樹園の草生栽培と管理の要点	J A 果樹だより	16. 8
	田村 博明	りんごの新植・改植のポイント	J A 果樹だより	16. 9
	田村 博明	収穫後の果樹園管理	J A 果樹だより	16.12
	田村 博明	りんごの交信攪乱剤使用と課題	J A 果樹だより	17. 1
	田村 博明	今年の重点対策 結実確保と健康な樹づくり	岩手りんごタイムス	16. 4. 1
	田村 博明	凍霜害対策の効果実証	岩手りんごタイムス	16. 4.10
	田村 博明	早生種の管理について 収穫期を予測し管理を	岩手りんごタイムス	16. 8.10
	畠山 俊行	1 集落 1 農場構想へのとりくみ ~ 岩手県宮守村宮 守川上流地域 ~	農業と経済	17. 1
	大井 祥子	豆類を活用した岩手の郷土食と「食の匠」の活動	豆類時報	16. 9
	佐々木 力	ここまで来た！いわての水稲・麦・大豆	農業普及	17. 2
農産部	高橋 政夫 木内 豊 阿部 潤 高橋 修	特集 農研センター最前線!! いわて純情米をサポート	農業普及	16. 8
	高橋 政夫	特集 ここまで来た 岩手の水稲・麦・大豆 水稲栽培の省力・低コスト技術 ~ 育苗・移植栽培の省力・軽労化 ~	農業普及	17. 2
	仲條 眞介	特集 ここまで来た 岩手の水稲・麦・大豆 ここまで来た岩手の水稲品種開発	農業普及	17. 2

部 所 名	執筆者氏名	タ イ ト ル	掲 載 誌 名	掲載年月
	尾形 茂	岩手県における SU 抵抗性雑草防除・検定体制の確立にむけた取り組み	日本植物調節剤研究協会東北支部会報第 40 巻	16. 3
	阿部 潤	特集 地域興し - 復活する伝統野菜 300年の歴史を持つ「二子いも」から得たもの	農林水産技術研究ジャーナル	17. 1
園芸畑作部	高橋 大輔	季節の農作業（畑作物）	農業普及	16.6～11
	佐々木 仁	特集 農研センター最前線!! りんごの単一品種園化を目指して	農業普及	16. 8
	及川 一也	特集 農研センター最前線!! 岩手発、秋まき小麦の冬期播種栽培で麦作振興	農業普及	16. 8
	児玉 勝雄	特集 農研センター最前線!! 日本一のりんどう産地を支えるために	農業普及	16. 8
	荻内 謙吾	技術講座 小麦の冬期播種栽培	農業普及	16. 9
	奥平 麻里子	技術講座 新規鮮度保持材とりんごの長期貯蔵	農業普及	16.10
	及川 一也 荻内 謙吾	特集 ここまで来た 岩手の水稲・麦・大豆 ここまで来た麦・水田大豆の栽培技術	農業普及	17. 2
	浅川 知則	季節の農作業（西洋なし）	農業普及	17. 2
	河田 道子	りんごの生育予測と栽培管理	J A 果樹だより	16. 4
	奥平 麻里子	果樹園の除草剤の使い方	J A 果樹だより	16. 5
	浅川 知則	りんご仕上げ摘果のポイント	J A 果樹だより	16. 6
	小野 浩司	ぶどうの収穫前管理について	J A 果樹だより	16. 7
	奥平 麻里子	早生種の着色管理と落果防止剤の使用法	J A 果樹だより	16. 8
	浅川 知則	西洋なしの管理と収穫について	J A 果樹だより	16. 9
	河田 道子	りんご晩生種の着色管理と収穫	J A 果樹だより	16.10
	佐々木 仁	りんごの適期収穫と鮮度保持	J A 果樹だより	16.10
	小野 浩司	りんご園の秋期管理と樹相診断	J A 果樹だより	16.11
	奥平 麻里子	1 - メチルシクロプロペン（1-MCP）を利用した貯蔵技術	J A 果樹だより	16.12
	佐々木 仁	平成 17 年の果樹栽培について	J A 果樹だより	17. 1
	大野 浩	りんごの花芽分化と生産予測について	J A 果樹だより	17. 2
	浅川 知則	結実確保について	岩手りんごタイムス	16. 4.10
	小野 浩司	摘花・果剤の利用について	岩手りんごタイムス	16. 4.20
	河田 道子	樹相診断について 適正樹相に近づける対策を	岩手りんごタイムス	16. 6.20
	浅川 知則	夏期管理について 適期作業に努め、良品質果実を	岩手りんごタイムス	16. 6.20
	奥平 麻里子	岩手県育成りんご品種「黄香（おうか）」の特性	岩手りんごタイムス	16. 9.20



部 所 名	執筆者氏名	タ イ ト ル	掲 載 誌 名	掲載年月
	大野 浩	新・改植の進め方	岩手りんごタイムス	16.12.10
	佐々木 健治	環境に優しいりんご栽培に挑戦を	岩手りんごタイムス	17. 1. 1
	小野 浩司	果樹園芸管理のポイント・リンゴ	果実日本	16.4～12
	及川 一也	古代より伝わる食材「雑穀」を知ろう	食生活	16.11
	河田 道子	リンゴ・JM台木を使った早期成園化と技術普及	農耕と園芸	16.9
	佐々木 仁	岩手県農業研究センターにおけるリンゴ品種育成	信州の果実	17.2
	奥平 麻里子	連載『新品種の栽培技術』 リンゴ『黄香』	果実日本	17. 3
	奥平 麻里子	省力的に栽培できる美味しいりんご『黄香(おうか)』を開発	産業情報いわて	17. 3
生産環境部	築地 邦晃 伊藤 公成	特集 農研センター最前線!! 岩手のクリーンな大地から安全な農産物を食卓に!	農業普及	16. 8
	山口 悟	岩手・沖縄かけはし人事交流 うちな～んちゅだより	農業普及	16. 9 ～17. 3
	沼田 芳宏	特集 ここまで来た 岩手の水稲・麦・大豆 特別栽培米の生産支援技術および試験研究	農業普及	17. 2
	高橋 良学	果樹園の土づくり	J A 果樹だより	16.10
病害虫部	細川 健	技術講座 農薬を正しく使うために知っておきたいこと	農業普及	16. 7
	鈴木 敏男	特集 農研センター最前線!! 環境に優しい病害虫防除を目指して	農業普及	16. 8
	猫塚 修一	今年の病害防除のポイント	J A 果樹だより	16. 5
	藤沢 巧	ダニ剤使用法の留意点	J A 果樹だより	16. 6
	猫塚 修一	輪紋病と炭そ病の発生生態と防除対策	J A 果樹だより	16. 7
	猫塚 修一	リンゴ紫紋羽病の防除対策	J A 果樹だより	16.11
	藤沢 巧	りんご病害虫防除基準の主な改正点について	J A 果樹だより	17. 1
	猫塚 修一	リンゴ褐斑病の防除対策	J A 果樹だより	17. 2
	猫塚 修一	斑点落葉病と褐斑病の発生原因と防除のポイント	岩手りんごタイムス	16. 6. 1
	猫塚 修一	輪紋病と炭そ病の発生生態と防除対策	岩手りんごタイムス	16. 6.10
	藤沢 巧	殺ダニ剤の使用法について	岩手りんごタイムス	16. 6.10
	藤沢 巧	病害虫防除基準の改正点 新たに生物農薬を採用	岩手りんごタイムス	17. 1. 1
	鈴木 敏男	箱苗施用剤は2～3年に1回で十分かも	現代農業	17. 3
	猫塚 修一	リンドウ褐斑病の発生生態と防除対策	今月の農業	16. 9
畜産研究所	山口 直己	哺乳ロボットを応用した省力管理技術の確立	農業普及	16. 8
	吉川 恵郷	受精卵移植技術の普及拡大のために	農業普及	16. 8
	川畑 茂樹	省力的で環境に優しい飼料用トウモロコシ栽培技術の確立に向けて	農業普及	16. 8
	谷藤 隆志	新規研究課題の取り組み概要	農業普及	16. 8

部 所 名	執筆者氏名	タ イ ト ル	掲 載 誌 名	掲載年月
	阿閉 博明 吉田 登 安田 潤平	地域資源を活用した安全安心な肉牛・豚・鶏生産技術	農業普及	16. 8
	菊池 善彦	黒毛和種優良種雄牛の作出	農業普及	16. 8
	吉川 恵郷	受精卵移植技術の普及拡大のために	農業普及	16. 8
	児玉 英樹	畜産の研究(9) 先端技術による種雄牛造成	岩手の畜産	16. 4
	濱戸 もえぎ	畜産の研究(10) 被覆シートを活用した堆肥化の試み	岩手の畜産	16. 5
	外山畜産 研究室	畜産の研究(11) パドックの泥浄化改善技術	岩手の畜産	16. 6
	西田 清	畜産の研究(12) 黒毛和種間接検定情報	岩手の畜産	16. 7
	高畑 博志	全国トップクラスの肉量・肉質！ 県有基幹種雄牛「菊茂勝」号の脂肪交雑の育種価もトップクラス	岩手の畜産	16. 7
	増田 隆晴	畜産の研究(13) ソルガムのロールラップサイレージ調製技術	岩手の畜産	16. 8
	松木田 佑子	畜産の研究(14) 搾乳ロボットによる多回搾乳の繁殖への影響	岩手の畜産	16. 9
	平久保 友美	イネホールクロップサイレージの栄養特性	岩手の畜産	16. 9
	福成 和博	畜産の研究(15) ダイレクト移植技術の検討	岩手の畜産	16.10
	畜産研究所	黒毛種雄牛の動向テーマに畜産指導者セミナーを開催	岩手の畜産	16.10
	平久保 友美	畜産の研究(16) イネ発酵粗飼料の品質について	岩手の畜産	16.11
	佐藤 真	畜産の研究(17) カキ殻の牧草地への利用	岩手の畜産	16.12
	安田 潤平	畜産の研究(18) 日本短角種産肉能力検定情報	岩手の畜産	17. 1
	山口 直己	畜産の研究(19) 自動哺乳装置を用いた乳用雌子牛の発育効果	岩手の畜産	17. 2
	佐藤 洋一	畜産研究所における牛の遺伝子研究の現況	岩手の畜産	17. 3
	吉田 登	幻の岩手地鶏を活用した特産肉用鶏の開発	養鶏の友	16.12
	吉田 登	岩手地鶏を活用した特産肉用鶏の開発	H15 岩手県畜衛生年報	16. 6
県北農業研究所	櫻井 一男	特集 農研センター最前線!! 県北農業の未来を拓く技術の確立と実証	農業普及	16. 8
	長谷川 聡	岩手県における雑穀振興への取り組みと課題	農業技術	第 59 巻 第 12 号 (2004 年 12 月号)

## 5 新聞等掲載

部所名	記事見出し(内容)	掲載紙名	掲載年月日
総務部	農具の変遷 資料で紹介 企画展「家畜を利用した農作業」 北上・農業科学博物館	岩手日日	16. 4. 7
	農作業の変遷を紹介	広報誌いわにちりピング	16. 5.15
	26日まで企画展 家畜を利用した農作業 北上・農業科学博物館	岩手日日	16. 6.21
	触ってクイズに答えて岩手の農業を楽しく学ぶ	冊子わくわくランド	16. 6.30
	夏の公園散策	岩手日報	16. 7.11
	枡や秤で計量を体験 むかしの用具ではかってみよう 北上・県立農業博物館で企画展	岩手日日	16. 7.15
	この夏親子で訪ねたい全国酪農博物館リスト	月刊誌デーリーマン	16. 8. 3
	企画展むかしの用具ではかってみよう	広報誌いわにちりピング	16. 8.28
	脱穀用具の歴史一堂に 北上・農業科学博物館で企画展	岩手日日	16.10.18
	懐かしの農具集め企画展 農作業の知恵、工夫紹介 北上・農業科学博物館	岩手日日	16.11.20
	石臼使い製粉体験 北上の農業科学博物館 農具展示し企画展	岩手日報	16.12. 1
	落ち着いた空間へ。冬の企画展めぐり	広報誌いわにちりピング	16.12. 8
	昭和初期までの婚礼と育児 多彩な資料で紹介 北上・農業科学博物館の企画展	岩手日日	17. 1.24
	明治から昭和の育児や婚礼展示 岩手・北上市の農業科学博物館	日本農業新聞	17. 2. 1
	企画展「嫁入りと子育て」	広報誌いわにちりピング	17. 2.19
	嫁入り、子育ての歴史紹介 北上、農業科学博物館企画展	岩手日日	17. 2.27
	企画展「嫁入りと子育て」	月刊誌 ビビット	17. 3. 1
企画経営情報部	本部と滝沢、軽米の研究所 12日から一般公開 県農業研究センター・北上	岩手日日	14. 4. 4
	12日から一般公開 北上の県農研センターなど	岩手日日	14. 4. 7
	一般公開始まる 北上の県農業研究センター	岩手日報	16. 4.13
	研究成果 一般にお披露目 岩手生物工学研究センター 県農業研究センター	岩手日日	16. 4.15
	地域面がわかる 県農業研究センターとはどんな組織?	毎日新聞	16. 5.21
	子供農業研究員を募集 県農業研究センター	日本農業新聞	16. 7. 1
	蚕を観察しよう 一日子供農業研究員を募集 北上・農研センター	岩手日日	16. 7. 6

部所名	記事見出し(内容)	掲載紙名	掲載年月日
	気象と農業の関係テーマに 29日に公開シンポ 北上・農研センター	岩手日日	16.7.20
	あす北上で公開シンポ 日本農業気象学会東北支部	岩手日日	16.7.28
	専門家4人が研究発表 日本農業気象学会東北支部 北上で公開シンポ	岩手日日	16.7.30
	天候に対応し計画的生産も 日本農業気象学会東北支部	日本農業新聞	16.8.1
	気分は「農業研究員」 児童が蚕観察 農研センター 北上	岩手日日	16.8.5
	子供農業研究員 蚕の飼育を学ぶ 岩手県農業研究センター	日本農業新聞	16.8.10
	県民の窓 No.21 岩手県農業研究センター参観デー開催のお知らせ	岩手日報	16.8.22
	来月3、4日に「参観デー」 セミナーなど多彩に 県農業研究センター 北上	岩手日日	16.8.25
	明日から施設公開 農研センターと生物工学研究所	日本農業新聞	16.9.2
	研究成果を紹介 県生物工学研究所、農研センター 北上・施設を一般公開 体験コーナー等開設	岩手日日	16.9.5
	いわてフラワーカーニバル 花き生産者の力作並ぶ	岩手日日	16.9.5
	農林水産大臣賞に伊藤重一さん いわてフラワーコンテスト	日本農業新聞	16.9.5
	農林水産物で知財活用促す 岩手県、全国初の相談窓口	日本経済新聞	16.11.9
	岩手県 農林水産物の新品種、加工品 知的財産化へ支援窓口 ブランド化で競争力強化	河北新報	16.11.10
	北上に相談センター 農林水産の知的財産化促進 あす開所式 県農研センターへ設置	岩手日日	16.11.10
	知的財産分野で生産者支援 相談センター開所 県農研センター内 農林水産で全国初 北上	岩手日日	16.11.12
	農林水産にも知的財産 北上 県が相談センター開所	岩手日日	16.11.12
	農林水産知財センター開所 県、特許出願など相談対応	岩手日報	16.11.12
	特許や品種登録... 農家の知的財産保護 岩手県 「相談センター」を設立	日本農業新聞	16.11.12
	農林水産関係の知恵やノウハウ 知的財産化お手伝い 県がセンター開設	読売新聞	16.11.13
	農林水産物ブランド化へ全国初 知的財産権取得を支援促進 北上に県が窓口	毎日新聞	16.11.15
	日報アンテナ 岩手農林水産知的財産相談センター	岩手日報	16.11.17
	人 いわて農林水産知的財産相談センターのアドバイザー 佐藤清子さん	岩手日報	16.11.19
	知的財産権 農林水産業も創意工夫で	河北新報	16.11.22
	「知的財産立県」遠く 県内弁理士わずか1人 守りたい研究開発 産業振興へ重い役割	岩手日報	16.11.28
	県農研センター 「繭」テーマの体験学習 5年生対象に来月7日 北上	岩手日日	16.12.5
	来月7日 まゆと生糸を学ぼう 県が「一日子供農業研究員」を募集中	毎日新聞	16.12.7

部所名	記事見出し(内容)	掲載紙名	掲載年月日
	来月、小学5年生対象に一日研究員 県農業研究センター	岩手日日	16.12.20
	繭と生糸をテーマに 県農業研究センター 7日に子供研究員 北上	岩手日日	17. 1. 1
	養蚕に理解深める 県農業研究センター—日子供研究員 県南から12人参加 北上	岩手日日	17. 1. 8
	戸惑いながら児童が糸作り 岩手・北上市で「繭と生糸の研究」	日本農業新聞	17. 1. 9
	繭から糸紡げたよ 北上で一日農業研究員 多彩な体験、熱心に	岩手日報	17. 1. 9
	かけがえない収穫 かけはし交流 岩手 沖縄 井村さん 沖縄 岩手 山口さん	岩手日報(夕刊)	17. 3. 7
専門技術員室	日報アンテナ 高温に関する農作物技術情報を発表	岩手日報	16. 8. 1
	県産米 稲刈り今週末本格化 2000年以來、豊作基調 県が適期実施呼び掛け 価格面に懸念も	岩手日報	16. 9.16
	黄金色 ずっしり 県内稲刈り本格化	岩手日報	16. 9.19
	水稻の品質低下懸念 台風で県内刈り取り遅れ	岩手日報	16.10.24
	農業に喜び 夢は消費者への直接販売 ヤングミセス交流会で発表	盛岡タイムス	16.12.16
	「愛農土塾」初の出張 経営改善へ意欲新た 花巻地方農業振興協 石鳥谷、東和で開催	岩手日日	16.12.23
	家族経営協定 調印の参考に 北上地方交流会 4人が事例発表	岩手日日	17. 2.15
	実践から基本を学ぶ 好評 小枝柿剪定講習	東海新報	17. 2.18
	家族の風景 協定で「職場」改善 担い手育てる契機に	岩手日報	17. 3.11
農産部	緑、緑 県内田植えピーク 冷害教訓今年こそ 耐冷品種導入進む コメ政策改革初年度 作付け増加地域も	岩手日報	16. 5.16
	暑さから農畜産物守れ 連日好天 喜んでばかりも... 水稻 県「水管理徹底を」	岩手日報	16. 7.24
	31日に稲作技術対策会議 県農業研究センター 北上	岩手日日	16. 8.26
	適期刈り取り徹底を 稲作 北上で技術対策会議 県内から100人参加	岩手日日	16. 9. 1
	稲刈り適期10日以上早い 県農研センターが技術会議	岩手日日	16. 9. 2
	秋の味覚 「今年は稲にとって良い生育環境だった」 県農研センター	読売新聞	16. 9. 6
園芸畑作部	短日処理でイチゴ夏秋採りへ 東北農研センターと各県農試 ケーキ需要に対応	日本農業新聞	16. 5.15
	冬まき小麦の技術確立 越冬前の作業不要 収量、品質も安定 北上の県農業研究センター	岩手日報 (夕刊)	16. 6.15
	陸前高田のオビルピー八栽培 国庫補助事業に採択 産学官で生産・販売体制	岩手日報	16. 9.28
	第51回全国リンゴ研究大会 期待高まる優良19種	日本農業新聞	16. 9.29

部所名	記事見出し(内容)	掲載紙名	掲載年月日
	ここに注目 営農技術(12) 小麦の冬期播種栽培 雪解け後、排水対策が鍵	日本農業新聞	16.10.4
	一関のアグリパーク舞川 小麦、大豆本格栽培へ 大区画ほ場 2年3作で有効利用	岩手日日	16.12.17
	2年3作で経営安定 岩手・一関市の農事組合法人 小麦の冬まき本格化	日本農業新聞	16.12.21
	生産者から課題聞く 産地で研究会 リンドウ、小菊テーマに	岩手日日	16.11.6
	県産小麦の普及図る 盛岡で試食会	岩手日報	17.2.12
	リンゴの新品種「黄香」端境期に収穫 消費拡大狙う 県農研センター開発 歯ごたえ、豊かな果汁が特徴	岩手日日	17.2.25
生産環境部	美肌効果 ハトム麦、ペーストになる アイスクリームを試作 県農業研究センター衣川村の依頼で開発	毎日新聞	16.4.16
	ハトムギペースト開発 岩手農研センターが製造法 夏にも生産開始	日本農業新聞	16.4.21
	ペースト状ハトムギ茶 高温加熱し濃縮 加工食品への利用期待 県農業研究センター開発	岩手日報	16.4.22
	豊かな土分かる 炭素含有量を簡易分析 パソコン使用全国初の手法 県農業研究センター	岩手日報	16.5.2
	JICA 研修員受け入れ 特産物加工技術習得へ 北上・農研センター タイのカノコン・ジャルジャリーさん	岩手日日	16.5.12
	パソコンで土壌診断 炭素含有量を推測 スキャナー使い検査コスト低減 岩手県農研センター	日本農業新聞	16.5.19
	スキャナーを使い土壌炭素数分で推定 有機栽培PRに期待 県農業研究センター開発	毎日新聞	16.5.20
	ハトムギでアイスや団子	岩手日日新聞	16.6.22
	ハトムギでアイスや団子 衣川村が試作「おらほの主力商品に」	読売新聞	16.6.25
	食の安全に大きな使命 北上・県農業研究センターにハンガリー研修生 残留農薬の分析学ぶ 低コスト簡易手法習得へ 母国で普及誓う	岩手日報	16.9.25
	耕畜連携で環境保全 農業シンポ 推進策を探る	岩手日日	17.3.11
病害虫部	フィルム+天敵 ビーマンの病害虫抑制 ハウス栽培新技術 作業時間4分の1に	日本農業新聞	14.4.3
	ここに注目 営農技術(2) 簡易調査で要否判断 水稻害虫防除	日本農業新聞	16.4.18
	地域面がわかる Q 稲に寄生する害虫カメムシの特徴は	毎日新聞	16.8.14
	露地夏秋キュウリの総合防除技術	農業共済新聞	16.6.16

部所名	記事見出し(内容)	掲載紙名	掲載年月日
畜産研究所	増体能力の改良が課題 東北 黒毛種雄牛たねうし事情	日本農業新聞	16. 4. 7
	デントコーンのラップサイレージ～省力化し品質も向上	農業共済新聞	16. 5. 5
	ここに注目 営農技術(3) 収穫調整作業を省力化 細断型ロールペーラ	日本農業新聞	16. 5.16
	全国トップ級の品質 県産種雄牛のエース誕生 名牛の血を引く「菊茂勝」に期待 県農業研究センター所有	岩手日報 (夕刊)	16. 5.24
	種牛のエース登場 霜降り度合い 県歴代1位 岩手	河北新報	16. 5.28
	県所有の種牛「菊茂勝」 霜降り度全国2位に	読売新聞	16. 6. 3
	「菊茂勝」BMSが過去最高 肉牛生産振興に弾み 岩手	日本農業新聞	16. 6. 4
	カキ殻敷いてぬかるみ解消 岩手の畜産農家 牛の健康管理“お安く”	日本農業新聞	16. 9.10
	牛で県畜産研究所クローン検定に成功 肉質確認、3.5年に短縮	毎日新聞	16.10. 8
	種牛の「クローン検定」に成功	河北新報	16.10.8
	鶏王国いわて 一層の飛躍を期して 記念物を食べる?特産肉の開発成功 新品種、味に深み	岩手日報	17. 1. 1
	古来の野性 岩手地鶏 「絶滅」から再発見、現在400羽 飛ぶ性質残る 色鮮やかな羽	読売新聞	17. 1. 1
	牛の受胎率大幅アップ 新移植器を開発、岩手県	東奥日報	17. 3. 2
	牛の受胎率大幅アップ/新移植器を開発、岩手県	四国新聞社	17. 3. 2
	牛の受胎率大幅アップ 新移植器を開発、岩手県	熊本日日新聞	17. 3. 2
	牛の受胎率大幅アップ 新移植器を開発、岩手県	神戸新聞	17. 3. 2
	牛の受胎率大幅アップ - 新移植器を開発、岩手県	サンスポ	17. 3. 2
	牛の受胎率大幅アップ 新移植器を開発、岩手県	徳島新聞	17. 3. 2
	牛の受胎率大幅アップ 新移植器を開発、岩手県	大分合同新聞社	17. 3. 2
	牛の受精卵簡単移植 岩手で機器開発 受胎率大幅アップ	南日本新聞	17. 3. 3
	牛の受精卵移植容易に 岩手畜産研、簡易器具を開発	河北新報	17. 3. 8
	岩手県農業研究センター、受胎率向上の受精卵簡易移植器を開発 牛受 胎率60%に高める	日本経済新聞	17. 3. 9
	受胎率が飛躍的に向上 牛の簡易移植器を開発	盛岡タイムス	17. 3. 9
牛の受胎率大幅アップ 新移植器を開発、岩手県	宮崎日日新聞	17. 3.14	
牛の受胎率大幅アップ 新移植器を開発、岩手県	山梨日日新聞	17. 3.14	
自動哺乳装置を用いた乳用新生雌子牛の発育効果	開拓情報	17. 3.15	

部所名	記事見出し(内容)	掲載紙名	掲載年月日
県北農業研究所	そばで食すダルマひえ 軽米町試作 風味豊か、好評 特産化 つるつるといけそう	岩手日報	16. 5.16
	ダルマヒエ そばへの加工で生産拡大に弾み	農業共済新聞	16. 7.14
	遺伝資源センター開所 雑穀生産の振興に拠点 軽米 優良種子の供給に期待	岩手日報	16.10.13
	岩手県が全国初の雑穀資源センター	日本農業新聞	16.10.13
	雑記帳 雑穀遺伝資源センター開設	毎日新聞	16.10.13
	オリジナル品種育成へ、雑穀遺伝資源センターを設置 = 岩手県	日刊アグリ・リサーチ	16.10.15
	人 新設された県雑穀遺伝資源センター所長 桜井一男さん	岩手日報	16.10.18
	声(読者からの投稿) 雑穀の復活へ センター期待	岩手日報	16.10.20
	岩手に雑穀遺伝資源センター 新品種作りへ全力 特産化に弾み	日本農業新聞	16.10.22
	声(読者からの投稿) 素性のわかる雑穀生産して	岩手日報	16.10.30
	論説 脚光浴びる雑穀 秘めた可能性が魅力的	日本農業新聞	16.11.12
	岩手の雑穀 味や色改良 県、5年後にも新品種 健康志向追い風、種の保存も	日本経済新聞	16.11.18
	雑穀の増産機運高まる 岩手県二戸地方 技術情報を交換、共有 生産者交流も	日本農業新聞	16.11.29
	雑穀遺伝資源センター新設 県 良質な種保存し、量産へ	読売新聞	16.12.14
	雑穀産地化へ連携 岩手・二戸地方でフォーラム 農家・研究者が交流	日本農業新聞	16.12.15
	雑穀文化 地道に発信 軽米でフォーラム 生産者が意見交換	岩手日報	16.12.16
	ここに注目 営農技術 ウルイの早出し連続出荷	日本農業新聞	17. 2.20
	周年生産確立目指す 岩手県立農大校 アスパラ栽培で研修会	日本農業新聞	17. 2.22
	雑穀で所得倍増を 健康ブームに乗って人気 各地で作付け増の取り組み	毎日新聞	17. 3.15



## 6 テレビ・ラジオ放送

### (1) テレビ

部所名	出演者氏名	内 容	放送局名	放送年月日
農産部	中野 央子 木内 豊	ザ・ナビゲーター 2 「今、コメを考える ～2004 国際コメ年～」	テレビ岩手	16.10.23
	小田中温美 高橋 政夫	楽茶間（美味しいお米の条件）	岩手朝日テレビ	16.10.30
園芸畑作部	及川 一也	コムギの新しい品種でパンの試食会	NHK	17. 2.10
畜産研究所	吉田 登	「じゃじゃじゃ TV」 岩手地鶏を活用した特産肉用鶏の開発	IBC テレビ	17. 1.22
県北農業研究所	長谷川 聡	おはよう岩手 （雑穀遺伝資源センターの取り組みについて）	NHK	16.11. 8

### (2) ラジオ 番組名「おはよう今日も元気で」

部所名	出演者氏名	内 容	放送局名	放送年月日
企画経営情報部	松澤 一志	岩手県の酪農経営体の発展過程と支援方向	IBC ラジオ	16. 4. 9
	加藤 満康	酪農の発展過程	〃	16. 4.23
	前山 薫	農産物直売所での IT 活用	〃	16. 7. 2
	阿部 哲哉	野菜作経営を対象としたグリーンヘルパー導入の効果とポイント	〃	16. 7.23
	松澤 一志	参観デーの開催について	〃	16. 8.27
	田代 勇樹	ケーキ店へのアンケートについて	〃	16.11. 5
農産部	阿部 弘	サトイモ培養苗の現地試験について	〃	16. 5.21
	大里 達朗	水稲ロングマット水耕苗の育苗・移植技術について	〃	16. 6.11
	白井 智彦	水稲の生育状況と今後の管理について	〃	16. 7.16
	中野 央子	いもち病に強い品種育成について	〃	16. 8.20
	及川 あや	水稲の登熟状況と刈り取り適期について	〃	16. 9.10
	藤井 智克	大豆・小麦立毛間播種栽培について	〃	16.11.12
	白井 紀子	米の品種識別技術について	〃	16.12.17
	田村 和彦	お米の食味について	〃	17. 1.21
	須藤 勇人	グラウンドカバープランツについて	〃	17. 2.18
	尾形 茂	水稲育苗管理と雑草防除について	〃	17. 3.17
園芸畑作部	河田 道子	りんごの生育と春期管理	〃	16. 4. 2
	高橋 大輔	はとむぎの新品種「東北3号」について	〃	16. 5.28
	土田 典子	ピーマンウィルスの抵抗性品種について	〃	16. 6.18
	小田島 雅	小ぎく「アイマム」シリーズの特徴と導入方法について	〃	16. 7.30
	浅川 知則	りんご早生種の収穫と中生種の管理について	〃	16. 9. 3

部所名	出演者氏名	内 容	放送局名	放送年月日
	奥平 麻里子	りんご中生種の収穫と晩生種の管理について	IBC ラジオ	16.10.8
	荻内 謙吾	小麦の冬期播種栽培技術体系について	"	16.11.19
	葛巻 美知子	りんどうの促成・半促成栽培について	"	16.12.24
	小野 浩司	りんごの作柄予想と冬期管理について	"	17.2.4
	千葉 賢一	りんどうの春期管理について	"	17.3.4
生産環境部	高橋 良学	水稻の追肥と米の品質・食味について	"	16.7.9
	関村 照吉	加工工房について	"	16.9.24
	沼田 芳宏	特別栽培農作物に対応した水稻防除体系の組立	"	16.10.22
	佐藤 千秋	土壌診断に基づく土づくり	"	16.12.10
	穴戸 貴洋	寒じめほうれんそうの内部品質評価について	"	17.1.14
	中野 亜弓	作物のカドミウム吸収特性について	"	17.3.11
病害虫部	猫塚 修一	今年のりんご病害防除	"	16.4.30
	千葉 克彦	水稻病害虫の発生状況について	"	16.8.13
	藤沢 巧	環境にやさしい害虫防除技術について	"	16.10.29
畜産研究所	児玉 英樹	牛における雌雄生み分け技術の現状	"	16.4.1
	吉田 登	岩手地鶏を活用した特産肉用鶏の開発	"	16.6.16
	濱戸 もえぎ	たい肥の適正な処理について	"	16.6.25
	松木田 裕子	乳牛の暑熱対策	"	16.8.6
	増田 隆晴	細断型ロールペーラによる飼料用トウモロコシの省力的収穫技術	"	16.9.17
	西田 清	黒毛和種産肉能力検定成績について	"	16.10.15
	小梨 茂	肉用牛の効率的集団繁殖・育成技術	"	16.12.3
	茂呂 勇悦	泌乳牛における主要アミノ酸給与量の調整による飼料中粗蛋白質含量の低減について	"	16.12.31
	福成 和博	多生子の血液キメラと遺伝子検査	"	17.1.28
	安田 潤平	日本短角種の種雄牛づくり	"	17.2.25
	高畑 博志	いわての種雄牛づくり	"	17.3.25
県北農業研究所	長谷川 聡	雑穀遺伝資源の収集と保存について	"	16.5.7
	松浦 拓也	いわてっこの生育栄養診断	"	16.5.14
	高橋 昭喜	ほうれんそう栽培の機械化について	"	16.10.1
	三浦 利奈	レタスの腐敗性病害の防除対策	"	16.11.26
	藤井 伸行	宿根草の有望品目と栽培法	"	17.1.7
	藤田 智美	ダットンソパの栽培について	"	17.2.11

## 7 指導資料等掲載

部所・研究室名	執筆者氏名	タイトル	掲載資料名	発行年月
企画経営情報部				
農業経営	田代 勇樹	短日処理育苗による二期どり栽培 4. 経営面から見た分析・考察	夏秋どりイチゴ栽培マニュアル	17. 3
	阿部 哲哉	・省力機械の共同購入利用による経営改善 ・流通改善方策 ・機械化一貫体系の実証	ねぎ栽培マニュアル	17. 3
農産部				
水田作	小田中 温美	稲作指導指針（食味・品質）	平成 17 年度稲作指導指針	17. 3
	尾形 茂	稲作指導指針（育苗、雑草防除）	〃	〃
	臼井 智彦	稲作指導指針（水管理）	〃	〃
水稻育種	及川 あや	稲作指導指針（刈り取り適期）	〃	〃
	仲條 眞介	稲作指導指針（品種特性）	〃	〃
生産工学	大里 達朗	稲作指導指針（収穫・乾燥・調製）	〃	〃
水田作	尾形 茂 臼井 智彦	水田雑草防除及び水稻用成長調整剤使用基準	平成 17 年度岩手県農作物病害虫・雑草防除基準	17. 2
水田作	及川 あや	水稻品種特性表（中晩生種）	農業便利帳	17. 3
やませ利用	漆原 昌二	水稻品種特性表（早生種）	〃	〃
生産工学	大里 達郎 藤井 智克 高橋 修	岩手県高性能農業機械導入計画（利用規模の下限面積の積算基礎ほか）	岩手県高性能農業機械導入計画（5 年毎に改訂）	16.12
生産工学	大里 達郎 阿部 節男 須藤 勇人	岩手県畑作物指導指針（水田農業における排水対策）	岩手県畑作物指導指針	17. 3
	藤井 智克	〃 （研究成果の概要）	〃	〃
生産工学	大里 達朗	岩手県産ねぎの経営改善マニュアル 定植・管理作業の機械化、防除作業の機械化、 収穫機・調製機の導入と利用技術	岩手県産ねぎの経営改善マニュアル	17. 3
園芸畑作部				
果樹	佐々木 仁	主要果実の栽培技術（りんご、ブルーベリー）	平成 17 年度果樹指導要項	17. 3
	鈴木 哲	〃 （りんご、ぶどう）	〃	〃
	小野 浩司	〃 （ぶどう、西洋なし）	〃	〃
	河田 道子	〃 （りんご、もも）	〃	〃
	奥平 麻里子	〃 （りんご、おうとう）	〃	〃
	浅川 知則	〃 （りんご）	〃	〃

部所・研究室名	執筆者氏名	タイトル	掲載資料名	発行年月
野菜畑作	山田 修	品目別栽培技術指針 きゅうり	平成 17 年度野菜栽培技術指針	17. 3
	土田 典子	品目別栽培技術指針 ピーマン	〃	〃
	高橋 大輔	品目別栽培技術指針 ばれいしょ	〃	〃
野菜畑作	荻内 謙吾	畑作物指導指針 小麦、大麦	岩手県畑作物指導指針	17. 3
	門間 剛	畑作物指導指針 大豆	〃	〃
	高橋 大輔	畑作物指導指針 小豆	〃	〃
	及川 一也	畑作物指導指針 はとむぎ	〃	〃
花き	川村 浩美	品目別栽培技術指針 鉢物りんどう	平成 17 年度花き栽培技術指針	17. 3
	千葉 賢一	品目別栽培技術指針 りんどう りんどうこぶ症	〃	〃
	葛巻 美知子	品目別栽培技術指針 枝物花木（洋種）	〃	〃
	小田島 雅	品目別栽培技術指針 小ぎく	〃	〃
南部園芸	志田 たつ子	品目別栽培技術指針 アネモネ	〃	〃
	千田 裕	品目別栽培技術指針 いちご	平成 17 年度野菜栽培技術指針	17. 3
生産環境部				
環境保全	沼田 芳宏	担当分野執筆	平成 17 年度水稲栽培技術指針	17. 3
土壌作物栄養	佐藤 千秋	花き栽培の土づくり	平成 17 年度花き栽培技術指針	17. 3
		花き栽培における施肥管理 転作田における排水対策		
	高橋 良学	担当分野執筆	平成 17 年度水稲栽培技術指針	17. 3
	小田島ルミ子	担当分野執筆	平成 17 年度野菜栽培技術指針	17. 3
	研究室全員	全ページ執筆	土壌環境・作物分析の手引き	
保鮮流通技術	関村 照吉	りんごジュース製造	平成 17 年度果樹指導要項	17. 3
		小枝柿の炭酸ガス脱渋技術	〃	
	平淵 英利	りんごの鮮度保持	〃	
		西洋なしの追熟	〃	
		野菜の鮮度保持	平成 17 年度野菜栽培技術指針	17. 3
		花きの鮮度保持	平成 17 年度花き栽培技術指針	17. 3
	穴戸 貴洋	RQ フレックスを用いたほうれんそうの生体 中硝酸分析手法について	平成 17 年度野菜栽培技術指針	17. 3

部所・研究室名	執筆者氏名	タイトル	掲載資料名	発行年月
病害虫部				
病理昆虫	鈴木 敏男 藤沢 巧 勝部 和則 猫塚 修一 佐々木 直子	病害虫防除基準・鳥獣害防除基準	平成 17 年度岩手県農作物病害虫・雑草防除基準	17.2
	鈴木 敏男	稲作指導指針（害虫）	平成 17 年度稲作指導指針	17. 3
	佐々木 直子	稲作指導指針（病害）	”	”
	勝部 和則	畑作物指導指針（病害虫）	平成 17 年度畑作物指導指針	17. 2
	藤沢 巧	果樹指導要項（害虫）	平成 17 年度果樹指導要項	17. 3
	猫塚 修一	果樹指導要項（病害）	”	”
	藤沢 巧	野菜栽培技術指針（害虫）	平成 17 年度野菜栽培技術指針	17. 3
	勝部 和則	野菜栽培技術指針（病害）	”	”
	藤沢 巧	主要害虫の発生消長と防除対策	岩手県産ねぎの経営改善マニュアル	17. 3
	鈴木 敏男	花き栽培技術指針（害虫）	平成 17 年度花き栽培技術指針	17. 3
	猫塚 修一	花き栽培技術指針（病害）	”	”
畜産研究所				
飼料生産	平久保 友美	飼料作物優良品種特性表	牧草・飼料作物生産利用指針	17. 3
家畜育種	安田 潤平	日本短角種産肉能力検定	岩手の畜産	17. 1
家畜育種	安田 潤平	トウモロコシサイレージ多給による良質短角牛肉の生産	”	17. 3
県北農業研究所				
産地育成	高橋 聡子	ダイコン	平成 17 年度野菜栽培技術指針	17. 3
	茂市 修平	ウルイ	”	”
	藤井 伸行	枝物・花木類	平成 17 年度花き栽培技術指針	17. 3
	高橋 聡子	花壇苗（アリッサム他）	”	”
	高橋 聡子	だいこん	たのしく作れるいわての花・野菜	17. 3
	目時 梨佳	二十日だいこん	”	”
	茂市 修平	うるい（おおぎぼうし）、ぎょうじゃにんにく	”	”
	藤井 伸行	シバザクラ、アジュガ・レプタンス	”	”
	高橋 聡子	ヒベリカム・ヒデコート、ヘデラ・ヘリックス	”	”
やませ利用	長谷川 聡	ヒエ、アワ、キビ、アマランサス、タカキビ	岩手県畑作物指導指針	17. 3
	藤田 智美	ソバ（ダツタンソバを含む）	”	”

## 8 トライアングル

発行年月日	主 内 容
16. 7. 1 (No.31)	1 巻頭言 「猫の時代」 農業研究センター総務部長 稲葉 廣次 2 トピックス (1)安全・安心な水稲栽培技術の総合実証 環境保全研究室 (2)土壌固化材を利用したシート利用簡易堆肥処理施設 飼料生産研究室 (3)ロングマット水耕苗で苗運搬の省力・軽労化を図る 生産工学研究室 (4)環境との調和に配慮する水路 生産工学研究室
16.10. 1 (No.32)	1 巻頭言 「「定年帰農」雑感」 農業研究センター企画経営情報部長 齋藤 恭 2 トピックス (1)露地きゅうりにおける病害虫総合防除技術 病理昆虫研究室 (2)夏ほうれんそう日本一産地「西根町」現地ふれあい農業研究センターに集う！ 県北農業研究所 (3)トマト軟化果発生対策現地検討会が開催されました 野菜畑作研究室
17. 1. 4 (No.33)	1 巻頭言 「自然を探求する」 農業研究センター農産部長 仲谷 房治 2 トピックス (1)沖縄県の農業の特徴と派遣交流での取組み 農業経営研究室 (2)改良普及員を対象とした「集落型経営体育成プロジェクト研修」の実施について 専門技術員室 (3)農業研究センター本部での総合消防訓練の実施について（報告） 総務部総務課 (4)農業研究センター参観デーについて（報告） 企画情報室
17. 3. 18 (No.34)	1 巻頭言 「「成果主義」に思う」 農業研究センター園芸畑作部長 佐々木 健治 2 研究成果報告 (1)冷めてもおいしい在来ひえ系統「もじゃっぺ」 やませ利用研究室 (2)耐冷性・耐病性に優れる良質・良食味 中生粳水稲「岩手 68 号」 水田作研究室 (3)雨よけほうれんそうの体内硝酸イオン濃度低減化のための栽培技術 土壌作物栄養研究室 (4)岩手の農村には生き物がたくさん - 里地・里山の生き物データベース - 環境保全研究室 (5)待望のりんどう新品種候補が誕生しました 花き研究室 (6)水稲の生物農薬の特徴と効果的な使用方法 病理昆虫研究室 (7)水田作を中心とした集落型法人の課題と展開方向 農業経営研究室 (8)受精卵移植操作を容易にした簡易受精卵移植器の開発 家畜工学研究室

## 9 図書資料収集・提供

項 目	冊数・人数
総蔵書数	6 4 , 2 5 3 冊
平成 16 年度収集図書数	3 , 2 8 0 冊
図書館利用者数（延べ）	5 1 3 名
同貸し出し冊数	7 8 4 冊

数値はいずれもセンター本部のみ

## 10 ホームページ

項 目	件 数	内 訳	
入力件数	研究レポート	5 1	
	試験研究成果	2 9 1	平成 15 年度成果 147 件、16 年度成果 144 件
	研究報告類	6	研究報告第 4 号 2 件、研究要報第 4 号 4 件
	トライアングル	4	トライアングル No.30 ~ 33
	行事予定	1 8	
	各種資料	6	冷害誌、外部評価結果、平成 15 年度年報、品種等
	農業科学博物館	8	企画展第 22 回 ~ 第 25 回、ほか
	トピックス、その他	4	一日子供農業研究員、ほか
アクセス件数	トップページ	2 4 , 7 5 0	
	総ページビュー	1 , 1 1 7 , 7 8 2	

## V 指導・啓発活動





## 1 技術伝達研修等の実施

担当部所	開催期日	開催場所	内 容	参集人員	
企画経営情報部	17. 1.19 ~ 21	農業研究センター	平成 16 年度新技術普及指導検討会（果樹） 果樹、農業経営、応用生物学、病理昆虫、 土壌作物栄養、保鮮流通技術	22 名	
	17. 1.20 ~ 21	農業研究センター	（作物） 水田作、水稻育種研究室、応用生物学、 生産工学、病理昆虫、土壌作物栄養、環境保全、 野菜畑作、営農技術、やませ利用	20 名	
	17. 1.20 ~ 21	生物学研究所、 農業研究センター	（野菜） 野菜畑作、南部園芸、病理昆虫、農業経営、 土壌作物栄養、保鮮流通技術、営農技術	25 名	
	17. 1.20	農業研究センター	（花き） 花き、南部園芸、応用生物学、病理昆虫、 産地育成	19 名	
	17. 1.21	畜産研究所	（畜産） 飼料生産、家畜工学、家畜飼養、家畜育種、 外山、種山、農業経営、水田作、営農技術	35 名	
	17. 3.11	農業研究センター	主要作物の生産技術体系策定に係る検討会	25 名	
農産部	なし				
園芸畑作部	16. 6. 9 ~ 10	衣川村、松尾村、 安代町、九戸村、 一戸町、沢内村	りんどうこぶ症現地圃場合同調査	27 名	
	16. 6.17	東北農業研究セン ター	「りんどうこぶ症」に関する試験研究に係る中間検 討会	16 名	
	16. 6.21	農業研究センター	富士作業所ナンブコムギ圃場見学	30 名	
	16. 8.23 ~ 24	安代町、松尾村、 盛岡市	小ぎく優良品種展示圃及びりんどうこぶ症対策実 験圃現地検討会	26 名	
	16.10.19	農業研究センター	果樹新品種検討会	30 名	
	16.10.22	松尾村、石鳥谷町	りんどうこぶ症試験圃現地調査検討会	20 名	
	17. 1.18	農業研究センター	りんご冬季研修会	100 名	
	17. 2.10	工業技術センター	「ゆきちから」加工利用研究会	50 名	
	生産環境部	16.12.21	JA 江刺市	イムノアッセイ分析講習会（JA 江刺市）	7 名
	病害虫部	なし			
畜産研究所	なし				
県北農業研究所	なし				

農業研究センターが主催したもの

## 2 現地指導・研修会等への講師派遣

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
企画経営情報部				
齋藤 恭	東北農業経済学会秋田大会シンポジウム (コメンテーター)	16. 9. 2	東北農業経済学 会会長	秋田市
齋藤 恭	第 1 回遠野地方集落農業改革塾 (コーディネーター)	16. 9.16	遠野地方農林水 産振興協議会	遠野市 あえりあ遠野
齋藤 恭	平成 16 年度中山間アテルイの里夢大賞審査委員会	16.10. 8	水沢地方振興局長	水沢合庁衣川村
齋藤 恭	平成 16 年度胆江地方中山間地域集落活動シンポジ ウム(コーディネーター)	16.10.21	胆江地方農業振 興協議会	水沢市民文化会館
齋藤 恭	平成 16 年度岩手県 JA 職員資格認証研修会講師 (営農指導コース：農業経済)	16.11.16	JA 岩手県中央会	JA 岩手学園
齋藤 恭	平成 16 年度卒業成果全体発表会審査委員	17. 1.21	県立農業大学校	県立農業大学校
齋藤 恭	北上地域中山間のつどい	17. 2.24	いわて農林水産振 興北上地方協議会	北上市 江釣子公民館
農業経営				
佐藤 隆	岩手県 J A 営農指導員資格認証試験講習	16.11.15	岩手県農業協同 組合中央会	J A 岩手学園
佐藤 隆	平成 16 年度新規就農者研修第 7 回集合研修 - 農産物の市場動向 -	16.11.25	農業大学校	農業大学校
加藤 満康	いわてミルクランド実践交流研修会	17. 2. 1	いわてミルクラ ンド協議会	花巻市
加藤 満康	県南地区和牛女性研修会	17. 2. 1	県南和牛育種組合	花巻市
加藤 満康	胆江地域畜産研修会	17. 3.30	水沢普及センタ ー	江刺市
前山 薫	地産地消システム委員会	16. 6.10	江刺産直組合	江刺ふるさと市場
前山 薫	地産地消システム講習会	16. 7.26	JA 江刺市 江刺産直組合	ホテルニュー江刺
前山 薫	地産地消システム委員会	16. 9.16	江刺産直組合	江刺ふるさと市場
前山 薫	地産地消システム委員会並びに役員・委員合同会議	16.12.20	JA 江刺市 江刺産直組合	江刺ふるさと市場
阿部 哲哉	平成 16 年度園芸流通改善セミナー	17. 3. 4	流通課	ホテルメトロポリタン ニューウィング
専門技術員室				
佐々木 力	平成 17 年度岩手県農業行政の方向と新開発技術の 研修会 ( 県央、県南地区 )	17. 2.24	(社)岩手県農業 機械協会	農業研究センター
高橋 好範	" ( 県北地区 )	17. 3. 2	"	県北農業研究所
農産部				
水田作				
尾形 茂	岩手県農薬管理使用アドバイザー養成研修( 雑草防除 )	17. 1.24	農業普及技術課	盛岡市
高橋 政夫	岩手県 J A 営農指導員認証試験講習 ( 農産 )	16.11.18	岩手県農業協同 組合中央会	JA 岩手学園

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
高橋 政夫	農産物検査員育成研修 - 国内農産物検査コース - (2003年水稲冷害と最近の研究成果)	16. 4.23	岩手農政事務所	JA 岩手中央 都南 地域営農センター
小田中温美 高橋 政夫	平成 16 年度いわて直播栽培米研究会実演講習会 (播種及びカルパー粉衣作業の実演講習)	16. 4.30	岩手直播栽培米 研究会	農業研究センター
小田中 温美 藤井 智克 阿部 陽 高橋 政夫	水稲直播栽培推進現地検討会 (直播の生育状況と管理)	16.6.11	農産園芸課	農業研究センター 及び現地(水沢、 一関)
高橋政夫	いわて直播栽培米研究会県南支部実績検討会・研修 会(直播栽培のポイント)	17.2.18	いわて直播栽培 米研究会県南支 部	JA 岩手ふるさと 水沢地域センター
高橋政夫	JA 岩手ふるさと胆沢地域稲作研究会研修会(白未熟 の発生と対策)	17.3.25	JA 岩手ふるさ と	JA 岩手ふるさと 水沢地域センター
水稲育種				
仲條真介	農業大学校 講師(作物育種)	16.9.29	農業大学校	農業大学校
木内豊	農業大学校 講師(水稲育種の実際)	16.7.20 16.9.30	農業大学校	農業研究センター
応用生物工学				
阿部 潤	農業大学校 講師(作物育種)	16.12.15	農業大学校	農業大学校
阿部 潤	農業大学校 講師(バイオテク研究の現状)	16. 4.20	農業大学校	農業研究センター
阿部 潤	新岩手農協花き生産部会研修(花のバイオテク)	16.12. 9	新岩手農協 花き生産部会	八幡平ハイツ
生物工学				
高橋 修	岩手県農業機械士技能検定	16.10.19	農業大学校	農業大学校
大里 達朗	岩手県農業機械士技能検定	16.11.12	農業大学校	農業大学校
阿部 節男	岩手県農業機械士技能検定	16.11.12	農業大学校	農業大学校
須藤 勇人	岩手県農業機械士技能検定	16.11.12	農業大学校	農業大学校
藤井 智克	岩手県農業機械士技能検定	16.10.19	農業大学校	農業大学校
高橋 修	農作業安全現地研修	16. 7.21 16. 8. 4	農産園芸課	久慈市 千厩町
阿部 節男	農作業安全現地研修	16. 7.21 16. 7.28	農産園芸課	久慈市 農業研究センター
高橋 修 大里 達朗 藤井 智克	第 27 回岩手県農業機械利用技能競技大会(競技審 査)	16.11. 6	農産園芸課	農業大学校
高橋 修	岩手県農薬管理使用アドバイザー養成研修(農薬の 散布技術・防除機)	17. 1.25	農業普及技術課	盛岡市
藤井 智克	平成 16 年度水稲直播栽培研修会 (直播関係最新研究成果)	17. 2. 8	農産園芸課	花巻市(ホテル志 戸平)

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
園芸畑作部				
果樹				
小野 浩司 奥平 麻里子	りんご生産流通研究会	16. 6.10	全農岩手県本部	盛岡市
佐々木 仁 小野 浩司	ぶどう栽培流通研究会	16. 6.14	全農岩手県本部	大迫町
佐々木 仁 小野 浩司 河田 道子	りんご栽培流通研修会	16. 6.17	全農岩手県本部	農研センター
佐々木 仁 小野 浩司 河田 道子 奥平 麻里子	平成 16 年度農林水産省委託 「果樹共済技術研修会（落葉果樹・りんご）」	16. 7.14	全国農業共済協 会	農研センター
佐々木 仁 小野 浩司 河田 道子	りんご栽培技術研修会	16. 7.23	全農岩手県本部	農研センター
佐々木 仁	りんごポット養成苗栽培・新品種検討会	16. 7.27	盛岡地方元気な園芸産地 づくり運動推進協議会	盛岡市
佐々木 仁	オリジナルフルーツ研究会	16. 8.10	盛岡普及センター	盛岡市
佐々木 仁 小野 浩司	りんご生産流通情報交換会	16. 8.27	全農岩手県本部	農研センター
佐々木 仁	西洋梨部会栽培研修会	16. 9.22	JA いわて中央 西洋梨部会	盛岡市
佐々木 仁	りんご生産流通研究会	16. 9.25	全農岩手県本部	二戸市
小野 浩司 大野 浩	ぶどう栽培流通研修会（品種検討会）	16. 9.27	全農岩手県本部	農研センター
小野 浩司	ぶどう品種検討会	16. 9.28	盛岡地方元気な園芸産地 づくり運動推進協議会	紫波町
佐々木 仁	平成 16 年度革新的農業技術習得研修 「非破壊センシングを活用した品質本位・省力リン ゴ栽培技術」	16.10. 5	東北農研センター	東北農研センター
佐々木 仁	平成 16 年度岩手県 JA 職員資格認証研修会講師 （営農指導コース：果樹）	16.11.19	JA 岩手県中央会	JA 岩手学園
佐々木 仁	農業大学校 講師（作物育種・果樹）	16.12. 1	農業大学校	農業大学校
佐々木 仁	りんご冬期研修 講師	17. 1.17	岩手県果樹協会	花巻温泉
佐々木 仁	冬期短期研修 講師	17. 1.26	落葉果樹農業研 修所	落葉果樹農業研修 所
佐々木 仁 奥平 麻里子	りんご生産流通研究会	17. 2. 9	全農岩手県本部	盛岡市
小野 浩司	ぶどう優良品種研究会	17. 2.10	全農岩手県本部	農研センター
佐々木 仁 小野 浩司 大野 浩 河田 道子 奥平 麻里子 浅川 知則	果樹新技術セミナー	17. 2.23	全農岩手県本部	農研センター

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
小野 浩司	大粒ぶどう剪定指導会	17. 3. 3	岩手中央農業協 同組合	紫波町
佐々木 仁	カシオペアりんご生産者のための研修会	17. 3.25	二戸地方農林水 産振興協議会	二戸市
野菜畑作				
及川 一也	水田大豆不耕起栽培現地研修会	16. 6.10	水沢普及センタ-	前沢町
及川 一也	小麦実需者研修会	16. 6.19	東日本産業	農研センター
及川 一也	麦生産技術研修会	16. 6.22	農業共済連	農研センター
及川 一也	大豆普及研究会	16. 6.14	麦大豆協議会	花巻市
及川 一也	雑穀技術研修会	16. 8.10	JA 新いわて	滝沢村
及川 一也	麦・大豆生産技術研修会	16. 8.27	農産園芸課	滝沢村
及川 一也	麦栽培研修会	16. 9. 8	JA いわて中央	紫波町、矢巾町
及川 一也	JA 学園営農指導員受講者研修	16.11.18	JA 学園	滝沢村
及川 一也	冬期播種研修会	16.11.25	JA いわて中央	矢巾町
及川 一也	二戸地方雑穀フォーラム	16.12.14	二戸普及センタ-	軽米町
及川 一也	一関地方冬期播種指導会	16.12.16	一関普及センタ-	一関市
及川 一也	大豆契約栽培者研修会	17. 1.14	全農いわて	盛岡市
及川 一也	大豆研修会	17. 2.18	農業共済連	花巻市
及川 一也	大豆研究テーブルリサーチ	17. 3.11	東北農研センタ-	盛岡市
及川 一也	一関地方冬期播種現地研修会	17. 3.23	一関普及センタ-	一関市
及川 一也	盛岡地方冬期播種プロジェクト指導会	17. 3.29	盛岡普及センタ-	矢巾町
荻内 謙吾	麦・大豆生産技術研修会	16. 8.27	農産園芸課	滝沢村
荻内 謙吾	冬期播種研修会	16.11.25	JA いわて中央	矢巾町
荻内 謙吾	一関地方冬期播種指導会	16.12.16	一関普及センタ-	一関市
荻内 謙吾	一関地方冬期播種現地研修会	17. 3.23	一関普及センタ-	一関市
荻内 謙吾	盛岡地方冬期播種プロジェクト指導会	17. 3.29	盛岡普及センタ-	矢巾町
土田 典子	宮古地方園芸生産振興協議会	17. 3. 4	宮古地方園芸振 興協議会	宮古市
花き				
児玉 勝雄 川村 浩美 千葉 賢一	りんどう採種技術検討会（第1回～第7回）	16. 6.28 16. 7.13 16. 7.28 16. 8.10 16. 8.25 16. 9.17 16.10.13	農産園芸課	種苗センター
川村 浩美 千葉 賢一	安代町りんどう巡回調査	16. 6.30	JA 新いわて	安代町管内
児玉勝雄 川村 浩美	「いわて乙女」巡回指導	16. 6.18 16. 6.30	JA 花巻 鉢花生産部会	JA 花巻管内
児玉 勝雄 小田島 雅	鉢物りんどう「こりん」講習会	16.11.17	JA きたかみ	JA きたかみ本所

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
川村 浩美	鉢花りんどう販売実績検討会	16.11.19	JA 花巻 鉢花生産部会	JA 花巻矢沢支店
川村 浩美	「いわて乙女」栽培講習会	16.11.30	JA 花巻 鉢花生産部会	JA 花巻矢沢支店
川村 浩美	鉢物りんどう実績検討会	17. 1.12	JA きたかみ	JA きたかみ 黒沢尻支店
児玉 勝雄 川村 浩美 千葉 賢一 葛巻 美知子	りんどう主産地会議	17. 1.31	農産園芸課	農研センター
児玉 勝雄	第 8 回りんどう研究会	16. 6.25	りんどう研究会	岩手大学農学部
児玉 勝雄 川村 浩美 千葉 賢一 葛巻 美知子	第 9 回りんどう研究会	16. 9.10	りんどう研究会	農研センター
児玉 勝雄 千葉 賢一	「りんどうこぶ症」研究に係るミニテーブルリサーチ	16.12. 3	東北農研センター	東北農研センター
児玉 勝雄 小田島 雅	小ぎく生産拡大研修会	16. 7. 6	盛岡地方元気な園芸産地 づくり運動推進協議会	紫波町
小田島 雅	北上市小菊生産振興協議会定期総会	16. 7.20	北上市小菊生産 振興協議会	JA きたかみ 和賀町支店
小田島 雅	小ぎく試作圃場巡回	16. 9. 3	北上市小菊生産 振興協議会	農研センター
小田島 雅	北上市小菊生産振興協議会役員・専門推進班合同会議	16.11. 2	北上市小菊生産 振興協議会	JA きたかみ本所
児玉 勝雄 小田島 雅	小ぎく優良品種展示圃成績検討会	16.11.19	農産園芸課	盛岡市
小田島 雅	小菊産地拡大研修会	17. 1.24 ~ 26	全農岩手県本部	北上市、千厩町、 岩手町
児玉 勝雄 千葉 賢一	花き産地づくり研修会	17. 2.16	農産園芸課	盛岡市
児玉 勝雄	花き販売対策会議	16. 6.24	全農岩手県本部	花巻市
児玉 勝雄	鉢花販売対策会議	16. 7.27	全農岩手県本部	盛岡市
児玉 勝雄	岩手県農協花き大型経営者・部会連絡協議会委員会	17. 3. 3	全農岩手県本部	花巻市
児玉 勝雄	いわての花キャンペーン	16. 7.22	花の国づくり岩 手県協議会	東京都
児玉 勝雄 川村 浩美 千葉 賢一 葛巻 美知子 小田島 雅	東北花き研究会	16. 9.30	東北農業試験研 究推進会議 野菜花き推進部 会	農研センター
千葉 賢一	岩手大学農学部農業生命科学科植物生産学講座学生	16. 7. 7	岩手大学	農研センター
児玉 勝雄	平成 16 年度営農大学講座・新規就農者集合研修	16. 7.30	農業大学校	農研センター
児玉 勝雄	農業大学校園芸経営科学生研修	16. 8.24	農業大学校	農研センター
児玉 勝雄	農業大学校本科 2 年農産、園芸経営科 講義 (作物育種：花き)	16.10.20	農業大学校	農業大学校

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
児玉 勝雄	平成 16 年度岩手県 JA 職員資格認証研修会講義 (営農指導コース：花き)	16.11.18	JA 岩手県中央会	JA 岩手学園
南部園芸				
志田 たつ子	花壇づくり講習会	16. 5.27	陸前高田市	市総合営農指導センター
千田 裕	大規模野菜生産技術向上研修会	16. 8.27	農産園芸課	アピオ
志田 たつ子	陸前高田市花いっぱいコンクール	16. 8.30	陸前高田市	市内
千田 裕	JA 陸前高田市いちご指導会	16. 9.22	JA 陸前高田	住田町
浅沼 一也	農大営農大学講座生・新規就農者集合研修	16. 9.29	農業大学校	南部園芸研
浅沼 一也	気仙フラワーコンテスト	16.10.22	農業振興協議会	JA 大船渡
志田 たつ子				
浅沼 一也	農業大学校生校外研修	17. 1.13	農業大学校	南部園芸研
生産環境部				
環境保全				
中野 亜弓	イムノアッセイ分析講習会( JA 全農いわて営農対策室)	16. 4.15	全農岩手県本部	農業研究センター
佐藤千穂子	AFR 農業 IT 活用研究会 H16 年度第 2 回ワークショップ	17. 2.21	AFR( 農業 IT 活用研究会)	イーハトーブこずかた
土壌作物栄養				
佐藤 千秋	営農大学講座	16. 4.23	農業大学校	農業大学校
高橋 良学	H16 年度果樹共済技術研修会	16. 7.13		農業研究センター
高橋 良学	INS 応用生物・有機化学研究会 ( ABOC ) 第 24 回講演会	16. 8. 2	ABOC 研究会	岩手大学
高橋 良学	AFR 農業 IT 活用研究会 H16 年度第 1 回ワークショップ	16.11.26	AFR( 農業 IT 活用研究会)	岩手大学地域連携研究センター
保鮮流通技術				
関村 照吉	平成 16 年度西和賀むらづくりフォーラム 地域特産品加工コンクール	17. 2. 4	北上普及センター	沢内村・沢内バーデン
平瀬 英利	農産物加工現地講習会	16.11. 7	釜石普及センター	釜石合庁
病害虫部				
病理昆虫				
鈴木 敏男	ダイコンのキスジノミハムシの発生生態と防除法について	17. 2. 9	JA 宮古	門馬地区集落センター
猫塚 修一	リンゴ紫紋羽病の発生生態と防除対策	17. 2.10	JA 江刺市	同左
猫塚 修一	リンゴ紫紋羽病の防除法	16.6.11	二戸普及センター	二戸市内
猫塚 修一	リンゴ殺菌剤の散布回数削減について	16.12.22	JA いわて花巻	農研センター
藤沢 巧 勝部 和則	環境に優しい病害虫防除 - 近年の研究成果より -	17. 2.21	盛岡地方果樹生産組合・盛岡地方野菜生産組合	盛岡市サザンパレス
藤沢 巧 勝部 和則 猫塚 修一	農薬使用アドバイザー養成研修	17. 1.24 ~ 25	農業普及技術課	盛岡市労働福祉会館
藤沢 巧	天敵栽培研究会	16.12.17	水沢普及センター	江刺市合庁

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
鈴木 敏男 藤沢 巧 勝部 和則 佐々木 直子	近年新たに開発された病害虫防除法 - 水稲初期害虫および斑点米カメムシ、施設ピーマン害虫・きゅうり病害総合防除 - MBI-D 剤耐性いもち病菌の発生とその対策	16.11. 4 17. 3.16	岩手県植物防疫協会 遠野地方農業協同組合	花巻市ホテル千秋閣 JA とおの生活センター
畜産研究所 家畜育種				
阿閉 博明	獣医臨床繁殖学学習	16.12.20	岩手大学	畜産研究所
吉田 登	家禽勉強会「鶏の人工授精の理論と実践」	16.11. 1	日本家禽会	西根温泉ゲンデルランド
吉田 登	初生雛鑑別審査委員長	16.10.30	東北初生雛鑑別師会	畜産研究所
安田 潤平	日本短角種の粗飼料多給肥育について	16.6.30	JA 宮古	岩泉町
安田 潤平	日本短角種の粗飼料多給肥育について 日本短角種の種雄牛造成について	17. 2. 9	JA 宮古	花巻市
家畜飼養				
茂呂 勇悦	農業大学校講師「牛群検定について」 農業大学校講師「海外の酪農」	16. 1.11	農業大学校	農業大学校
松木田 裕子	家畜人工授精講習会	16. 8. 6	農業大学校	農業大学校
茂呂 勇悦	ミルクランド協議会	16.10.27	県畜産課	畜産研究所
松木田 裕子	「これからの酪農を考える」	17. 2. 1	ミルクランド協会 会長	花巻市
茂呂 勇悦	「乳牛の繁殖向上について」	17. 2. 1	ミルクランド協会 会長	花巻市
家畜工学				
吉川 恵郷	受精卵移植技術各論	16.5.31 16.6.21	農業大学校	農業大学校
福成 和博	家畜受精卵移植技術	16.7.20 16.9.1	農業大学校	農業大学校
児玉 英樹	家畜受精卵移植実習	16.11.7 16.11.8 16.11.15 16.11.16	農業大学校	農業大学校
児玉 英樹	家畜人工授精講習会（発情鑑定）	16.11.5	畜産課	畜産研究所
吉川 恵郷	体内受精卵移植概論	16.2.2	畜産課	畜産研究所
児玉 英樹	受精卵の生理、形態		畜産課	畜産研究所
児玉 英樹	体内受精卵の処理	17.2.15 17.2.8	畜産課	畜産研究所
福成 和博	体内受精卵の処理	16.2.17	畜産課	畜産研究所
児玉 英樹	体内受精卵の処理（実習）	17.2.15 ~ 18	畜産課	畜産研究所
福成 和博	受精卵の移植	17.2.9	畜産課	畜産研究所
福成 和博	受精卵の移植	17.2.21 17.2.22	畜産課	畜産研究所



担 当 部 所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
児玉 英樹	受精卵の移植	17.2.23	畜産課	畜産研究所
児玉 英樹	東北地域農林水産・食品ハイテク研究会	17.3.3	東北農政局	せんだいメディア テーク
児玉 英樹	ブラウンスイス採卵指導	16.9.13 16.10.20 17.1.18	花巻地方振興局	大迫町
飼料生産				
増田 隆晴	細断型ロールペールとは	16.6.30	短角牛肥育部会 岩泉支部	JA 宮古
増田 隆晴	細断型ロールペールに関する最近の取り組み	17.2.9	〃	〃
平久保 友美	飼料用トウモロコシ肥培管理検討会	17.1.26	水沢普及センター	水沢市
濱戸もえぎ	畜産環境保全指導（2回）	17.2.4 17.2.18	岩手県畜産協会	種市町
濱戸もえぎ	家畜排せつ物たい肥化処理技術向上研修会	16.8.4 16.8.5	東北農政局・県 畜産課	紫波町
外山畜産				
千葉 恒樹	家畜人工授精師講習会	16.11.2	県畜産課	畜産研究所
種山畜産				
西田 清	現場後代検定牛の超音波肉質測定	16.8.23 16.8.24 16.9.6 16.9.13 17.1.17 17.1.18 17.1.24 17.1.25	畜産協会	胆江地区 磐井地区 紫波・雫石・玉山 雫石、花巻 胆江地区 両磐地区 玉山村 花巻市
菊池 善彦	県産種雄牛の特性について	16.12.27	岩手ふるさと農 協肉牛部会	水沢市
高杉 亘	和牛の改良と県有種雄牛の交配について	17. 1.31	大船渡農業振興 協議会	大船渡市
西田 清	県有種雄牛造成と今後の和牛改良	17. 2.16	千厩町	千厩町
高畑 博志	いわての種雄牛づくり	17. 2.1 17. 2.3 17. 3.1	県南和牛育種組合 いわて和牛中央 育種組合 盛岡地方振興局	花巻市 花巻市 玉山村
県北農業研究所				
櫻井 一男	雑穀栽培技術研修会（一戸町）	16.12.22	一戸町安全安心 園芸振興センター	一戸町民文化センター
小野 剛志	久慈地方耕畜連携のための土づくり交流会	17. 3. 7	久慈普及センター	ロイヤルパークカ ワサキ
営農技術				
高橋 昭喜	盛岡地方元気な農業担い手講座 作目別大規模経営研修（野菜コース II ほうれん そう）	16.10.28	盛岡地方振興局 農政部	西根町 JA 新いわて西部 地域営農センター
桐山 直盛 茂市 修平	レタス腐敗防止対策技術検討会	17. 2.15	二戸地方農林水 産振興協議会	いわて奥中山農業 協同組合

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
産地育成				
長谷川 聡	二戸地方雑穀フォーラム	16.12.14	二戸地方農林水産振興協議会	県北農業研究所
長谷川 聡	総合学習「ふるさとのよさ発見」 3.4年生3人 先生1人	17.2.4	浄法寺町立岡本小学校	浄法寺町立岡本小学校
長谷川 聡	雑穀栽培指導会（軽米町）	17.2.21	北いわて農協護穀生産部会	北いわて農協軽米地域営農センター
長谷川 聡	雑穀栽培講習会（二戸市）	17.2.23	二戸市	なにやーと3階会議室
長谷川 聡	雑穀栽培技術研修会（一戸町）	17.3.25	一戸町安全安心園芸振興センター	一戸町民文化センター
やませ利用				
漆原 昌二	総合学習「イネの栽培」（一戸町） 5年生27人 先生2人	16.7.14	一戸町立一戸南小学校	一戸町立一戸南小学校

### 3 視察者、見学者の受け入れ状況

区 分	公式来所者数	非公式来所者数	合 計	備 考
本 部	2,090 人	5,027 人	7,117 人	平成 16 年 4 月～平成 17 年 3 月 【その他】 非公式来所者数には、春季一般公開及び 参観デー来所者を含む。
畜 産 研 究 所	1,335 人	1,707 人	3,042 人	
県北農業研究所	351 人	635 人	986 人	
計	3,776 人	7,369 人	11,145 人	

### 4 春季一般公開及び参観デー

名 称	開 催 期 日	開 催 場 所	参 集 人 員
農業研究センター 春季一般公開	16. 4.12～16	農業研究センター	27 名
”	16. 4.12～16	畜産研究所	85 名
”	16. 4.12～16	県北農業研究所	23 名
”	16. 4.13～18	農業ふれあい公園「農業科学博物館」	37 名
農業研究センター 参観デー	16. 9.3～4	農業研究センター	5,000 名
”	16. 8.27～29	畜産研究所	1,548 名
”	15. 9.2～3	県北農業研究所	635 名

### 5 現地ふれあい農業研究センター

開催期日	開 催 場 所	主 な 内 容	参集人員
16. 7.21	J A 新いわて 西部地域営農センター	ほうれんそうの高品質安定生産のための最新技術	118 名
16. 7.28	江刺地区合同庁舎	トマト軟果発生対策現地検討会	24 名
16.11. 5	一関地区合同庁舎	りんどう・小ぎくの試験研究状況	58 名
17. 3. 8	宮古市シートピアなあと	りんごを主体とした、貯蔵・加工技術による青果物等の付加価値向上	39 名

### 6 一日子供農業研究員

名 称	開催期日	内 容	参集人員
一日子供農業研究員 ～夏休み 蚕の研究～	16. 8. 4	小学 5 年生を対象とした蚕の研究 (蚕の観察、飼育体験)	20 名
一日子供農業研究員 ～冬休み 繭と生糸の研究～	17. 1. 7	小学 5 年生を対象とした繭と生糸の研究 (繭の加工：真綿、生糸、繭細工、機織り)	13 名

### 7 加工体験

項 目	人 数 (件 数)
加工実習・講習	281 人 (37 件)

H16 年度から特産品試作の項目は加工実習に含めた。

## 8 研修生の受け入れ

### (1) 海外研修員

氏名	所属	研修目的	受け入れ部所 (研究室)	期間
【JICA 研修員】 カノコン ジャルジャリー (Ms.Khanok-on JARUJAREET)	タイ科学工学研究所	農村地域・農家での特産物 加工及び品質保持に関する 技術	生産環境部 (保鮮流通技術)	16. 5.10 ~ 16. 8. 6
ピーター ジュラ パルフィ (Mr.Peter Gyula PALFI)	ハンガリー チョングラット植物衛生 生土壌保全局	残留農薬分析技術	生産環境部 (環境保全)	16. 8.23 ~ 16.10.21
【岩手県海外技術研修員】 李 中青 (LI ZHONGQING)	中国山西省農業科学院 谷子研究所	水稻(高品質米生産技術)	農産部 (水田作)	16. 6.25 ~ 16.12.20

### (2) 短期研修生

氏名	所属	研修目的	受け入れ部所 (研究室)	期間
藤野 孝	北上市立飯豊小学校	平成 16 年度教職経験者 10 年研 修講座・社会体験研修 「園芸畑作作業」	園芸畑作部(果樹)	16. 7.26
石川 智久 阿部 陽介 氏家 健	胆江地域農業共済組合 岩手県農業共済組合連合会 岩手県農業共済組合連合会	農作物(水稻)栽培技術研修	農産部(水田作)	16. 5.12 ~ 16.11.11 (実 15 日間)
遠藤 俊幸 菅田 佳照 小笠原 直哉 舘澤 博則	胆江地域農業共済組合 東南部農業共済組合 岩手北部農業共済組合 岩手県農業共済組合連合会	果樹栽培技術研修	園芸畑作部(果樹)	16. 5.18 ~ 17. 1.20 (実 12 日間)

### (3) 改良普及員

氏名	所属	研修目的	受け入れ部所 (研究室)	期間
氏橋 明子 小館 琢磨	一関普及センター 久慈 "	改良普及員専門技術基本研修(作物 I)	企画経営情報部 (農業経営室)	16.6.8
			農産部 (水田作)	16.6.8 6.15 ~ 16
			園芸畑作部 (野菜畑作室)	16.6.17
			生産環境部 (土壌作物栄養)	16.6.14
		改良普及員専門技術基本研修(作物 II)	農産部 (水田作) (水稻育種)	16.8.20 16.8.19
			園芸畑作部 (野菜畑作)	16.8.19
			生産環境部 (環境保全)	16.8.18
			県北研究所 (営農技術) (やませ利用)	16.8.25

氏名	所属	研修目的	受入れ部所 (研究室)	期間
		改良普及員専門技術基本研修(作物III)	農産部 (水田作) (水稻育種) (応用生物工学) (生産工学)  園芸畑作部 (野菜畑作)	16.11.15～16 16.11.12 16.11.18 16.11.17  16.11.11
菅原 浩視 大友 英嗣 小綿 寿志 佐々木 裕二  寺田 道一 吉田 宏 三熊 有孝 阿部 敦 根子 善照 鈴木 隆洋 高橋 智宏 中西 商量 島 輝夫 小原 公則 伊藤 美穂	盛岡普及センター 岩手地域普及所 花巻普及センター 北上 〃 湯田地域普及所 水沢普及センター 一関 〃 千厩 〃 大船渡 〃 遠野 〃 釜石 〃 宮古 〃 岩泉地域普及所 久慈普及センター 二戸 〃 軽米地域普及所	改良普及員専門技術向上研修(作物I) SU 抵抗性雑草の生態と簡易検定法	農産部 (水田作)	16.6.8
菅原 浩視 大友 英嗣 小綿 寿志 寺田 道一 吉田 宏 三熊 有孝 根子 善照 高橋 智宏 中西 商量 小原 公則	盛岡普及センター 岩手地域普及所 花巻普及センター 水沢 〃 一関 〃 千厩 〃 遠野 〃 宮古 〃 岩泉地域普及所 二戸普及センター	改良普及員専門技術向上研修(作物II) 大豆生産の安定栽培に係る課題と将来方向	園芸畑作部 (野菜畑作)	16.9.29～30
畠山 耕一 川原 周祐 吉田 泰 伊藤 信二	岩手地域普及所 千厩普及センター 釜石 〃 宮古 〃	専門技術基本研修 (野菜 第I期)	園芸畑作部 (野菜畑作)	16.5.2～6.3
		専門技術基本研修 (野菜 第II期)	園芸畑作部 (野菜畑作) 生産環境部 (土壌作物栄養) 病害虫部 (病理昆虫)	16.6.2～7.2
		専門技術基本研修 (野菜 第III期)	県北研究所 (産地育成・営農 技術室・やませ利用)	16.7.20～29
		専門技術基本研修 (野菜 第IV期)	園芸畑作部 (南部園芸)	16.9.8～10
佐々木 満 高橋 豊 遠藤和歌子 深澤 明子 小原 善一 高橋 寿夫 五日市由美 後藤 純子	盛岡普及センター 花巻 〃 北上 〃 水沢 〃 一関 〃 千厩 〃 大船渡 〃 二戸 〃	専門技術向上研修 (野菜I)	病害虫部 (病理昆虫)	16.8.2～3

氏名	所属	研修目的	受入れ部所 (研究室)	期間
桑原 政之 菊池 真奈美 及川 良直 佐藤 喬 阿部 亜希子 高橋 拓也	盛岡普及センター 遠野 " 宮古 " 久慈 " 二戸 " 二戸 "	専門技術向上研修 (野菜 II)	県北研究所 (産地育成・営農 技術)	16.8.2～3
山口 恵子 齋藤 誉志美 洞口 博昭 成田 恵美	花巻普及センター 千厩 " 宮古 " 二戸 "	専門技術基本研修 (花き第 I 期)	園芸畑作部 (花き)	16.5.25～6.3
		専門技術基本研修 (花き第 II 期)	園芸畑作部 (花き) 病害虫部 (病理昆虫)	16.6.21～22 16.6.22
		専門技術基本研修 (花き第 III 期)	県北研究所 (産地育成) 園芸畑作部 (花き)	16.7.20～23 16.7.27
		専門技術基本研修 (花き第 IV 期)	園芸畑作部 (南部園芸・花き)	16.9.9～10
		専門技術基本研修 (花き第 V 期)	病害虫部 (病理昆虫)	17.3.8
梅澤 学 藤澤 静香 薄衣 利幸 金森 靖 柳谷 浩子 富田 典子 澁谷 まどか 佐々木 洋一 加藤 清吾 安部 宏美	盛岡普及センター " 岩手地域普及所 水沢普及センター 大船渡 " " 釜石 " 宮古 " 久慈 " 軽米地域普及所	専門技術向上研修(花き)	農産部 (応用生物工学)	16.7.7
畠山 隆幸 藤田 章宏 皆上 和弘	北上普及センター 水沢 " 大船渡 "	専門技術基本研修 (果樹 1 期)	園芸畑作部 (果樹) 病害虫部 (病理昆虫)	16.5.28～29 16.6.1 16.6.2
		専門技術基本研修 (果樹 2 期)	園芸畑作部 (果樹) 病害虫部 (病理昆虫) 生産環境部 (保鮮流通技術)	16.7.14～16 16.7.22 16.7.14 16.7.14
		専門技術基本研修 (果樹 3 期)	園芸畑作部 (果樹) 病害虫部 (病理昆虫)	16.10.14～18 16.10.18
		専門技術基本研修 (果樹 3 期)	園芸畑作部 (果樹) 病害虫部 (病理昆虫)	17.1.27 17.1.31 17.2.1
川守田 真紀 江成 京子 阿部 洋 高橋 司 吉田 昌史	盛岡普及センター 花巻 " 水沢 " 宮古 " 二戸 "	専門技術向上研修 (果樹 A 1 期)	園芸畑作部 (果樹)	16.6.3～4
		専門技術向上研修 (果樹 A 2 期)	園芸畑作部 (果樹)	16.10.25～26

氏名	所属	研修目的	受入れ部所 (研究室)	期間
佐々木 真人 井口 歩美 長崎 優子 高田 真 昆 悦朗	盛岡 " " 岩手地域普及所 一関 " " 岩泉地域普及所 久慈 " "	専門技術向上研修 (果樹B1期)	園芸畑作部 (果樹)	16.7.2
石川 勝規 井口 歩美 名久井一樹 江成 京子 畠山 隆幸 藤田 章宏 長崎 優子 土屋 淑子 高橋 司 高田 真 阿部 将久 吉田 昌史	盛岡普及センター 岩手地域普及所 花巻普及センター 花巻 " " 北上 " " 水沢 " " 一関 " " 千厩 " " 宮古 " " 岩泉地域普及所 久慈普及センター 二戸 " "	「大苗移植栽培法」等現地研修	園芸畑作部 (果樹)	16.7.29 ~ 30
佐々木 真人 石川 勝規 井口 歩美 名久井一樹 江成 京子 畠山 隆幸 阿部 洋 藤田 章宏 長崎 優子 土屋 淑子 高橋 司 高田 真 阿部 将久 吉田 昌史 西田 旬	盛岡普及センター 盛岡 " " 岩手地域普及所 花巻普及センター 花巻 " " 北上 " " 水沢 " " 水沢 " " 一関 " " 千厩 " " 宮古 " " 岩泉地域普及所 久慈普及センター 二戸 " " 二戸 " "	せん定研修	園芸畑作部 (果樹)	17.1.20
藤原 千穂	岩手地域普及所	専門技術研修 (畜産I期)	畜産研究所 (外山畜産・飼料 生産・家畜育種・ 家畜工学)	16.7.26 ~ 8.6
		専門技術研修 (畜産II期)	畜産研究所 (飼料生産・家畜 飼養・種山畜産)	
畠山 隆幸 寺田 道一 長崎 優子 斎藤 誉志美 五日市由美 小野寺 理 阿部 将久	北上普及センター 水沢 " " 一関 " " 千厩 " " 大船渡 " " 遠野 " " 久慈 " "	土壌診断研修 土壌の断面調査・理化学分析の手法 及び診断技術を習得し、環境と調和し た安定的な農業生産のための普及指導 活動に役立てる。	生産環境部 (土壌作物栄養)	16.10.10 ~ 22

#### (4) 体験学習の受け入れ

##### ア 小中学校及び高等学校等の「総合的な学習の時間」等に対応したもの

所 属	研 修 内 容	人 数	受入研究室等	期 日
宮城県小牛田中学校 2 学年	水稻、果樹について 水稻ほ場及び農業科学博物館見 学	生徒 30名 引率 教諭2名	企画情報室 水田作、野菜畑作 農業科学博物館	16. 4.27
岩手県立花巻養護学校 4 学年	農業科学博物館見学 校外学習を兼ね公園利用含む	児童 1名 引率 教諭4名	ふれあい公園 農業科学博物館	16. 5.12
江刺市立広瀬小学校 3・4 学年	リンゴについてのお話 本館及び農業科学博物館見学	児童 19名 引率 教諭2名	果樹 農業科学博物館	16. 5.28
北上市教育研修会 「総合的な学習の時間」 部会	農業科学博物館及び加工工場の 見学 野菜作りの現地研修	北上市内小学校の 教職員 16名	農業科学博物館 保鮮流通技術 野菜畑作	16. 6.14
北上市立黒岩小学校 5 学年	社会科学習 見学時のマナーとふれあいにつ いて	児童 13名 引率 教諭2名	農業科学博物館	16. 6.16
北上市立黒沢尻北小学校 3 学年	校外学習 自然に関わる学習について	児童 129名 引率 教諭5名	農業科学博物館	16. 6.16
花巻市立宮野目中学校 3 学年	総合学習 水稻栽培と圃場見学・博物館見 学	生徒 59名 引率 教諭3名	農業科学博物館	16. 7. 7
岩手県立遠野緑峰高校 1～3 学年	総合研修 農業科学博物館見学	生徒 33名 引率 教諭3名	農業科学博物館	16. 7. 7
江刺市立江刺南中学校 3 学年	米の品種について 施設見学	生徒 28名 引率 教諭2名	水稻育種	16. 7.27
盛岡市立北陵中学校 1 学年	総合学習 夏期校外活動（施設見学）	生徒 11名 引率 教諭4名	農業科学博物館	16.7.27
早稲田実業高校 2 学年	研修旅行 東北の稲作（研究・調査）	生徒 6名	農業科学博物館	16. 8.26
県立千厩高等学校 生産技術科1 学年	岩手県の農業について 施設、ほ場の見学	生徒 39名 引率 教諭2名	企画情報室	16. 9.10
北上市立照岡小学校 5 学年	校外学習 昔と今の米づくりの違い	児童 14名 引率 教諭2名	農業科学博物館	16. 9.14
北上市立黒沢尻西小学校 3 学年	校外学習 展示内容を知る（施設見学）	児童 92名 引率 教諭6名	農業科学博物館	16. 9.17
県立盛岡第一高等学校 理数科1 学年	岩手県の農業について バイオテック、品種改良について	生徒 41名 引率 教諭3名	応用生物	16. 9.22
北上市立和賀西小学校 4 学年	校外学習 昔の生活がわかる道具について	児童 30名 引率 教諭2名	農業科学博物館	16. 9.22
花巻市立南城中学校 1 学年	総合学習 農業科学博物館見学	生徒 84名 引率 教諭5名	農業科学博物館	16. 9.28



所 属	研 修 内 容	人 数	受入研究室等	期 日
石鳥谷町立八重畑小学校 3学年	総合的な学習への講師派遣 「りんごはかせになろう」	児童 21名 教諭 1名	果樹	16.9.29
花巻市立南城小学校 3学年	校外学習 農業科学博物館見学	児童 74名 引率 教諭 4名	農業科学博物館	16.10.1
北上市立飯豊小学校 4学年	総合学習 お米の里飯豊に関わる見学	児童 90名 引率 教諭 4名	農業科学博物館	16.10.13
県立花巻養護学校 高等部	農業科学博物館見学 校外学習を兼ね公園利用含む	生徒 18名 引率教諭 10名	ふれあい公園 農業科学博物館	16.10.19
北上市岩崎新田小学校 3、4、6学年	社会科学習 昔使われていた道具と暮らしの 移り変わり	児童 10名 引率 教諭 3名	農業科学博物館	16.10.20
県立水沢高等学校 理数科1学年	実験体験学習 ・果実のジュースの酸度と ポリフェノール量の測定 ・カメムシについて	生徒 11名 引率 教諭 1名	企画情報室 保鮮流通技術  病理昆虫	16.11.5
北上市立黒沢尻東小学校 5学年	校外学習 農業科学博物館見学	児童 94名 引率 教諭 6名	農業科学博物館	16.11.5
北上市立江釣子小学校 3学年	校外学習 人々の仕事と暮らし	児童 131名 引率 教諭 7名	農業科学博物館	16.11.5
宮守村立鱒沢小学校 5学年	社会科学習 土壌・品種の改良と農機具の発 達	児童 7名 引率 教諭 2名	農業科学博物館	16.11.30
県立遠野緑峰高等学校 生産技術科	水田作研究について 本館及び農業科学博物館見学	生徒 32名 引率 教諭 2名	水田作 企画情報室 農業科学博物館	16.12.14

イ インターンシップ等に対応したもの

氏 名	所 属	研 修 内 容	受入研究室等	期 日
大井 道子	岩手大学農学部 農業生命科学科	食品加工技術、野菜、果樹	保鮮流通技術 野菜畑作 果樹	16.8.19 ~ 8.27

## 9 協議会、委員会等委員

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
東北地域肉用繁殖雌牛生産拡大・再興戦略会議	委員	農業経営研究室長	東北農政局
花泉・千厩地域肉用繁殖雌牛生産拡大・再興戦略会議	委員	農業経営研究室長	東北農政局
東北地域直播推進会議	幹事	農産部長	東北農政局農産普及課
東北地域水稲安定生産推進連絡協議会	委員	農産部長	東北農政局農産普及課
東北地域水稲安定生産推進連絡協議会ワーキンググループ	グループ員	水田作研究室長	東北農政局農産普及課
岩手農林統計協会二戸支部	会員	県北農業研究所長	東北農政局 二戸統計情報センター
日本農業経営学会	理事	農業経営研究室長	(独)中央農業総合研究センター
東北農業試験研究協議会	理事	所長	(独)東北農業研究センター
東北農業試験研究推進会議評価企画会議	専門委員	首席専門技術員	(独)東北農業研究センター
東北農業試験研究会議畑作部会	代表場所長	所長	(独)東北農業研究センター
東北農村生活研究会	理事	農業経営研究室長	(独)東北農業研究センター
東日本家畜受精卵移植技術研究会	理事	家畜工学研究室長	(独)畜産草地研究所
肉用牛広域後代検定評価技術検討会	委員 委員	種山畜産研究室 上席専門研究員	(独)畜産改良センター
東北農業経済学会	評議員	農業経営研究室長	東北大学農学部
東北草地研究会	幹事	飼料生産研究室長	東北大学農学部
東北農業経済学会	理事	農業経営研究室長	東北大学農学部
岩手農林研究協議会（AFR）	副会長 委員 委員 委員 委員 委員 委員 委員	所長 企画経営情報部長 農産部長 園芸畑作部長 生産環境部長 病虫害部長 畜産研究所長 県北農業研究所長	岩手大学農学部
岩手農林研究協議会（AFR）幹事会	幹事 幹事	企画経営情報部長 農産部長	岩手大学農学部
日本土壌肥料学会東北支部	幹事（岩手県）	専門技術員(土壌肥料)	山形大学農学部
日本土壌肥料学会編集委員会	地域担当委員（東北）	県北農業研究次長	東京農工大学大学院
岩手県研究開発推進連絡会議	委員	所長	科学技術課
いわて農業・農村表彰事業審査委員会	審査委員	所長	農林水産企画室
岩手県バイオテクノロジー研究調整会議	委員	所長	農林水産企画室
岩手県農業共済保険審査委員会	委員 委員	所長 農産部長	団体指導課
花の国づくり岩手県協議会	会員	園芸畑作部長	流通課
いわて純情米需要拡大推進協議会	幹事	農産部長	流通課
農業振興地域整備促進連絡会議	構成員	所長	農業振興課

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
岩手県農業気象協議会	委員 委員 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事	企画経営情報部長 首席専門技術員 水田作研究室長 果樹研究室長 環境保全研究室長 飼料生産研究室長 やませ利用研究室長 専門技術員	農業普及技術課
岩手県農業農村指導士選考委員会	委員	所長	農業普及技術課
岩手県農薬管理士認定委員会	委員	環境保全研究室長	農業普及技術課
土地改良事業営農推進対策委員会	副委員長 委員 委員 委員 中央幹事	副所長 園芸畑作部長 首席専門技術員 県北農業研究所長 飼料生産研究室長	農村計画課
岩手県農業農村整備事業地区担い手育成協議会	委員	水田作研究室長	農村建設課
岩手県花き産地づくりコンクール	審査委員長 審査委員 審査委員 審査委員	園芸畑作部長 農業経営研究室長 花き研究室長 専門技術員	農産園芸課
農作物奨励品種検討会議	構成員	所長	農産園芸課
岩手県特産農産物生産振興共進会	審査委員長 審査委員 審査委員 審査委員	県北農業研究所長 農業経営研究室長 野菜畑作研究室長 やませ利用研究室長	農産園芸課
岩手県農業機械士認定委員会	委員	農産部長	農産園芸課
岩手県農作業安全対策協議会	委員 委員	副所長 畜産研究所長	農産園芸課
岩手県ふるさと食品コンクール	審査員	保鮮流通技術研究室長	流通課
岩手県果樹産地づくりコンクール	審査委員長 審査委員 審査委員	園芸畑作部長 農業経営研究室長 果樹研究室長	農産園芸課
岩手純情野菜産地力強化共励会審査委員会	審査委員 審査委員 審査委員	野菜畑作室長 産地育成研究室長 専門技術員	農産園芸課
岩手県麦・大豆等産地体制確立推進協議会	委員 委員 委員	園芸畑作部長 首席専門技術員 県北農業研究所長	農産園芸課
同上 麦部会	部会長	首席専門技術員	
同上 大豆部会	部会長	園芸畑作部長	
いわて純情園芸産地づくり推進協議会	委員	所長	農産園芸課
いわて和牛育種改良推進事業県協議会	委員 委員	家畜育種研究室長 種山畜産研究室長	畜産課
畜産環境整備事業農機具導入委員会	委員	飼料生産研究室長	畜産課
岩手県畜産技術協会	世話人	畜産研究所長	畜産課
家畜改良増殖推進協議会	副委員長 委員	畜産研究所長 畜産研究所次長	畜産課

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
家畜導入事業資金供給事業県協議会	委員	家畜育種研究室長	畜産課
岩手県飼料増産推進協議会	委員 委員 委員	水田作研究室長 飼料作物研究室長 専門技術員	畜産課
北上地区行政連絡会議	構成員	副所長	北上地方振興局農政部
大船渡地方農業振興協議会	幹事	南部園芸研究室長	大船渡地方振興局農林部
大船渡地区行政事務連絡協議会	構成員	南部園芸研究室長	大船渡地方振興局農林部
気仙地域農林水産行政推進会議	構成員	南部園芸研究室長	大船渡地方振興局農林部
久慈地方農業農村活性化推進協議会	構成員 幹事 専門部会幹事	県北農業研究所長 県北農業研究所次長 県北農業研究所次長	久慈地方振興局農政部
土地改良事業営農対策推進委員会久慈地方幹事会	幹事 幹事	産地育成研究室長 専門技術員	久慈農業改良普及センター
岩手県農作物等気象災害防止対策二戸地方支部	委員 幹事	県北農業研究所長 県北農業研究所次長	二戸地方振興局農政部
二戸地方農業振興協議会	構成員 幹事 園芸リンク部会幹事	県北農業研究所長 県北農業研究所次長 産地育成研究室長	二戸地方振興局農政部
二戸地方農林水産業振興会議	委員 幹事	県北農業研究所長 県北農業研究所次長	二戸地方振興局農政部
二戸地方農林行政連絡会議	構成員 構成員	県北農業研究所長 県北農業研究所次長	二戸地方振興局農政部
二戸地方エコファーマー認定委員会	委員	県北農業研究所次長	二戸地方振興局農政部
カシオペア連邦雑穀生産振興・流通対策協議会	構成員	県北農業研究所長 やませ利用研究室	二戸地方振興局農政部
カシオペア連邦特徴ある米生産流通推進協議会	委員	県北農業研究所長	二戸地方振興局農政部
二戸地方安全安心農畜産物生産流通サポートセンター連絡協議会	構成員	産地育成研究室長	二戸地方振興局農政部
馬淵川沿岸地区営農改善対策調査委員会	委員 委員	営農技術研究室長 専門技術員	二戸農業改良普及センター
二戸地方土地改良事業営農推進対策委員会	委員 委員	県北農業研究所次長 専門技術員	二戸農業改良普及センター
岩手県農業機械士技能検定	技能検定員(委嘱)	高橋 修 大里 達朗 阿部 節男 大志田 建男 藤井 智克	農業大学校
玉山村村営牧野運営委員会	委員	外山畜産研究室長	玉山村
北上市みどりのまちづくり審査会	審査員	園芸畑作部長	北上市
陸前高田市総合農政推進協議会	委員	南部園芸研究室長	陸前高田市
陸前高田市経営・生産対策推進会議	委員	南部園芸研究室長	陸前高田市
住田町農業振興協議会	構成員	南部園芸研究室長	住田町
八戸平原地域対策協議会	委員 営農推進部会員	県北農業研究所長 産地育成研究室長	三戸農林水産事務所
青森・岩手県境農林関係公所長連絡会議	構成員	県北農業研究所長	三戸農林水産事務所

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
馬淵川沿岸地区農業開発促進協議会	構成員	県北農業研究所長	一戸町
国営八戸平原総合農地開発事業軽米地区畑地かんがい実証展示圃運営委員会	委員 幹事	県北農業研究所長 県北農業研究所次長	軽米町
軽米町農業振興地域整備促進協議会	委員	県北農業研究所長	軽米町
軽米町総合農政推進協議会	委員 幹事	県北農業研究所長 県北農業研究所次長	軽米町
軽米町農作物気象災害防止対策本部	委員 幹事	県北農業研究所長 やませ利用研究室長	軽米町
軽米町新需要穀類種子生産振興協議会	幹事	やませ利用研究室長	軽米町
軽米町産業祭実行委員会	委員 幹事	県北農業研究所長 県北農業研究所次長	軽米町
パイオニア新農業づくり推進連絡会議	構成員	県北農業研究次長	軽米町
九戸村農林業振興対策会議 園芸振興支援センター 新規就農者支援対策事業審議会 農林業技術者連絡会議 農業経営改善支援センター	委員 委員 委員 運営委員 構成員	県北農業研究所長 県北農業研究所長 県北農業研究所次長 県北農業研究所次長 県北農業研究所次長	九戸村
九戸村農作物異常気象災害対策本部	委員 幹事	県北農業研究所長 やませ利用研究室長	九戸村
岩手県施肥合理化協議会	参与 参与 参与 事業幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事	副所長 畜産研究所長 首席専門技術員 水田作研究室長 果樹研究室長 野菜畑作研究室長 土壌作物栄養研究室長 飼料生産研究室長 営農技術研究室長	全農岩手県本部
岩手県乳質改善協議会	委員	畜産研究所長	全農岩手県本部
いわて純情米産地体質強化推進協議会	幹事 幹事	農産部長 首席専門技術員	全農岩手県本部
いわて純情米良質・良食味生産コンクール	審査委員長	農産部長	全農岩手県本部
酪農経営研究会	審査委員	畜産研究所長	全農岩手県本部
和牛改良専門委員会	委員 委員 委員	家畜育種研究室長 種山畜産研究室長 " 上席専門研究員	全農岩手県本部
2004 いわて純情りんごコンテスト	審査委員長 審査員 審査員	園芸畑作部長 果樹研究室長 専門技術員	全農岩手県本部
JA 岩手県教育審議会	委員	所長	岩手県農業協同組合中央会
日本農業賞岩手県代表審査委員	委員長	所長	岩手県農業協同組合中央会
岩手県農業共済組合連合会損害評価会			NOSAI 岩手
( 果 樹 )	部会長	果樹研究室長	
( 農作物・水稲 )	委員	水田作研究室長	
( 農作物・畑作物・麦災害収入 )	委員	野菜畑作研究室長	
( 園芸施設 )	部会長	花き研究室長	
( " )	委員	南部園芸研究室長	
( 蚕 繭 )	委員	病理昆虫研究室長	
( 任 意 )	委員	生産工学研究室長	

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
農業共済地域対応強化対策協議会地域集団引受推進専門部会	委員 委員 委員	水田作研究室長 果樹研究室長 病理昆虫研究室長	NOSAI 岩手
水田大豆加入推進協議会	委員	野菜畑作研究室長	NOSAI 岩手
北上市小菊生産振興協議会	構成員 推進専門班構成員	花き研究室長 専門研究員	JA 北上市、JA 和賀中央、 北上農業改良普及センター
岩手県牛乳普及協会	行事開催実行委員	家畜飼養研究室長	牛乳普及協会
食品産業機能高度化実践事業実行委員会	実行委員	保鮮流通技術研究室長	岩手県こんにやく組合
ミルクシステム診断事業推進委員会	委員	専門技術員	岩手県乳質改善協議会
いわてフラワーコンテスト 2004	審査委員長 審査委員	園芸畑作部長 花き研究室長	花の国づくり岩手県協議会
いわて農林水産表彰事業審査委員会	審査委員	所長	いわて農林水産振興協議会
岩手県経営構造対策推進委員会	委員 構成員	副所長 農業経営研究室長	岩手県農業会議
岩手県グリーン・ツーリズム推進協議会	幹事 幹事	農業経営研究室長 専門技術員	岩手県農業会議
東北畜産学会	評議員 評議員	畜産研究所長 畜産研究所次長	東北畜産学会
東北畜産学会学会賞候補者選考委員会	選考委員	畜産研究所長	東北畜産学会
東北土壌肥料協議会	会長	生産環境部長	東北土壌肥料協議会
土壌保全調査事業全国協議会	幹事	土壌作物栄養研究室長	日本土壌協会
岩手県植物防疫協会	運営幹事 運営幹事 事業幹事 事業幹事 事業幹事 事業幹事 事業幹事 事業幹事 事業幹事	病害虫部長 農産部長 水田作研究室長 果樹研究室長 野菜畑作研究室長 病理昆虫研究室長 飼料生産研究室長 首席専門技術員 専門技術員	(社)植物防疫協会
日本植物調節剤研究協会東北支部	委員 監事	水田作研究室長 野菜畑作研究室長	日本植物調節剤研究協会 東北支部
岩手県農産物改良種苗センター種子価格設定委員会	委員 委員	水田作研究室長 野菜畑作研究室長	(社)農産物改良種苗センター
高性能畜産機械等普及促進協議会	委員	飼料生産研究室長	新農業機械実用促進(株)
畜産経営体支援指導研究会	専門委員	専門技術員	(社)岩手県畜産協会
日本ホルスタイン登録協会	岩手県支部評議委員	畜産研究所次長	(社)日本ホルスタイン登録協会
全国和牛登録協会産肉能力検定委員会	参与 参与	畜産研究所長 種山畜産研究室長	(社)全国和牛登録協会
全国和牛登録協会県支部評議委員会	委員	畜産研究所長	(社)全国和牛登録協会
直接検定に関わる検討委員会	委員	種山畜産研究室 上席専門研究員	(社)全国和牛登録協会
肉用子牛生産者補給金制度岩手県種別判定委員会	委員	家畜飼養研究室長	(社)岩手県農畜産物価格安定基金協会
馬淵川沿岸地区畑地かんがい水質検討委員会	委員	生産環境部長	(社)畑地農業振興会

協議会、委員会等の名称	役 職	職 名	担 当 機 関
用排水・ほ場整備基礎諸元調査検討委員会	委員	生産工学研究室長	(社)畑地農業振興会
二戸地域雑穀産地形成推進協議会	委員	やませ利用研究室長	(社)カシオペア連邦アグ 口振興協議会
革新的農薬廃液処理技術検討会	委員	生産環境部長	(財)残留農薬研究所
(財)岩手生物工学研究センター評議員会	評議員	所長	(財)岩手生物工学研究センタ -
(財)岩手生物工学研究センター中核研究員 選考委員会	委員	所長	(財)岩手生物工学研究センタ -
(財)岩手生物工学研究センター研究推進委員会	委員	所長	(財)岩手生物工学研究センタ -
産学官連携技術開発中央支援事業 「食品の安全な保蔵と流通技術」部会	委員	保鮮流通技術研究室長	(財)食品産業センター
新需要穀類生産・流通体制確立推進協議会 品種等データベース情報委員会	委員	やませ利用研究室長	(財)農産業振興奨励会
いわて地産地消推進会議	委員	保鮮流通技術研究室長	花巻文化村協議会





## VI 職員研修



## 1 大学院派遣

職・氏名	所属部所・研究室	研究内容	派遣先	派遣期間
専門研究員 濱戸 もえぎ	畜産研究所 飼料生産研究室	環境負荷軽減のための地力評価に基づく施肥法の確立	岩手大学大学院 連合農学研究科	平成 15 年度 ～平成 17 年度
技師 吉田 樹史	生産環境部 環境保全研究室	ペゴニア類における交雑親和性に関する研究	岩手大学大学院 連合農学研究科	16.10.1 ～17.3.15

## 2 海外派遣・研修

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容等	派遣先	派遣期間
専門技術員 畠山 俊行	専門技術員室	農業改良普及事業の民営化が行われている各国の農業情勢、民営化に至る経過、現場の農家支援組織における活動状況及び課題を検証した。	イギリス、 オランダ	16.9.24 ～10.10

## 3 国内研修への派遣

### (1) 依頼研究員

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
主任専門研究員 尾形 茂	農産部 水田作研究室	水田雑草のスルホニルウレア (SU) 系除草剤抵抗性生物型 (抵抗性雑草) に関する簡易な検定法の確立	(独)東北農業研究センター	16.6.1 ～8.31
主任専門研究員 平淵 英利	生産環境部 保鮮流通技術研究室	青果物の長距離トラック輸送における振動の実態解析と 3D シミュレーターによる振動データの再現	(独)食品総合研究所	16.7.20 ～10.19
技師 岩館 康哉	病虫害部 病虫害防除課	葉いもち早期発生圃場が周辺圃場のいもち病発生に与える影響の検討	(独)東北農業研究センター	16.9.15 ～12.14
主任専門研究員 茂呂 勇悦	畜産研究所 家畜飼養研究室	栄養管理に基づく乳牛の排泄物抑制に関する研究	(独)畜産草地研究所	16.5.6 ～8.6
専門研究員 高杉 亘	畜産研究所 種山畜産研究室	食肉品質の評価法と改善技術の開発	(独)畜産草地研究所	16.5.10 ～8.9
専門研究員 佐藤 洋一	畜産研究所 家畜工学研究室	家畜の経済形質と DNA マーカーとの連鎖解析	(独)生物資源研究所	16.9.1 ～11.30

### (2) 独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構 短期集合研修

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
専門研究員 前山 薫	企画経営情報部 農業経営研究室	農業生産における技術と経営の評価方法	(独)農業・生物系特定産業技術研究機構	16.7.5～9
技師 田代 勇樹	企画経営情報部 農業経営研究室	"	"	"
主任専門研究員 鈴木 元	企画経営情報部 企画情報室	農林水産研究分野の特許出願の基礎	"	16.9.15～17
専門研究員 田村 和彦	農産部 水稻育種研究室	数理統計 (基礎編)	"	16.11.8～12

### (3) 農業中核研究員養成研修

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
主任専門研究員 小梨 茂	畜産研究所 外山畜産研究室	試験研究の企画・立案及び進行管理並びに研究成果の普及への伝達	農林水産技術会議	16.11.24～26
主任専門研究員 高橋 昭喜	県北農業研究所 営農技術研究室	〃	〃	〃

### (4) その他

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
専門研究員 門間 剛	園芸畑作部 野菜畑作研究室	都道府県農業関係研究員等専門研修会 耕地雑草の生態と防除に関する研修	(独)中央農業総合研究センター	16. 8.19～20
専門研究員 平久保 友美	畜産研究所 飼料生産研究室	〃	〃	〃
主任専門研究員 阿閉博明	畜産研究所 家畜育種研究室	中央畜産技術研修会 畜産情報処理	(独)家畜改良センター	16. 6.22～29
主任専門研究員 鈴木 元	企画経営情報部 企画情報室	平成16年度農林水産研究高度化人材育成セミナー ～競争的研究資金制度について～	農林水産省 農林水産技術会議	17. 2.16～18
室長 工藤 昌男	企画経営情報部 企画情報室	試験研究機関研究員研修 県試研究機関の概要、公設試験研究員の在り方、国立大学法人岩手大学の地域連携	商工労働観光部 科学技術課（主催）	16. 6.24
技師 田代 勇樹	企画経営情報部 農業経営研究室	〃	〃	〃
技師 小田 朋佳	企画経営情報部 農業経営研究室	〃	〃	〃
技師 及川 あや	農産部 水田作研究室	〃	〃	〃
主任専門研究員 須藤 勇人	農産部 生産工学研究室	〃	〃	〃
技師 藤井 智克	農産部 生産工学研究室	〃	〃	〃
専門研究員 大野 浩	園芸畑作部 果樹研究室	〃	〃	〃
専門研究員 山口 悟	生産環境部 環境保全研究室	〃	〃	〃
技師 吉田 樹史	生産環境部 環境保全研究室	〃	〃	〃
専門研究員 佐藤 洋一	畜産研究所 家畜工学研究室	〃	〃	〃
専門研究員 佐藤 真	畜産研究所 外山畜産研究室	〃	〃	〃
部長 齋藤 恭	企画経営情報部	試験研究機関研究員研修（上級研究員研修） 地域の科学技術振興と公設試マネジメント	商工労働観光部 科学技術課（主催）	17. 2.22
上席専門研究員 渡辺 芳幸	企画経営情報部 企画情報室	〃	〃	〃

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
部長 佐々木 健治	園芸畑作部	〃	〃	〃
室長 佐々木 仁	園芸畑作部 果樹研究室	〃	〃	〃
部長 鈴木 繁実	病害虫部	〃	〃	〃
首席専門研究員兼室長 吉川 恵郷	畜産研究所 家畜工学研究室	〃	〃	〃
室長 菊地 正人	畜産研究所 家畜飼養研究室	〃	〃	〃
技師 及川 あや	農産部 水田作研究室	雑草防除担当者研修会	(独)東北農業研究センター(水田利用部)	16. 4.22 ~ 23
主任専門研究員 井村 裕一	企画経営情報部 農業経営研究室	かけはし交流沖縄県農業試験場併任	沖縄県農業試験場	16.4.1 ~ 17.3.31
主任専門研究員 阿部 哲哉	企画経営情報部 農業経営研究室	日経ベーシック講座 「基礎から学ぶマーケティング」	日経新聞社	16.6.18
専門研究員 佐々木直子	病害虫部 病理昆虫研究室	いもち病ポット試験方法について	福島農業試験場 病理昆虫部	17.3.17 ~ 18
専門研究員 安田 潤平	畜産研究所 家畜育種研究室	近赤外分析手法	(株)ニレコ	17. 2.14 ~ 15

#### 4 所内セミナー等

名 称	開催期日	内 容	参集人員
〔本 部〕 技術セミナー	16. 9. 3	平成 16 年度 農業研究センター参観デー技術セミナー 「水田農業を支える技術確立を目指して」 ( 1 ) 水田農業に関わる試験研究の経過 副所長 佐々木忠勝 ( 2 ) 技術課題に対応した試験研究の取り組み ア 水稻直播栽培とロングマット水耕育苗・移植技術 生産工学研究室 室長 高橋 修 イ 小麦の冬期播種技術の勘どころ 野菜畑作研究室 主任専門研究員 荻内謙吾 ウ 大豆の不耕起狭畦栽培技術で省力化を図る 専門技術員室 上席専門技術員 佐々木 力 ( 3 ) 産地の取組事例紹介 専門技術員室 上席専門技術員 佐々木 力	50 名
研修報告会	17. 2.21	平成 16 年度 研修報告会 ( 1 ) 依頼研究員 「水田雑草のスルホニルウレア ( SU ) 系除草剤抵抗性生物型 に関する簡易な検定法の確立」 尾形 茂 ( 水田作研究室 主任専門研究員 ) 「青果物の長距離トラック輸送における振動の実態解析と 3D シミュレータによる振動データの再現」 平淵 英利 ( 保鮮流通技術研究室 主任専門研究員 ) 「葉いもち早期発生圃場が周辺圃場のいもち病発生に与える 影響の検討」 岩館 康哉 ( 病害虫防除課 技師 ) ( 2 ) 沖縄県派遣 「農産物の商品化戦略に関する研修」 井村 裕一 ( 農業経営研究室 主任専門研究員 )	32 名
〔畜産研究所〕 公開セミナー	16. 9.11	「黒毛和種種雄牛造成システムと最近造成された種雄牛の紹介」 種山畜産研究室 西田清 「県有種雄牛を活用した黒毛和種の改良」 ( 有 ) 北国商事 小野健一	122 名
所内セミナー	16. 8.24 17. 2.28	東北畜産学会大会発表内容 依頼研究員研修報告会 「低カリウム飼料が泌乳牛の生産性と窒素代謝に及ぼす影響の 解明」 茂呂 勇悦 ( 家畜飼養研究室 主任専門研究員 ) 「食品品質の評価法と改善技術の開発」 高杉 亘 ( 種山畜産研究室 専門研究員 ) 「家畜 DNA 研究の基礎知識・技術の習得」 佐藤 洋一 ( 家畜工学研究室 専門研究員 )	15 名 20 名

名 称	開催期日	内 容	参集人員
〔県北農業研究所〕 県北農業研究所参観デー ほうれんそうセミナー  レタスセミナー	16. 9. 3	1. ほうれんそう主要害虫と防除対策 後藤 純子（軽米地域普及所主任改良普及員） 2. ホウレンソウ生産者アンケートから見えてくる安定生産の課題 高橋 守（県北農業研究所専門技術員） 3. ほうれんそう関連農機の紹介 高橋 昭喜（営農技術研究室主任専門研究員） 1. レタス腐敗性病害の防止対策 - 試験圃場視察 2. レタス腐敗防止対策委員会活動紹介 新田 政司（二戸地方振興局農政部野菜園芸課長） 3. レタス腐敗性病害の発生と防除の実態 富永 朋之（病害虫防除所県北駐在主任） 4. レタス腐敗病発生要因の解析と腐敗性病害防止対試験の概要 桐山 直盛（営農技術研究室専門研究員） 茂市 修平（産地育成研究室長）	180 人
所内ゼミ	16. 4.20	櫻井一男 / 私が成果提案に慎重な理由（わけ） 折坂光臣 / 研究推進構想はこうしてできた。	11 人
	16. 5.26	小野剛志 / 土づくりと安全安心な農産物生産における堆肥の役割	12 人
	16. 6.22	松浦拓也 / フィールドサーバーとは 東北農業研究事前発表会（県北分） 発表者 4 名：長谷川聡、藤井伸行、高橋昭喜、藤田智美	12 人
	16. 6.24	三浦利奈 / 冬期ハウスレタス栽培の品種間差異 茂市修平 / カラシナによるホウレンソウ萎凋病軽減技術開発の 研究シーズから実用化組み立てへの取り組み	11 人
	16. 7.28	藤田智美 / 岩手県北地域におけるダッタンソバの栽培法 大清水保見 / たばこの話	10 人
	16. 8.24	小野剛志 / 場内堆肥作成利用方針：7/30AFR 成果報告会「マニ ュアスプレッダー利用による地域内有機物の急速堆 肥化技術」説明	20 人
	16. 9.28	高橋 守 / アスパラガスの促成栽培技術について。 高橋昭喜 / ほうれんそうの大型経営体育成のための技術確立	12 人
	16.10.25	高橋好範 / 有機物は「完熟」にして「有効活用」しなければならないか？ 桐山直盛 / レタス腐敗性病害の発生実態と発生要因の解析	16 人
	16.11.25	藤井伸行 / 切り花の鮮度保持について 高橋聡子 / 需要期出荷に向けた小ぎくの開花調節技術	13 人
	16.12.22	長谷川聡 / 統計資料から見た雑穀栽培 漆原昌二 / 農薬取締法と農薬使用上の注意	17 人
	16. 1.17	櫻井一男 / 土壌 pH と測定法 目時梨佳 / 寒締めホウレンソウの生育及び糖度と気象	14 人
	16. 2.14	松浦拓也 / 雑穀の無化学肥料栽培 折坂光臣 / 売れる米作りのための機械化技術の方向	14 人





## VII 試験研究以外の業務概要



## 1 作物の原々種の採種

### (1) 主要農作物種子法に基づく原々種種子の生産

種 類	品 種	面 積 (単位)	採種量 (単位)	備考 (採種場所等)
水稲 (うるち)	かけはし	3a	27kg	場内生産
	ひとめぼれ	10.3a	166kg	
	あきたこまち	5a	60kg	
	ササニシキ	3a	35kg	
水稲 (もち)	もち美人	3a	28kg	場内生産
大豆	ナンブシロメ	10a	95kg	場内生産

### (2) その他原々種種子の生産

種 類	品 種	面 積 (単位)	採種量 (単位)	備考 (採種場所等)
りんどう	A Z系	-	30ml	農研センター
	北海道系	-	60ml	
	矢巾系	-	50ml	
	白系	-	20ml	
	ササ系	-	40ml	
	その他	-	20ml	

## 2 作物の原種の採種

### (1) 主要農作物種子法に基づく原種種子の生産

種 類	品 種	面 積 (面積)	採種量 (単位)	備考 (採種場所等)
水稲うるち	かけはし	60a	1,560kg	場内生産
	いわてっこ	60a	1,740kg	
	あきたこまち	130a	5,140kg	
	ひとめぼれ	290a	14,000kg	
	ササニシキ	30a	1,000kg	
	岩手 68 号	30a	860kg	
水稲もち	ヒメノモチ	50a	1,700kg	場内生産
	カグヤモチ	25a	460kg	
小麦	ナンブコムギ	200a	4,620kg	場内生産
	ゆきちから	50a	900kg	
大豆	ナンブシロメ	40a	285kg	場内生産
	スズカリ	40a	340kg	

(2) その他原種種子の生産

種 類	品 種	面 積(単位)	採種量(単位)	備考(採種場所等)
小ぎく	アイマムアーリーイエロー	-	20 株	農業研究センター
	アイマムホワイト	-	20 株	
	アイマムホワイトピーチ	-	20 株	
	アイマムピンク	-	20 株	
	アイマムイエロー	-	20 株	
	アイマムレモンイエロー	-	20 株	
	アイマムオータムホワイト	-	20 株	
	アイマムパープルレッド	-	20 株	
	アイマムアーリーホワイト	-	20 株	
	アイマムオレンジ	-	20 株	
	アイマムレッド	-	20 株	
	交配用親品種		225 株	
りんどう	ENG 他		120ml	農業研究センター
	A Z		15ml	
	I H O		15ml	
	H O 2・1・4		15ml	
	えぞ早生		10ml	
	S e n 2		10ml	
	Y 5・1・4		15ml	
	I A W		10ml	
	Y 5・3・1		10ml	
	O K 1 0 0		10ml	
	T O 2 S		10ml	

3 種苗等の配布

(1) 主要農作物種子法に基づく種苗の配布

種 類	品 種	数 量(単位)	配 布 先
水稻うるち原種	あきたこまち	H14 年産 1,660kg	(財)岩手県農産物改良種苗センター
	"	H15 年産 680kg	
	"	H16 年産 4,410kg	
	ひとめぼれ	H16 年産 12,080kg	
	いわてっこ	H16 年産 1,440kg	
	かけはし	H14 年産 720kg	
	"	H16 年産 810kg	
	ササニシキ	H13 年産 400kg	
水稻もち原種	ぎんおとめ	H14 年産 70kg	(財)岩手県農産物改良種苗センター
	ヒメノモチ	H16 年産 1,300kg	
	カグヤモチ	H16 年産 140kg	

種 類	品 種	数 量 (単位)	配 布 先
小麦原種	ナンブコムギ	4,620kg	(財)岩手県農産物改良種苗センター
	ゆきちから	900kg	
	ネバリゴシ	120kg	
大豆原種	ナンブシロメ	548kg	(財)岩手県農産物改良種苗センター
	スズカリ	415kg	
	コスズ	18kg	
	青丸くん	48kg	
	ワセスズナリ	4kg	
小豆原種	岩手大納言	30kg	(財)岩手県農産物改良種苗センター
	紅南部	3kg	
	ベニダイナゴン	9kg	
えだまめ原種	ちゃげ丸	3kg	(財)岩手県農産物改良種苗センター
	星めぐり	2kg	

(2) その他種苗の配布

種 類	品 種	数 量 (単位)	配 布 先
小ぎく	アイマムアーリーイエロー	5 株	(財)岩手県農産物改良種苗センター
	アイマムホワイト	5 株	
	アイマムホワイトビーチ	5 株	
	アイマムピンク	5 株	
	アイマムイエロー	5 株	
	アイマムレモンイエロー	5 株	
	アイマムオータムホワイト	5 株	
	アイマムパープルレッド	5 株	
	アイマムアーリーホワイト	5 株	
りんどう種子	極々早生	20ml	(財)岩手県農産物改良種苗センター
	I H O	0.2ml	
	H O 2 ・ 1 ・ 4	0.2ml	
	S e n 2	0.2ml	
	Y 5 ・ 1 ・ 4	0.1ml	
	I A W	0.1ml	
	Y 5 ・ 3 ・ 1	0.1ml	
	O K 1 0 0	0.1ml	
	T O 2 S	0.1ml	

#### 4 県有種雄牛の精液の供給

(畜産研究所種山畜産研究室：平成17年3月31日現在)

##### (1) 黒毛和種

(単位：本)

種雄牛の名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
第5夏藤	93	15	7	24	45	10	20	25	10	10	30	5	294
敏光6											90		90
北孝福	25	5	15	10	10		5	20					90
菊重福						10							10
第3原茂	230	87	79	93	30	63	70	122	5	90	0	47	916
菊安舞鶴	162	190	202	162	271	315	175	171	205	167	166	262	2,448
金菊徳	160	56	77	50	22	15	30	50	35	70	20	30	615
北勝次郎				10									10
糸安菊	530	328	200	146	100	153	70	50	90	190	370	440	2,667
菊茂勝	175	244	1,150	1,050	676	610	506	722	480	515	265	1,565	7,958
平茂夏	30	20	45			20	5	5	5	10		5	145
菊福秀									60	10	50	50	170
房平茂	15	3	20	5		40	20	15	10	80	62	10	280
安輝偉						10		10	30				50
安福菊	215	110	140	75	135	120	129	113	140	17	20	25	1,239
菊北福	10												10
藤靖虎	10				5								15
来待招福										5			5
平福国1	25	25	30	10	20	40	40	40	35	75	70	150	560
北昭国							10		75	30			115
北真鶴												10	10
計	1,680	1,083	1,965	1,635	1,314	1,406	1,080	1,343	1,180	1,269	1,143	2,599	17,697

##### (2) 日本短角種

(単位：本)

種雄牛の名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
松錦			10					1	1				12
高福	23	20											43
川辰	22	10											32
勝富	23												23
辰錦	20											6	26
良川		20	50	15									85
計	88	50	60	15	0	0	0	1	1	0	0	6	221

## 5 種豚、種鶏等の配布

(畜産研究所家畜種研究室：平成17年3月31日現在)

### (1) 銘柄鶏の配布

品 種	種 類		配 布 先
	雌(羽)	雄(羽)	
南部かしわ	13,090羽(ひな)		個人養鶏家(大船渡、雫石、金ヶ崎、盛岡、東山)
新特産鶏	6,590羽(ひな)		"
計	19,680羽		

## 6 寄託放牧

(畜産研究所外山畜産研究室：平成17年3月31日現在)

### (1) 牛

品 種	種 類			計(頭)
	成牛雌(頭)	成牛雄(頭)	子牛(頭)	
日本短角種	66	1	51	118

### (2) 馬

品 種	種 類			計(頭)
	成馬雌(頭)	成馬雄(頭)	子馬(頭)	
ブルトン種	26	1	11	38





## VIII 人事、予算、財産



1 岩手県農業研究センター予算（2月補正現計）

（単位：千円）

区 分	（内 訳）	予 算 額
<b>【農業費】</b>		
人件費（本部・県北）		931,171
庁舎管理費（本部）		131,115
ほ場管理費（本部）		59,848
ふれあい公園管理運営費		22,221
庁舎管理費（県北）		31,377
ほ場管理費（県北）		5,201
試験研究費（国庫助成、委託試験等）		97,703
（1）特定研究開発等促進事業	21,964	
（2）地域先端技術等研究開発促進事業		
（3）植物防疫研究費	15,526	
（4）土壌対策研究費	5,066	
（5）農業関係試験研究委託事業	35,878	
（6）民間委託試験研究費	19,269	
高生産性農業新技術開発促進研究費（県単研究費）		70,304
（1）基盤的・先導的農業技術開発研究事業	19,058	
（2）バイオテクノロジー実用化事業	9,334	
（3）先端的農業技術実用化研究事業	19,808	
（4）中山間地域活性化戦略研究事業	1,603	
（5）農業新技術緊急開発実用化推進研究事業	18,244	
（6）農業新技術現地実用化開発・実証研究事業	2,257	
情報プロジェクト研究事業		1,000
主要農作物採種管理費		15,152
令達事業（本部）		148,926
令達事業（県北）		9,752
合 計		1,523,770
<b>【畜産業費】</b>		
人件費（畜産）		498,910
庁舎管理費		54,101
飼育管理費		89,202
種山畜産研究室管理費		99,616
外山畜産研究室隔障物整備事業		10,815
試験研究費（国庫助成、委託試験等）		23,781
（1）特定研究開発促進事業	11,000	
（2）農業関係試験研究委託事業	12,781	
高生産性畜産新技術開発促進研究費（県単研究費）		34,262
（1）基盤的・先導的畜産技術開発研究事業	6,152	
（2）バイオテクノロジー実用化研究事業	2,500	
（3）先端的畜産技術実用化研究事業	24,810	
（4）畜産新技術現地実用化・実証研究事業	800	
令達事業		48,376
合 計		859,063
全 体 計		2,382,833

2 建物・用地の面積及び飼養家畜数 (H17.3.31 現在)

(1) 建物・用地の面積

	用 地 ( ha )								建物 ( m <sup>2</sup> )	
	耕 地					林 野 等	施 設 用 地	総 面 積	棟 数	延 面 積
	水 田	畑	樹 園 地	採 草 放 牧 地	小 計					
本 部	30.2	28.0	21.3		79.5	15.6	22.8	117.9	79	29,676
北 上 主な施設面積(内数)	25.8	18.0	21.3		65.1		18.4	83.5	32	19,198
管理棟										2,911
実験研究棟										5,057
作物調査研究棟										716
育苗ガラス温室										992
穀物乾燥原種調整調査棟										860
園芸作物調査棟										716
生産環境調査棟										608
ふれあい公園						15.6	1.5	17.1	13	3,431
南部園芸研究室		1.3			1.3		0.4	1.7	6	1,522
旧銘柄米開発研究室	4.4	0.7			5.1		2.2	7.3	25	4,684
その他		8.0			8.0		0.3	8.3	3	841
畜産研究所		136.0		1,534.6	1,670.6	399.4	37.8	2,107.8	181	36,427
滝沢		67.7		12.3	81.9	50.1	32.9	164.9	124	23,299
外山畜産研究室		5.8		1,470.7	1,476.5	241.3	4.5	1,722.3	42	6,676
種山畜産研究室		62.5		49.7	112.2	108.0	0.4	220.6	15	6,452
県北農業研究所	1.0	10.7	0.3		12.0		8.2	20.2	16	6,746
合 計	31.2	165.9	21.6	1,534.6	1,753.3	415.0	87.1	2,239.8	261	62,508

## (2) 飼養家畜頭数

種別性別		雄 (頭・羽)	雌 (頭・羽)	計 (頭・羽)	品種別頭羽数
乳用牛	経産牛		66	66	ホルスタイン種 113 頭
	育成牛(子牛含む)		47	47	
肉用牛	(滝沢)	60	35	95	黒毛和種 25 頭、日本短角種 53 頭、交雑種 17 頭
	(外山)		145	145	黒毛和種 63 頭、日本短角種 76 頭、交雑種 6 頭
	(種山)	119	81	200	黒毛和種 172 頭、日本短角種 頭、交雑種 28 頭
牛 計		179	374	553	
豚	種豚	13	30	43	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ランドレース種(イワテハヤチネ L2)27 頭</li> <li>・ 大ヨークシャー種 3 頭、・ デュロック種 2 頭</li> <li>・ 雑種 11 頭 (種豚のみ)</li> </ul>
	子豚	40	48	88	
	計	53	78	131	
鶏	種鶏	413	1,116	1,529	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岩手地鶏 302 羽、・ 岩手大型ロード 400 羽、・ 基礎鶏 300 羽、・ ホワイトロックロード 600 羽、・ 軍鶏 100 羽、・ ホワイトロック 100 羽、・ 名古屋種 20 羽、・ 声良 7 羽、・ キメラ鶏 13 羽</li> </ul>
	試験鶏	113	200	313	
	計	526	1,316	1,842	

### 3 種苗登録、特許等

#### (1) 種苗登録

種 類	登録(出願)品種の名称	登 録 番 号	登 録 年 月 日
りんどう	いわて乙女	第 544号	S59. 3.19
りんどう	ジョバンニ	第 1,101号	S61. 8. 8
りんどう	イーハトーヴォ	第 1,100号	S61. 8. 8
大豆	緑良	第 2,517号	H 2.12. 5
大豆	緑翠	第 2,516号	H 2.12. 5
りんどう	アルピレオ	第 2,553号	H 2.12. 5
りんどう	マシリィ	第 3,073号	H 4. 2.29
りんどう	ホモイ	第 3,074号	H 4. 2.29
ぶどう	エーデルアーリー	第 3,404号	H 5. 3.10
りんご	きおう	第 3,947号	H 6. 3.14
りんどう	アルタ	第 4,085号	H 6. 8.22
稲	かけはし	第 4,410号	H 7. 3.23
稲	ゆめさんさ	第 4,411号	H 7. 3.23
りんどう	ポラーノ ホワイト	第 4,999号	H 8. 3.18
りんどう	あおこりん	第 7,713号	H12. 2.22
りんどう	ももこりん	第 7,714号	H12. 2.22
りんどう	ポラーノ ブルー	第 7,715号	H12. 2.22
大豆	星めぐり	第 7,756号	H12. 2.22
稲	吟ぎんが	第 10,471号	H14. 9. 4
スターチス	アイスター モーブ	第 10,673号	H14. 9.30
スターチス	アイスター ラベンダー	第 10,674号	H14. 9.30
スターチス	アイスター ライラックブルー	第 10,675号	H14. 9.30
スターチス	アイスター ロージーピンク	第 10,676号	H14. 9.30
スターチス	アイスター ライラック	第 10,677号	H14. 9.30
稲	ぎんおとめ	第 10,963号	H15. 2.20
大豆	ちゃげ丸	第 11,099号	H15. 3.17
大豆	ぷっくらこ	第 11,100号	H15. 3.17
稲	いわてっこ	第 12,177号	H16. 8.18
きく	アイマムアーリーイエロー	第 13,034号	H17. 3.23
きく	アイマムホワイト	第 13,035号	H17. 3.23
きく	アイマムピンク	第 13,036号	H17. 3.23
きく	アイマムイエロー	第 13,037号	H17. 3.23
きく	アイマムホワイトピーチ	第 13,038号	H17. 3.23
稲	もち美人	出願番号第 14,894号	出願 (H14. 7.31)
きく	アイマムレモンイエロー	出願番号第 15,658号	出願 (H15. 4.21)
きく	アイマムオータムホワイト	出願番号第 15,659号	出願 (H15. 4.21)
きく	アイマムパープルレッド	出願番号第 15,660号	出願 (H15. 4.21)
きく	アイマムアーリーホワイト	出願番号第 15,661号	出願 (H15. 4.21)
りんご	黄香	出願番号第 15,827号	出願 (H15. 6.27)
きく	アイマムオレンジ	出願番号第 17,028号	出願 (H16. 5.13)
きく	アイマムレッド	出願番号第 17,029号	出願 (H16. 5.13)

## (2) 特許、実用新案

名 称	出願・公開番号（年月日）	登録番号（年月日）
米を原料とした飲料の製造方法	特開平 03-272671 (H 3.12. 4)	1990534(H 7.11. 8)
牧草種子の播種方法及び牧草種子の散布用の複合肥料ペレット	特開平 10-276514 (H10.10.20)	(公開・審査請求中)
マクロシードペレットの散布装置	特開平 10-276516 (H10.10.20)	(公開・審査請求中)
遺伝子組換えりんご及びその作出法	特開 2000-270700 (H12.10. 3)	(出願・公開中)
果樹の成育状態評価方法	特開 2004-147539 (H16. 5.27)	(公開・審査請求中)
土壌用有機成分の推定装置	特開 2005-017115 (H17. 1.20)	(公開・審査請求中)
穀類食品及び穀類食品の製造方法	特開 2005-040104 (H17. 2.17)	(公開・審査請求中)
家畜用胚移植器	特願 2004-377428 (H16.12.27)	(出願・審査請求中)
降霜予測装置	特願 2005-003172 (H17. 1. 7)	(出願・審査請求中)
有機肥料の製造方法及び有機肥料	特願 2005-084619 (出願日H17. 3.23 審査請求日H17. 3.24)	(出願・審査請求中)

#### 4 表彰

表彰内容(表彰団体)	表彰の対象者(組織)	表彰の対象となった研究成果等	年月日
平成16年度業績顕著者表彰	運転技士兼技能員 中島 秋人 (総務部 総務課)	担当業務に熟達し業務に精励[3号]	H16.10.20
植物調節剤功労者表彰	前水田作研究室長 伊五澤 正光 (農産部) 前野菜畑作研究室長 作山 一夫 前果樹研究室長 小野田 和夫 (園芸畑作部)	植物調節剤の開発・利用の研究及び普及に貢献	H16.12.10
平成16年度岩手県獣医畜産業績発表会	技師 福成 和博 (家畜工学研究室)	直接移植法に適した牛胚の凍結保存技術実証と簡易移植器の開発	H17. 3.10
(内部表彰) 農業研究センター所長表彰	上席専門研究員 渡辺 芳幸 主任専門研究員 横田 紀雄 (企画情報室)	課題と成果のデータベース作成による事務改善	H17. 2.21
	水稲育種研究室 水田作研究室 (農産部)	耐冷性・耐病性に優れる中生良質・良食味水稲品種「岩手68号」の開発	
	水稲育種研究室 (農産部) やませ利用研究室 (東北農業研究所)	耐冷性に優れる早生良質・良食味水稲品種「いわてっこ」の開発	
	専門研究員 河田 道子 (果樹研究室)	りんごの品種育成及び新しい性台木利用法に関する研究	
	主任専門研究員 山田 修 (野菜畑作研究室)	夏秋どりきゅうりの適品種選定および栽培法の改良に関する研究	
	専門研究員 小田島 雅 (花き研究室)	小ぎくの品種開発と早期普及に対する貢献	
	専門研究員 千田 裕 (南部園芸研究室)	ダッチライト型高規格温室に関する研究	
	特別栽培米生産支援技術開発チーム (生産環境部、病害虫部)	特別栽培米生産技術の開発と産地支援	
	専門研究員 高橋 良学 (土壌作物栄養研究室)	全炭素・全窒素含量の簡易推定法の開発	
	加工工房研修指導グループ (生産環境部)	加工工房指導を通じての地域活性化貢献	
	専門研究員 猫塚 修一 (病理昆虫研究室)	リンゴ炭疽病の発生生態と防除法に関する研究	
	主任技能員 室坂 光榮 (畜産研究所 総務課)	家畜管理、飼料生産に熟練し多年にわたり職務に精励	
	首席専門研究員兼室長 吉川 恵郷 技師 福成 和博 (家畜工学研究室)	子宮頸管拡張機能を付与した胚移植器の開発	





5 職員名簿

(平成16年 4月 1日現在)

職 名	氏 名	職 名	氏 名
所 長	高橋 壯	専門技術員室	
副所長	佐々木忠勝	首席専門技術員	石山 伸悦
		上席専門技術員	田村 博明
総務部		上席専門技術員	佐々木 力
部 長	稲葉 廣次	上席専門技術員	佐々木きし子
主幹兼総務課長	坂本 弘	上席専門技術員	佐藤 弘
主任主査	高山 克彦	上席専門技術員	佐藤 正昭
主 任	及川 孝子	専門技術員	大井 祥子
主 任	相馬 政江	専門技術員	畠山 俊行
主 事	須賀美奈子	専門技術員	藤原 一道
主 事	麥沢 秋文	専門技術員	中森 忠義
主 事	伊藤 絵里	専門技術員	及川 竹生
運転技士兼技能員	中嶌 秋人		
技能員	菅野 輝彦		
技能員兼運転技士	佐藤 広昭		
技能員	西野 哲仁		
技能員	菊地 徳章	農産部	
技能員	小黒澤清人	部 長	仲谷 房治
技能員兼運転技士	狛澤 哲哉	水田作研究室長	高橋 政夫
技能員兼運転技士	藤根 寛道	主任専門研究員	小田中温美
技能員	柏葉 妙子	主任専門研究員	尾形 茂
		専門研究員	臼井 智彦
		技 師	及川 あや
		水稻育種研究室長	木内 豊
		主任専門研究員	中野 央子
		主任専門研究員	仲條 眞介
		専門研究員	田村 和彦
		専門研究員	阿部 陽
		専門研究員	阿部 潤
		応用生物学研究室長	竹澤 利和
		主任専門研究員	阿部 弘
		専門研究員	安ヶ平紀子
		専門研究員	高橋 修
		生産工学研究室長	大里 達朗
		主任専門研究員	阿部 節男
		主任専門研究員	須藤 勇人
		技 師	藤井 智克
企画経営情報部			
部 長	齋藤 恭		
企画情報室長	工藤 昌男		
上席専門研究員	渡辺 芳幸		
主 査	松澤 一志		
主任専門研究員	横田 紀雄		
主任専門研究員	鈴木 元		
専門研究員	八重樫えみ子		
農業経営研究室長	佐藤 隆		
主任専門研究員	加藤 満康		
主任専門研究員(都道府県派遣:沖縄)	井村 裕一		
主任専門研究員	阿部 哲哉		
専門研究員	前山 薫		
技 師	田代 勇樹		
技 師	小田 朋佳		

職 名	氏 名	職 名	氏 名
園芸畑作部		病害虫部	
部 長	佐々木健治	部 長	鈴木 繁実
果樹研究室長	佐々木 仁	病害虫防除課長兼企画指導係長	飯村 茂之
主任専門研究員	小野 浩司	主 任	大友 令史
専門研究員	大野 浩	技 師	細川 健
専門研究員	河田 道子	技 師	佐藤美和子
専門研究員	奥平麻里子	発生予察係長	千葉 克彦
専門研究員	浅川 知則	主 任	及川 耳呂
野菜畑作研究室長	及川 一也	技 師	岩館 康哉
主任専門研究員	荻内 謙吾	技 師	菅 広和
主任専門研究員	山田 修	県北農業研究所駐在	
専門研究員	土田 典子	県北地区主任	伊東 芳樹
専門研究員	門間 剛	主 任	富永 朋之
専門研究員	高橋 大輔	技 師	齋藤 智子
花き研究室長	児玉 勝雄	病理昆虫研究室長	鈴木 敏男
主任専門研究員	川村 浩美	主任専門研究員	藤沢 巧
主任専門研究員	千葉 賢一	主任専門研究員	勝部 和則
専門研究員	葛巻美知子	専門研究員	川村 亮二
専門研究員	小田島 雅	専門研究員	猫塚 修一
南部園芸研究室長	浅沼 一也	専門研究員	佐々木直子
主任専門研究員	志田たつ子		
専門研究員	千田 裕		
生産環境部		畜産研究所	
部 長	武田 眞一	所 長	駒米 勉
環境保全研究室長	築地 邦晃	次 長	小野寺 勉
主任専門研究員	中野 亜弓	次 長	新渡戸友次
専門研究員（沖縄県）	山口 悟	主幹兼総務課長	坂本 洋行
専門研究員	沼田 芳宏	副主幹兼課長補佐	来内 広幸
技 師	佐藤千穂子	主 事	宇部 睦子
技 師	吉田 樹史	主 事	吉田亜寿紗
土壌作物栄養研究室長	多田 勝郎	運転技師兼技能員	吉田 正弘
主任専門研究員	佐藤 千秋	主任技能員	室坂 光榮
専門研究員	高橋 良学	主任技能員	岩崎 春見
専門研究員	小田島ルミ子	主任技能員	小笠原幸一郎
技 師	葉上 恒寿	主任技能員	関村 武志
保鮮流通技術研究室長	伊藤 公成	主任技能員	石川 勝美
上席専門研究員	関村 照吉	主任技能員	米沢 健治
主任専門研究員	平淵 英利	主任技能員	小林 雄二
専門研究員	穴戸 貴洋	主任技能員	三上 宏
		技能員	右京 隆二
		技能員	竹田 政則
		技能員	工藤 明彦
		技能員	荒木田俊一
		技能員	永洞 俊司
		技能員	菅原 薫
		技能員	鷺見 義信
		技能員	水澤 博征

職 名	氏 名	職 名	氏 名
技能員	細野 貴樹	県北農業研究所	
技能員	鳴海 茂揮	所 長	櫻井 一男
技能員	畠山 博文	次 長	小野 剛志
技能員	谷地 舘 透	総務課長	村上 幸司
技能員	上澤 賢輝	主 事	千葉真樹子
技能員	荒屋 康之	運転技士兼技能員	日山千代司
技能員	西野 聖	技能員	清水 賢一
家畜育種研究室長	小松 繁樹	技能員	中軽米徳典
主任専門研究員	阿閉 博明	営農技術研究室長	折坂 光臣
主任専門研究員	吉田 登	主任専門研究員	高橋 昭喜
専門研究員	安田 潤平	専門研究員	桐山 直盛
家畜飼養研究室長	菊池 正人	専門研究員	松浦 拓也
主任専門研究員	松木田裕子	産地育成研究室長	茂市 修平
主任専門研究員	山口 直己	専門研究員	藤井 伸行
主任専門研究員	茂呂 勇悦	技 師	三浦 利奈
首席専門研究員兼家畜工学研究室長	吉川 恵郷	技 師	高橋 聡子
主任専門研究員	児玉 英樹	技 師	目時 梨佳
専門研究員	佐藤 洋一	やませ利用研究室長	大清水保見
技 師	福成 和博	主任専門研究員	漆原 昌二
飼料生産研究室長	川畑 茂樹	主任専門研究員	長谷川 聡
主任専門研究員	増田 隆晴	専門研究員	藤田 智美
専門研究員	濱戸もえぎ	専門技術員	高橋 好範
専門研究員	平久保友美	専門技術員	高橋 守
外山畜産研究室長	谷藤 隆志		
上席専門研究員兼室長補佐	大池 裕治		
主任専門研究員	千葉 恒樹		
専門研究員	小梨 茂		
専門研究員	佐藤 真		
主任技能員	中村 長悦		
主任技能員	藤原 時夫		
技能員	上野 由克		
技能員	中村 健		
技能員	葉木澤一也		
種山畜産研究室長(次 長)	小野寺 勉		
上席専門研究員兼室長補佐	菊池 善彦		
主 事	姉帯 雅美		
上席専門研究員	小田中誠彰		
主任専門研究員	西田 清		
専門研究員	高畑 博志		
専門研究員	高杉 亘		
主任技能員	斎藤 和一		
技能員	佐藤 洋貴		
技能員	松本 徹		
技能員	後藤 克明		

## 沿革

- 明治 31 年 種馬厩を盛岡市に設置。
- 明治 34 年 農事試験場（3 部制：庶務・種芸・分析）を本宮村向中野（現盛岡市）に設置。  
種馬厩を種畜場と改称。
- 明治 35 年 種畜場を盛岡市から滝沢村に移転。
- 明治 36 年 農事試験場に園芸部（4 部制）を新設。
- 大正 2 年 原蚕種製造所を胆沢郡水沢町（現水沢市）に設置。
- 大正 8 年 農事試験場胆江分場を江刺郡愛宕村（現江刺市）に設置。
- 大正 11 年 原蚕種製造所を蚕業試験場（4 係制：庶務・蚕種・試験・桑園）と改称。
- 大正 12 年 農事試験場に病虫部（5 部制）を新設。  
外山御料牧場を種畜場に移管し、種畜場本場を玉山村に移転（滝沢は支場となる）。
- 昭和 2 年 種鶏場を岩手郡巻掘村（現玉山村）に設置。
- 昭和 5 年 農事試験場軽米農場を九戸郡軽米町に設置。  
蚕業試験場一戸桑園を二戸郡一戸町に設置。
- 昭和 10 年 農事試験場遠野試験地を上閉伊郡松崎村（現遠野市）に設置。
- 昭和 12 年 種畜場本場を滝沢村に移転、玉山は外山支場となる。  
蚕業試験場六原桑樹試験地を金ヶ崎町に設置。
- 昭和 13 年 蚕業試験場一戸桑園を一戸支場と改称。
- 昭和 15 年 農事試験場軽米農場を九戸分場と改称。
- 昭和 21 年 農事試験場高冷地試験地を二戸郡小鳥谷村（現一戸町）に設置。
- 昭和 22 年 農事試験場遠野試験地が国営に移管。
- 昭和 23 年 種鶏場を紫波郡日詰町（現紫波町）に移転。
- 昭和 25 年 農事試験場を農業試験場（4 部制：総務・営農・農産・畜産）と改称。  
農業試験場畜産部を種畜場と併設。  
農業試験場葡萄試験地を稗貫郡大迫町に設置。  
農業試験場沿岸作物試験地を九戸郡長内村（現久慈市）、下閉伊郡豊間根村（現山田町）及び  
気仙郡小友村（現陸前高田市）に委託設置。
- 昭和 26 年 農業試験場南部試験地を気仙郡米崎村（現陸前高田市）に設置。  
農業試験場に遠野試験地が国から移管。  
農業試験場に農業経営研究部門設置。  
工芸作物原種農場を雫石町に設置。
- 昭和 28 年 蚕業試験場を水沢市龍ヶ馬場に移転。
- 昭和 30 年 農業試験場本場機構改革（8 部制：庶務・種芸・化学・園芸・病虫・経営・農機具・畜産）。  
蚕業試験場機構改革（4 部制：庶務・栽桑・養蚕・病理化学）。
- 昭和 32 年 蚕業試験場一戸支場を一戸分場と改称。
- 昭和 36 年 蚕業試験場一戸分場を二戸郡一戸町上野に新築移転。
- 昭和 37 年 農業試験場の園芸部、南部試験地及びびぶどう試験地を分離して園芸試験場（3 部制：庶務・果樹・蔬菜花  
卉）を北上市に設置。南部試験地及びびぶどう試験地をそれぞれ、南部分場、大迫圃場と改称。  
農業試験場胆江分場及び九戸分場をそれぞれ、県南分場、県北分場と改称。  
種畜場に種鶏場及び農業試験場畜産部を併合して畜産試験場を滝沢村に設置。  
農業試験場遠野試験地及び沿岸作物試験地を廃止。  
工芸作物原種農場を農業試験場に統合し、原種部を設置。
- 昭和 38 年 農業試験場本場を盛岡市から滝沢村へ移転。
- 昭和 39 年 畜産試験場外山支場を外山試験地と改称。
- 昭和 41 年 農業試験場本場機構改革（4 部制：庶務 2 係・技術・環境・経営）。
- 昭和 44 年 園芸試験場蔬菜花卉部を野菜花き部に改称。
- 昭和 46 年 農業試験場本場機構改革（科制導入。技術部：水田作科・畑作科・作業技術科、環境部：施肥改善科・土  
壤改良科・病害虫科、経営部：経営科・流通経済科）。  
農業試験場県南分場及び県北分場に分場次長を設置。  
農業試験場高冷地試験地を園芸試験場へ移管し、高冷地分場となる。  
園芸試験場に環境部を設置。  
園芸試験場大迫圃場を大迫試験地と改称。  
畜産試験場外山試験地を外山分場と改称。

- 昭和 47 年 園芸試験場南部分場を陸前高田市米崎町から同市高田町へ移転。
- 昭和 48 年 蚕業試験場六原桑樹試験地を六原試験地と改称。
- 昭和 51 年 農業試験場作業技術科を農業機械科に改称。
- 昭和 53 年 蚕業試験場六原試験地を廃止。  
蚕業試験場養蚕部、病理化学部をそれぞれ養蚕経営部、環境部に改称。
- 昭和 56 年 園芸試験場高冷地分場を高冷地開発センターに改称。
- 昭和 57 年 蚕業試験場整備計画実施（～昭和 58 年）。
- 平成 3 年 農業試験場に水稻育種科を設置。
- 平成 8 年 畜産試験場種山肉用牛改良センターを住田町に設置。
- 平成 9 年 農業試験場、蚕業試験場、園芸試験場及び畜産試験場を農業研究センターに再編整備。  
農業試験場本場、園芸試験場本場、同大迫試験地及び蚕業試験場本場を統合し、北上市にセンター本部を設置。  
農業試験場県南分場及び園芸試験場南部分場をそれぞれ銘柄米開発研究室、南部園芸研究室と改称。  
農業試験場県北分場、園芸試験場高冷地開発センター及び蚕業試験場一戸分場を統合し、軽米町に県北農業研究所を設置。  
畜産試験場を畜産研究所に改組。  
畜産試験場外山分場及び種山肉用牛改良センターをそれぞれ外山畜産研究室、種山畜産研究室に改称。  
県北農業研究所に専門技術員を配置。
- 平成 10 年 園芸畑作部蚕桑技術研究室繭品質評価分室を盛岡市に設置（繭検定所を廃止）。  
センター本部に専門技術員を配置。
- 平成 11 年 企画経営情報部マーケティング研究室を農業経営研究室に統合。
- 平成 13 年 病害虫部を新設し、病害虫防除課及び病理昆虫研究室を設置。  
銘柄米開発研究室、蚕桑技術研究室及び同研究室繭品質評価分室を廃止。  
南部園芸研究室を陸前高田市高田町から同市米崎町へ移転。
- 平成 16 年 総務部管理課を同部総務課に統合。  
県北農業研究所にいわて雑穀遺伝資源センターを設置。  
企画経営情報部内にいわて農林水産知的財産相談センターを設置。

< 所 在 >

岩手県農業研究センター		
本 部	〒024-0003	岩手県北上市成田 20-1 Tel. 0197-68-2331 FAX. 0197-68-2361 ホームページ <a href="http://www.pref.iwate.jp/~hp2088/">http://www.pref.iwate.jp/~hp2088/</a>
(南部園芸研究室)	〒029-2206	岩手県陸前高田市米崎町字川崎 101 Tel. 0192-55-3733 FAX. 0192-55-2093
畜産研究所	〒020-0173	岩手県岩手郡滝沢村字砂込 737-1 Tel. 019-688-4326 FAX. 019-688-4327
(外山畜産研究室)	〒028-2711	岩手県岩手郡玉山村藪川字大の平 40 Tel. 019-681-5011 FAX. 019-681-5012
(種山畜産研究室)	〒029-2311	岩手県気仙郡住田町世田米字飼沢 30 Tel. 0197-38-2312 FAX. 0197-38-2177
県北農業研究所	〒028-6222	岩手県九戸郡軽米町大字山内 23-9-1 Tel. 0195-47-1070 FAX. 0195-49-3011